

2019

履修要項

(2019年度入学生用)

2019 履修要項

Curriculum Guidelines

(2019年度入学生用)



KONAN INFINITY

KONAN UNIVERSITY

『履修要項』は卒業まで大切に保管してください

履修要項は、卒業するまで使用しますので、大切に保管してください。

紛失しても再配付は行いません。

目 次

はじめに.....	1
甲南大学学則（抄）	7
2019年度甲南大学学則変更内容.....	18

履 修 要 項

全学部共通科目

基礎共通科目	31
国際言語文化科目	36
外国語科目	42
保健体育科目	52
キャリア創生共通科目	56
単位互換科目	62
西宮市大学共通単位講座	62

専門教育科目

文学部	66
理工学部	128
経済学部	160
法学部	182
経営学部	198
知能情報学部	220

資格取得のための科目

教育職員養成課程	232
図書館学に関する専門教育科目	259
公認心理師に関する専門教育科目	262
日本語教員養成課程	265

外国人留学生対象科目

日本語特設科目	268
国際交流科目	270

は じ め に

大学生活を有意義なものにし、自らのキャリアデザインを実践するためには、明確な目的・目標を定めて4年間の学修計画を立て、自らの学修の到達度を確認しながら計画的に履修を進めていくことが大切です。したがって、以下に記載する【履修の基本的な制度と仕組み】を有効に活用して「なりたい自分」の実現につなげてください。

本書には、本大学のカリキュラムを構成している全学部共通科目（基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目およびキャリア創生共通科目）、各学部・学科の専門教育科目等について、その選択、履修、単位修得の仕方を具体的に説明しています。これらは学修を進めていくうえで理解しておかなければならない事柄ですので、繰り返し熟読し、理解に努めてください。

また、本書と併せて『学修スタートナビ（新入生用）』（入学時に発行）、『履修ガイドブック』（毎年度発行）を発行します。具体的な履修登録手続き方法について詳しく記載していますので、熟読して必要な手続きを行ってください。

【履修の基本的な制度と仕組み】

甲南大学は「人物教育率先」の建学の理念のもと、各学部・学科において教育基本方針を定め、それぞれの基本方針に基づき、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP））^{※1} および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー（CP））^{※2} を定めています。

これらの方針および学則^{※3} に定められた人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標に基づき、段階的、系統的に授業科目を配置、構成したものを教育課程（カリキュラム）といいます。

各学部・学科のカリキュラムには、DPに紐づいた到達目標が設定されています。到達目標と各科目の対応関係は、カリキュラムマップ^{※4} や各科目のシラバスに示されています。また、カリキュラムは、各学部・学科のカリキュラムツリー^{※5} で示されるように、卒業までの課程が編成され、系統的な学修ができるように構成されています。効果的な学修を進めるにあたっては、到達目標を踏まえて身につけたい知識や能力を確認した上で、毎年度の履修計画をきちんと立てて系統的に履修するようにしてください。

さらに、本学では、自らの学修の到達度を確認しながら計画的に履修を進めていけるように、自身の成長の過程を見える化・蓄積するツール「学修ポートフォリオ」を用意するとともに、社会で必要とされる汎用的な能力を測定する「ジェネリックスキル測定」を行っています。また、成績評価では表われにくい一人ひとりの学生がもつ力を評価認定する「KONANサーティフィケート制度」など、各自の学修やキャリアデザインに活かせる独自の制度や仕組みが設けられています。これらを積極的に活用することによって、大学生活をより有意義なものにし、自らのキャリアデザインを実践していただくことを期待しています。

※1 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP））

大学、学部・学科等の教育基本方針に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

※2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー（CP））

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本方針。

※3 学則

大学の修学において必要な事項を定めた規則。

※4 カリキュラムマップ

卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示す科目表等を指す。

※5 カリキュラムツリー

カリキュラムの全体を俯瞰的に把握し、順次性・体系性を意識して履修するためのツールとなるもの。

1. 授業科目について

(1) 授業科目の種類

授業科目には「カリキュラム体系」、「履修方法」、「授業方法」、「授業時期・期間」による4つの分類がある。

① カリキュラム体系による分類

本大学の授業科目は、全学部対象に開設する基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、単位互換科目、西宮市大学共通単位講座および各学部・学科の専門教育科目、資格取得希望者のために開設している教職・図書館学・公認心理師・日本語教員資格科目、留学生を対象に開設している日本語特設科目、国際交流科目に分かれている。

全 学 部 共 通 科 目	
基礎共通科目・国際言語文化科目	
外国語科目	基礎外国語科目
	中級・上級外国語科目
保健体育科目	基礎体育学演習
	生涯スポーツ
キャリア創生共通科目	
単位互換科目	
西宮市大学共通単位講座	

学 部 ・ 学 科 固 有 の 科 目
専 門 教 育 科 目
資 格 取 得 の た め の 科 目
教職・図書館学・ 公認心理師・日本語教員資格科目
外 国 人 留 学 生 対 象 科 目
日本語特設科目
国際交流科目

② 履修方法による分類

科目分類	分類内容
必修科目	卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目。
選択必修科目	区分された授業科目群のなかから、定められた単位数以上を修得しなければならない科目。定められた単位数を超えて修得した単位は自由選択科目として卒業単位に算入される。
自由選択科目	必修・選択必修科目以外で単位を修得することができる科目。修得した単位は卒業単位に算入される。
その他	自由に選んで単位を修得できるが、卒業単位として算入されない科目。

③ 授業方法による分類

授業方法	内容
講義	主に担当教員の口頭での解説や板書などにより、知識や技術などを学ぶ授業
演習	担当教員の指導のもと、学生が研究・発表・討議を行うことを主眼とした少人数の授業
実験	学んだ知識や技術などを実験室などで試薬や機材などを実際に用いて学ぶ授業
実習	学んだ知識や技術などを実地またはパソコンなどの実物にあたって学ぶ授業
実技	保健体育科目などの技術や演技を実際に行う授業

(その他の授業方法)

○アクティブ・ラーニング

課題発見、問題解決を取り入れた授業や、ディスカッション（意見交換）、ディベート（討論）、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークなど、授業への能動的な参加を取り入れた授業方法を「アクティブ・ラーニング」という。

○実践的教育

経営者、技術者、研究者、行政官などの実務家や学外での実務経験がある教員、または多様な企業等で実務経験がある講師による授業や、インターンシップや実習・研修を中心に位置づけた授業を「実践的教育」という。

④ 授業時期・期間による分類

名 称	授業期間（時期）	履修登録の時期	成績の公開時期
通年科目	4月から翌年1月まで	前期	学年末（3月）
前期科目	4月から7月まで	前期	前期末（9月）
後期科目	9月から翌年1月まで	前期または後期	学年末（3月）
集中科目	夏期または冬期休業中	前期	学年末（3月）

(2) 授業科目の履修

① 配当年次

授業科目には「配当年次」が定められている。これは、履修モデルに基づいて履修するのにふさわしい年次を表している。つまり、配当年次が3年次の授業科目を履修するためには、1・2年次の学修による知識・経験が必要だということである。逆に言えば、1年次、2年次の授業科目はより専門的な学修をするうえであらかじめ履修しておくべき科目だといえる。したがって、自分の年次より高い配当年次の授業科目を履修することはできない。自分の年次以下の科目の中から選択し、履修すること。

② 授業科目の選択

必修科目は卒業するために必ず修得しなければならないことは前にも述べたが、低年次に配当されている必修科目は学部・学科の基礎的な科目である。これらの単位を修得できないと、より専門的な授業科目を理解することは難しくなる。必ず配当された年次で修得するように努めること。

選択必修科目は区分された授業科目群の中から、決められた単位数以上を修得しなければならない科目である。定められた単位数を超えて修得した単位は自由選択科目として卒業単位に算入される。必要単位数を早期に充足しておけば余裕をもって科目選択を行うことができるが、逆に4年次まで充足できないでいると、余分に登録しておかなければ安心できないという事態に陥ることになってしまう。配当年次に従って早期に充足するように努めること。

必修科目と選択必修科目以外の科目は一部の実習・実験科目を除いて自由に選択・履修するこ

とができる。自由に選択・履修できる科目のうち卒業単位に含まれる科目を自由選択科目と呼んでいる。自由選択科目に含まれる授業科目は学部・学科によって異なるので所属する学部・学科のページを参照すること。卒業単位に含まれる単位数に上限を定めていることもあるので注意すること。

③ クラス指定科目

外国語科目および保健体育科目のうち、必修科目である基礎外国語および基礎体育学演習は、履修クラスが指定されている。このほか専門教育科目にも学部・学科・学年等によってクラスが指定されている授業科目がある。これらの授業科目は、必ず指定されたクラスで履修しなくてはならない。

④ 他学部・他学科科目の履修について

他学部および他学科の科目は、2年次から履修することができる。自身の入学年度の専門教育科目表に記載の配当年次に従って履修すること。該当する入学年度にない専門教育科目は、履修できない。

また、履修を認めていない科目がある。申請後、許可された科目のみ履修が可能である。申請方法は『履修ガイドブック』を確認すること。

2. 単位制について

(1) 「単位」とは

「単位」とは、大学設置基準にもとづいて学修時間を数値で表したもので、45時間の学修をもって1単位とする。この45時間のなかには予習と復習の時間が含まれているが、授業科目の種類によって大学で行う時間数と予習・復習時間の割合が異なる。例えば講義科目の場合、大学の授業、予習、復習それぞれ15時間で1単位になる。毎週1回あたりの授業は90分を基本としており、これを2時間と計算する。したがって、半期（15週）30時間の授業では予習、復習を加えると90時間になり2単位ということになる。このほか、授業を30時間、予習、復習をそれぞれ15時間と計算する演習科目、授業を45時間と計算する実験科目などがあり、これらの組み合わせによる授業科目もある。

本学の授業科目の単位数は学則第11条の規定に基づき、次のような計算方法をとっている。

① 講義および演習科目

- ・15時間の授業をもって、1単位とするもの。

例：哲学、中級ドイツ語Ⅰ、法社会学Ⅰ等

- ・20時間の授業をもって、1単位とするもの。

例：微分積分及び演習Ⅰ

- ・ 30 時間の授業をもって、1 単位とするもの。

例：講読演習 I a、College English Listening 等

② 実験、実習および実技科目

- ・ 30 時間の授業をもって、1 単位とするもの。

例：ラボラトリー・フィジックス I、基礎生物学実験、基礎体育学演習等

- ・ 45 時間の授業をもって、1 単位とするもの。

例：機能分子化学実験 1、地学実験等

③ 卒業論文、卒業研究及び卒業実験等の授業科目

審査等により、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して各学部・学科で単位数が定められている。

(2) 単位の認定

履修登録期間内に科目を登録し、試験やレポートなどにより合格の評価を得ると、当該科目の単位が認定され、単位を修得することになる。これを「学修」という。

3. 履修科目の単位制限について

各年度において履修できる授業科目の単位数には、制限が定められている。この単位数を超えて授業科目を履修登録することはできない。この制限は、単位制度の趣旨に沿った十分な学修量を確保することを目的としている。前項で説明したとおり、1 単位は 45 時間の学修によって成っている。一週間に実行不可能な学修量に相当する授業科目を履修しても成果は上がらない。授業の事前・事後の学修を念頭に置いて履修登録することが肝要である。

制限に含まれる科目、含まれない科目は入学年度・学部・学科等によって異なるので、自身の入学年度の履修要項に記載されている各学部の「単位制限に関する内規」に従うこと。

4. 卒業の資格と学位

(1) 卒業要件

卒業するためには、修業年限を満たし、学則に定められた単位を修得しなければならない。修業年限とは卒業に必要な年数で 4 年の在学年数が必要である。なお、休学期間は在学年数に含まれない。

(2) 卒業に必要な単位数

卒業に必要な単位数は、以下のとおり定められている。卒業するまでの間に、定められた単位を修得しなければ卒業することはできない。

基礎共通科目または国際言語文化科目 (文系学部) 18 単位
 (理系学部) 16 単位
 外国語科目 8 単位
 保健体育科目 2 単位
 専門教育科目 学部・学科によって異なる (98～102 単位)

○ 基礎共通科目・国際言語文化科目

基礎共通科目は 1 コース、国際言語文化科目は文系学部対象 4 コース・理系学部対象 1 コースを開設している。基礎共通科目または国際言語文化科目のどちらかを選択した上で、コースを選択する。卒業するためには選んだコースから文系学部は 18 単位以上、理系学部は 16 単位以上修得しなければならない。

○ 外国語科目

College English 4 単位と、基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語または大学日本語入門（外国人留学生対象）のうちから 1 外国語 4 単位、あわせて 8 単位を修得しなければならない。

○ 保健体育科目

基礎体育学演習 2 単位を修得しなければならない。

○ 専門教育科目

学部、学科によって異なるが、98～102 単位の間で定められている。専門教育科目には必修、選択必修など他にも履修要件が定められている。詳細は所属する学部・学科のページを確認すること。

(3) 学士の学位

本大学を卒業した者には、その学部・学科に応じて、以下の学位が授与される。

学 部	学 科	学 位
文 学 部	日本語日本文学科	学士（文 学）
	英語英米文学科	学士（文 学）
	社会学科	学士（社会学）
	人間科学科	学士（文 学）
	歴史文化学科	学士（文 学）
理工学部	物理学科	学士（理学）又は学士（理工学）
	生物学科	学士（理 学）
	機能分子化学科	学士（理工学）
経済学部	経済学科	学士（経済学）
法 学 部	法学科	学士（法 学）
経営学部	経営学科	学士（経営学）
知能情報学部	知能情報学科	学士（工学）、学士（理学） 又は学士（情報学）
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	学士（マネジメント）
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	学士（理工学）

甲南大学学則（抄）

第1章 総 則

第1条 本大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に則り、学術の府として広くかつ深く学芸を教授研究するとともに、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的とする。

第2章 組 織

第2条 本大学は、学部及び大学院よりなる。

第3条 本大学に次の学部・学科を置く。

学 部	学 科
文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科
	英 語 英 米 文 学 科
	社 会 学 科
	人 間 科 学 科
	歴 史 文 化 学 科
理 工 学 部	物 理 学 科
	生 物 学 科
	機 能 分 子 化 学 科
経 済 学 部	経 済 学 科
法 学 部	法 学 科
経 営 学 部	経 営 学 科
知 能 情 報 学 部	知 能 情 報 学 科
マ ネ ジ メ ン ト 創 造 学 部	マ ネ ジ メ ン ト 創 造 学 科
フ ロ ン テ ィ ア サ イ エ ン ス 学 部	生 命 化 学 科

第3条の2 各学部・学科における人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標は次のとおりとする。

学部	学科	人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標
文 学 部		幅広く深い教養を基盤に、人文科学の専門分野における調査、研究技量を磨く経験を通して、問題を見出し、考え、成果を言葉で表現する力を形成する。それによって、仕事を含む人生の様々な活動に発生する問題を主体的に解決できる人材を社会に送り出す。
	日 本 語 日本文学科	古典・近現代文学・日本語学・日本語教育学等のバランスの取れた教育・研究を通して、社会での活動の基盤である日本語の理解力・表現力を鍛えることを目標とする。
	英 語 英 米 文 学 科	実践的語学教育と並行して英語学及び英米の文化・文学の教育を行い、英語圏文化の深い理解に裏打ちされた英語運用能力を持つ人材を育成し、国際化する社会の要請に応える。
	社 会 学 科	情報化、国際化の進展によつて急速に変化し、多様性や不確実性が高まっている社会の中で必要とされる「自ら調査・分析・表現・発信する実証的・実践的な態度と能力」を涵養する。
	人間科学科	心理学、哲学、芸術学の知を関連づけながら、理論と実践の両面から「人間とは何か」を探究することにより、社会の諸問題を多角的に捉え、柔軟に問題解決できる人材育成を目指す。
	歴 史 文 化 学 科	人類がこれまで蓄積してきた有形・無形の文化遺産及び歴史の中における生活の場としての環境と人類との交流について歴史学、地理学・民俗学の分野から探求し、これら各分野を横断する総合的立場から教育を行う。
理工学部		自然科学の強固な学問的土台を身につけて、純粋理学と応用科学を融合させることのできる能力を養い、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材の育成を目指す。
	物 理 学 科	時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して、問題の解決に果敢に挑み、創造性を発揮し、国際社会に貢献できる人材の養成を目的とし、物理学の基本的な知識及び論理的思考法・手法を講義と実験・実習科目による相補的な積み上げ方式によって修得させ、卒業研究を通して総合的な問題解決能力を養う。
	生 物 学 科	今日の社会が直面する生命や環境等に関わる諸問題を正しく理解し、それらの解決に貢献できる国際的視野を持った人材の養成を目的とし、そのために必要な現代生物学の専門知識と技術及びそれらを十分に活用するための思考力を修得させる。
	機 能 分 子 化 学 科	科学技術に携わる者に求められる責任感と倫理観を有し、化学の専門知識並びに自然科学に対する柔軟な思考力を身につけた人材の養成を目的とし、化学の基礎的な知識・豊富な経験に基づく課題設定能力・解決能力を得て、現代社会の要請に応えることのできる能力を獲得させる。
経済学部	経 済 学 科	経済学の学習を通じて、変化の激しい経済社会で充実した活動ができる知性と創造力を備えた人材を養成する。これらの人材養成上、学生が修得すべき能力として、経済・社会問題を的確に捉える能力、筋道を立てて問題を考える能力、自らの力で解決策を示す能力を求める。
法 学 部	法 学 科	法曹・行政・経済をはじめ社会の様々な分野で指導的な役割を担うことができる人材を養成するため、学生の個性尊重を旨として、法及び政治に関する専門知識の修得と思考力の涵養を通じて、個々の学生の論理的な思考力と柔軟な応用力を培うことを教育目標とする。

学部	学科	人材養成上の目的と学生に修得させるべき能力等の教育目標
経営学部	経営学科	ヒト・モノ・カネ・情報等からなる組織（企業）の存続・発展のあり方について、自律的な洞察力を有し、社会に資するビジネスパーソンの養成を目的とする。このために学生が修得すべき能力として、次の各能力を求める。 (1) 幅広い教養に裏付けられた経営学の知識・理解力 (2) 各種スキルと論理的思考力に支えられた経営問題の発見・説明・解決力 (3) ビジネスパーソンに必要な社会的協調力と自発的遂行力及び倫理的責任力 (4) トータルな人間性と豊かな個性に基づいた社会的貢献力
知能情報学部	知能情報学科	人間力をベースに、感性・知性で高度国際情報社会におけるリーダーシップがとれる人材の育成を目指す。そのため、数学的基礎学力、知能情報学における専門知識、効果的な発表能力並びにコミュニケーション能力の修得を目標とする。
マネジメント創造学部	マネジメント創造学科	自ら学ぶ力を涵養し、営利、非営利、パブリックなどいずれの分野にあつても、社会的責任を創造的に果たしていくマネジメント能力を開発し、世界に貢献しうる人物育成を目指す。
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	教育・研究対象の中心に「生命化学」を据え、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー及びそれらの融合領域であるナノバイオに関する知識と技能を修得させることにより、社会の発展、福祉の増進のためとくに生命化学分野におけるフロンティア開発に資する人材を養成する。

第4条 省略

第5条 大学院に関する規程は、別に定める。

第3章 授業科目及び履修方法

第6条 本大学の授業科目を基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、単位互換科目、西宮市大学共通単位講座、日本語特設科目、国際交流科目及び専門教育科目に分ける。

2 文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部及び知能情報学部における基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目及びキャリア創生共通科目の授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。ただし、基礎共通科目と国際言語文化科目は、そのいずれかを履修するものとする。

3 単位互換科目及び西宮市大学共通単位講座の授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。

4 日本語特設科目及び国際交流科目の授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。

5 文学部、理工学部、経済学部、法学部、経営学部及び知能情報学部における専門教育科目の授業科目、単位数、必修・選択必修等の区別は、別表第2の(1)のとおりとする。

6 マネジメント創造学部の授業科目及び単位数は、別表第2の(3)のとおりとする。

7 フロンティアサイエンス学部の授業科目及び単位数は、別表第1のア、別表第1のオ及び別表第2の(4)のとおりとする。

8 卒業に必要な単位数は、別表第2の(1)、別表第2の(3)及び別表第2の(4)のとおりとする。

第7条 本大学の修業年限は、4年とする。

第8条 中学校及び高等学校の教育職員免許状を得るために必要な教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）の授業科目及び単位数は、別表第3のとおりとする。

第9条 教育職員免許状を得るための資格を得ようとする者は、別に定める教育職員養成課程に関する規程に従い、必要な単位を修得しなければならない。

2 本大学において、取得できる免許状の種類及び免許教科は、次のとおりとする。

学 部	学 科	免 許 教 科	免 許 状 の 種 類
文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	国 語	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	英 語 英 米 文 学 科	英 語	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	社 会 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	人 間 科 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
理 工 学 部	物 理 学 科	理 科	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
経 済 学 部	経 済 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
法 学 部	法 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
経 営 学 部	経 営 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
知 能 情 報 学 部	知 能 情 報 学 科	数 学	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状

第10条 図書館司書又は学校図書館司書教諭の資格を得ようとする者は、別表第4の(1)に定めるところに従い、必要な専門教育科目の単位を修得しなければならない。

第10条の2 博物館学芸員の資格を得ようとする者は、別表第4の(2)に定めるところに従い、必要な専門教育科目の単位を修得しなければならない。

第10条の3 公認心理師の受験資格を得るために大学において必要な科目を修めようとする者は、別

表第4の(3)に定めるところに従い、必要な専門教育科目の単位を修得しなければならない。

第11条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもつて1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもつて1単位とする。
- (3) 一つの授業科目のなかで、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合の授業科目については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して定める時間の授業をもつて1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究及び卒業実験等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第11条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 本大学は、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本大学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 大学は、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

第11条の3 学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第4章 試験及び学士の学位

第12条 学生は、学期の初めに履修を希望する授業科目を届け出て承認を得なければならない。

第12条の2 教育上有益と認めるときは、他の大学（外国の大学を含む。）との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることがある。

2 前項により修得した単位は、60単位を限度として、本大学において修得した単位とみなすことができる。

3 第1項の規定に基づく外国留学（以下「留学」という。）に関しては、この学則に定めるもののほか別に定める。

第13条 単位の認定は、試験その他適当な方法による。ただし、実験、実習、演習、体育の実技等は、平常の成績によることができる。

2 授業科目の成績の評価は、秀(AA)・優(A)・良(B)・可(C)・不可(D)の5種とし、その評点は、100点を満点として次のとおり定める。

秀 (AA)	90 点以上	}	合 格
優 (A)	80 点以上 90 点未満		
良 (B)	70 点以上 80 点未満		
可 (C)	60 点以上 70 点未満		
不可 (D)	60 点未満		不合格

第14条 試験は、原則として学期末又は学年末に行う。

第15条 削除

第16条 4年以上在学して第6条に掲げられた所定の授業科目及び履修方法により卒業に必要な単位数を修得した者には、学部教授会及び合同教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

2 本大学に3年以上在学した学生が、別に定める規程に従い卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認められる場合には、第7条に規定する修業年限の特例扱いとして学部教授会及び合同教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与することができる。

第16条の2 前条第1項の定めにかかわらず、卒業に必要な要件を満たした者が目標とする進路、資格等を獲得するために卒業を保留し、引き続き在学を希望した場合、学部教授会及び合同教授会の審議を経て、学長は卒業の延期を許可することができる。

2 卒業の延期に関する事項については、別に定める。

第17条 本大学を卒業した者には、学部及び学科に応じて、次のとおり学士の学位を授与する。

文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	学 士 (文 学)
	英 語 英 米 文 学 科	学 士 (文 学)
	社 会 学 科	学 士 (社会学)
	人 間 科 学 科	学 士 (文 学)
	歴 史 文 化 学 科	学 士 (文 学)
理 工 学 部	物 理 学 科	学 士 (理 学) 又は学 士 (理工学)
	生 物 学 科	学 士 (理 学)
	機 能 分 子 化 学 科	学 士 (理工学)
経 済 学 部	経 済 学 科	学 士 (経済学)
法 学 部	法 学 科	学 士 (法 学)
経 営 学 部	経 営 学 科	学 士 (経営学)
知 能 情 報 学 部	知 能 情 報 学 科	学 士 (工学)、学 士 (理学)
		又は学 士 (情報学)
マ ネ ジ メ ン ト 創 造 学 部	マ ネ ジ メ ン ト 創 造 学 科	学 士 (マ ネ ジ メ ン ト)
フ ロ ン テ ィ ア サ イ エ ン ス 学 部	生 命 化 学 科	学 士 (理工学)

第5章 学年、学期及び休業日

第18条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第19条 学年は、前期・後期の2学期に分ける。

前期 4月 1日～9月16日

後期 9月17日～3月31日

第20条 休業日を次のとおり定める。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 本学園創立記念日（4月21日）

(4) 夏期休業日、冬期休業日は学年暦によるものとする。

2 学長は、学年暦編成上必要ある場合は、前項の休業日を授業日に変更することができる。

3 学長は、必要に応じ臨時に授業を休止又は変更することができる。

第6章 入学、転学部、留学、休学、除籍及び退学

第21条 入学の時期は、学年初めとする。

第22条 本大学の第1年次に入学する資格のある者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校の卒業者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者

第23条 入学は、選考によつて学長が決定する。

第24条 選考によつて入学を決定された者は、所定の期日までに入学に必要な手続をしなければならない。

第25条 本大学への編入学を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、これを許可することができる。

2 編入学についての細則は、別に定める。

第26条 本大学を卒業し、さらに本大学の他の学部へ学士入学を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、これを許可することができる。

第27条 他の学部へ転学部を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、これを許可することができる。

第27条の2 第12条の2の規定に基づく留学を希望する者は、願い出て学長の許可を受けなければならない。

2 前項により留学をした期間は、第16条及び第29条に規定する在学期間に算入する。

第28条 疾病その他やむを得ない理由により休学を願い出る者があるときは、学長はこれを許可することができる。

2 疾病のため修学に適さないと認められる者については、学長が休学を命ずることがある。

3 海外渡航の期間が6箇月以上にわたるときは、休学しなければならない。

4 休学の期間は、継続して2年を、通算して4年を超えることができない。

5 休学期間中に復学を願い出る者があるときは、学長は、これを許可することができる。

6 休学の期間は、第 16 条及び次条に規定する在学期間に算入しない。

第 29 条 本大学に在学する期間は、8 年を超えることができない。

2 在学期間が 8 年を超える場合は、除籍する。

第 30 条 学費を納付しない者は、除籍する。ただし、1 年以内に復籍を願い出たとき、又は 1 年経過後再入学を願い出たときは、審議の上、学長は、これを許可することができる。

第 30 条の 2 死亡又は行方不明となつた者は、除籍する。

第 31 条 疾病その他やむを得ない理由によつて退学しようとするときは、学長の許可を受けなければならない。

第 32 条 前条により退学した者が再入学を願い出たときは、選考の上、学長は、これを許可することができる。

第 33 条 他の大学へ入学又は転学を願い出ようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

第 7 章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講生及び高大連携聴講生

第 34 条 特定の授業科目について履修を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、科目等履修生として許可することができる。

2 科目等履修生規程については、別に定める。

第 34 条の 2 本大学専任教員の指導を受け、特定の事項について研究をしようとする者があるときは、選考の上、学長は、研究生として許可することができる。

2 研究生規程については、別に定める。

第 34 条の 3 特定の授業科目について聴講を願い出る者があるときは、選考の上、学長は、聴講生として許可することができる。

2 聴講生規程については、別に定める。

第 34 条の 4 他の大学との協議に基づき、本大学の授業科目を履修させる場合には、選考の上、学長は、特別聴講生として許可することができる。

第 34 条の 5 甲南高等学校との協議及び教育委員会又は高等学校との協定に基づき、当該高校生が本大学が指定する授業科目の聴講を願い出る場合は、選考の上、学長は、高大連携聴講生として許可することができる。

2 高大連携聴講生については、別に定める。

第7章の2 外国人留学生

第34条の6 出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）に定める留学という在留資格の取得を必要とする者が、本大学に入学しようとする場合は、選考の上、学長は、外国人留学生として、これを許可することができる。

2 外国人留学生の受入れについては、別に定める。

第8章 賞 罰

第35条 学業、人物、文化芸術、運動等の分野において優秀な者は表彰する。

第36条 学生に本大学の規則に違反し、又は学生の本分にもとる行為があると認めたときは、合同教授会の審議を経て、学長が懲戒を決定する。

2 学生の懲戒に関する規程は、別に定める。

第37条 懲戒処分は、訓告、停学及び退学とする。退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第9章 入学受験料、科目等履修生検定料、研究生申請料、聴講生検定料、入学金、授業料、施設設備費、設備充実費、教育充実費、研究資料費、実験費、実習費、復籍料、在籍料、学修在籍料、科目等履修料、研究生登録料及び聴講料

第38条 本大学に入学を願い出る者は、別表第5に定める入学受験料を納付しなければならない。

2 本大学に科目等履修生を願い出る者は、別表第5に定める科目等履修生検定料を納付しなければならない。

3 研究生を願い出る者は、別表第5に定める研究生申請料を納付しなければならない。

4 聴講生を願い出る者は、別表第5に定める聴講生検定料を納付しなければならない。

第39条 本大学に入学を許可された者は、別表第6に定める入学金を納付しなければならない。

第40条 学生は、別表第7の(1)に定める授業料及び施設設備費を納付しなければならない。実験又は実習を要する授業科目を履修する者は、別表第7の(2)に定める実験費又は別表第7の(3)に定める実習費を納付しなければならない。

- 2 理工学部及び知能情報学部学生は、別表第7の(1)に定める設備充実費を納付しなければならない。
- 3 マネジメント創造学部学生は、別表第7の(1)に定める教育充実費を納付しなければならない。
- 4 フロンティアサイエンス学部学生は、別表第7の(1)に定める設備充実費及び教育充実費を納付しなければならない。
- 5 文学部人間科学科1年次学生は、別表第7の(1)に定める研究資料費を納付しなければならない。
- 6 休学中の者は、別表第7の(4)に定める在籍料を納付しなければならない。
- 7 第30条により復籍を許可された者は、復籍料を納付しなければならない。
- 8 第16条の2により卒業の延期を許可された者は、別表第7の(6)に定める学修在籍料を納付しなければならない。

第41条 科目等履修生は、別表第7の(5)に定める科目等履修料を納付しなければならない。

第41条の2 研究生は、別表第7の(5)に定める研究生登録料を納付しなければならない。

第41条の3 聴講生は、別表第7の(5)に定める聴講料を納付しなければならない。

第42条 入学金、授業料、施設設備費、設備充実費、教育充実費、研究資料費、実験費、実習費、復籍料、在籍料、学修在籍料、科目等履修料、研究生登録料、聴講料等の学費及び入学受験料、科目等履修生検定料、研究生申請料、聴講生検定料の徴収については、別に定める。

第43条 既納の学費、入学受験料、科目等履修生検定料、研究生申請料及び聴講生検定料は、返還しない。

- 2 入学許可を得た者で、指定の期日までに入学手続きの取消しを願い出たものについては、前項にかかわらず、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

(第10章～第19章、別表第1～第7及び附則は省略)

別表第1については、全学部共通科目の項を参照のこと。

別表第2については、各学部専門教育科目の項を参照のこと。

別表第3については、教職に関する科目の項を参照のこと。

別表第4の(1)については、図書館学に関する専門教育科目の項を参照のこと。

別表第4の(2)については、文学部 人間科学科、文学部 歴史文化学科、理工学部 物理学科、又は理工学部 生物学科の博物館学芸員養成課程の項を参照のこと。

別表第4の(3)については、公認心理師に関する専門教育科目の項を参照のこと。

2019 年度甲南大学学則変更内容

以下の科目は、学則変更に伴って、2019 年度に新設・廃止・科目分割・名称変更等した科目である。
2019 年度入学生は、新名称でのみ履修できる。廃止科目および旧名称での履修はできない。

I. 基礎共通科目

変更内容	科目名称	単位	旧名称	単位
新 設	社会を読み解く(クリティカルシンキング)	2		
新 設	文 章 表 現 論	2		
新 設	ス ポ ー ツ と 身 体 知	2		
新 設	ス ポ ー ツ と 経 済	2		
新 設	健 康 と 生 命 科 学	2		
名 称 変 更	情報社会のセキュリティ	2	情 報 セ キ ュ リ テ ィ	2

II. キャリア創生共通科目

変更内容	科目名称	単位	旧名称 (旧区分)	単位
配 置 変 更	障 害 者 ・ 障 害 児 心 理 学	2	公認心理師に関する専門教育科目	
配 置 変 更	福 祉 心 理 学	2	公認心理師に関する専門教育科目	
新 設	共 通 応 用 演 習	2		
廃 止			ス ポ ー ツ 指 導 論 演 習	2

III. 文学部

1. 共通・関連科目

変更内容	科目名称	単位	旧名称	単位
廃 止			教 育 哲 学	2

IV. 理工学部

1. 物理学科

変更内容	科目名称	単位	旧名称	単位
新 設	天体観測ワークショップ	2		
新 設	生 涯 学 習 概 論	2		
新 設	博 物 館 概 論	2		
新 設	博 物 館 経 営 論	2		
新 設	博 物 館 資 料 論	2		
新 設	博 物 館 資 料 保 存 論	2		
新 設	博 物 館 展 示 論	2		

変更内容	科目名称	単位	旧名称	単位
新 設	博 物 館 教 育 論	2		
新 設	博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論	2		
新 設	博 物 館 実 習 I	1		
新 設	博 物 館 実 習 II	1		
新 設	博 物 館 実 習 III	1		

2. 生物学科

変更内容	科目名称	単位	旧名称	単位
新 設	情 報 通 信 テ ク ノ ロ ジ I	2		
新 設	I T 応 用	2		
新 設	統 計 基 礎 I	2		
廃 止			生 物 学 通 論 I	2
廃 止			生 物 学 通 論 II	2

3. 機能分子化学科

変更内容	科目名称	単位	旧名称	単位
新 設	化 学 数 学 基 礎 A	2		
新 設	化 学 数 学 基 礎 B	2		
新 設	化 学 数 学 基 礎 C	2		
新 設	化 学 数 学 基 礎 D	2		
新 設	化 学 数 学 B	2		
新 設	化 学 の た め の 物 理 B	2		
新 設	化 学 英 語	2		
名 称 変 更	化 学 数 学 A	2	化 学 数 学	2
名 称 変 更	化 学 の た め の 物 理 A	2	化 学 の た め の 物 理	2
廃 止			微 分 積 分 及 び 演 習 I	3
廃 止			微 分 積 分 及 び 演 習 II	3
廃 止			線 形 代 数 及 び 演 習 I	3
廃 止			線 形 代 数 及 び 演 習 II	3
廃 止			化 学 英 語 演 習	1
廃 止			化 学 の た め の 物 理 演 習	1
廃 止			化 学 数 学 演 習	1

V. 経営学部

変更内容	科目名称	単位	旧名称	単位
新 設	AP アカウンティング・プラクティス演習	2		
廃 止			フ ァ イ ナ ン ス 入 門	2

Ⅵ. 教職に関する専門教育科目

変更内容	科目名称	単位	旧名称	単位
新 設	特 別 支 援 教 育 論	2		
新 設	総合的な学習の時間指導法	1		
名 称 変 更	国 語 科 教 育 法 基 礎 I	2	国 語 科 教 育 研 究 I	2
名 称 変 更	国 語 科 教 育 法 基 礎 II	2	国 語 科 教 育 研 究 II	2
名 称 変 更	英 語 科 教 育 法 基 礎 I	2	英 語 科 教 育 研 究 I	2
名 称 変 更	英 語 科 教 育 法 基 礎 II	2	英 語 科 教 育 研 究 II	2
名 称 変 更	人 権 教 育 論	2	人 権 教 育 研 究	2
廃 止			教 育 哲 学	2
廃 止			グロ ー バ ル 教 育 セ ミ ナ ー	2

Ⅶ. 公認心理師に関する専門教育科目

変更内容	科目名称	単位	旧名称	単位
新 設	公 認 心 理 セ ミ ナ ー I	2		
新 設	公 認 心 理 セ ミ ナ ー II	2		

全 学 部 共 通 科 目

基 礎 共 通 科 目

国 際 言 語 文 化 科 目

外 国 語 科 目

保 健 体 育 科 目

キ ャ リ ア 創 生 共 通 科 目

単 位 互 換 科 目

西 宮 市 大 学 共 通 単 位 講 座

全学部共通科目

卒業認定・学位授与の方針															
甲南大学（以下「本学」という）では、学則第1条に定める、学術の府として広くかつ深く学芸を教授研究するとともに、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。 その実現のために、4年以上在学し本学の学位プログラムの課程を修め、各学部所定の必要単位数を修得することを通して、下記的能力・資質を身につけ、それらを社会生活において総合的に活用できる人材を養成することを教育目標としています。 (1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。 (4) 専攻分野に関して基本的な知識を修得しています。 (5) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。 (6) 事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。															
カリキュラムマップ															
到達目標											対応する卒業認定・学位授与の方針(大学)の番号				
A	論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を身につける。										(5) (6)				
B	他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を身につける。										(1)				
C	大学における学びの基盤となる基礎的読解力や文章表現力などを習得する。										(3)				
D	外国語によるコミュニケーション能力や国際・異文化を理解する能力を身につける。										(3)				
E	心身両面の健康に配慮する姿勢を身につける。										(1) (3)				
F	情報を読み解き活用する力を身につける。										(3)				
G	知への興味や関心を引き出し、物事を深く考えるための知的基盤形成を促す教養を身につける。										(3)				
H	天賦の特性と身につけた知識を社会でどのように生かしていくのかを考える力を身につける。										(2) (6)				
授業科目表（全学部共通科目） 〔2019年度（平成31年度）の入学生に適用〕															
授業科目名				単位数	配当年次	到達目標									
						A	B	C	D	E	F	G	H		
基礎共通科目	人文科学系	A群 リベラルアーツ	哲学	2	1								○		
			倫理学	2	1									○	
			心理学	2	1									○	
			歴史学	2	1									○	
			文学	2	1									○	
			哲学プラクティス	2	1									○	
			女性学	2	1									○	
			現代の芸術	2	1									○	
			宗教学	2	1									○	
		B群 人間を学ぶ	生態人類学	2	1									○	
			環境と文学	2	1									○	
			芸術と社会	2	1									○	
			生命と倫理	2	1									○	
			人権（同和）の問題	2	1									○	
			感情・人格心理学	2	1									○	
			スポーツと身体知	2	1									○	

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標							
						A	B	C	D	E	F	G	H
基礎共通科目	人文科学系	C群 文化を学ぶ	ことばと社会	2	1							○	
			コミュニケーション論	2	1							○	
			イメージと文化	2	1							○	
			日本語の諸相	2	1							○	
			比較文化	2	1							○	
			芸術学基礎論	2	1							○	
			現代思想	2	1							○	
			近現代の文学	2	1							○	
			日本研究	2	1							○	
			越境する文化と文学	2	1							○	
		D群 歴史を学ぶ	社会思想史	2	1							○	
			歴史と文化	2	1							○	
			文学と歴史	2	1							○	
			地域と文化	2	1							○	
			芸術史	2	1							○	
			歴史とメディア	2	1							○	
			国際化の歴史	2	1							○	
			生活の歴史	2	1							○	
	社会科学系	A群 リベラルアーツ	社会学	2	1							○	
			法学	2	1							○	
			経済学	2	1							○	
			経営学	2	1							○	
			政治学	2	1							○	
			地理学	2	1							○	
			国際関係論	2	1							○	
		B群 経済を学ぶ	産業と経済	2	1							○	
			企業と情報	2	1							○	
			歴史と経済	2	1							○	
			現代社会と企業	2	1							○	
			世界と経済	2	1							○	
			暮らしと経済	2	1							○	
			福祉と経済	2	1							○	
			社会とファイナンス	2	1							○	
			スポーツと経済	2	1							○	
		C群 社会を学ぶ	現代社会論	2	1							○	
			現代都市論	2	1							○	
			公共哲学	2	1							○	
			環境人間学	2	1							○	
			社会福祉論	2	1							○	
			家族関係論	2	1							○	
			歴史と社会	2	1							○	
			ボランティア論	2	1							○	
			グローバリゼーションと文化	2	1							○	
			地域連携入門	2	1							○	
			地域とメディア	2	1							○	
		D群 法を学ぶ	日本国憲法	2	1							○	
			社会生活と法	2	1							○	
			現代政治論	2	1							○	
			法と情報	2	1							○	
			環境法学	2	1							○	

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標							
					A	B	C	D	E	F	G	H
基礎共通科目	自然科学系	A群 リベラルアーツ	数学	2	1						○	
			物理学	2	1						○	
			化学	2	1						○	
			生物学	2	1						○	
			地学	2	1						○	
			生命化学	2	1						○	
		B群 自然の歴史を学ぶ	地球の歴史	2	1						○	
			生物の歴史	2	1						○	
			自然と人間	2	1						○	
			自然科学史	2	1						○	
			技術の歴史	2	1						○	
			環境と地理	2	1						○	
		C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	2	1						○	
			現代生活と生物学	2	1						○	
			現代生活と数理科学	2	1						○	
			現代生活と最先端科学	2	1						○	
			核と環境	2	1						○	
			環境の化学	2	1						○	
			大気と海洋	2	1						○	
			国際化と情報ネットワーク	2	1						○	
			国際社会における最先端科学	2	1						○	
			現代生活と生命化学	2	1						○	
			健康と生命科学	2	1						○	
		D群 情報を学ぶ	知能情報	2	1						○	
			生体情報	2	1						○	
			感性情報	2	1						○	
			生命情報	2	1						○	
			認知科学	2	1						○	
	学際融合系		情報社会のセキュリティ	2	1						○	
			食品科学	2	1						○	
			身体健康科学	2	1				○		○	
			トレーニング論	2	1		○				○	○
			スポーツにおける健康管理	2	1				○		○	
			保健衛生	2	1						○	
			基礎スポーツ健康科学	2	1				○		○	
			癒しの諸相	2	1						○	
			自己の探求	2	1						○	
			スポーツ文化論	2	1						○	
			心の健康科学	2	1						○	
			生涯スポーツ論	2	1				○		○	
			環境教育の実践	2	1						○	
			ケアの倫理	2	1						○	
			人体の構造と機能及び疾病	2	1						○	
			フロンランナー講座	2	1						○	
			ライフプラン教育	2	1						○	
			社会を読み解く(クリティカルシンキング)	2	1	○		○		○	○	
			文章表現論	2	1	○		○		○	○	
	導入共通科目		甲南大学と平生鈺三郎	2	1		○				○	
			共通基礎演習	2	1	○	○	○			○	
			IT 基礎	2	1		○	○		○		

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				A	B	C	D	E	F	G	H
国際言語文化科目	言語と文化Ⅰ ドイツ	2	1	○	○	○	○			○	
	言語と文化Ⅱ ドイツ	2	1	○	○	○	○			○	
	言語と文化Ⅰ フランス	2	1	○	○	○	○			○	
	言語と文化Ⅱ フランス	2	1	○	○	○	○			○	
	言語と文化Ⅰ 中国	2	1	○	○	○	○			○	
	言語と文化Ⅱ 中国	2	1	○	○	○	○			○	
	言語と文化Ⅰ 韓国	2	1	○	○	○	○			○	
	言語と文化Ⅱ 韓国	2	1	○	○	○	○			○	
	国際理解 A	2	1	○	○		○		○	○	○
	国際理解 B	2	1	○	○		○		○	○	○
	国際理解 C	2	1	○	○		○		○	○	○
	国際理解 D	2	1	○	○		○		○	○	○
	国際理解 English	2	1	○	○		○		○	○	○
	外国語総論（ヨーロッパ編）	2	1	○	○		○		○	○	○
	外国語総論（アジア編）	2	1	○	○		○		○	○	○
	ドイツ語圏でのコミュニケーション入門	2	1	○	○		○		○	○	
	フランス語圏でのコミュニケーション入門	2	1	○	○		○		○	○	
	中国語圏でのコミュニケーション入門	2	1	○	○		○		○	○	
	韓国語圏でのコミュニケーション入門	2	1	○	○		○		○	○	
	English for Science	2	1	○		○	○		○	○	
	Science Presentation	2	1	○			○			○	
	Science Writing	2	1	○		○	○		○		
	Science News I	2	1	○			○		○	○	
	Science News II	2	1	○			○		○	○	
	世界のサイエンス事情Ⅰ	2	1	○			○		○	○	○
	世界のサイエンス事情Ⅱ	2	1	○	○		○		○	○	○
	日本の文化事情Ⅰ	2	2				○			○	
	日本の文化事情Ⅱ	2	1				○			○	
	日本理解Ⅰ	2	2				○			○	
	日本理解Ⅱ	2	1				○			○	
外国語科目	英語・第2外国語	College English Reading and Writing	2	1			○	○			
		College English Listening	1	1			○				
		College English Speaking	1	1			○			○	
		基礎ドイツ語Ⅰ	2	1			○				
		基礎ドイツ語Ⅱ	2	1			○				
		基礎フランス語Ⅰ	2	1			○				
		基礎フランス語Ⅱ	2	1			○				
		基礎中国語Ⅰ	2	1			○				
		基礎中国語Ⅱ	2	1			○				
		基礎韓国語Ⅰ	2	1			○				
		基礎韓国語Ⅱ	2	1			○				
		大学日本語入門Ⅰ	2	1			○	○			
		大学日本語入門Ⅱ	2	1			○	○			
		中級英語 Speaking	4	2			○			○	
		中級英語 Presentation	4	2			○			○	
		中級英語 Listening	4	2			○				
		中級英語 Reading	4	2			○	○		○	
		中級英語 Writing	4	2			○	○			
		中級英語 Pronunciation	2	2			○				
		中級英語 T O E I C	4	2			○				
		中級英語 T O E F L	4	2	○		○				
		中級英語 Global Topics I	2	2	○	○	○		○		
		中級英語 Global Topics II	2	2	○	○	○		○		

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標							
					A	B	C	D	E	F	G	H
外国語科目	英語・第2外国語	中級英語 Life Topics I	2	2		○		○	○		○	
		中級英語 Life Topics II	2	2		○		○	○		○	
		中級英語 Career English I	2	2		○		○				○
		中級英語 Career English II	2	2		○		○				○
		中級ドイツ語 I	4	2			○	○		○		
		中級ドイツ語 II	4	2				○				
		中級ドイツ語 III	4	2				○				
		中級ドイツ語 IV	4	2				○			○	
		中級フランス語 I	4	2			○	○		○		
		中級フランス語 II	4	2				○				
		中級フランス語 III	4	2				○				
		中級フランス語 IV	4	2				○			○	
		中級中国語 I	4	2			○	○		○		
		中級中国語 II	4	2				○				
		中級中国語 III	4	2				○				
		中級中国語 IV	4	2				○			○	
		中級韓国語 I	4	2			○	○		○		
		中級韓国語 II	4	2				○				
		中級韓国語 III	4	2				○				
		中級韓国語 IV	4	2				○			○	
		大学日本語中級 I	4	2	○			○				
		大学日本語中級 II	4	2	○			○				
		上級英語 TOEIC	4	3・4				○				
		上級英語 Global Topics I	2	3・4	○	○		○		○		○
		上級英語 Global Topics II	2	3・4	○	○		○		○		○
		上級英語 Life Topics I	2	3・4	○	○		○	○		○	○
		上級英語 Life Topics II	2	3・4	○	○		○	○		○	○
		上級英語 Career English I	2	3・4		○		○		○		○
		上級英語 Career English II	2	3・4		○		○		○		○
		上級ドイツ語 I	4	3・4	○		○	○		○	○	○
		上級ドイツ語 II	4	3・4	○			○		○	○	○
		上級フランス語 I	4	3・4	○		○	○		○	○	○
		上級フランス語 II	4	3・4	○			○		○	○	○
		上級中国語 I	4	3・4	○		○	○		○	○	○
		上級中国語 II	4	3・4	○			○		○	○	○
		上級韓国語 I	4	3・4	○		○	○		○	○	○
		上級韓国語 II	4	3・4	○			○		○	○	○
		大学日本語上級 I	4	3・4	○			○				
		大学日本語上級 II	4	3・4	○			○				
	海外語学講座・留学支援科目	海外語学講座 I	4	1	○			○				
		海外語学講座 II	4	1	○			○				
		海外語学講座 III	2	1	○			○				
		English Regions I	2	1				○			○	
		English Regions II	2	1				○			○	
		English Regions III	2	2				○			○	
		English Regions IV	2	2				○			○	
		German Studies I	2	1	○	○		○		○	○	
		German Studies II	2	2	○	○		○		○	○	
		German Studies III	2	2	○			○				
		German Studies IV	2	2	○			○				
		French Studies I	2	1	○	○		○		○	○	
		French Studies II	2	2	○	○		○		○	○	

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標							
					A	B	C	D	E	F	G	H
外国語科目	海外語学講座・留学支援科目	French Studies III	2	2	○			○				
		French Studies IV	2	2	○			○				
		Chinese Studies I	2	1	○	○		○		○	○	
		Chinese Studies II	2	2	○	○		○		○	○	
		Chinese Studies III	2	2	○			○				
		Chinese Studies IV	2	2	○			○				
		Korean Studies I	2	1	○	○		○		○	○	
		Korean Studies II	2	2	○	○		○		○	○	
		Korean Studies III	2	2	○			○				
		Korean Studies IV	2	2	○			○				
保健体育科目	生涯スポーツ	基礎体育学演習	2	1		○			○			○
		生涯スポーツ・バドミントンⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・バドミントンⅡ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・硬式テニスⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・硬式テニスⅡ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・卓球Ⅰ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・エアロビクスⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・ゴルフⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・ゴルフⅡ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・健康柔道Ⅰ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・健康柔道Ⅱ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・バスケットボールⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・バスケットボールⅡ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・バレーボールⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・バレーボールⅡ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・フットサルⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・フットサルⅡ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・レクリエーションスポーツⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・レクリエーションスポーツⅡ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・ジョギングⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・トレーニング実習Ⅰ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・トレーナー実習Ⅰ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・フィットネス実習Ⅰ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・スキーⅠ	1	2		○			○			○
		生涯スポーツ・スキーⅡ	1	2		○			○			○
キャリア創生共通科目	キャリアデザイン系	共通応用演習	2	3	○	○						○
		ベーシック・キャリアデザイン	2	1								○
		インターンシップ	2	1								○
		キャリアゼミ	2	2								○
		プラクティカル・キャリアデザイン	2	3								○
	ビジネス系	アドバンスト・キャリアデザイン	2	4								○
		入門マネジメント	2	2								○
		実践マネジメント	2	2								○
		ビジネスを支える法の世界	2	3								○
		入門ビジネス法務	2	2								○
		実践ビジネス法務	2	2								○
		入門パーソナルファイナンス	2	2								○
		応用パーソナルファイナンス	2	2								○
		入門ビジネス会計	2	2								○
		実践ビジネス会計	2	2								○
		入門商業簿記Ⅰ	2	2								○
		入門商業簿記Ⅱ	2	2								○
		中級簿記	4	2								○
		工業簿記	4	2								○

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標							
					A	B	C	D	E	F	G	H
キャリア創生共通科目	ビジネス系	上級簿記Ⅰ	2	2								○
		上級簿記Ⅱ	2	2								○
		上級財務諸表論Ⅰ	2	2								○
		上級財務諸表論Ⅱ	2	2								○
		上級工業簿記	2	2								○
		上級原価計算	2	2								○
	情報系	IT 応用	2	1						○		○
		情報通信テクノロジーⅠ	2	1						○		○
		情報通信テクノロジーⅡ	2	1						○		○
		ICT セキュリティ	2	2						○		○
		IT 経営学	2	3						○		○
		IT システム開発	2	3						○		○
		統計基礎Ⅰ	2	1						○		○
		統計基礎Ⅱ	2	2						○		○
		統計活用情報分析Ⅰ	2	2						○		○
		統計活用情報分析Ⅱ	2	2						○		○
	国際系	グローバル・コミュニケーションⅠ	4	2				○				○
		グローバル・コミュニケーションⅡ	4	2				○				○
		エリアスタディーズⅠ	2	1				○				○
		エリアスタディーズⅡ	2	1				○				○
		エリアスタディーズⅢ	2	1				○				○
		エリアスタディーズⅣ	2	1				○				○
		エリアスタディーズⅤ	2	1				○				○
		エリアスタディーズⅥ	2	1				○				○
		エリアスタディーズⅦ	2	1				○				○
		エリアスタディーズⅧ	2	1				○				○
		エリアスタディーズⅨ	2	1				○				○
		エリアスタディーズⅩ	2	1				○				○
		世界の中の日本Ⅰ	2	2				○				○
		世界の中の日本Ⅱ	2	2				○				○
		海外ボランティアⅠ	4	1		○		○				○
		海外ボランティアⅡ	2	1		○		○				○
		海外インターンシップ	4	2				○				○
	ボランティア・地域連携系	実践ボランティアⅠ	1	1		○						○
		実践ボランティアⅡ	1	1		○						○
		地域ファシリテイト	2	2		○						○
		地域プロジェクトⅠ	2	2		○						○
		地域プロジェクトⅡ	2	3		○						○
	福祉・スポーツ健康科学系	応用スポーツ健康科学	2	2					○		○	○
		障害者・障害児心理学	2	3・4		○			○			○
		福祉心理学	2	2		○			○			○

基礎共通科目と国際言語文化科目

私たちが生きる現代社会においては、個人をとりまく環境や価値観が急速に多様化し、個人が抱える個別の問題を所属する学部固有の専門的知識だけで解決することが次第に難しくなっている。語学や異文化理解力、それに現代社会や経済を読み解くための基礎知識を含めた多様な教養を身につけることこそが、問題の解決にとって何より必要不可欠である。こうした状況を踏まえて、学部で身につけるべき体系的な専門的知識以外に、専門外の多様な基本的知識や概念をある定まった視点に立って体系的・系統的に修得するために設けられたのが、本学独自の『基礎共通科目』と『国際言語文化科目』である。

学則では『基礎共通科目』または『国際言語文化科目』のいずれか一方を履修することが卒業要件に定められており、いずれの科目を履修するかは、1年次に選択しなければならない。

文学部・経済学部・法学部・経営学部

1年次の6月に『基礎共通科目』または『国際言語文化科目』のいずれかを選択し、『国際言語文化科目』を選択した場合には、『A 国際文化コース』、『B 国際コミュニケーションコース』、『C－1 ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語インテンシブコース』または『C－2 英語インテンシブコース』から1コースを選択するため、履修希望コースの登録を行う。

なお、『C－2 英語インテンシブコース』は、定員を設けているので、履修希望者が定員を超えた場合は抽選により決定するが、「留学のための英語集中コース」の学生が同コースを希望した場合、優先的に登録を受け付ける。

この登録の結果、各自の卒業に必要となる科目が決定する。決定されたコースの変更は一切認めない。

履修は1年次後期より開始する。ただし、『導入共通科目』の履修は1年次前期より開始する。

理工学部・知能情報学部

1年次の4月に『基礎共通科目』または『国際言語文化科目』のいずれかを選択する。『国際言語文化科目』を選択した場合には、『D 理系国際言語文化コース』への履修希望コースの登録を行う。なお、『D 理系国際言語文化コース』は、定員を設けているので、履修希望者が定員を超えた場合は抽選により決定する。

この登録の結果、各自の卒業に必要となる科目が決定する。決定されたコースの変更は一切認めない。

履修は1年次前期より開始する。

外国人留学生（正規留学生）

【文学部、経済学部、法学部及び経営学部】

国際言語文化科目『E 外国人留学生国際文化コース』を選択しなければならない。

履修は1年次後期より開始する。ただし、『導入共通科目』の履修は1年次前期より開始する。

【理工学部及び知能情報学部】

1年次の4月に『基礎共通科目』または『国際言語文化科目』のいずれかを選択する。『国際言語文化科目』を選択した場合には、『D 理系国際言語文化コース』への履修希望コースの登録を行う。なお、『D 理系国際言語文化コース』は、定員を設けているので、履修希望者が定員を超えた場合は抽選により決定する。

履修は1年次前期より開始する。

基礎共通科目の概要

私たちが生きる現代社会においては、つねに唯一の正しい答えがあるとは限らない。複数の答えがある場合や、そもそも答えのない場合さえある。こうした社会を生きる上で、正しいと思われる判断を行うには、正確な情報に基づき、論理的に思考し、結論を導くことが何より重要であるが、そのためには専門的・体系的な専門知識に加えて、幅広い教養が必要なことはいうまでもない。基礎共通科目は、そうした広範な教養を身につけることを主たる目的としたものである。

基礎共通科目においては、科学系統群により幅広く基礎教養を学ぶことができるよう、授業科目を人文科学系、社会科学系、自然科学系の3系統と、学際融合系をあわせた4つの系統に分け、各科学系の授業科目の中からそれぞれ4単位以上、また学際融合系科目の中から2単位以上を修得するよう定めている。

人文科学系、社会科学系、自然科学系の3系統については、科目の内容に応じてさらに4つの「群」に分けており、様々な知識をバランス良く身につけるためには、各「群」から各1科目2単位以上を修得することが望まれる。なお、各系統のA群はリベラルアーツとしているが、これは古代ギリシャに起源をもち、自由七科（文法、修辞、論理、算術、幾何、天文、音楽）を基本とする「人を自由にする学問」にちなむ名称であり、各系統の基本的な領域の科目を配置している。

学部で履修する専門科目以外に、こうした基礎共通科目の履修を通して、社会で生きていくうえで広範な教養や知識を身につけることができる環境は整っている。また、一部の科目では実社会において豊富な経験を積んだ実務家教員が担当するなど、学問の追及と実践的教育のバランスを考慮したカリキュラムとしている。したがって、卒業必要単位の確保に止まるのではなく、各自の専門分野との関連から、あるいはより広い学びへの知的好奇心から、基礎共通科目を積極的に履修してほしい。

各系統の構成は以下に示すが、科目の内容については、シラバスをよく読んで履修すること。

I．人文科学系

本領域は、人間の精神や文化を主な研究対象とする人文科学に属する科目を、A群：リベラルアーツ、B群：人間を学ぶ、C群：文化を学ぶ、D群：歴史を学ぶ の4つの群に分けて配置している。

II．社会科学系

本領域は、人間集団や社会の在り方を主な研究対象とする社会科学に属する科目を、A群：リベラルアーツ、B群：経済を学ぶ、C群：社会を学ぶ、D群：法を学ぶ の4つの群に分けて配置している。

Ⅲ．自然科学系

本領域は、自然界の様々な現象を研究対象とする自然科学に属する科目を、A 群：リベラルアーツ、B 群：自然の歴史を学ぶ、C 群：現代科学を学ぶ、D 群：情報を学ぶ の4つの群に分けて配置している。

Ⅳ．学際融合系

複数の要素を併せ持つため、単純に3つの科学系統のひとつに当てはめることができない、学際的、融合的な科目群である。

Ⅴ．導入共通科目

導入共通科目は、高校までの勉強を大学での「学び」へとスムーズに繋ぐとともに、甲南大学学生としての自覚と誇りを身につけることを目的としたものであって、初年次導入教育として重要な意味をもっている。2018年度以降入学の本学学生は、卒業するための要件として、導入共通科目の中から1科目2単位以上を修得しなければならない。

導入共通科目は学部によって異なるので、注意すること。

文学部・経済学部・法学部・経営学部	理工学部・知能情報学部
「甲南大学と平生鈺三郎」	「甲南大学と平生鈺三郎」
「共通基礎演習」	「共通基礎演習」 の2科目
「IT 基礎」 の3科目	

「甲南大学と平生鈺三郎」

甲南大学創立者である平生鈺三郎や甲南を巣立っていった人物等について、毎回異なる講師が様々な角度からとりあげることで、甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考える科目である。

「共通基礎演習」

甲南大学の建学の精神や教育理念について認識を深め、“甲南大学での学び”の意義を考え、学生生活を“より良き”ものとし、社会人・成人へとつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生（人生のデザイン）に対する認識を醸成していくことを目的とした科目である。学部をこえた少人数のグループを作り、ひとつのテーマを共同で研究する方法をとるため、抽選登録科目となっている。なお、導入教育という趣旨から、1年次のみを対象とし、2年次以上の履修は認めない。

「IT 基礎」(文系学部対象)

学部学生が専門科目を履修する際や社会人になってから必要となる、情報活用や情報発信に関する基礎的能力の向上を目標としたものである。人数制限のあるパソコン教室を利用するため、抽選登録科目となっている。

基礎共通科目 授業科目表

〔2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用〕

人文科学系			社会科学系			自然科学系		
授 業 科 目		単位	授 業 科 目		単位	授 業 科 目		単位
A 群	【リベラルアーツ】		【リベラルアーツ】			【リベラルアーツ】		
	哲 学	2	社 会 学	2		数 学	2	
	倫 理 学	2	法 学	2		物 理 学	2	
	心 理 学	2	経 済 学	2		化 学	2	
	歴 史 学	2	経 営 学	2		生 物 学	2	
	文 学	2	政 治 学	2		地 学	2	
	哲 学 プ ラ ク テ ィ ス	2	地 理 学	2		生 命 化 学	2	
	女 性 学	2	国 際 関 係 論	2				
	現 代 の 芸 術 学	2						
	宗 教 学	2						
B 群	【人間を学ぶ】		【経済を学ぶ】			【自然の歴史を学ぶ】		
	生 態 人 類 学	2	産 業 と 経 済	2		地 球 の 歴 史	2	
	環 境 と 文 学	2	企 業 と 情 報	2		生 物 の 歴 史	2	
	芸 術 と 社 会	2	歴 史 と 経 済	2		自 然 と 人 間	2	
	生 命 と 倫 理	2	現 代 社 会 と 企 業	2		自 然 科 学 史	2	
	人 権（同和）の 問 題	2	世 界 と 経 済	2		技 術 の 歴 史	2	
	感 情・人 格 心 理 学	2	暮 ら し と 経 済	2		環 境 と 地 理	2	
	ス ポー ツ と 身 体 知	2	福 祉 と 経 済	2				
			社 会 と フ ァ イ ナ ン ス	2				
			ス ポー ツ と 経 済	2				
C 群	【文化を学ぶ】		【社会を学ぶ】			【現代科学を学ぶ】		
	こ と ば と 社 会	2	現 代 社 会 論	2		現 代 生 活 と 物 理 学	2	
	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 論	2	現 代 都 市 論	2		現 代 生 活 と 生 物 学	2	
	イ メー ジ と 文 化	2	公 共 哲 学	2		現 代 生 活 と 数 理 科 学	2	
	日 本 語 の 諸 相	2	環 境 人 間 学	2		現 代 生 活 と 最 先 端 科 学	2	
	比 較 文 化	2	社 会 福 祉 論	2		核 と 環 境	2	
	芸 術 学 基 礎 論	2	家 族 関 係 論	2		環 境 の 化 学	2	
	現 代 思 想	2	歴 史 と 社 会	2		大 気 と 海 洋	2	
	近 現 代 の 文 学	2	ボ ラ ン テ ィ ア 論	2		国 際 化 と 情 報 ネットワーク	2	
	日 本 研 究	2	グ ロー バ リ ゼー シ ョ ン と 文 化	2		国 際 社 会 に お け る 最 先 端 科 学	2	
	越 境 す る 文 化 と 文 学	2	地 域 連 携 入 門	2		現 代 生 活 と 生 命 化 学	2	
			地 域 と メ デ ィ ア	2		健 康 と 生 命 科 学	2	
D 群	【歴史を学ぶ】		【法を学ぶ】			【情報を学ぶ】		
	社 会 思 想 史	2	日 本 国 憲 法	2		知 能 情 報	2	
	歴 史 と 文 化	2	社 会 生 活 と 法	2		生 体 情 報	2	
	文 学 と 歴 史	2	現 代 政 治 論	2		感 性 情 報	2	
	地 域 と 文 化	2	法 と 情 報	2		生 命 情 報	2	
	芸 術 史	2	環 境 法 学	2		認 知 科 学	2	
	歴 史 と メ デ ィ ア	2						
	国 際 化 の 歴 史	2						
	生 活 の 歴 史	2						

学際融合系	
授業科目	単位
情報社会のセキュリティ	2
食 品 科 学	2
身 体 の 健 康 科 学	2
ト レ ー ニ ン グ 論	2
スポーツにおける健康管理	2
保 健 衛 生	2
基礎スポーツ健康科学	2
癒 しの 諸 相	2
自 己 の 探 求	2
ス ポ ー ツ 文 化 論	2
心 の 健 康 科 学	2
生 涯 ス ポ ー ツ 論	2
環 境 教 育 の 実 践	2
ケ ア の 倫 理	2
人体の構造と機能及び疾病	2
フ ロ ン ト ラ ン ナ ー 講 座	2
ラ イ フ プ ラ ン 教 育	2
社会を読み解く(クリティカルシンキング)	2
文 章 表 現 論	2

導入共通科目	
【文学部・経済学部・法学部・経営学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生鈺三郎	2
共通基礎演習	2
I T 基礎	2
【理工学部・知能情報学部】	
授業科目	単位
甲南大学と平生鈺三郎	2
共通基礎演習	2

【履修方法】

- 文学部、経済学部、法学部および経営学部の学生は、次に定めるとおり 18 単位を修得しなければならない。
 - 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上
 - 学際融合系の授業科目の中から、2 単位以上
 - 導入共通科目「甲南大学と平生鈺三郎」「共通基礎演習」「I T 基礎」の中から、2 単位以上
- 理工学部および知能情報学部の学生は、次に定めるとおり 16 単位を修得しなければならない。
 - 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ 4 単位以上
 - 学際融合系の授業科目の中から、2 単位以上
 - 導入共通科目「甲南大学と平生鈺三郎」「共通基礎演習」の中から、2 単位以上

【『基礎共通科目』履修上の注意事項】

- 履修に際しては、ひとつの群に偏らず、A、B、C、D の各群からバランスよく履修することが望ましい。
- 下表の科目については、履修条件に従って履修すること。

授業科目	履修条件
「自己の探求」(学際融合系)	「心の健康科学」(学際融合系)の単位を修得していること。

国際言語文化科目の概要

「国際言語文化科目」は、21 世紀にふさわしい国際舞台で活躍できる人材育成のために設置された科目である。外国語教育を通して国際理解・異文化理解を深め、「国際人」としての教養を高め、自己表現能力を養い、世界の人々と共生できる資質を育成することがこの科目の目的である。

地球規模での協力・協調が求められる国際化時代がすでに到来している。世界の人々と共存し、多文化社会で共生していくためには、母語とは異なった言語を学び、自国の文化とは異なった文化を理解して、その言語で日本文化や自分の考え方を表現できる能力を身につけることが、さまざまな分野で求められている。今後、さらに加速化されるであろう国際化、地球化の時代においては、複数の外国語の運用能力を持ち、異文化間調整能力を身につけることの重要性がさらに大きくなっていくと思われる。「国際言語文化科目」は英語および第 2 外国語の運用能力を養成し、また、英語および第 2 外国語とその言語圏の文化、歴史、生活習慣、考え方、日本との関わりなどを学び、広い世界観を養うことを目指している。一部の科目では、実社会において豊富な経験を積んだ実務家をゲストスピーカーとして招聘し、実践的教育を考慮したカリキュラムとなっている。また、さらにもう一つの外国語を学び、その言語圏で適切にコミュニケーションを図るための方法を学んだり、外国語を学ぶのに有意義な知識（言語の歴史、言語学習に関する理論など）に関する講義も開講する。

A 国際文化コース

1 年次で履修した第 2 外国語の学習を発展させると同時に、言葉の背景にある歴史や文化を学び、ものの考え方や行動様式も理解し、併せてグローバルな問題に目を向け、広い世界観を育む国際理解の態度を養う。

B 国際コミュニケーションコース

第 2 外国語の基礎的な言語運用能力を向上させるとともに、英語で自分の考えを発表する自己表現能力を開発する。さらに、第 2 外国語・英語・日本語という 3 つの言語が織りなすトライアングルの構造の中で複眼的な視野をもって異文化を理解すると同時に、世界の人々と積極的にコミュニケーションを図る能力を伸ばすため、さらに、もう一つの外国語を学び、その言語圏で適切にコミュニケーションを図るための方法を学んだり、外国語を学ぶのに有意義な知識（言語の歴史、言語学習に関する理論など）も得ることができる。

C-1 ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語インテンシブコース

German/French/Chinese/Korean Studies や中級科目を主として履修することで、集中的に第2外国語を学ぶ。実践的な第2外国語の能力を伸ばし、当該言語に関する各種の資格取得なども射程に入れる。それとともに、当該言語圏に関する知識や事情も併せて身につけるという総合的な学習を目指す。また、第2外国語圏への長期、短期の留学を目指す者のためのコースでもある。

C-2 英語インテンシブコース

中級英語科目、English Regions I・IIおよび国際理解 English をまとめて履修することで、集中的に語学力を向上させる。実践的な言語運用能力を伸ばすことはもちろんであるが、語学習得に必須の教養・知識も併せて身につけるという総合的な学習を通して、語学に関する各種の資格取得なども射程に入れる。また、3年次以降で英語の上級科目の履修を希望する者や海外への長期、短期の留学を目指す者にも適している。

D 理系国際言語文化コース

科学技術に関する英語文献や研究書の講読を行う上で必要となる言語運用能力の基礎を築くと共に、英語で研究発表できる自己表現能力を開発する。実践的な言語運用能力を伸ばすことはもちろんであるが、英語圏、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語圏の国際的な科学技術に関する情報・知識も併せて身につける。各国・地域の重要な産業や科学事情等についても理解を深める。

E 外国人留学生国際文化コース

文系学部の外国人留学生（正規留学生）を対象に、効率的かつ効果的に日本語や国際文化科目の内容を集約的に学ぶ。

[illegible]

授 業 科 目													単位	備 考						
C—1 ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語インテンシブコース																				
外国語科目	中	級	ド	イ	ツ	語	I	4	基礎外国語科目の単位を修得した科目で、左記の科目の中から8単位以上選択必修											
	中	級	ド	イ	ツ	語	II	4												
	中	級	ド	イ	ツ	語	III	4												
	中	級	ド	イ	ツ	語	IV	4												
	中	級	フ	ラ	ン	語	I	4												
	中	級	フ	ラ	ン	語	II	4												
	中	級	フ	ラ	ン	語	III	4												
	中	級	フ	ラ	ン	語	IV	4												
	中	級	中	国	語	語	I	4												
	中	級	中	国	語	語	II	4												
	中	級	中	国	語	語	III	4												
	中	級	中	韓	語	語	I	4												
	中	級	中	韓	語	語	II	4												
	中	級	中	韓	語	語	III	4												
	中	級	中	韓	語	語	IV	4												
	留学支援科目	G	e	r	m	a	n	S							t	u	d	i	e	s
G		e	r	m	a	n	S	t	u	d	i	e	s	II	2					
F		r	e	n	c	h	S	t	u	d	i	e	s	I	2					
F		r	e	n	c	h	S	t	u	d	i	e	s	II	2					
C		h	i	n	e	s	e	S	t	u	d	i	e	s	I	2				
C		h	i	n	e	s	e	S	t	u	d	i	e	s	II	2				
K		o	r	e	a	n	S	t	u	d	i	e	s	I	2					
国際文化科目	K	o	r	e	a	n	S	t	u	d	i	e	s	II	2	2単位以上選択必修				
	国	際	理	解	A	2														
	国	際	理	解	B	2														
	国	際	理	解	C	2														
導入共通科目	甲	南	大	学	と	平	生	釧	三	郎	2	2単位以上選択必修								
	共	通	基	礎	基	演	習	2												
	I	T	基	礎	基	演	習	2												
C—2 英語インテンシブコース																				
外国語科目	中	級	英	語	S	p	e	a	k	i	n	g	4	18単位修得しなければならない。						
	中	級	英	語	P	r	e	s	e	n	t	a	t			i	o	n	4	
	中	級	英	語	W	r	i	t	i	n	g	4								
	中	級	英	語	P	r	o	n	u	n	c	i	a			t	i	o	n	2
	中	級	英	語	T	O	E	F	L	4										
	中	級	英	語	G	l	o	b	a	l	T	o	p			i	c	s	I	2
	中	級	英	語	G	l	o	b	a	l	T	o	p			i	c	s	II	2
	中	級	英	語	L	i	f	e	T	o	p	i	c			s	I	2		
	中	級	英	語	L	i	f	e	T	o	p	i	c			s	II	2		
留学支援科目	E	n	g	l	i	s	h	R	e	g	i	o	n	s	I	2	2単位以上選択必修			
	E	n	g	l	i	s	h	R	e	g	i	o	n	s	II	2				
国際文化科目	国	際	理	解	E	n	g	l	i	s	h	2	2単位以上選択必修							
導入共通科目	甲	南	大	学	と	平	生	釧	三	郎	2									
	共	通	基	礎	基	演	習	2												
	I	T	基	礎	基	演	習	2												

授 業 科 目		単位	備 考		
D 理系国際言語文化コース					
国際言語科目	English for Science	2	4 単位以上選択必修	16 単位修得しなければならない。	
	Science Presentation	2			
	Science Writing	2			
	Science News I	2			
	Science News II	2			
	世界のサイエンス事情 I	2			
	世界のサイエンス事情 II	2			
国際文化科目	国際理解 A	2	ただし、言語と文化Ⅰ・Ⅱは第 2 外国語に対応する科目に限る。		
	国際理解 B	2			
	国際理解 C	2			
	国際理解 D	2			
	国際理解 English	2			
	国際理解Ⅰ ドイツ	2			
	国際理解Ⅱ ドイツ	2			
	国際理解Ⅰ フランス	2			
	国際理解Ⅱ フランス	2			
	国際理解Ⅰ 中国	2			
	国際理解Ⅱ 中国	2			
	国際理解Ⅰ 韓国	2			
	国際理解Ⅱ 韓国	2			
導入共通科目	甲南大学と平生 三郎	2	2 単位以上選択必修		
	共通基礎演習	2			
E 外国人留学生国際文化コース					
外国語科目	大学日本語中級Ⅰ	4	4 単位以上選択必修	18 単位修得しなければならない。	
	大学日本語中級Ⅱ	4			
	大学日本語上級Ⅰ	4			
	大学日本語上級Ⅱ	4			
国際文化科目	日本の文化事情Ⅰ	2	2 単位以上選択必修		
	日本の文化事情Ⅱ	2			
	日本理解Ⅰ	2			
	日本理解Ⅱ	2			
	国際理解 A	2	2 単位以上選択必修		
	国際理解 B	2			
	国際理解 C	2			
	国際理解 D	2			
国際理解 English	2				
導入共通科目	甲南大学と平生 三郎	2	2 単位以上選択必修		
	共通基礎演習	2			
	IT 基礎	2			
履修方法					
各コースの履修条件にしたがって、A、B、C－1、C－2、E の各コースは 18 単位、D コースは 16 単位を修得しなければならない。なお、対応する学部・コースの扱いは以下のとおりとする。					
(1) 文学部、経済学部、法学部及び経営学部の学生は、A、B、C－1 または C－2 から 1 コースのみ選択することができる。ただし、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生は、E コースのみ選択することができる。					
(2) 理工学部及び知能情報学部の学生は、D コースのみ選択することができる。					
各コースにおける導入共通科目は、2 単位以上修得しなければならない。					
また、国際言語文化科目各コースの所定単位を超えて修得した単位を、卒業必要単位に充てることはできない。					

〔『国際言語文化科目』履修上の注意事項〕

文学部・経済学部・法学部・経営学部

1. 履修条件として示されている「基礎外国語科目の単位を修得した科目」とは「1年次に選択し単位を修得した第2外国語科目」のことである。
2. 中級英語を履修するには College English 3科目4単位を、中級ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語（第2外国語）を履修するには基礎ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語（第2外国語）2科目4単位を修得していること。
3. 各自が登録しているコースに含まれる科目のうち、国際言語文化科目の所定の単位を超えて修得した単位は、卒業必要単位に充てることができない。

理工学部・知能情報学部

各自が登録しているコースに含まれる科目のうち、国際言語文化科目の所定の単位を超えて修得した単位は、卒業必要単位に充てることができない。

外国人留学生（正規留学生）

大学日本語中級を履修するには大学日本語入門2科目4単位を、大学日本語上級を履修するには大学日本語中級4単位を修得していること。

外国語科目

〔2018 年度（平成 30 年度）以降の入学生に適用〕

名称		1 年 次		2 年次以上		3・4 年 次	
		授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
英 語	Skill-based	College English Reading and Writing	2	中級英語 Speaking	4		
		College English Listening	1	中級英語 Presentation	4		
		College English Speaking	1	中級英語 Listening	4		
				中級英語 Reading	4		
				中級英語 Writing	4		
				中級英語 Pronunciation	2		
	Test Preparation			中級英語 T O E I C	4	上級英語 T O E I C	4
				中級英語 T O E F L	4		
	Content-based			中級英語 Global Topics I	2	上級英語 Global Topics I	2
				中級英語 Global Topics II	2	上級英語 Global Topics II	2
				中級英語 Life Topics I	2	上級英語 Life Topics I	2
				中級英語 Life Topics II	2	上級英語 Life Topics II	2
				中級英語 Career English I	2	上級英語 Career English I	2
				中級英語 Career English II	2	上級英語 Career English II	2
第 2 外 国 語	ド イ ツ 語	基礎 ドイツ 語 I	2	中 級 ドイツ 語 I	4	上 級 ドイツ 語 I	4
		基礎 ドイツ 語 II	2	中 級 ドイツ 語 II	4	上 級 ドイツ 語 II	4
				中 級 ドイツ 語 III	4		
				中 級 ドイツ 語 IV	4		
	フ ラ ンス 語	基礎 フランス 語 I	2	中級 フランス 語 I	4	上級 フランス 語 I	4
		基礎 フランス 語 II	2	中級 フランス 語 II	4	上級 フランス 語 II	4
				中級 フランス 語 III	4		
				中級 フランス 語 IV	4		
	中 国 語	基礎 中国 語 I	2	中 級 中国 語 I	4	上 級 中国 語 I	4
		基礎 中国 語 II	2	中 級 中国 語 II	4	上 級 中国 語 II	4
				中 級 中国 語 III	4		
				中 級 中国 語 IV	4		
	韓 国 語	基礎 韓国 語 I	2	中 級 韓国 語 I	4	上 級 韓国 語 I	4
		基礎 韓国 語 II	2	中 級 韓国 語 II	4	上 級 韓国 語 II	4
				中 級 韓国 語 III	4		
				中 級 韓国 語 IV	4		
	日 本 語	大学日本語入門 I	2	大学日本語中級 I	4	大学日本語上級 I	4
		大学日本語入門 II	2	大学日本語中級 II	4	大学日本語上級 II	4

名称	学 年		2 年 次			
	1 年 次					
	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位
海外語学講座・ 留学支援科目	海 外 語 学 講 座 I	4	English Regions III	2	Chinese Studies II	2
	海 外 語 学 講 座 II	4	English Regions IV	2	Chinese Studies III	2
	海 外 語 学 講 座 III	2	German Studies II	2	Chinese Studies IV	2
	English Regions I	2	German Studies III	2	Korean Studies II	2
	English Regions II	2	German Studies IV	2	Korean Studies III	2
	German Studies I	2	French Studies II	2	Korean Studies IV	2
	French Studies I	2	French Studies III	2		
	Chinese Studies I	2	French Studies IV	2		
	Korean Studies I	2				

1. 外国語科目の卒業に必要な単位数は、College English 4 単位および基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語のうち、いずれか 1 外国語 4 単位。あわせて 8 単位である。
2. 第 2 外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語および韓国語の中から、各自が 1 年次の 4 月に 1 外国語を選択して、第 2 外国語として履修しなければならない。
3. 2 年次以上において、1 年次に選択した外国語以外の外国語科目（以下「第 3 外国語」という）の履修を認める。ただし、「第 3 外国語」として修得した基礎外国語科目の単位を、外国語科目の卒業必要単位数に充てることはできない。

なお、「第 3 外国語」として履修する場合に限り、当該外国語の第 3 外国語中級科目履修資格基準に記載された基準を満たす者は、中級外国語科目から履修を認める。

第 3 外国語中級科目履修資格基準：

言 語	検定試験	基準の対象とするレベル・級
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験（独検）	5 級以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠	A1 以上
フランス語	フランス語技能検定試験（仏検）	5 級以上
	ヨーロッパ言語共通参照枠	A1 以上
中国語	中国語検定試験（中検）	4 級
	漢語水平考試（HSK）	1 級
	中国語コミュニケーション能力検定（TECC）	E 級
	実用中国語技能検定試験	準 4 級
	ビジネス中国語検定	4 級
韓国語	韓国語能力試験	1 級以上
	ハングル能力検定試験	5 級以上

※各検定試験は過去 3 年間以内に受験した者に限る。ただし、ドイツ語・フランス語についてはこの限りでない。

4. 「海外語学講座Ⅰ～Ⅲ」は、夏期・春期休業期間を利用した短期留学で、「海外語学講座Ⅰ」は英語、「海外語学講座Ⅱ・Ⅲ」は第2外国語（または第3外国語）の講座として開講する。なお、海外語学講座は、国際情勢の急変などによって中止することがある。「海外語学講座」の履修を希望する者は、ガイダンスに出席すること。

各講座の履修資格は、次のとおりである。

□海外語学講座Ⅰ：1年次以上の学部生および大学院生

□海外語学講座Ⅱ・Ⅲ：次のいずれかに該当する者

- ・ 該当する言語の基礎科目Ⅰ・Ⅱを履修中、または、すでに修得した者
- ・ 該当する言語の以下のいずれかの条件を満たす者

ドイツ語：「独検5級以上」、「ヨーロッパ言語共通参照枠のA1以上」

フランス語：「仏検5級以上」、「DELF A1以上」、「TCFまたはTEFレベル1以上」

中国語：「中国語検定試験4級以上」、「HSK（漢語水平考試）1級以上」、「中国語コミュニケーション能力検定Gレベル以上」

韓国語：「ハングル能力検定試験5級以上」、「韓国語能力試験1級以上」

5. 中級外国語科目・上級外国語科目・海外語学講座・留学支援科目の修得単位の取扱いは、入学年度や学部・学科によって異なるので、この点留意すること。

6. 中級外国語科目・上級外国語科目の履修を希望する者は、3月下旬から事前登録を行わなければならない。クラスの定員を超えて登録があった場合は、抽選によって履修者を決定する。

なお、履修を希望する者は3月下旬に開かれる「中級・上級外国語ガイダンス」に出席し、履修条件や各科目の内容を確かめることが望ましい。

7. 編入学生が中級外国語科目・上級外国語科目の履修を希望する場合は、『履修ガイドブック』に記載の期日までに国際言語文化センター事務室に申し出ること。

8. 日本語科目（大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ、大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ）は、外国人留学生（正規留学生）のみ履修することができる。卒業に必要な単位数は、College English 4単位および大学日本語入門4単位あわせて8単位である。

I. 英語

College English

1. College Englishは必修科目である。コンピュータによるプレイスメントテストを実施し、習熟度別クラス編成を行う。各自指定されたクラスで履修しなければならない。クラス分けを行うための「College Englishプレイスメントテスト」は、必ず受けなければならない。
2. College Englishの再履修は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。詳細は、『履修ガイドブック』を確認すること。

なお、再履修者だけのクラスを「College English Reading and Writing」、「College English Listening」、「College English Speaking」に設ける。この再履修者クラスの履修を希望する者は、『履修ガイドブック』で手続き方法を確認のうえ、国際言語文化センター事務室に申し込むこと。

中級英語

1. 中級英語は、College Englishを履修し、さらに英語を学びたいという者のための科目で、College English 4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級英語は、それぞれ内容の異なった科目から構成されている。英語の総合的な実力を養うためには、できるだけ多くの科目を履修することが望ましい。
3. 「中級英語 Pronunciation」を除くすべての中級英語は、PS(中級準備)クラス・MS(中級)クラス・TS(中級アドバンス)クラスの3つの学力レベル別編成を行っている。

上級英語

1. 上級英語は、中級英語の単位を修得し、さらに上級の英語を学びたいという者のための科目である。
2. 上級英語はそれぞれ内容の異なった科目から構成されている。英語の総合的な実力を養うためには、多くの科目を履修することが望ましい。
3. 「上級英語TOEIC」はTS(上級アドバンス)クラスとTSクラスより少しレベルの低いPS(上級)クラスを設けている。「上級英語TOEIC」のTSクラスを履修するには、TOEIC 450点以上を取得していることが望ましい。
4. 上級英語の履修条件は次のとおりである。

上級英語を履修するためには、上級英語に対応する中級英語（例えば、「上級英語 TOEIC」を履修するには「中級英語 TOEIC」）の単位を修得していること。ただし、**中級英語を8単位以上修得した者は、上級英語のいずれの科目でも履修できる。**

留学支援科目

1. English Regions I、English Regions II は、総合的な英語能力と異文化意識の向上を目的とした半期科目で、英語が母国語、または第一公用語で話される国や地域に関して深く学ぶ科目である。
2. English Regions III、English Regions IV は、留学先で取得した単位の読み替え用の科目である。

留学のための英語集中コース

1. 英語圏への留学を希望する者は、1年次に「留学のための英語集中コース」を選択することができる。
2. 1年次で、「留学のための英語集中コース」に関心のある者は、「国際交流プログラム・英語集中コース説明会」(4月開催、『学修スタートナビ(新入生用)』参照)に出席すること。
3. このコースでは、1年次の前期に集中的に「College English Reading and Writing」(2単位)、「College English Listening」(1単位)、「College English Speaking」(1単位)を履修し、College English 4単位修得者は1年次後期に「中級英語Writing」(4単位)または「中級英語Presentation」(4単位)を履修することができる。ただし、「College English Reading and Writing」、「College English Listening」、「College English Speaking」のうち、1科目でも未修得または3科目全ての成績評価が『可』の場合は、1年次後期以降の英語集中コース科目を履修することはできない。
4. 2年次においては、前期に、「中級英語Speaking」(4単位)、「中級英語TOEFL」(4単位)、「中級英語Global Topics I・II」(各2単位)の中から自由に選択して履修できるが、集中的に英語の学習を継続するために、週4回(8単位)以上の履修を勧める。ただし、1年次後期に「中級英語Writing」、「中級英語Presentation」を2科目とも未修得の場合は、2年次以降の英語集中コース科目を履修することはできない。
5. 「留学のための英語集中コース」の学生が国際言語文化科目「C-2英語インテンシブコース」の履修を希望する場合、優先的に登録を受け付ける。

Ⅱ. ドイツ語

基礎ドイツ語

1. 基礎ドイツ語は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。
また、「基礎第2外国語履修免除制度」を実施している。詳細は、『学修スタートナビ（新入生用）』を確認すること。
2. 基礎ドイツ語の再履修は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。詳細は、『履修ガイドブック』を確認すること。

中級ドイツ語

1. 中級ドイツ語は、基礎ドイツ語4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級ドイツ語は、それぞれ内容の異なった4科目（Ⅰ～Ⅳ）から構成されている。ドイツ語の総合的な実力を養うためには多くの科目を履修することが望ましい。
3. 半期で集中的に学習するクラスとして、前期に「中級ドイツ語Ⅱ」(4単位)、後期に「中級ドイツ語Ⅰ」(4単位)を開講している。半期留学や「海外語学講座Ⅱ」の履修を予定している者、集中的にドイツ語を学習したい者を対象としているが、それ以外の学生も基礎ドイツ語4単位を修得していれば履修できる。

上級ドイツ語

1. 上級ドイツ語は、中級ドイツ語4単位を修得した者が履修できる。
2. 上級ドイツ語は、中級ドイツ語を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。ドイツ語の総合的な実力をさらに向上させるためには、2科目とも履修することが望ましい。

留学支援科目

1. German StudiesⅠ、German StudiesⅡは、ドイツ語圏への留学に意欲ある学生を対象に、ドイツ語圏の社会や文化についてできる限りドイツ語を用いて学ぶ科目で、言語運用能力の向上と留学の実現を支援することを目的とする。
2. German StudiesⅢ、German StudiesⅣは、留学先で取得した単位の読み替え用の科目である。
3. 以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科目	履 修 条 件
German StudiesⅠ	基礎ドイツ語Ⅰおよび基礎ドイツ語Ⅱを履修中、または修得していること
German StudiesⅡ	基礎ドイツ語Ⅰおよび基礎ドイツ語Ⅱを修得していること

Ⅲ. フランス語

基礎フランス語

1. 基礎フランス語は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。
また、「基礎第2外国語履修免除制度」を実施している。詳細は、『学修スタートナビ（新入生用）』を確認すること。
2. 基礎フランス語の再履修は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。詳細は、『履修ガイドブック』を確認すること。

中級フランス語

1. 中級フランス語は、基礎フランス語4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級フランス語は、それぞれ内容の異なった4科目（Ⅰ～Ⅳ）から構成されている。フランス語の総合的な実力を養うためには、多くの科目を履修することが望ましい。
3. 半期で集中的に学習するクラスとして、前期に「中級フランス語Ⅱ」(4単位)、後期に「中級フランス語Ⅰ」(4単位)を開講している。半期留学や「海外語学講座Ⅱ」の履修を予定している者、集中的にフランス語を学習したい者を対象としているが、それ以外の学生も基礎フランス語4単位を修得していれば履修できる。

上級フランス語

1. 上級フランス語は、中級フランス語4単位を修得した者が履修できる。
2. 上級フランス語は、中級フランス語を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。フランス語の総合的な実力をさらに向上させるためには、2科目とも履修することが望ましい。

留学支援科目

1. French StudiesⅠ、French StudiesⅡは、フランス語圏への留学に意欲ある学生を対象に、フランス語圏の社会や文化についてできる限りフランス語を用いて学ぶ科目で、言語運用能力の向上と留学の実現を支援することを目的とする。
2. French StudiesⅢ、French StudiesⅣは、留学先で取得した単位の読み替え用の科目である。
3. 以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科目	履 修 条 件
French StudiesⅠ	基礎フランス語Ⅰおよび基礎フランス語Ⅱを履修中、または修得していること
French StudiesⅡ	基礎フランス語Ⅰおよび基礎フランス語Ⅱを修得していること

Ⅳ. 中国語

基礎中国語

1. 基礎中国語は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。また、「基礎第2外国語履修免除制度」を実施している。詳細は、『学修スタートナビ（新入生用）』を確認すること。
2. 基礎中国語の再履修は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。詳細は、『履修ガイドブック』を確認すること。

中級中国語

1. 中級中国語は、基礎中国語4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級中国語は、それぞれ内容の異なった4科目（Ⅰ～Ⅳ）から構成されている。中国語の総合的な実力を養うためには多くの科目を履修することが望ましい。
3. 半期で集中的に学習するクラスとして、前期に「中級中国語Ⅱ」（4単位）、後期に「中級中国語Ⅰ」（4単位）を開講している。半期留学や「海外語学講座Ⅱ」の履修を予定している者、集中的に中国語を学習したい者を対象としているが、それ以外の学生も基礎中国語4単位を修得していれば履修できる。

上級中国語

1. 上級中国語は、中級中国語4単位を修得した者が履修できる。
2. 上級中国語は、中級中国語を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。中国語の総合的な実力をさらに向上させるためには、2科目とも履修することが望ましい。

留学支援科目

1. Chinese StudiesⅠ、Chinese StudiesⅡは、中国語圏への留学へ意欲的な学生を対象に、中国語圏の社会や文化についてできる限り中国語を用いて学ぶ科目で、言語運用能力の向上と留学の実現を支援することを目的とする。
2. Chinese StudiesⅢ、Chinese StudiesⅣは、留学先で取得した単位の読み替え用の科目である。
3. 以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科	履 修 条 件
Chinese StudiesⅠ	基礎中国語Ⅰおよび基礎中国語Ⅱを履修中、または修得していること
Chinese StudiesⅡ	基礎中国語Ⅰおよび基礎中国語Ⅱを修得していること

V. 韓 国 語

基 礎 韓 国 語

1. 基礎韓国語は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。
また、「基礎第2外国語履修免除制度」を実施している。詳細は、『学修スタートナビ（新入生用）』を確認すること。
2. 基礎韓国語の再履修は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。
詳細は、『履修ガイドブック』を確認すること。

中 級 韓 国 語

1. 中級韓国語は、基礎韓国語4単位を修得した者が履修できる。
2. 中級韓国語は、それぞれ内容の異なった4科目（Ⅰ～Ⅳ）から構成されている。韓国語の総合的な実力を養うためには多くの科目を履修することが望ましい。
3. 半期で集中的に学習するクラスとして、前期に「中級韓国語Ⅱ」（4単位）、後期に「中級韓国語Ⅰ」（4単位）を開講している。半期留学や「海外語学講座Ⅱ」の履修を予定している者、集中的に韓国語を学習したい者を対象としているが、それ以外の学生も基礎韓国語4単位を修得していれば履修できる。

上 級 韓 国 語

1. 上級韓国語は、中級韓国語4単位を修得した者が履修できる。
2. 上級韓国語は、中級韓国語を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。韓国語の総合的な実力をさらに向上させるためには、2科目とも履修することが望ましい。

留 学 支 援 科 目

1. Korean StudiesⅠ、Korean StudiesⅡは、韓国語圏への留学へ意欲的な学生を対象に、韓国語圏の社会や文化についてできる限り韓国語を用いて学ぶ科目で、言語運用能力の向上と留学の実現を支援することを目的とする。
2. Korean StudiesⅢ、Korean StudiesⅣは、留学先で取得した単位の読み替え用の科目である。
3. 以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授業科目	履 修 条 件
Korean StudiesⅠ	基礎韓国語Ⅰおよび基礎韓国語Ⅱを履修中、または修得していること
Korean StudiesⅡ	基礎韓国語Ⅰおよび基礎韓国語Ⅱを修得していること

Ⅵ. 日 本 語

大 学 日 本 語 入 門

1. 大学日本語入門は、クラスが指定されている。各自指定されたクラスで履修しなければならない。
2. 大学日本語入門の再履修は、クラスが指定されている。原則として指定されたクラスで履修すること。詳細は、『履修ガイドブック』を確認すること。

大 学 日 本 語 中 級

1. 大学日本語中級は、大学日本語入門4単位を修得した者が履修できる。
2. 大学日本語中級は、大学日本語入門を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。

大 学 日 本 語 上 級

1. 大学日本語上級は、大学日本語中級4単位を修得した者が履修できる。
2. 大学日本語上級は、大学日本語中級を履修し、さらにそれを発展させようとする者のためのプログラムで、それぞれ内容の異なった2科目（Ⅰ・Ⅱ）から構成されている。

保健体育科目

保健体育科目は、1年次を対象にした基礎体育学演習と、2年次以上を対象とした生涯スポーツが開設されている。

I 基礎体育学演習（必修科目）

授業科目	単位	配当年次
基礎体育学演習	2	1

科目履修上の諸注意

1. 「基礎体育学演習」は通年の必修科目である。卒業までに2単位を修得しなければならない。
2. 前期は男女毎のクラス、後期は選択した種目毎のクラス（男女合同）により授業が行われる。
3. 前期は、各自指定されたクラスで受講しなければならない。
4. 後期は、種目選択にて決定した種目クラスで授業が行われる。
5. 障がい、病気、怪我などにより、通常クラスでの実技に参加が難しい場合は、状況に応じて個別な対応を行う。個別対応の希望がある場合は、その状況が生じた時点でスポーツ・健康科学教育研究センター事務室（3号館1階）に申し出ること。
6. 再履修者の履修登録は、事前にスポーツ・健康科学教育研究センター事務室に申し出て指示を受けること。
7. この科目を履修するためには、本学指定の定期健康診断を受診していなければならない。
8. この科目は、岡本校地と六甲アイランド総合体育施設との移動時間が含まれるため、登録上1・2限連続して実施されることになっている。しかし、授業を受講するのは1限または2限となる。ただし、指定された日（体力テストなど）については、1・2限連続で授業を行う場合がある。

Ⅱ 生涯スポーツ（選択科目）

授 業 科 目	単位	配当 年次	授 業 科 目	単位	配当 年次
生涯スポーツ・バドミントンⅠ	1	2	生涯スポーツ・バレーボールⅠ	1	2
生涯スポーツ・バドミントンⅡ	1	2	生涯スポーツ・バレーボールⅡ	1	2
生涯スポーツ・硬式テニスⅠ	1	2	生涯スポーツ・フットサルⅠ	1	2
生涯スポーツ・硬式テニスⅡ	1	2	生涯スポーツ・フットサルⅡ	1	2
生涯スポーツ・卓球Ⅰ	1	2	生涯スポーツ・レクリエーションスポーツⅠ	1	2
生涯スポーツ・エアロビクスⅠ	1	2	生涯スポーツ・レクリエーションスポーツⅡ	1	2
生涯スポーツ・ゴルフⅠ	1	2	生涯スポーツ・ジョギングⅠ	1	2
生涯スポーツ・ゴルフⅡ	1	2	生涯スポーツ・トレーニング実習Ⅰ	1	2
生涯スポーツ・健康柔道Ⅰ	1	2	生涯スポーツ・トレーナー実習Ⅰ	1	2
生涯スポーツ・健康柔道Ⅱ	1	2	生涯スポーツ・フィットネス実習Ⅰ	1	2
生涯スポーツ・バスケットボールⅠ	1	2	生涯スポーツ・スキーⅠ	1	2
生涯スポーツ・バスケットボールⅡ	1	2	生涯スポーツ・スキーⅡ	1	2

科目履修上の諸注意

以下の科目については、履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
生涯スポーツ・（各種目）	「基礎体育学演習」の単位を修得済みであること

1. 文学部、経済学部および経営学部の学生は、専門教育科目として2単位まで卒業必要単位数に充てることができる。それ以外の学部の学生は、この科目を卒業必要単位として含めることはできないが、履修することはできるので積極的に履修してほしい。
2. この科目を履修するためには、本学指定の定期健康診断を受診していなければならない。
3. 各生涯スポーツの名称Ⅰ、Ⅱは便宜上のものであり、スポーツの技術レベルを示すものではない。授業では、個々のレベルに応じた指導がされる。
4. 「生涯スポーツ・スキーⅠ、Ⅱ」および「生涯スポーツ・ゴルフⅠ、Ⅱ」はそれぞれ同時に履修することはできない。

◆ 履修モデル「スポーツ・健康プログラム」について

指定された保健体育科目、基礎共通科目およびキャリア創生共通科目を修得することにより、スポーツを生活の一部として定着・活性化させ、地域に健康社会を根付かせるためのサポートができる知識を身につけた「スポーツ・健康プログラム修了生」として認定される。また、指定の科目を修得することで公益財団法人日本スポーツ協会（JSP O）公認のスポーツ指導基礎資格「スポーツリーダー」を取得することができる。

1 履修モデル「スポーツ・健康プログラム」概要

- (1) 「基礎体育学演習」を修得する。
- (2) 「基礎スポーツ健康科学」を修得する。
- (3) 下表の基礎共通科目の指定された科目から6単位以上を修得する。
- (4) 下表のキャリア創生共通科目の指定された科目または生涯スポーツ科目から2単位以上を修得する。
- (5) 「共通応用演習」（原則として指定クラス）を修得する。

履修モデル「スポーツ・健康プログラム」 [2019年度（平成31年度）の入学生に適用]

科目区分		授業科目	単位	必要単位数
保健体育科目		基礎体育学演習（※）	2	2 単位
基礎共通科目	学際融合系	基礎スポーツ健康科学(※)	2	2 単位
	人文科学系（B 群）	スポーツと身体知	2	6 単位以上
	社会科学系（B 群）	スポーツと経済	2	
	自然科学系（C 群）	健康と生命科学	2	
	学際融合系	身体の健康科学	2	
		トレーニング論	2	
		スポーツにおける健康管理	2	
		スポーツ文化論	2	
		生涯スポーツ論	2	
キャリア創生共通科目		応用スポーツ健康科学(※)	2	2 単位以上
保健体育科目		生涯スポーツⅠ	1	
		生涯スポーツⅡ	1	
キャリア創生共通科目		共通応用演習	2	2 単位
（※）JSP O 資格取得に必要な科目				14 単位以上

2 JSPO 公認のスポーツ指導基礎資格「スポーツリーダー」の取得

(1) 「スポーツリーダー」資格の概要（公認スポーツ指導者資格概要より抜粋）

養成目的：地域住民のスポーツの生活化・定着化を促進するためのスポーツ指導者をサポートする人材の育成。

役割：地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。

認定により備えられる知識と能力：

a スポーツに関する基礎的知識、b ボランティアに関する基礎的知識

(2) 資格取得の要件

「基礎体育学演習」、基礎共通科目の「基礎スポーツ健康科学」、キャリア創生共通科目の「応用スポーツ健康科学」の単位を修得し、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）に申請する。ただし、「基礎体育学演習」については、健康リテラシーの授業にすべて出席し、テストを受けていること。

キャリア創生共通科目の概要

キャリア創生共通科目には、社会で必要とされる多様な実践的応用能力、例えば、法律・会計・財務・マネジメントに関する実務知識や、ITリテラシー、英語で学ぶビジネスなど、多種多様な科目が設けられている。

これらの科目を専門教育科目と並行して学ぶことにより、社会で活躍するための有用な能力を手に入れることができる。また、これらの科目をうまく組み合わせて履修することにより、将来の資格取得に役立てることもできるようになっている。

キャリア創生共通科目は、社会で活躍するフィールドを広げる、すなわちキャリアの広がりを創り出していくことを目的とした、大学と社会を繋ぐ科目である。

したがって、教員も実社会において豊富な経験を積んだ実務家が担当するなど、実践的な教育を行う科目も多数含まれる。

I. 生涯を通じた就業力を培う科目群

授 業 科 目
共通応用演習

この科目は、これまでに身につけた知識や経験や能力を応用的・実践的なものへとブラッシュアップし、社会人へとつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生に対する認識を醸成することを目的とする。

キャリアデザイン系

この科目群では、一人ひとりの学生が自分自身を深く見つめ、目的意識をもって学修を継続、深化させ、生涯を通じた就業力を培い、豊かな人生設計を行うことができるようになることを目標としている。

授 業 科 目
ベーシック・キャリアデザイン インターンシップ キャリアゼミ プラクティカル・キャリアデザイン アドバンスト・キャリアデザイン

Ⅱ. 働くための力を磨く科目群

社会に出て働き、賃金を得て、生活をしていくためには、様々な知識や能力が求められる。

例えば、企業が儲かっているのか損をしているのかを会計の情報（決算書）から読み解くことや、経営者・出資者・取引先・従業員といった、企業の活動にかかわる人々の間での争いを予防するための法律知識などは、社会で活動するうえで不可欠な力である。

また、当たり前のようにパソコンやタブレットを使う情報社会において、企画や計画を進めていくうえで必要な統計結果を分かりやすくまとめる方法など、社会で活かせる基礎的能力を学ぶ。

ビ ジ ネ ス 系

21 世紀型高度ビジネス人材を目指して

商品売る側と買う側から、またサービスを求める側と提供する側から、儲けとお金について知る。また、ビジネスの世界で求められる法律・ルールを通して、法的感覚を身につける。

授 業 科 目	つながる力・資格
入門マネジメント 実践マネジメント	ビジネスやマネジメントの意義を理解する力
ビジネスを支える法の世界 入門ビジネス法務 実践ビジネス法務	ビジネス関連の法律問題を理解する力
入門ビジネス会計 実践ビジネス会計	ビジネス会計検定
入門パーソナルファイナンス 応用パーソナルファイナンス	ファイナンシャルプランナー
入門商業簿記Ⅰ 入門商業簿記Ⅱ	日商簿記検定 3 級
中級簿記 工業簿記	日商簿記検定 2 級
上級簿記Ⅰ 上級簿記Ⅱ 上級財務諸表論Ⅰ	日商簿記検定 1 級 → 税理士試験 公認会計士試験
上級財務諸表論Ⅱ	ビジネス会計検定 → 公認会計士試験
上級工業簿記 上級原価計算	日商簿記検定 1 級

情報系 社会で求められる基礎的能力の習得

パソコンやタブレットを活用し、ビジネス界で活躍するための基礎的能力を育成する。

授 業 科 目	つながる資格
情報通信テクノロジーⅠ 情報通信テクノロジーⅡ	ITパスポート
IT経営学 ITシステム開発	基本情報技術者試験
ICTセキュリティ	情報セキュリティマネジメント試験
統計基礎Ⅰ 統計基礎Ⅱ 統計活用情報分析Ⅰ 統計活用情報分析Ⅱ	統計検定

Ⅲ. 活躍する世界を広げる科目群

大学を卒業後、社会人として活躍する舞台は職場だけではない。地域社会の取り組みや被災地支援、あるいは健康な社会をつくる活動への参加など、社会に貢献する機会はたくさんある。また、グローバル化がますます進展し、仕事でもプライベートでも海外で活躍・活動する機会が増えることであろう。このような環境のなかで、様々なシチュエーションで力を発揮することが求められるようになる。

卒業後の活躍の場を広げるためには、机に向かうだけでなく、街に、フィールドに、世界に飛び出し学ぶことが大切である。人生を豊かなものにするためにも、自らの世界を広げる力を身につける必要がある。

国際系 世界に通用するグローバル人材の育成

語学運用力を身につけ、日本と世界を理解し、異文化の中でも活用できる力を身につける。

授 業 科 目	つながる力・資格
グローバル・コミュニケーションⅠ	英語でコミュニケーションする力
グローバル・コミュニケーションⅡ	英語によるビジネスコミュニケーション力 TOEIC
エリアスタディーズⅠ～Ⅹ	異文化理解
世界の中の日本Ⅰ	日本についての理解
世界の中の日本Ⅱ	国際関係と国際問題を考える力
海外ボランティアⅠ	人々の交流や地域への貢献を通じて、 国際理解を深め、行動する力
海外ボランティアⅡ	
海外インターンシップ	語学力、コミュニケーション力、協調性

ボランティア・地域連携系**社会で活躍する場を広げる**

被災地支援や街のイベントなど、地域で活動するための基本的な知識や課題の解決方法を身につける。

授 業 科 目	つながる力
実践ボランティアⅠ 実践ボランティアⅡ 地域ファシリテイト 地域プロジェクトⅠ 地域プロジェクトⅡ	地域の課題を解決するため、関係する人々と協力しながら考え、行動するための力 コーディネートする力

福祉・スポーツ健康科学系**福祉・スポーツを通じた地域・社会貢献**

高齢者福祉や障がい者（児）福祉、社会的養護に必要な心理学の知識を身につけ、地域における福祉活動を支える力を身につけるとともに、スポーツ指導・運営に関する実践力を高め、地域におけるスポーツ活動を支える力を身につける。

授 業 科 目	つながる力・資格
応用スポーツ健康科学	日本スポーツ協会公認スポーツリーダー資格
障害者・障害児心理学	公認心理師資格
福祉心理学	公認心理師資格

キャリア創生共通科目

キャリア創生共通科目 授業科目表

〔2019年度(平成31年度)の入学生に適用〕

授 業 科 目		単位	配当 年次	備 考	授 業 科 目		単位	配当 年次	備 考
キャリアデザイン系	共通応用演習	2	3		国際系	グローバル・コミュニケーションⅠ	4	2	
	ベーシック・キャリアデザイン	2	1	※		グローバル・コミュニケーションⅡ	4	2	
	インターンシップ	2	1			エリアスタディーズⅠ	2	1	
	キャリアゼミ	2	2			エリアスタディーズⅡ	2	1	
	プラクティカル・キャリアデザイン	2	3			エリアスタディーズⅢ	2	1	
アドバンスト・キャリアデザイン	2	4	エリアスタディーズⅣ			2	1		
ビジネス系	入門マネジメント	2	2			エリアスタディーズⅤ	2	1	
	実践マネジメント	2	2			エリアスタディーズⅥ	2	1	
	ビジネスを支える法の世界	2	3			エリアスタディーズⅦ	2	1	
	入門ビジネス法務	2	2			エリアスタディーズⅧ	2	1	
	実践ビジネス法務	2	2			エリアスタディーズⅨ	2	1	
	入門パーソナルファイナンス	2	2			エリアスタディーズⅩ	2	1	
	応用パーソナルファイナンス	2	2			世界の中の日本Ⅰ	2	2	
	入門ビジネス会計	2	2			世界の中の日本Ⅱ	2	2	
	実践ビジネス会計	2	2			海外ボランティアⅠ	4	1	
	入門商業簿記Ⅰ	2	2			海外ボランティアⅡ	2	1	
	入門商業簿記Ⅱ	2	2			海外インターンシップ	4	2	
	中級簿記	4	2	ボランティア・地域連携系					
	工業簿記	4	2						
	上級簿記Ⅰ	2	2						
	上級簿記Ⅱ	2	2						
	上級財務諸表論Ⅰ	2	2						
	上級財務諸表論Ⅱ	2	2						
情報系	上級工業簿記	2	2		実践ボランティアⅠ	1	1		
	上級原価計算	2	2		実践ボランティアⅡ	1	1		
					地域ファシリテイト	2	2		
					地域プロジェクトⅠ	2	2		
					地域プロジェクトⅡ	2	3		
		ICT応用	2	1	福祉・スポーツ健康科学系	応用スポーツ健康科学	2	2	
		情報通信テクノロジーⅠ	2	1		障害者・障害児心理学	2	3・4	
		情報通信テクノロジーⅡ	2	1		福祉心理学	2	2	
		ICTセキュリティ	2	2					
		IT経営学	2	3					
ITシステム開発		2	3						
統計基礎Ⅰ		2	1						
統計基礎Ⅱ		2	2						
統計活用情報分析Ⅰ		2	2						
統計活用情報分析Ⅱ	2	2							

※配当年次は学部によって異なることがあるので、各学部の専門教育科目表で確認すること。

科目履修上の諸注意

1. キャリア創生共通科目の**修得単位の取扱い**は、**入学年度や学部・学科によって異なる**ので、必ず、所属する自学部・学科のページを参照すること。
2. 下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。
「簿記知識」「日商簿記検定〇級合格者と同等のレベル」を有する者は、『履修ガイドブック』の指示に従って手続きを行うこと。

授 業 科 目	履 修 条 件
入 門 商 業 簿 記 II	「入門商業簿記Ⅰ」の単位を修得済みであること、またはそれと同等の簿記知識を有していること。
中 級 簿 記	「入門商業簿記Ⅱ」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定3級合格者と同等のレベルを有していること。
工 業 簿 記	「入門商業簿記Ⅱ」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定3級合格者と同等のレベルを有していること。
上 級 簿 記 I	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。
上 級 簿 記 II	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。
上 級 財 務 諸 表 論 I	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。
上 級 財 務 諸 表 論 II	「中級簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。
上 級 工 業 簿 記	「工業簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。
上 級 原 価 計 算	「工業簿記」の単位を修得済みであること、または日商簿記検定2級合格者と同等のレベルを有していること。
情 報 通 信 テ ク ノ ロ ジ II	「情報通信テクノロジーⅠ」の単位を修得済みであること。
応 用 ス ポ ー ツ 健 康 科 学	基礎共通科目「基礎スポーツ健康科学」の単位を修得していること。

単位互換科目

本大学と甲南女子大学とは、両大学の研究・教育上の環境を考慮し、両大学が特色ある教育をより充実させることを目的として単位互換協定を締結している。本大学では、それに基づき、甲南女子大学の授業科目を履修することができる。

履修を許可された者は、甲南女子大学の「科目等履修生」として同大学の授業科目を履修することになる。人数は1学期30名以内（先着順）とする。

対象学部は、経済学部、法学部、経営学部であり、甲南女子大学で履修できる授業科目、単位認定方法、出願方法等の詳細は、『履修ガイドブック』に掲載している。

西宮市大学共通単位講座

西宮市に所在する8大学・短期大学は、相互の協力・交流を通じて教育課程の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を目指して、「共通単位講座」を開講している。

本講座には、センター科目が提供され、加盟大学に所属する学生は、各大学の定める範囲において、「単位互換履修生」として開講科目を履修し、単位を取得することができる。

対象となる学部は、文学部、理工学部、経済学部、経営学部であり、「共通単位講座」の概要は『履修ガイドブック』に掲載している。

專 門 教 育 科 目

文	学	部
理	工 学	部
經	济 学	部
法	学	部
經	营 学	部
知	能 情 報 学	部

文学部

文学部

教育基本方針
幅広い教養を身につけながら、専門分野での研究能力を磨き、問題を見出し、深く考え、その成果を言葉で表現する力を身につけます。それを通じて、仕事を含む人生のさまざまな問題を主体的に解決できるようになることをめざします。
卒業認定・学位授与の方針
甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。文学部の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 130 単位以上(基礎共通科目又は国際言語文化科目 18 単位 外国語科目 8 単位 保健体育科目 2 単位 専門教育科目 102 単位以上)を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士(文学)又は学士(社会学)の学位を授与します。 (1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。 (4) 世界に通用する国際教養力を有しています。 (5) 人文科学の諸分野に関して基本的な知識を修得しています。 (6) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。 (7) 的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。

1. 文学部学生は、所属学科について学則によって定められた単位を修得しなければならない。
2. 文学部では、次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重、かつ十分に検討した上で履修科目を選択すること。

文学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔平成 31 年 2 月 13 日 改正〕

【平成 31 年度以降入学生に適用】

文学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける単位数は次のとおりとする。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

- 1 文学部の学生が履修登録できる授業科目の単位数は次のとおりとする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
48 単位以内 (基礎共通科目及び 国際言語文化科目の 単位数は 8 単位以内)	48 単位以内	48 単位以内	48 単位以内

- 2 次に掲げる科目については、前項の単位制限を受けない。

- (1) 卒業研究
- (2) 文学部専門教育科目の共通・関連科目表にある「横断科目」、「キャリア科目」
- (3) 海外語学講座・留学支援科目（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の留学支援科目を除く）に係る科目
- (4) 教員職員免許状を得るために必要な教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目及び文学部専門教育科目を除く。）
- (5) 図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- (6) 学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
- (7) 博物館学芸員養成課程科目の必修科目
- (8) 公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- (9) キャリア創生共通科目・国際系科目にあるエリアスタディーズ、海外ボランティア、海外インターンシップ
- (10) 卒業単位に算入されない他大学等との単位互換協定に基づく科目

（中略・平成 30 年度以前入学生適用表 略）

（改廃）

この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は 平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

注：博物館学芸員養成課程は、人間科学科及び歴史文化学科の学生のみ履修できる。

3. 文学部卒業研究 審査基準について

卒業研究の成果と口頭試問の結果に基づいて、以下の項目について総合的に判断し、主査1名、副査1名による評価を行う。60点以上（100点満点）を得た者を合格とする。

(1) テーマの妥当性

研究課題が、関連する知識と資料調査等に基づいて、指導教員との相談を経て決定され、意義のあるものとなっていること。

(2) 方法の適切性

研究分野における適切な研究方法を用いていること。作品制作等の場合は、分野および課題に適した方法を用いていること。

(3) 内容の豊かさ

分析および考察、素材の収集と整理などが充実しており、内容が十分練られたものであること。

(4) 表現能力

論文、作品等の体裁が整い、内容が適切に伝わるものとなっていること。また、試問において内容を分かりやすく説明でき、質問に正確かつ端的に答えられること。

4. 留学について

本学の留学制度を利用して留学する場合には、必ず学科主任に履修相談をすること。

5. 文学部共通科目について

文学部では、各学科において専門科目が設けられており、専門分野について深く学ぶことができる。また、他学科の専門科目や、5学科が共同で開講している科目、他学部の科目も履修できる。これらの科目を履修することにより、深い専門性に加え、幅広い分野について学ぶことが可能である。

(i)横断科目

文学部では5つの学科がそれぞれに専門に応じた演習を展開している。それに対し、この「横断演習」は5学科を横断して実施されるプロジェクト型の授業科目である。

募集・履修等の詳細については新入生履修指導で説明するので、必ず参加すること。

授業科目	開講部局
横断演習Ⅰ	文学部
横断演習Ⅱ	

(ii)地域連携講座科目

地域連携講座科目は、文学部の各学科の専門科目として開講されているもので、文学部のすべての学生に開かれた科目群である。

これらの科目は、できるだけ多くの学生が、さまざまな地域に関心を抱き、将来的には地域とかわる他の活動とも連携しながら、地域において活躍することを目的としている。また、地域からのゲスト・スピーカーによる授業や、地域住民が聴講できる公開授業の実施も予定している。

授業科目	開講部局
関西のことばと文学	日本語日本文学科
地域社会論	社会科学科
N P O / N G O 論	
メディア文化論	
阪神文化論 I	歴史文化学科
阪神文化論 II	
観光文明学 I	
観光文明学 II	

(iii)国際交流科目

主としてアジアにおけるフィールドリサーチを通して体験的にアジアの社会と経済・文化を理解し、国際理解を促進することを目的として設けられた科目群である。国際交流には他地域を理解することが重要で、そのためには歴史や文化について理解することが必要不可欠である。文学部で開講する科目をあわせて履修することが望ましい。

なお、詳細な手続等に関しては履修要項「国際交流科目」のページ、シラバスを確認すること。

授業科目	開講部局
ジャパNSTAディーズ 1	国際交流センター
ジャパNSTAディーズ 2	
ジャパNSTAディーズ 3	
ジャパNSTAディーズ 4	
ジャパNSTAディーズ 5	
ジャパNSTAディーズ 6	
ジャパNSTAディーズ 7	
ジャパNSTAディーズ 8	
ジャパNSTAディーズ 9	
ジャパNSTAディーズ 10	
ジャパNSTAディーズ 11	
ジャパNSTAディーズ 12	
ジャパNSTAディーズ 13	
ジャパNSTAディーズ 14	

(iv)キャリア科目・キャリア関連科目

キャリア関連科目は、文学部の各学科および共通・関連科目として開講されている専門科目のうち、社会生活と密接に係わる基礎知識を身につけることで、卒業後の進路選択やキャリア形成に役立つと思われる科目群である。キャリア科目とあわせて履修することで、社会に目を向け、卒業後の生き方を考える際のヒントを与えてくれる。他学科の科目であっても、興味のある授業を積極的に履修することが望ましい。

なお、自学科の科目表にない科目の配当年次は、開講部局の科目表を参照すること。

(キャリア関連科目) *所属する学科の専門科目または他学科科目として卒業単位に含まれる。

授業科目	開講部局
ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ	英語英米文学科
現代家族論	社会科学科
発展研究B(ライフスタイルと政策Ⅰ)	
人間環境論Ⅰ・Ⅱ	人間科学科
社会・集団・家族心理学	
教育・学校心理学	
現代史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歴史文化学科
観光文明学Ⅰ・Ⅱ	
初級マクロ経済学	経済学部
労働法Ⅰ	法学部
経営学総論	経営学部
経営労務論	
マーケティング総論	

(キャリア科目) *2単位まで自由選択科目として卒業単位に含まれる。ただし、履修単位の制限を受けない。

授業科目	開講部局
ベーシック・キャリアデザイン	共通教育センター
インターンシップ	
キャリアゼミ	
プラクティカル・キャリアデザイン	
アドバンスト・キャリアデザイン	

(v)言語基礎科目

言語基礎科目は、一般的に「西洋古典語」と呼ばれるラテン語と古典ギリシア語からなる科目群である。これらの言語は、今日のヨーロッパ諸言語の源流として位置づけられている。また、その西洋古典語による古典文化は今もなお「ヨーロッパ的なもの」を形作る基盤であり続けている。その古典語文法を学ぶことによって、今日のヨーロッパ文化の理解を深めることを目的として設けられた科目群である。

基本的に「ラテン語入門」は奇数年、「ギリシア語入門」は偶数年に開講される。

授業科目	開講部局
ギリシア語入門	文学部
ラテン語入門	

(vi)社会科学基礎科目

社会科学基礎科目は、文学部の学生に身につけてもらいたい経済学、法学、政治学、経営学の基礎的な知識や考え方を学ぶ科目群である。社会生活を送る上での知識として役立つのみならず、

各学科の専門科目とともに履修することで、多角的な見方・考え方を身につけることにもつながる。

なお、自学科の科目表にない科目の配当年次は、開講部局の科目表を参照すること。

授業科目	開講部局
初級マクロ経済学	経済学部
初級ミクロ経済学	
経 済 史	
労働経済Ⅰ	
労働経済Ⅱ	
社会経済思想Ⅰ	
社会経済思想Ⅱ	
憲 法 Ⅰ	法学部
憲 法 Ⅱ	
労働法Ⅰ	
経営学総論	経営学部
経営労務論	
マーケティング総論	

(vii)教職・図書館学関連科目

教職・図書館学科目は、教育職員養成課程および図書館学課程に関連する科目群である。教育や学習に関わるテーマについて、将来、教員や司書・司書教諭として働く際に必要となる内容を中心に学ぶ。文学部の卒業生には、教員や司書として活躍している先輩がいる。これらの科目は、教育職員養成課程に登録していない人や、図書館学課程を履修していない人も履修することができる。各課程の詳細については、『履修要項』の「教職に関する専門教育科目」「図書館学に関する専門教育科目」や『教職ガイドブック』などで確認すること。

授業科目	開講部局
教 育 心 理	教 職 に 関 す る 専 門 教 育 科 目
教 育 相 談	
教 育 史	
教育社会行政論	
生涯学習概説	図書館学に関する 専 門 教 育 科 目

日本語日本文学科

教育基本方針
世界の中での日本文化の価値と意義を知り、広い視点から自国の文化を見直すとともに、世界に向けて発信するために、日本語と日本文学について、多面的かつ深く学ぶことを目標とします。また、日本語の高度な理解力と運用能力・表現能力を身につけることで、実社会のさまざまな分野で活躍することをめざします。
卒業認定・学位授与の方針
甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。日本語日本文学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 130 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 18 単位 外国語科目 8 単位 保健体育科目 2 単位 専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（文学）の学位を授与します。 (1) 教養ある社会人として責任感と倫理観を持ち、現代社会の発展に貢献する意志と能力を有するとともに、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。 (4) 世界に発信し得る、日本語と日本文学に関する知識と常識を有しています。 (5) 自らの考えを分かりやすく表現し、他者に伝える力を有しています。 (6) 的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。
教育課程編成・実施の方針
文学部日本語日本文学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の3本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。 また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系的・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。 カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。 教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。 1) 教育内容 (1) 初年次における基礎演習を必修とし、基礎的な読解力と表現力を養成します。 (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。 (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。 (4) 専攻分野に関する知識及び論理的思考力を習得するため、初年次段階から年次進行に合わせて段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。 (5) キャリア教育により、日本語・日本文学に関する知識を社会で生かす力を養うとともに地域連携講座科目を通じて、地域との結びつきを形成する能力を養成します。 (6) 在学中の学修成果を集大成する仕組みとそれを評価する取組みとして、卒業研究を配置します。 2) 教育方法 (1) 1) に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。 (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習、演習などを重視したクラス編成を行います。 (3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。 (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。 3) 学修成果の評価 学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ														
到達目標												対応する卒業認定・学位授与の方針（学科）の番号		
A	日本文学について分析するために必要となる基礎的知識を獲得する。											(4)		
B	日本語について分析するために必要となる基礎的知識を獲得する。											(4)		
C	自らの考えを分かりやすく表現し、他者に伝える力を身につける。											(5)		
D	的確な問いをたてて問題解決を図る能力を培う。											(2) (4)		
E	さまざまな時代の文章を的確に理解するための基礎的な読解力を養う。											(4)		
F	日本語を用いて論理を構成し文章で他者を説得できる能力を身につける。											(5)		
G	日本語と日本文学に対する知識を応用し、社会で生かすことのできる力を養う。											(1) (3)		
H	情報を的確に取捨選択し、有効に活用する能力を養う。											(6)		
I	研究リテラシーを体得し、日本語と日本文学に関する高度な分析能力を身につける。											(5)		
J	日本語を通じて社会とのつながりを保持し、地域の連携を深めることのできる能力を身につける。											(1) (4)		
専門教育科目表（日本語日文学科）〔2018 年度（平成 30 年度）以降の入学生に適用〕														
授業科目名			単位数	配当年次	到達目標									
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
必修科目	日本文学概論Ⅰ		2	1	○				○				○	
	日本文学概論Ⅱ		2	1	○				○				○	
	日本語学概論Ⅰ		2	1		○		○					○	
	日本語学概論Ⅱ		2	1		○		○					○	
	基礎演習Ⅰ		2	1	○	○	○	○				○		
	基礎演習Ⅱ		2	1	○	○	○	○				○		
	演習Ⅰ a		2	2	○	○	○	○					○	
	演習Ⅰ b		2	2	○	○	○	○					○	
	演習Ⅱ a		2	3			○	○		○			○	
	演習Ⅱ b		2	3			○	○		○			○	
	研究演習		2	4			○	○		○			○	
	卒業研究		8	4			○	○		○			○	
以上 30 単位必修														
基礎科目	日本語表現法Ⅰ		2	1			○			○				
	日本語表現法Ⅱ		2	1			○			○				
	日本文学史Ⅰ a		2	1	○			○	○					
	日本文学史Ⅰ b		2	1	○			○	○					
	日本文学史Ⅱ a		2	1	○				○					
	日本文学史Ⅱ b		2	1	○				○					
	漢文学Ⅰ a		2	1					○			○		
	漢文学Ⅰ b		2	1					○			○		
	漢文学Ⅱ a		2	2					○			○		
	漢文学Ⅱ b		2	2					○			○		
	日本語史Ⅰ		2	2		○						○		
	日本語史Ⅱ		2	2		○						○		
	日本語文法論Ⅰ		2	2		○						○		
	日本語文法論Ⅱ		2	2		○						○		
④以上のうち 16 単位以上選択必修														
コース科目	日本文学コース科目	古典文学科目	上代文学講読Ⅰ	2	1	○				○				
			上代文学講読Ⅱ	2	1	○				○				
			中古文学講読Ⅰ	2	1	○				○				
			中古文学講読Ⅱ	2	1	○				○				
			中世文学講読Ⅰ	2	1	○				○				
			中世文学講読Ⅱ	2	1	○				○				
			近世文学講読Ⅰ	2	1	○				○				
			近世文学講読Ⅱ	2	1	○				○				

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標									
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
日本文学コース科目	古典文学科目	上代文学研究	2	3				○	○	○					
		中古文学研究	2	3				○	○	○					
		中世文学研究	2	3				○	○	○					
		近世文学研究	2	3					○	○					
	⑧以上のうち8単位以上選択必修														
	近現代文学科目	近代文学講読Ⅰ	2	1	○				○						
		近代文学講読Ⅱ	2	1	○				○						
		近代文学講読Ⅲ	2	2	○				○						
		近代文学講読Ⅳ	2	2	○				○						
		現代文学講読Ⅰ	2	1	○				○						
		現代文学講読Ⅱ	2	1	○				○						
		現代文学講読Ⅲ	2	2	○				○						
		現代文学講読Ⅳ	2	2	○				○						
		近代文学研究	2	3					○	○					
		現代文学研究	2	3					○	○					
	⑨以上のうち6単位以上選択必修														
	文学共通科目	古典と現代Ⅰ	2	2	○				○						
		古典と現代Ⅱ	2	2					○		○				
		文学と表現Ⅰ	2	2	○		○								
		文学と表現Ⅱ	2	2	○		○								
		文学と風土Ⅰ	2	2					○		○				
		文学と風土Ⅱ	2	2	○				○						
		日本文学特殊講義Ⅰ	2	3					○	○					
		日本文学特殊講義Ⅱ	2	3					○	○					
		比較文学特殊講義	2	2	○				○						
		⑩日本文学コース選択者は以上より32単位以上選択必修													
日本語コース科目	日本語学科科目	日本語音声学Ⅰ	2	2		○						○			
		日本語音声学Ⅱ	2	2		○						○			
		日本語語彙論Ⅰ	2	2		○						○			
		日本語語彙論Ⅱ	2	2		○						○			
		社会言語学Ⅰ	2	2		○					○			○	
		社会言語学Ⅱ	2	2		○					○			○	
		現代日本語研究Ⅰ	2	2		○						○			
		現代日本語研究Ⅱ	2	2		○						○			
		日本語学特殊講義Ⅰ	2	2		○						○			
		日本語学特殊講義Ⅱ	2	2		○						○			
		マスコミ言語研究Ⅰ	2	2			○					○		○	
		マスコミ言語研究Ⅱ	2	2			○					○		○	
		言語学概論Ⅰ	2	1		○						○			
		言語学概論Ⅱ	2	1		○						○			
		対照言語学Ⅰ	2	2		○						○			
		対照言語学Ⅱ	2	2		○						○			
	⑪以上のうち8単位以上選択必修														
	日本語教育科目	日本語教育概論Ⅰ	2	1				○						○	
		日本語教育概論Ⅱ	2	1				○						○	
		日本語教育研究Ⅰ	2	2				○			○				
日本語教育研究Ⅱ		2	2				○			○					
日本語教授法研究Ⅰ		2	3				○			○					
日本語教授法研究Ⅱ		2	3				○			○					
日本語教育特殊講義		2	3				○			○					
日本事情		2	3							○			○		
日本語教授法実習Ⅰ		2	3				○			○					
日本語教授法実習Ⅱ		2	4				○			○					
⑫日本語コース選択者は以上より26単位以上選択必修															
⑬以上のうち40単位以上選択必修															

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
関連科目	日本文化の諸相	2	2							○			○
	日本の芸能	2	2							○			○
	こどもの文学・文化	2	2	○						○			
	ことばの研究	2	2			○							○
	メディア・リテラシー	2	2							○	○		○
	日本語表現研究Ⅰ	2	2			○			○				
	日本語表現研究Ⅱ	2	2			○			○				
	国語科教材研究	2	3				○			○			
	国語教育研究	2	3				○			○			
	関西のことばと文学	2	2	○	○								○
	演習Ⅲ a	2	4			○	○		○			○	
	演習Ⅲ b	2	4			○	○		○			○	
	書道	2	2			○	○			○			
	英米文化探訪Ⅰ	2	2							○	○		
	英米文化探訪Ⅱ	2	2							○	○		
	英米文化研究Ⅰ	2	3							○	○		
	英米文化研究Ⅱ	2	3							○	○		
	民俗学の諸問題	4	2				○						○
	社会心理学	2	2									○	○
	社会意識論	2	2									○	○
	文化人類学	2	2				○						○
	多文化共生論	2	2							○			○
	日本文化史	2	2							○			○
	情報社会論	2	2				○				○		
	コミュニケーション研究	2	3						○				○
	メディア研究	2	3						○				○
	現代文化論	2	2				○				○		
	地理学・民俗学資料研究Ⅰ	2	2				○						○
	地理学・民俗学資料研究Ⅱ	2	2				○						○
	古文書学Ⅰ	2	3					○				○	
	古文書学Ⅱ	2	3					○				○	
	IT 応用	2	1			○			○		○		
	地域社会論	2	2				○						○
	NPO／NGO 論	2	2				○						○
	メディア文化論	2	2						○				○
	阪神文化論Ⅰ	2	1								○		○
	阪神文化論Ⅱ	2	1								○		○
⑤以上のうち6単位以上選択必修													
卒業必要単位数 102 単位以上													

【卒業必要単位数】

1. 文学部日本語日本文学科の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	18 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
必修科目	30 単位
選択必修科目	①より 16 単位以上
②より	8 単位以上
③より	6 単位以上
④より	8 単位以上
⑤より	6 単位以上
⑥より③④⑤も含めて	40 単位以上
自由選択科目	
合 計	130 単位以上

2. 日本文学コース科目・日本語コース科目の選択必修単位数については、次の①～③に従うものとする。

- ①古典文学科目 8 単位以上選択必修、近現代文学科目 6 単位以上選択必修、日本語学科目 8 単位以上選択必修（日本文学コース・日本語コース共通）
- ②日本文学コースを選択したものについては、日本文学コース科目 32 単位以上（古典文学科目 8 単位以上、近現代文学科目 6 単位以上を含む。）、日本語学科目 8 単位以上、併せて 40 単位以上選択必修
- ③日本語コースを選択したものについては、日本語コース科目 26 単位以上（日本語学科目 8 単位以上を含む。）、古典文学科目 8 単位以上選択必修、近現代文学科目 6 単位以上、併せて 40 単位以上選択必修

3. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。

- ①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目（ただしキャリア科目は 2 単位以内）
- ②中級・上級外国語（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の中級外国語を除く）については、16 単位以内
- ③海外語学講座・留学支援科目（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の留学支援科目を除く）については、8 単位以内
- ④生涯スポーツについては、2 単位以内
- ⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目（キャリアデザイン系科目は除く）については、あわせて 16 単位以内

I. 日本語日本文学科の特徴

1. 日本語日本文学科について

日本語日本文学科では、日本語と日本文学について多面的に学ぶことを目標としている。日本語は、これまで培われてきた日本文化の幹であり、日本文学はその稊りである。日本語と日本文学を深く学ぶことは、世界の中での日本文化の価値と意義を知ることであり、広い視点から自国の文化を見直すという作業の第一歩でもある。

また、実社会に通用する日本語の高度な理解力と表現力を身につけることも、日本語日本文学科の学修の目標の一つである。

日本語コースでは、日本語学の基礎を身につけるとともに、日本語の意味や文法、日本語教育の方法、方言のあり方、日本語の表現技法について研究し、私たちがふだん意識せずに使っている日本語を新しい視点から見直す。日本文学コースでは、古典から近現代にわたるさまざまな時代や多様なジャンルの作品や文学的事象を研究し、日本文学を総合的に把握するとともに、イメージの比較研究など文化領域に開かれた学修も行っている。

日本語と日本文学を切り離すことができないように、二つのコースは、たがいに密接に関連している。日本語と日本文学のどちらの学修に重点を置くか、卒業研究のテーマを何にするかということを中心にコースを選択できるように配慮している（「Ⅲ. コース制について」参照）。

カリキュラム表に見られるとおり、専門領域の充実に努めてきたが、関連する領域の学修もできるように学科独自の特色ある科目（「マスコミ言語研究Ⅰ・Ⅱ」など）や、教職を目指す学生を支援する学科独自の科目（「国語教育研究」「国語科教材研究」）も設けている。また日本語教員養成課程が設けられており、外国人に対する日本語教育に必要な知識と技法を学ぶことができる。

2. 日本語日本文学科の教育課程

1年次では「日本語学概論」「日本文学概論」などの科目で日本語や日本文学についての基礎を学ぶ。また、少人数の「基礎演習」では、文献の調べ方やレポート作成に関する基礎的な技法を習得し、表現や理解の能力を鍛える。「基礎演習」は、専門分野に関連しつつ展開されるので、2年次からの学修のよい導きとなるだろう。

2年次から「演習Ⅰa、Ⅰb」（ゼミ）に所属し、それぞれの指導教員のもとで、専門的な研究を行う上での基礎を身につけ、実践的な方法を学ぶ。課題を決めて、研究発表に臨み、具体的に研究の実際にふれることができる。

3年次では、引き続き「演習Ⅱa、Ⅱb」（ゼミ）での学修を中心にして、より進んだ専門性を身につける。卒業研究で取り組むテーマを見つけることも課題の一つである。

最終学年の4年次では卒業研究（卒業論文）を作成し、4年間の学びの集大成とする。「研究演習」では、卒業研究作成の基礎となる事項を指導する。

一貫した少人数の演習によって、研究の基礎から高度な技法にいたるまで、懇切な指導を行っていることが、日本語日本文学科の特色である。また、演習を中核とした専門領域の学修を通じて、

実社会に出ても評価される表現と理解の力を鍛えることも日本語日本文学科の特色の一つである。

Ⅱ. 科目履修上の諸注意

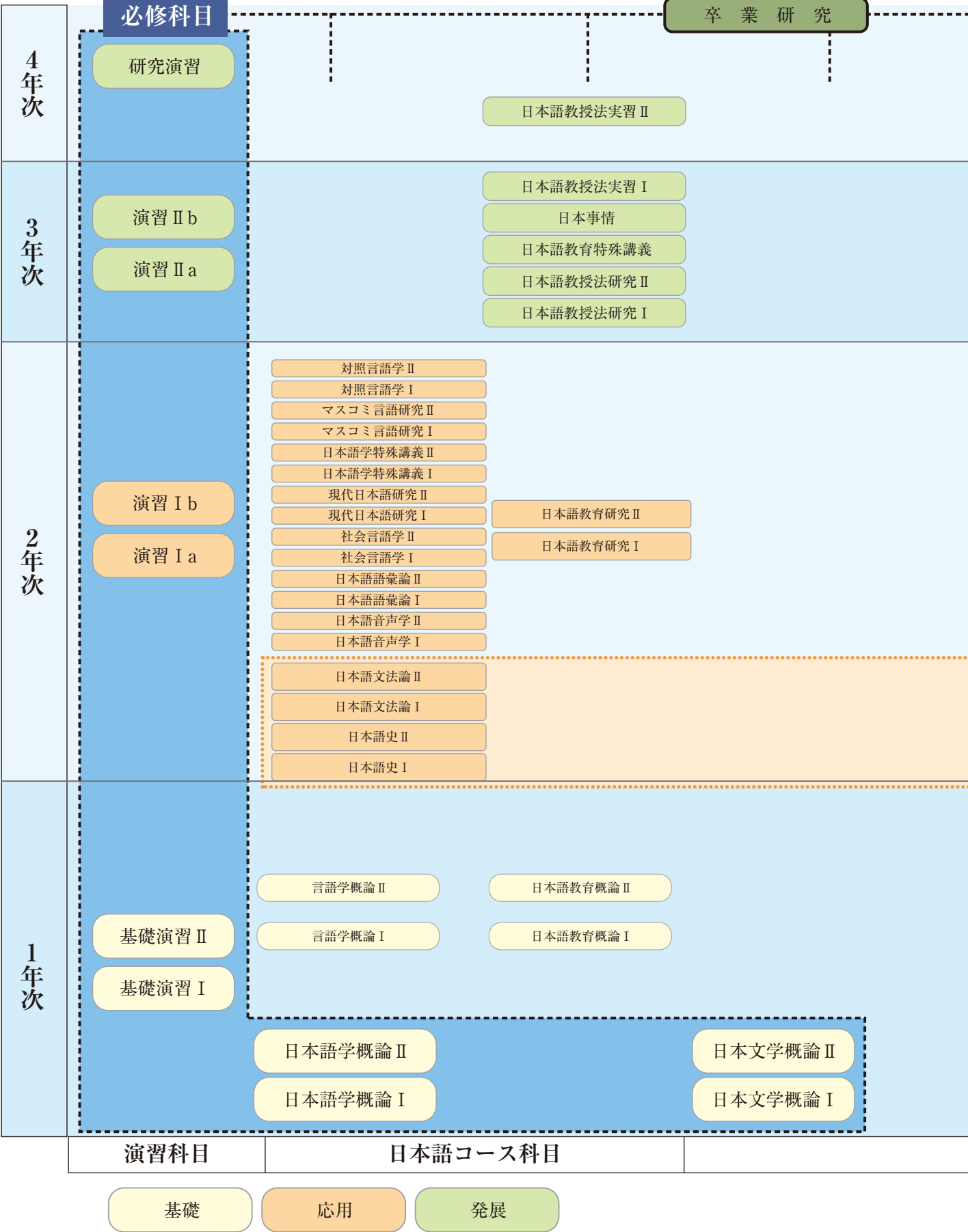
1. 所属する年次をこえる配当年次の授業科目は履修できない。
2. 中級および上級外国語科目を履修する場合は、『履修要項』および『履修ガイドブック』の外国語科目の項に従うこと。
3. 日本語日本文学科の学生が他学科の1年次配当専門教育科目を履修できるのは、2年次以降とする。また、他学科の学生が、日本語日本文学科の1年次配当専門教育科目を履修できるのは、同じく2年次以降とする。ただし、「日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ」に限り、他学科1年次生の履修を認める。
4. 日本語日本文学科の学生は、4年次において卒業研究を行い、その成果を卒業論文として学科主任に提出しなければならない。提出期日は『履修ガイドブック』を参照すること。

Ⅲ. コース制について

日本語日本文学科では、専門教育科目の履修についてコース制を設けている。

1年次の前期履修登録の際に、日本文学コースか、日本語コースのどちらかを選択する。

選択したコースについては、2～4年次の前期履修登録の際に変更することができる。ただし、4年次にコース変更を希望する際には、前期履修登録開始までに指導主任に相談すること。



〔2018年度(平成30年度)以降の入学生に適用〕

業

		演習Ⅲb 演習Ⅲa	
近世文学研究 中世文学研究 中古文学研究 上代文学研究	現代文学研究 近代文学研究 日本文学特殊講義Ⅱ 日本文学特殊講義Ⅰ	国語科教材研究 国語教育研究 英米文化研究Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション研究 メディア研究 古文書学Ⅰ・Ⅱ	
比較文学特殊講義 文学と風土Ⅱ 文学と風土Ⅰ 文学と表現Ⅱ 文学と表現Ⅰ 古典と現代Ⅱ 古典と現代Ⅰ	現代文学講読Ⅳ 現代文学講読Ⅲ 近代文学講読Ⅳ 近代文学講読Ⅲ	日本文化の諸相 こどもの文学・文化 日本語表現研究Ⅰ・Ⅱ 書道 民俗学の諸問題 社会意識論 多文化共生論 情報社会論 地域社会論 メディア文化論 NPO／NGO論 地理学・民俗学資料研究Ⅰ・Ⅱ 日本の芸能 ことばの研究 メディア・リテラシー 関西のことばと文学 英米文化探訪Ⅰ・Ⅱ 社会心理学 文化人類学 日本文化史 現代文化論	
基礎科目 漢文学Ⅱb 漢文学Ⅱa			
近世文学講読Ⅱ 近世文学講読Ⅰ 中世文学講読Ⅱ 中世文学講読Ⅰ 中古文学講読Ⅱ 中古文学講読Ⅰ 上代文学講読Ⅱ 上代文学講読Ⅰ	現代文学講読Ⅱ 現代文学講読Ⅰ 近代文学講読Ⅱ 近代文学講読Ⅰ	IT応用 阪神文化論Ⅰ・Ⅱ	
基礎科目 漢文学Ⅰb 日本文学史Ⅰb 日本文学史Ⅱb 日本語表現法Ⅱ 漢文学Ⅰa 日本文学史Ⅰa 日本文学史Ⅱa 日本語表現法Ⅰ			
日本文学コース科目		関連科目	

英語英米文学科

教育基本方針
実践的語学教育と並行して英語学及び英米の文化・文学の教育をおこないます。英語圏文化の深い理解に裏打ちされた英語運用能力を持つ人材を育成し、グローバル化する社会の要請に応えます。
卒業認定・学位授与の方針
甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。英語英米文学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 130 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 18 単位 外国語科目 8 単位 保健体育科目 2 単位 専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（文学）の学位を授与します。 (1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。 (4) 世界に通用する国際教養力を有しています。 (5) 英米文化を語るのに必要な常識と、文学、歴史学、言語学に関する基礎的な専門知識を有しています。 (6) 「ことば」を使って論理的に思考し、他者に伝える力を有しています。 (7) 的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。
教育課程編成・実施の方針
文学部英語英米文学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の3本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。 カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。 教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。
1) 教育内容 (1) 初年次における基礎演習を必修とし、基礎的な読解力及び表現力を養成します。 (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。 (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。 (4) 英米文学・文化及び英語学についての幅広い専門科目群を選択必修とし、文学・歴史学・言語学に関する知識と理解を涵養します。 (5) 少人数のゼミで質問力や問題解決能力などの社会人基礎力を育成します。 (6) 多様な留学制度を通してグローバルな視点を育成します。 (7) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。 (8) 卒業研究（卒業論文）により、(i) 問題を設定する能力、(ii) 資料・調査に基づき中長期プロジェクトを推進する力、(iii) それらを総合した論考を一定の長さの論文としてまとめ読み手に伝える能力を涵養し、在学中の学びの集大成とします。
2) 教育方法 (1) 1) に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。 (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習、演習などを重視したクラス編成を行います。 (3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。 (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。
3) 学修成果の評価 学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ																
到達目標												対応する卒業認定・学位授与の方針（学科）の番号				
A	グローバル社会に対応できる教養・知識・常識を身につける。											(1) (2)				
B	将来、社会人として働くことを意識し、キャリア形成の基礎を固める。											(1) (2)				
C	論理的な思考を通して、自分の意見を他者に有効に伝える能力を身につける。											(6) (7)				
D	課題を見いだし、問題解決を図る意思と能力を身につける。											(6) (7)				
E	英語圏文化と日本文化を理解し、比較の視座を養う。											(3) (5)				
F	英語の運用能力を身につける。											(4) (6)				
G	言語学の基礎的な専門知識を身につけ、ことばを科学的な視点で分析できる。											(3)				
H	文化的・歴史的背景をふまえ、英語圏の文学作品を理解する。											(3)				
I	英語運用能力の他に、留学の前後に役立つ知識・能力・教養などを身につける。											(4) (7)				
J	特定のトピックについてリサーチし、それを論理的に文章化する。											(6) (7)				
専門教育科目表（英語英米文学科）																
〔2018 年度（平成 30 年度）以降の入学生に適用〕																
授業科目名				単位数	配当年次	到達目標										
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
必修	英米文化・文学入門			4	1	○				○			○	○		
	英語学入門			4	1	○				○		○		○		
	基礎演習Ⅰ a			1	1	○	○	○	○	○	○			○	○	
	基礎演習Ⅰ b			1	1	○	○	○	○	○	○			○	○	
	基礎演習Ⅱ a			1	2	○		○	○	○	○				○	
	基礎演習Ⅱ b			1	2	○		○	○	○	○				○	
	Qualifying Test			2	4	○	○				○			○		
	セミナーⅠ a			2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	セミナーⅠ b			2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	セミナーⅡ a			2	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	セミナーⅡ b			2	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
卒業研究			8	4	○	○	○	○	○		○	○		○		
30 単位必修																
英語英米文化・文学	A 群（文化）	英米文化探訪Ⅰ			2	1	○				○			○	○	○
		英米文化探訪Ⅱ			2	1	○				○			○	○	○
		ブリティッシュ・スタディーズⅠ			2	2	○		○	○	○			○	○	○
		ブリティッシュ・スタディーズⅡ			2	2	○		○	○	○			○	○	○
		アメリカン・スタディーズⅠ			2	2	○		○	○	○			○	○	
		アメリカン・スタディーズⅡ			2	2	○		○	○	○			○	○	
		英米文化研究Ⅰ			2	3	○		○	○	○			○	○	○
		英米文化研究Ⅱ			2	3	○		○	○	○			○	○	○
	B 群（文学）	文学探訪 a			2	1	○				○			○	○	
		文学探訪 b			2	1	○				○			○	○	
		イギリス文学思潮Ⅰ			2	2	○		○					○	○	○
		イギリス文学思潮Ⅱ			2	2	○		○					○	○	○
		アメリカ文学思潮Ⅰ			2	2	○		○					○	○	○
		アメリカ文学思潮Ⅱ			2	2	○		○					○	○	○
英米文学研究Ⅰ			2	3	○		○	○	○			○	○	○		
英米文学研究Ⅱ			2	3	○		○	○	○			○	○	○		
④A 群、B 群から各 8 単位以上選択必修																
英語学	英語の文法			2	2	○				○		○		○		
	英語の音声			2	2	○				○		○		○		
	英語の意味			2	2	○		○		○		○		○	○	
	英語の歴史			2	2	○				○		○		○		
	英語のレキシコン			2	2	○				○		○		○		
	英語の獲得と理解			2	2	○				○		○		○		
	英語学講座Ⅰ			2	2	○				○		○		○		

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標										
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
英語学	英語学講座Ⅱ	2	2	○				○		○		○		
	英語学講座Ⅲ	2	2	○		○		○		○		○	○	
	英語学講座Ⅳ	2	2	○				○		○		○		
	英語学研究Ⅰ	2	3	○		○	○	○		○		○	○	
	英語学研究Ⅱ	2	3	○		○	○	○		○		○	○	
㊦ 12 単位以上選択必修														
リーディング・ライティング・スピーキング	C 群	講読演習Ⅰ a	1	1						○	○	○	○	
		講読演習Ⅰ b	1	1						○	○	○	○	
		講読演習Ⅱ a	1	2						○	○	○	○	
		講読演習Ⅱ b	1	2						○	○	○	○	
		講読演習Ⅲ a	1	3						○	○	○	○	
		講読演習Ⅲ b	1	3						○	○	○	○	
	D 群	英作文Ⅰ a	1	1						○				
		英作文Ⅰ b	1	1						○				
		英作文Ⅱ a	1	2						○				
		英作文Ⅱ b	1	2						○				
		英作文Ⅲ a	1	3						○				
		英作文Ⅲ b	1	3						○				
	E 群	イングリッシュ・フォーラムⅠ a	1	1	○		○		○	○				
		イングリッシュ・フォーラムⅠ b	1	1	○		○		○	○				
イングリッシュ・フォーラムⅡ a		1	2	○		○		○	○					
イングリッシュ・フォーラムⅡ b		1	2	○		○		○	○					
イングリッシュ・フォーラムⅢ a		1	3	○		○		○	○					
イングリッシュ・フォーラムⅢ b		1	3	○		○		○	○					
㊦ C、D、E 群から各 2 単位以上計 12 単位以上選択必修														
英語英米文化文学その他	F 群（英語力強化）	ボキャブラリー・ビルディングⅠ	2	1						○				
		ボキャブラリー・ビルディングⅡ	2	1						○				
		ワークショップⅠ a	2	2		○				○				
		ワークショップⅠ b	2	2		○				○				
		ワークショップⅡ a	2	3		○				○				
		ワークショップⅡ b	2	3		○				○				
		ワークショップⅢ a	2	3		○				○				
		ワークショップⅢ b	2	3		○				○				
		時事英語Ⅰ	2	1	○	○				○			○	
		時事英語Ⅱ	2	1	○	○				○			○	
		CALLⅠ	2	2				○		○				
		CALLⅡ	2	2				○		○				
		ビジネス・イングリッシュⅠ	1	3	○	○				○				
		ビジネス・イングリッシュⅡ	1	3	○	○				○				
		翻訳セミナーⅠ	2	3		○			○	○			○	
		翻訳セミナーⅡ	2	3		○			○	○			○	
	G 群（留学関連）	Japan in EnglishⅠ	2	1	○				○	○			○	
		Japan in EnglishⅡ	2	1	○				○	○			○	
		留学特別講座Ⅰ	4	2	○		○	○		○	○		○	○
		留学特別講座Ⅱ	4	2	○		○	○		○			○	○
		留学特別講座Ⅲ	4	2	○		○	○		○		○	○	○
		English StudiesⅠ	2	2	○	○	○	○		○	○	○		○
		English StudiesⅡ	2	2	○	○	○	○		○	○	○		○
		English StudiesⅢ	2	2	○	○	○	○		○	○	○		○
		English StudiesⅣ	2	2	○	○	○	○		○	○	○		○
		English StudiesⅤ	2	2	○	○	○	○		○	○	○		○
English StudiesⅥ	2	2	○	○	○	○		○	○	○		○		
English StudiesⅦ	2	2	○	○	○	○		○	○	○		○		
English StudiesⅧ	2	2	○	○	○	○		○	○	○		○		
㊦ 14 単位以上選択必修														

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
関連科目	IT 応用	2	1		○								
	日本語教育概論Ⅰ	2	1		○					○			
	日本語教育概論Ⅱ	2	1		○					○			
	日本事情	2	3	○	○							○	
	比較文化論	2	2	○			○	○				○	
	社会人類学	2	2				○					○	
	メディア哲学	2	2							○	○		
	芸術表象論	2	2								○		
	融合フォーラム（死生学）	2	1								○		
	融合フォーラム（ジェンダー）	2	3・4	○	○		○					○	
	関西のことばと文学	2	2							○			
	地域社会論	2	2				○						
	NPO／NGO論	2	2		○		○						
	メディア文化論	2	2		○								
	阪神文化論Ⅰ	2	1		○								
	阪神文化論Ⅱ	2	1		○								
	西洋史研究Ⅰ	2	2	○				○				○	
	西洋史研究Ⅱ	2	2	○				○				○	
	西洋社会史	2	2	○								○	
⑤ 4 単位以上選択必修													
卒業必要単位数 102 単位以上													

【卒業必要単位数】

1. 文学部英語英米文学科の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	18 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
必修科目	30 単位
選択必修科目	
④より	16 単位以上
⑤より	12 単位以上
⑥より	12 単位以上
⑦より	14 単位以上
⑧より	4 単位以上
自由選択科目	
合 計	130 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。

- ①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目（ただしキャリア科目は 2 単位以内）
- ②中級・上級外国語（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の中級外国語を除く）

については、16 単位以内

③海外語学講座・留学支援科目（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の留学支援科目を除く）については、8 単位以内

④生涯スポーツについては、2 単位以内

⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目（キャリアデザイン系科目は除く）については、あわせて 16 単位以内

I. 英語英米文学科の特徴

英語英米文学科では、英語圏の、具体的にはイギリスとアメリカの文化・文学・言語にわたって多面的に学ぶことを目標としている。英語という外国語の学習を通して文化・文学・言語を学ぶことによって、学識を深め、広い視野をもち、健全な判断力と論理的思考を涵養し、創立者平生鈇三郎の言葉にある「世界に通用する人材」の育成を目指している。この目標を達成するために、英語英米文学科の専門教育科目に関するカリキュラムは、イギリス文化・文学、アメリカ文化・文学、英語を言語学的に研究する英語学に分けられている。

1年次においては入門科目（英米文化・文学入門、英語学入門）によって、2年次以降の専門教育科目の基礎を学ぶ。2年次においては、それを発展させた科目群④⑤を設置し、イギリス文化・文学、アメリカ文化・文学、英語学について万遍なく学べるように工夫してある。このような科目を履修することによって、学生はそれぞれの興味に応じて、3年次で「セミナー」を選び専門を決定し、それが4年次の「卒業研究」へと連結することになる。そして、3、4年次の「セミナー」での研究を通じて「卒業研究」のテーマを設定し、4年間の集大成として論文形式にまとめることになる。

また、英語英米文学科においては英語力養成に特段の力を入れている。上段で述べた英語英米文学についての研究は、確固たる英語力あるいはコミュニケーション能力に支えられてこそその初期の目標を達成することが可能であることは言うを俟たないからである。この領域の科目群は、リーディング、ライティング及びスピーキングに関する科目群⑥と英語英米文化文学その他の科目群⑦でまとめられている。前者においては読み書き話す技能を向上させ、後者においては「時事英語」「ビジネス・イングリッシュ」「CALL」「翻訳セミナー」等によって多角的な英語力を涵養することを目指す。英語力養成に関する方向付けは、必修科目「Qualifying Test」によって具現化されている。同科目は、英語力テスト、アクティブ・ラーニング、TOEICスコアに基づき、英語英米文学科を卒業する者としてふさわしい英語力があるかを総合的に判断したうえで、成績評価をする。同科目合格に向けて「ワークショップ」を設けて支援体制を整えている。

甲南大学は、国際交流に積極的に取り組んできたことが全国的に高い評価を得ている。国際交流センターでも多様な制度を設けているが、留学希望者の多くが英語英米文学科の学生であることに鑑み、学科においても「留学特別講座」、「Japan in English」を設置して留学支援体制を充実させている。更に、留学した学生が履修上有利になるように「English Studies」を初めとして単位換算の幅を拡大している。

英語英米文学科においては、英語英米文学に関する専門および英語力養成科目を必修、あるいは選択必修としながら、一方ではある一定の範囲で自由な履修形態を可能にしている。このカリキュラム構成上の柔軟性は甲南の自由闊達な学風を反映していると言える。

Ⅱ. 科目履修上の諸注意

1. 履修条件について

下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
セ ミ ナ ー I a	「基礎演習 I a」および「基礎演習 I b」の単位を修得していること。
セ ミ ナ ー I b	
セ ミ ナ ー II a	
セ ミ ナ ー II b	

2. 所属する年次をこえる配当年次の授業科目は履修できない。

3. 卒業研究

英語英米文学科の4年次学生は、「卒業研究」を履修しなければならない。「卒業研究」は原則として、セミナー担当教員の指導を受けるものとし、卒業研究の成果を提出しなければならない。卒業研究の提出予定者は、卒業研究のテーマを所定の用紙に記入し、指導主任の確認印を必ず添付して提出すること。提出期日は、『履修ガイドブック』を確認すること。論文についての試問を2月に行う。

4. セミナー

- (1) 「セミナー I a、I b」は3年次、「セミナー II a、II b」は4年次で履修し、「セミナー I a」、「セミナー I b」、「セミナー II a」、「セミナー II b」の順に履修するものとする。なお、これらの科目を2科目以上同時に履修することはできない。ただし、4年次生か本学の留学制度で留学した者で「セミナー I a」または「セミナー I b」が未履修の者は、事情によっては複数の科目を履修できる場合もあるので、履修登録前に必ず学科主任に相談すること。
- (2) 2年次生は3年次に履修する「セミナー I a、I b」を12月に予備登録を行う。細部については10月の説明会で発表する。

5. 基礎演習 I・II

- (1) 「基礎演習 I a、I b」は1年次、「基礎演習 II a、II b」は2年次で履修し、「基礎演習 I a」、「基礎演習 I b」、「基礎演習 II a」、「基礎演習 II b」の順に履修するものとする。なお、これらの科目を2科目以上同時に履修することはできない。ただし、4年次生の場合は、事情によっては複数の科目を同時に履修することができる場合もあるので、複数科目の履修を希望するものは履修登録前に必ず学科主任に相談すること。
- (2) 「基礎演習 I a、I b」の履修を2、3、4年次で希望する場合、また、「基礎演習 II a、II b」を3、4年次で希望する場合は、履修登録前に必ず学科主任の承認を得て指定されたクラスで履修すること。
- (3) 「基礎演習 I a、I b」を修得していないものは「セミナー I a、I b、II a、II b」を履修することができないので注意すること。ただし、4年次生の場合は、学科主任の承認が得られれば「基礎演習 I a、I b」とセミナー科目を同時に履修することができる場合もあるので、

同時履修を希望するものは履修登録前に必ず学科主任に相談すること。

6. クラス指定、または人数制限のある科目

- (1) 「ボキャブラリー・ビルディングⅠ、Ⅱ」は、指定されたクラスの履修登録をすること。
- (2) 次の科目の履修登録は、抽選または先着順で行う。抽選の際受付期間は通常の履修登録期間と異なるので注意すること。なお、各クラスの定員は『履修ガイドブック』を参照すること。

「時事英語Ⅰ、Ⅱ」「CALLⅠ、Ⅱ」「留学特別講座Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」

「イングリッシュ・フォーラムⅠa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb」

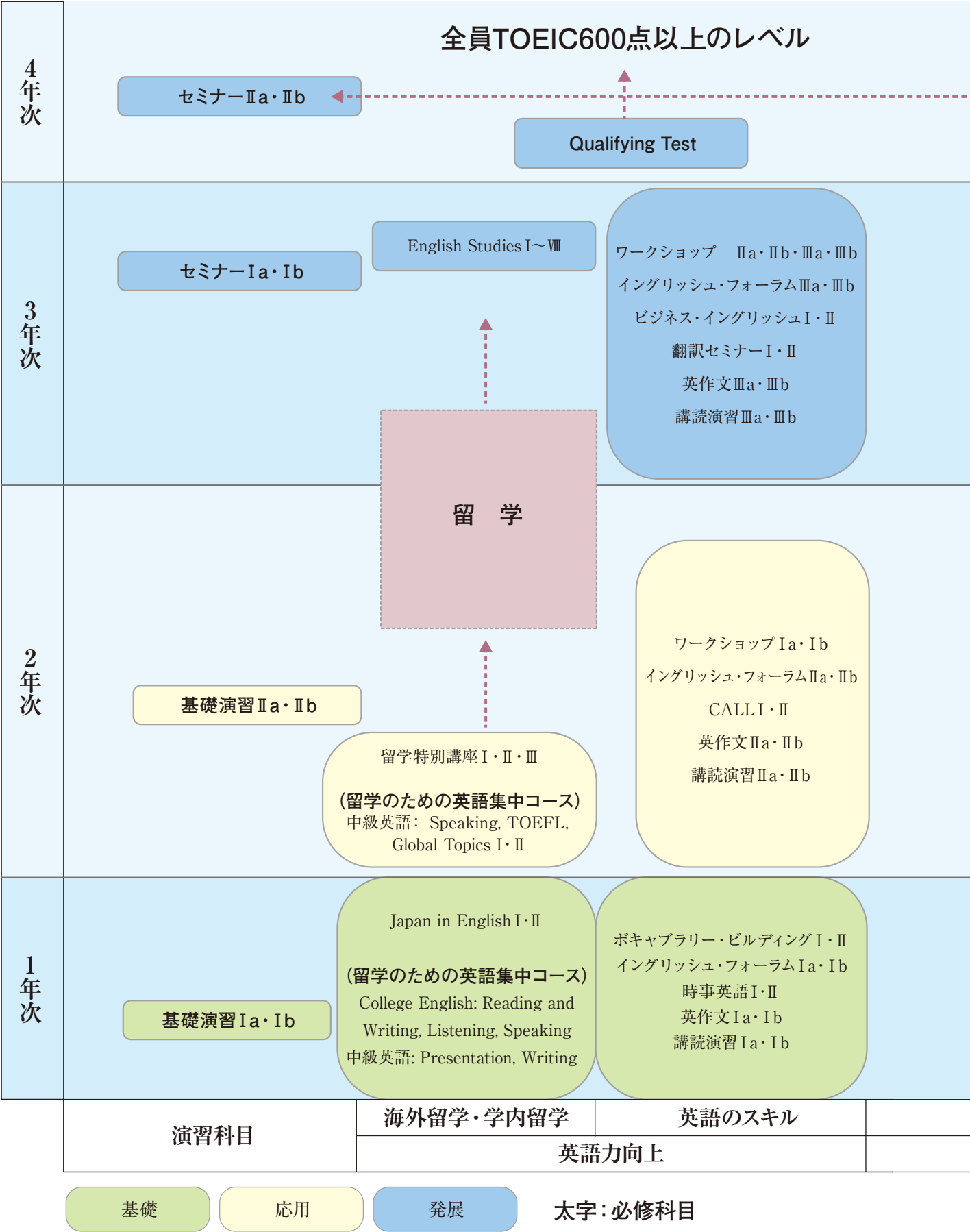
「英作文Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb」

「講読演習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb」

「ワークショップⅠa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb」

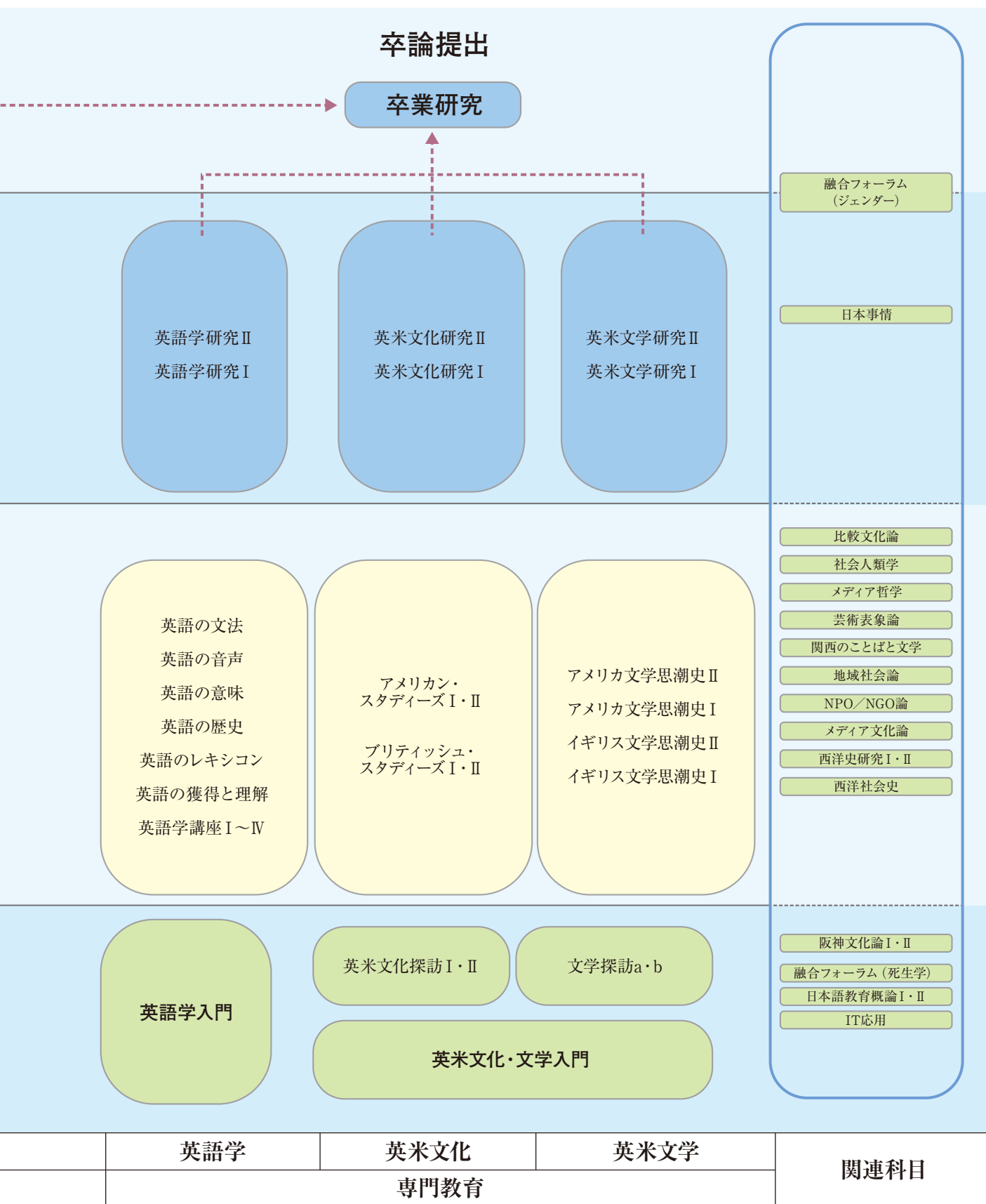
7. Qualifying Test

「Qualifying Test」は、授業タスクのポイントと TOEIC スコアを換算したポイントの合計で単位が認定される。TOEIC で高得点を取る必要があるので、C～F 群の科目に取り組むなかで、学生生活の早い段階から準備することが望ましい。



〔2018年度(平成30年度)以降の入学生に適用〕

業



社会学科

教育基本方針
情報化、国際化の急速な進展によって、未来に対する予測がますます困難になってきた社会環境の中で、自ら世界と人の動きをよく見聞きし、考え、新たな未来を切り開いていく行動力を持った人物を育むことを目標とします。
卒業認定・学位授与の方針
甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。社会学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 130 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 18 単位 外国語科目 8 単位 保健体育科目 2 単位 専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（社会学）の学位を授与します。 (1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。 (4) 国際的教養に裏付けられた世界に通用する行動力を有しています。 (5) 社会学・人類学の諸分野に関する知識と常識を有しています。 (6) 多様な社会文化現象を読み解き、自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。 (7) 的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を有しています。
教育課程編成・実施の方針
文学部社会学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の3本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。 また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。 カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。 教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。 1) 教育内容 (1) 初年次における基礎演習を必修とし、基礎的な読解力および表現力を育成します。 (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。 (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。 (4) 少人数のゼミで質問力や問題解決能力などの社会人基礎力を育成します。 (5) 専攻分野に関する知識及び論理的思考力を習得するため、初年次段階から年次進行に合わせて段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。 (6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。 (7) 地域連携講座科目を通じて、地域の中で自己と他者を総合的に捉える力を養います。 (8) 卒業研究により、在学中に学んだことを集大成します。 2) 教育方法 (1) 講義、演習、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。 (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習・演習などを重視したクラス編成を行います。 (3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。 (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。 3) 学修成果の評価 学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ																
到達目標																対応する卒業認定・学位授与の方針（学科）の番号
A	的確かつ有益な問いを立て、その解決を図る意思と発想をはぐくむ。															(7)
B	既成の情報や旧来の常識を批判し、新しい視点や考え方を打ち出す姿勢をはぐくむ。															(3) (5) (6)
C	多様な価値と文化を理解・共感し、他者に関わる感性と協働する姿勢をはぐくむ。															(4) (5) (6)
D	少人数での対話型教育に基づき、総合的（ジェネリックな）思考力を培う。															(1) (3) (5) (6)
E	野外調査、メディア制作、具体的な課題解決など（アクティブ・ラーニング）を介して、実践的行動力を培う。															(6) (7)
F	論文執筆や研究制作により、学びの成果を集大成する。															(5) (6) (7)
G	専門諸分野における理論を学び、頑健に思索する力を身につける。															(5) (6)
H	専門諸分野における方法を学び、明晰に分析する力を身につける。															(5) (6)
I	現代社会が抱える諸問題を理解し、普遍かつ不偏に行動する力を身につける。															(1) (2) (5) (6) (7)
J	関連領域の学問を修め、幅広い教養を培う。															(3) (5)
K	メディアリテラシーや外国語運用能力を高め、グローバルなコミュニケーション能力を培う。															(4) (6)
L	個人と学問と社会の結びつきを理解し、社会人・職業人・生活人としての倫理ならびに行動力を培う。															(1) (2) (3) (5) (6) (7)
専門教育科目表（社会学科）																
〔2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用〕																
授業科目名		単位数	配当年次	到達目標												
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
必修科目	研究法入門演習	2	1	○			○	○			○			○		
	社会調査基礎演習	2	1	○			○	○			○			○		
	共通演習	2	2	○	○	○	○	○								
	ゼミナール 1	2	2	○	○	○	○	○								
	ゼミナール 2	2	3				○	○		○	○	○				
	ゼミナール 3	2	3				○	○		○	○	○				
	ゼミナール 4	2	4				○		○	○	○	○				
	卒業研究	8	4				○		○	○	○	○				
以上 22 単位必修																
基本科目	社会人間学	2	1		○					○		○	○		○	
	社会学概論	2	1	○	○	○				○		○	○		○	
	文化人類学	2	1	○	○	○				○	○					
	多文化共生論	2	1	○	○	○				○	○		○			
	社会心理学	2	1		○	○				○	○	○				
	社会意識論	2	1		○	○		○		○	○	○				
	社会調査法	2	1	○				○		○	○				○	
	家族社会学	2	1	○	○	○				○		○			○	
	社会人口論	2	1		○	○				○		○			○	
	文化社会学	2	1	○	○	○				○		○				
	コミュニケーション研究	2	1	○	○					○	○	○				
	メディア研究	2	1	○	○					○	○	○				
	NPO／NGO 論	2	1	○	○					○	○	○				
	都市空間論	2	1	○	○					○		○			○	
	阪神文化論Ⅰ	2	1		○	○						○	○		○	
	阪神文化論Ⅱ	2	1		○	○						○	○		○	
④以上のうち 18 単位以上選択必修																
応用領域	計量社会学	2	2	○			○	○		○	○					
	社会統計学	2	2	○			○	○		○	○					
	フィールドワーク研究	2	2	○				○			○	○			○	

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標											
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
応用領域	政策 ライフスタイルと	現代家族論	2	2	○	○	○				○	○	○			○
		ライフコース論	2	2		○	○				○		○			○
		生活福祉論	2	2		○	○				○		○			○
		福祉事業論	2	2		○	○				○		○			○
		社会・集団・家族心理学	2	2		○	○						○	○		○
		教育・学校心理学	2	2		○	○						○	○		○
	文化と共生	比較文化論	2	2		○	○				○			○	○	
		社会運動論	2	2	○	○	○				○		○			
		市民社会論	2	2			○				○		○	○		○
		社会人類学	2	2		○	○				○			○	○	
		融合フォーラム（ジェンダー）	2	3・4		○	○				○		○			○
		現代思想	2	3		○	○				○		○			○
	くらしと地域	考現学研究	2	2	○	○			○				○	○		
		現代文化論	2	2	○	○					○		○	○		
		環境文化論	2	2	○	○					○	○	○			
		地域社会論	2	2		○					○		○	○		○
		観光文明学Ⅰ	2	3		○	○						○	○		○
		観光文明学Ⅱ	2	3		○	○						○	○		○
	組織とネットワーク	ソーシャル・キャピタル論	2	2	○	○					○	○	○			
		社会ネットワーク論	2	2	○	○					○	○	○			
		集団組織論	2	2		○	○				○		○			○
		社会階層論	2	2	○	○					○	○	○			
		労働経済Ⅰ	2	2		○	○						○	○		○
		労働経済Ⅱ	2	3		○	○						○	○		○
	メディアコミュニケーションと表現	メディア文化論	2	2	○	○			○			○				○
		映像文化論	2	2		○	○				○	○	○			
		創作過程論	2	2			○	○	○				○		○	○
		情報社会論	2	2	○	○	○				○		○			
		芸術社会史	2	3		○	○						○	○		○
		サウンドスケープ研究	2	2		○	○						○	○		○
⑧以上のうち 34 単位以上選択必修																
発展研究	社会調査実践研究	4	3	○			○	○	○		○					
	量的データ解析	2	3	○	○			○		○	○					
	発展研究A（社会理論の可能性）	2	3	○	○	○			○	○		○				
	発展研究B（ライフスタイルと政策Ⅰ）	2	3	○	○				○	○		○				○
	発展研究B（ライフスタイルと政策Ⅱ）	2	3	○	○				○	○		○				○
	発展研究C（文化と共生Ⅰ）	2	3		○	○	○			○		○		○		
	発展研究C（文化と共生Ⅱ）	2	3		○	○	○			○		○		○		
	発展研究D（くらしと地域Ⅰ）	2	3		○		○			○	○		○			
	発展研究D（くらしと地域Ⅱ）	2	3		○		○			○	○		○			
	発展研究E（組織とネットワークⅠ）	2	3	○	○	○			○	○		○				
	発展研究E（組織とネットワークⅡ）	2	3	○	○	○			○	○		○				
	発展研究F（メディアコミュニケーションと表現Ⅰ）	2	3				○	○	○		○			○	○	
発展研究F（メディアコミュニケーションと表現Ⅱ）	2	3				○	○	○		○			○	○		
⑨以上のうち 6 単位以上選択必修																
関連科目	日本史概説Ⅰ	2	2	○	○	○						○	○			○
	日本史概説Ⅱ	2	2	○	○	○						○	○			○
	アジア史概説Ⅰ	2	2		○	○						○	○			○
	アジア史概説Ⅱ	2	2		○	○							○	○		○
	西洋史概説Ⅰ	2	2	○	○	○							○	○		○
	西洋史概説Ⅱ	2	2		○	○						○	○	○		○
	日本史研究Ⅰ	2	2	○	○	○							○			○
	日本史研究Ⅱ	2	2	○	○	○							○			○
	アジア史研究Ⅰ	2	2		○	○						○	○			○
	アジア史研究Ⅱ	2	2		○	○						○	○			○

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標											
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
関 連 科 目	西洋史研究Ⅰ	2	2	○	○	○							○		○
	西洋史研究Ⅱ	2	2	○	○	○							○		○
	人文地理Ⅰ	2	2	○	○	○							○		○
	人文地理Ⅱ	2	2	○	○	○							○		○
	法律学概論	2	2					○			○		○	○	○
	政治学入門	2	1		○	○						○	○		○
	政治学原論	2	2		○	○						○	○		○
	地誌Ⅰ	2	2		○	○						○	○		○
	地誌Ⅱ	2	2		○	○						○	○		○
	民俗学の諸問題	4	2	○	○	○							○		○
	自然地理学	2	2	○	○	○							○		○
	関西のことばと文学	2	2		○	○							○	○	○
	IT 応用	2	1					○			○		○	○	○
卒業必要単位数 102 単位以上															

【卒業必要単位数】

1. 文学部社会科学の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	18 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
必修科目	22 単位
選択必修科目 ①より	18 単位以上
②より	34 単位以上
③より	6 単位以上
自由選択科目	
合 計	130 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。

- ①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目（ただしキャリア科目は 2 単位以内）
- ②中級・上級外国語（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の中級外国語を除く）については、16 単位以内
- ③海外語学講座・留学支援科目（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の留学支援科目を除く）については、8 単位以内
- ④生涯スポーツについては、2 単位以内
- ⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目（キャリアデザイン系科目は除く）については、あわせて 10 単位以内

I. 社会学科のカリキュラムの特徴

1. 社会学科の教育目標

情報化や国際化の進展により、社会は急速に変化し、多様性・不確実性が高まっている。こうした時代において必要とされる、みずから手で調べ、分析し、表現・発信するという実証的・実践的な調査マインドを涵養し、同時に、さまざまな文化の場所を語るためのボキャブラリーを涵養しながら、「社会を読み解く力」を身につける、それが甲南大学文学部社会学科の教育目標である。

2. 社会学科が育てたい人物像

社会学科では、

- (1) 複雑な社会の中で、みずから調べ、問題を発見し、成果を表現・発信できる「調査リテラシー」と「メディアリテラシー」を有する人
- (2) 既成の情報やこれまでの常識にとらわれず、それらを批判的に検討し、また多様な価値観を理解することで、新しい視点や考え方を打ち出していく姿勢を有する人
- (3) 上記のリテラシーや姿勢を備え、社会と関わりコミュニケーションをはかる感性と力を有する人を育成すべく、以下のようにカリキュラムを編成している。

3. 社会学科カリキュラムの基本ポイント

(1) 応用領域における5つの科目群

応用領域を、

- 「ライフスタイルと政策」
- 「文化と共生」
- 「くらしと地域」
- 「組織とネットワーク」
- 「メディアコミュニケーションと表現」

という5つの科目群に分け、学べる内容をイメージしやすく編成している。ここには社会学科専門科目だけではなく、他学部・他学科の科目も積極的に取り入れている。

(2) 社会調査関連科目／社会調査工房プロジェクト

調査教育の積み重ねを経た集大成として、3年次に「社会調査実践研究」を設定している。また、「社会調査基礎演習」を皮切りに、「社会調査実践研究」を経て社会調査士資格を取得するため、「社会調査法」「計量社会学」「社会統計学」「フィールドワーク研究」「量的データ解析」といった社会調査関連科目を段階的に配置した。

また社会学科には、「社会調査工房」というものがあり、社会調査教育の自学自習用として「社会調査工房オンライン」という e-learning コンテンツが用意されている。これは授業外学習を支援するためのものである。課題の作成、ゼミナールでの発表や卒業研究に積極的に利用することをすすめる。

ちなみに、実証的・実践的な調査マインドというものは何も文字や数値だけで構成されるものではない。社会調査工房では、マルチメディア室を中心に、映像・画像編集などのメディア・コミュニケーション系実習・講義を支援するための設備や機器が配置され、調査記録の編集などのフィールド調査教育の支援を行っている。

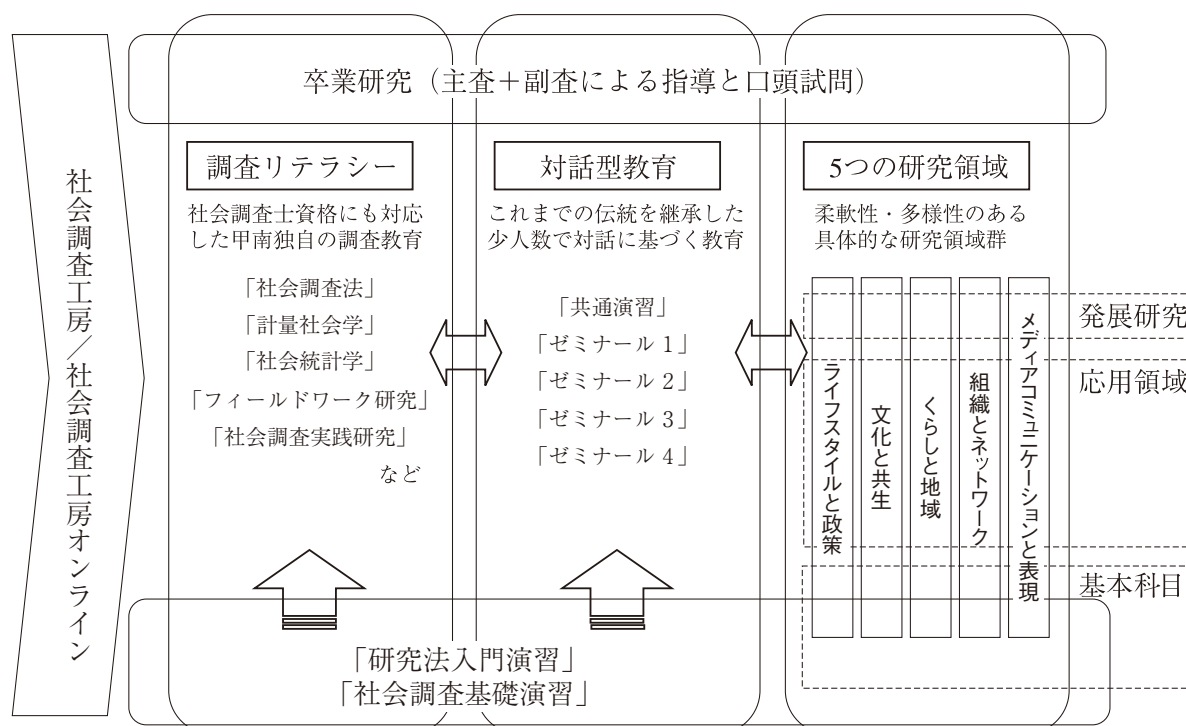
(3) 顔の見える教育－ゼミナール

社会学科では、先駆的に10年以上前からゼミナールを2年次より設けている。これは単なる少人数クラスの授業ではなく、個々人の関心・志向、創意・工夫にもとづく自由研究の場であり、学生相互の、教員－学生間の対話の場である。学んできたことを積極的に語ってほしい。

1年次は、1人でも多くの先生の授業に参加し、多様な考えに触れてみて、次年度のゼミナールの選択に臨んでほしい。

(4) ゆるやかな段階的・構造的な科目構成

1年次配当科目を「基本科目群」とし、導入・基礎科目として位置づけた上で、2年次以降を個別分野の知識とスキルを深める「応用領域科目群」、3年次以降をそれまでの知識とスキルをもとに様々な特定テーマを少人数クラスで考える「発展研究科目群」とし、5領域を立体的に配置している。すなわち、履修レベルを明確にし、履修学年に偏りが出ないような構成に向け、専門科目を編成している。下図を参照に、漫然と履修登録をせず、計画的に履修をし、「社会を読み解く力」「文化を語る力」を身につけてほしい。



Ⅱ. 科目履修上の諸注意

1. 下表の科目については、履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
量的データ解析	「社会統計学」の単位を修得していること。

2. 所属する年次をこえる配当年次の授業科目は履修できない。
3. 科目によっては通常の履修登録とは異なり、抽選によって履修登録を行うもの、特別な手続きが必要なものがあるので、『履修ガイドブック』を参照すること。
4. 社会学科4年次の学生は、「卒業研究」を履修した上で、その研究成果を提出し、審査を受けなければならない。提出期日等は、『履修ガイドブック』を参照すること。

「社会調査士資格制度」について

制度の目的と沿革

21世紀に入り、各地域における社会と文化は様々な局面で大きくそして速く変化しつつある。また、今までに経験したことのない複雑な問題も多く発生している。本学の社会学科での教育は、こうした現代の社会と文化を独自の視点から分析し、さらに問題の解決について考える力を養うことを目的としている。

そのような分析力と問題解決力を向上させるためには、社会や文化に関する理論および先行研究について学ぶだけでなく、実際に自分が社会や文化の「現場」に足をはこびあるいは身をおいてみて、見たり聞いたり感じることで、そして、その体験を表現したり科学的に分析する「社会調査」の学習と実践の場が必要である。

また、社会調査に関する知識と技法は、世論調査をおこなうマスコミ、各種の実態調査をおこなう研究機関やシンクタンク、住民を対象に多くの調査を実施する国や地方自治体等の行政関係機関だけでなく、商品やサービスの市場動向をより細かく的確に分析・企画し、営業方針を決定・提案する力がますます求められている一般企業で将来働く人にとっても今や必須のものである。

本学の社会学科では、以上の観点から、社会学・人類学の実習を重視し、社会調査の理論と技法の修得をカリキュラムの軸にすえることを伝統としてきた。また、社会的にも社会調査の重要性が再認識されるのを受けて、2002年度からは本学科独自に「社会調査士養成課程」を開設した。

そして、全国の大学の関連学部学科でも、本学科と同じような社会調査士資格の制度創設の気運が高まる中で、2003年11月には日本社会学会を中心に関連学会が参加する「一般社団法人 社会調査協会」(2008年12月、社会調査士資格認定機構より改組)が設立され、社会調査士は全国資格となった。これにともない、本学独自の社会調査士養成課程は終了し、全国資格のためのカリキュラムとして生まれかわった。また、社会調査士資格を取得した上で、大学院修士課程を修了した人は「専門社会調査士」資格をさらに取得することもできる。

なお、甲南大学からの社会調査士の輩出数は、全国的にもトップレベルの実績であり、本学科の特徴のひとつにもなっている。

「社会調査士資格」「専門社会調査士」についての詳細は、社会調査協会のホームページ（<http://jasr.or.jp/>）も参照すること。

社会調査士資格を取得するために

社会調査士資格は、学部卒業を要件とし、社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力と倫理観を身につけていることを認定するものである。この資格を取得するために、本学科で取得が求められている科目群は次のとおり。

《2018 年度以降の入学生》

調査士科目区分	科 目 名	配当年次	単位数	履修要件
A	社会調査法	1	2	必修
B	社会調査基礎演習	1	2	必修
C	計量社会学	2	2	必修
D	社会統計学	2	2	必修
F	フィールドワーク研究	2	2	選択必修
E	量的データ解析	3	2	選択必修
G	社会調査実践研究	3	4	必修

必修科目 5 科目 12 単位

選択必修科目 1 科目 2 単位

計 6 科目 14 単位 以上

社会調査士（キャンディデイト）資格について

社会調査士（キャンディデイト）とは、社会調査協会が「大学卒業時に社会調査士資格を取得する見込みである」ことを証明するもので、在学中の就職や進学にむけた活動にも社会調査士の資格が役立つように設けているものである。

ただし、このキャンディデイト資格を正式の資格に変更するためには、卒業時に再度申請する必要があり、またキャンディデイト資格を取得しなくても卒業時に正式の資格を取得できるので、キャンディデイト資格が必要か考えた上で申請すること。

申請手続きについては、『履修ガイドブック』を参照すること。

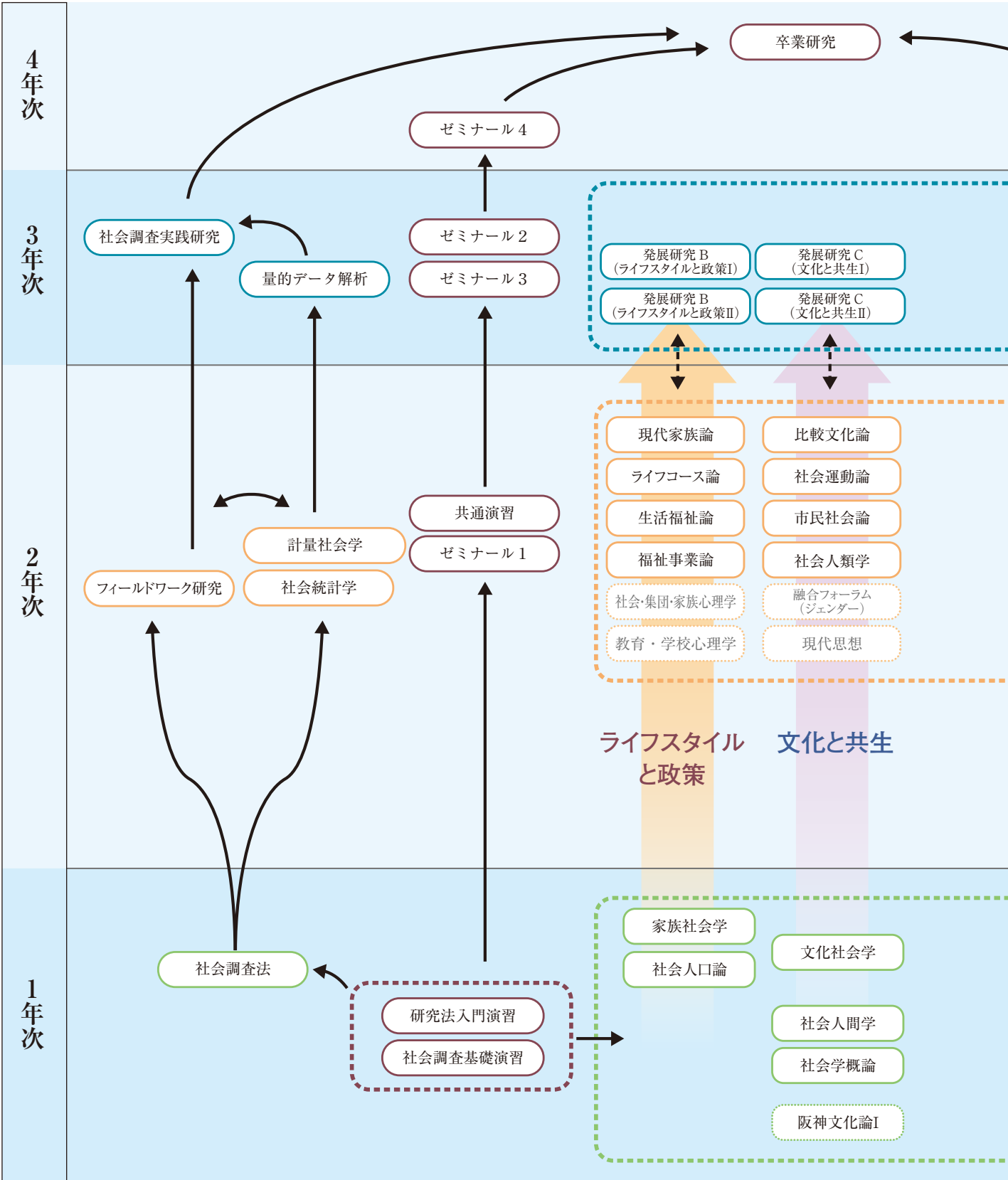
社会調査士（キャンディデイト）資格を取得するために必要な条件

以下の条件をすべて満たす必要がある。

- (1) 申請時に、3 年次以上であること
- (2) 申請時までに、必要科目（上に記載の表参照）を 3 科目以上単位取得していること
- (3) (2) の単位取得済み科目と申請時に履修中の必要科目の合計が、5 科目以上であること

※ (2) (3) についての科目の数え方

・「フィールドワーク研究」と「量的データ解析」は選択制のため両方取得（あるいは履修中）の場合でも 1 科目と数える。



社会調査士関連科目

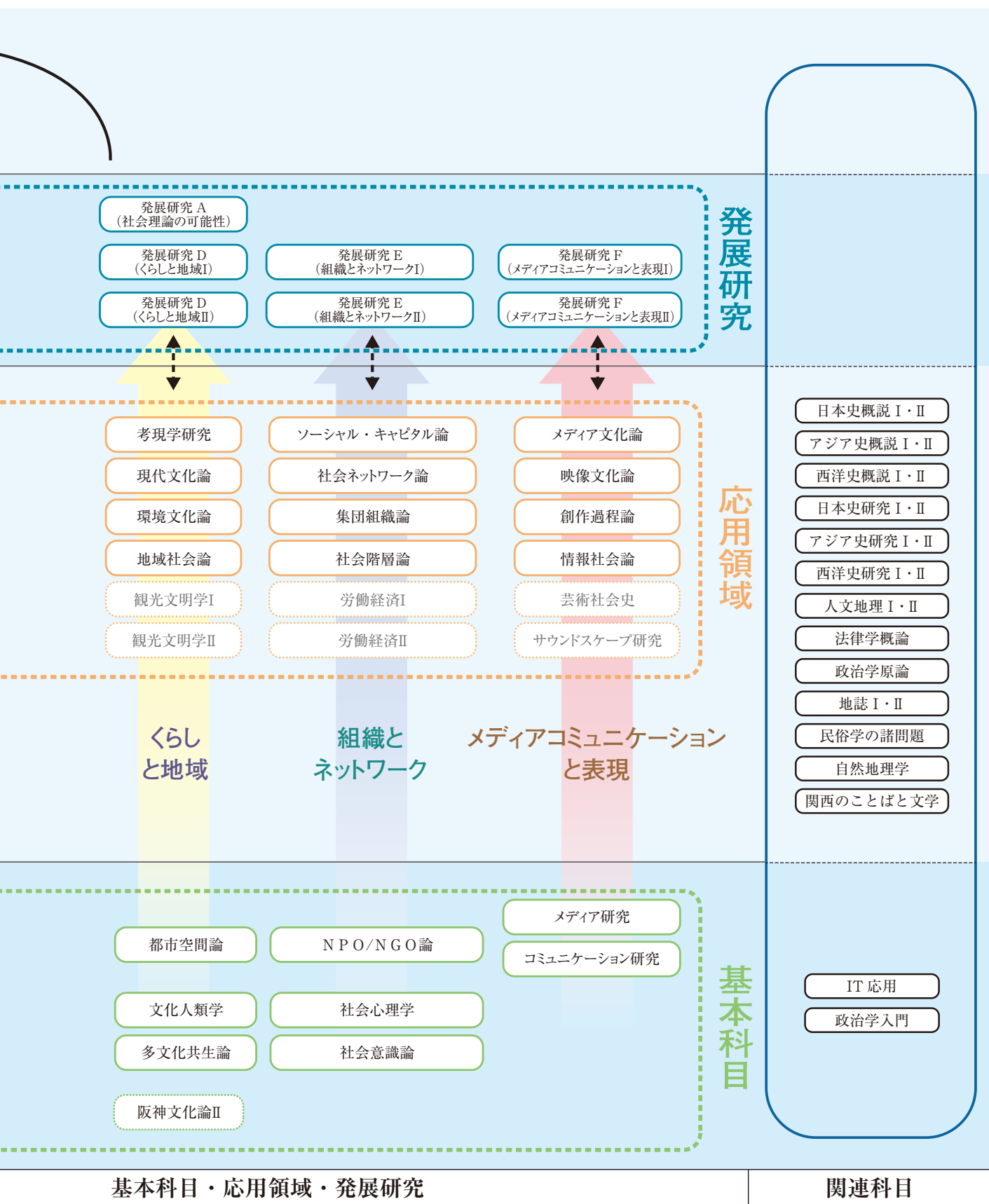
実習・演習科目

社会学科専門教育科目 他学科・他学部開講科目 (応用領域の他学科・他学部開講科目のうち「社会・集団・家族心理学」「教育・学校心理学」「サウンドスケープ研究」「労働経済I」以外は3年次配当科目)

必修科目 基本科目 応用領域 発展研究

[2019年度(平成31年度)の入学生に適用]

業



人間科学科

教育基本方針
心理学・哲学・芸術学の知を関連づけながら「人間とは何か」を探究することにより、社会の問題を多角的に捉え、柔軟に解決することのできる人物の育成をめざします。
卒業認定・学位授与の方針
甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。人間科学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 130 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 18 単位 外国語科目 8 単位 保健体育科目 2 単位 専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に、学士（文学）の学位を授与します。 (1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。 (4) 世界に通用する国際教養力を有しています。 (5) 各専門分野（心理学分野、哲学・芸術学分野）において研究、実践、表現等を行う能力を有しています。 (6) 自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。 (7) 的確な問いをたてて、時代性・地域性をふまえて問題解決を図る意志と能力を有しています。
教育課程編成・実施の方針
文学部人間科学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の 3 本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。 また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。 カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。 教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。 1) 教育内容 (1) 初年次から 2 年次にかけての基礎演習を必修とし、基礎的な読解力及び表現力を向上させるとともに、専門分野への導入を行います。 (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報リテラシーを学ぶ科目を配置します。 (3) 専攻分野以外の領域と建学の理念を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。 (4) 少人数のゼミで質問力や問題解決能力などの社会人基礎力を育成しながら、専門分野の研究、実践、表現等の能力を鍛えます。 (5) 専攻分野に関する知識及び論理的思考力を習得するため、初年次段階から年次進行に合わせて段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。 (6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を 1 年次から 4 年次まで継続的に実施します。 (7) 地域連携講座科目を通じて、地域の中で自己と他者を総合的に捉える力を養います。 (8) 卒業研究（卒業論文）により、在学中に学んだことを集大成します。 2) 教育方法 (1) 1) に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。 (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習・演習などを重視したクラス編成を行います。 (3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。 (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。 3) 学修成果の評価 学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ													
到達目標													対応する卒業認定・学位授与の方針（学科）の番号
A	基礎的な読解力および文章表現力を向上させる。												(6)
B	質問力や問題解決能力などの社会人基礎力を育む。												(1) (7)
C	専門分野以外の領域を教養として学び、知への興味や関心を培う。												(3) (7)
D	外国語によるコミュニケーション能力や情報リテラシーを養う。												(4) (6)
E	大学での学びを自分の将来と結びつけて考える力を養う。												(2) (6) (7)
F	地域の中で自己と他者を総合的に捉える力を養う。												(1) (7)
G	世界に通用する国際教養力を身につける。												(3) (4)
H	心理学分野、または、哲学・芸術学分野において研究、実践、表現等を行う能力を鍛える。												(5)
I	専門分野における自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を養う。												(6)
J	専門分野において、的確な問いをたてて問題解決を図る意志と能力を培う。												(5) (7)
専門教育科目表（人間科学科）〔2018 年度（平成 30 年度）以降の入学生に適用〕													
授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
必修科目	人間科学入門	2	1	○	○			○			○	○	
	人間科学基礎演習Ⅰ	2	1	○	○		○	○			○	○	
	人間科学基礎演習Ⅱ	2	2	○	○		○	○			○	○	
	人間科学基礎演習Ⅲ	2	2		○						○		○
	演習Ⅰ	4	3	○	○			○		○	○	○	○
	演習Ⅱ	4	4	○	○			○		○	○	○	○
	卒業研究	8	4	○	○						○	○	○
以上 24 単位必修													
融合科目	融合フォーラム（死生学）	2	1		○	○		○					
	融合フォーラム（ジェンダー）	2	2		○	○		○		○			
	融合フォーラム（文化と自然）	2	2			○		○	○	○	○		
	融合フォーラム（ファンタジー）	2	3・4			○				○	○		
	西洋古典文化論	2	1	○			○			○	○		
	西洋人間科学思想入門Ⅰ	2	1	○	○		○			○	○		
	西洋人間科学思想入門Ⅱ	2	1	○	○		○			○	○		
	アート・ワークショップ入門	2	1		○						○		○
	心理学と哲学	2	2	○	○					○	○		
	心理学と芸術	2	2	○	○					○	○		
	環境学入門	2	2	○	○	○				○			
	身体論	2	2							○	○		
	トラウマ学	2	2			○					○	○	○
	芸術療法	2	3・4					○			○	○	○
	防災心理学	2	3・4								○	○	○
④以上のうち 12 単位以上選択必修													
基礎科目	心理学概論	2	1	○				○			○		
	こころの科学	2	1	○		○		○			○		
	発達心理学	2	1		○			○			○		
	学習・言語心理学	2	1	○	○			○			○		○
	哲学入門	2	1	○	○	○		○		○			
	倫理思想基礎論Ⅰ	2	1	○	○	○		○		○			
	倫理思想基礎論Ⅱ	2	1	○	○	○		○		○			
	西洋美術史	2	1							○		○	
	日本美術史	2	1			○				○		○	
	文学思想史	2	1	○	○	○				○	○		
	平和学	2	2		○			○	○	○			
	芸術社会史	2	2	○		○				○			
	心理学史Ⅰ	2	3	○	○						○	○	○
	心理学史Ⅱ	2	3								○	○	○
	⑤以上のうち 12 単位以上選択必修												

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
展開科目	分野共通	欧文講読基礎Ⅰ	2	2	○	○	○	○			○	○	
		欧文講読基礎Ⅱ	2	2	○	○	○	○			○	○	
		欧文講読Ⅰ	2	3・4			○			○	○		
		欧文講読Ⅱ	2	3・4			○			○	○		
		欧文講読Ⅲ	2	3・4			○			○	○		
		欧文講読Ⅳ	2	3・4			○			○	○		
		演習Ⅲ	4	3	○	○		○		○	○	○	○
	哲学分野	現代思想	2	2			○	○		○			
		環境学	2	2	○	○	○			○			
		宗教思想史	2	2	○	○	○		○	○			
		日本哲学史	2	2	○	○	○		○	○			
		メディア哲学	2	2							○	○	
		ヒューマンライツ	2	2		○		○	○	○			
		西洋史概説Ⅰ	2	2	○		○			○			
		西洋史概説Ⅱ	2	2	○		○			○			
		西洋社会史	2	2			○		○	○			
		哲学思想史	2	3		○					○	○	○
		比較思想史	2	3・4		○	○		○	○			
		人間環境論Ⅰ	2	3		○	○		○	○			
		人間環境論Ⅱ	2	3		○	○		○	○			
		倫理思想史	2	3	○		○		○		○		
	芸術学分野	サウンドスケープ研究	2	1						○	○		
		視覚メディア論	2	1							○	○	
		マンガ・アニメ史	2	1				○		○	○		
		モダンアート研究	2	2		○				○			○
		映像表現研究	2	2	○	○	○				○	○	○
		サブカルチャー研究	2	2		○				○			○
		芸術表象論	2	2						○		○	
		アート・ワークショップ実践	2	2							○	○	○
		現代芸術研究	2	3		○				○			○
		身体表現研究	2	3・4						○	○	○	
		現代芸術ワークショップ	2	3			○		○	○		○	
		デザイン・ワークショップ入門	2	3			○	○	○		○	○	
		デザイン・ワークショップ実践	2	3			○	○	○		○	○	
		言語表現論	2	3・4	○		○		○				
	心理学分野	心理学統計法	2	1		○		○			○	○	○
		発達臨床心理学	2	1		○		○			○		
		心理学実験実習	2	1		○		○			○	○	○
		心理療法	2	2				○			○	○	○
		力動的心理学	2	2		○		○			○	○	○
		臨床心理学概論	2	2		○		○			○		○
		社会・集団・家族心理学	2	2		○		○			○	○	○
		心理検査法	2	2		○		○			○	○	○
		心理学研究法	2	2		○		○			○	○	○
		教育・学校心理学	2	2		○		○			○	○	○
		精神疾患とその治療	2	2			○	○			○	○	○
		神経・生理心理学	2	2			○	○			○	○	○
		心理的アセスメント	2	2		○		○			○	○	○
		心理尺度構成法実習	2	3							○	○	○
		心理調査計画法	2	3							○	○	○
		心理地域援助	4	3・4				○	○		○	○	○
		知覚・認知心理学	2	3・4							○	○	○
		健康・医療心理学	2	3・4			○	○			○	○	○

©以上のうち 32 単位以上選択必修

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
関連科目	日本文学史Ⅱ a	2	2	○		○		○					
	日本文学史Ⅱ b	2	2	○		○		○					
	NPO／NGO論	2	2	○	○	○		○	○				
	メディア文化論	2	2	○	○	○		○	○				
	地域社会論	2	2	○	○	○		○	○				
	社会心理学	2	2	○				○	○		○	○	
	社会意識論	2	2	○		○		○	○		○		
	現代史Ⅰ	2	2	○		○				○			
	現代史Ⅱ	2	2	○		○				○			
	比較文学特殊講義	2	3	○		○		○			○		
	アメリカ文学思潮Ⅰ	2	3	○			○			○			
	アメリカ文学思潮Ⅱ	2	3	○			○			○			
	イギリス文学思潮Ⅰ	2	3	○			○			○			
	イギリス文学思潮Ⅱ	2	3	○			○			○			
	ソーシャル・キャピタル論	2	3	○					○				○
	西洋史研究Ⅰ	2	3	○		○				○			
	西洋史研究Ⅱ	2	3	○		○				○			
資格科目	博物館学芸員資格科目	生涯学習概論	2	1	○	○	○		○				
		博物館概論	2	1		○	○		○	○	○		○
		博物館教育論	2	1		○			○	○	○		○
		考古学Ⅰ	2	1			○		○				
		考古学Ⅱ	2	1			○		○				
		歴史と美術	2	2	○		○			○			
		博物館経営論	2	2					○			○	○
		博物館資料論	2	2					○	○	○		
		博物館実習Ⅰ	1	2		○	○		○	○	○		○
		民俗学の諸問題	4	2	○		○		○	○		○	
		環境生物学	2	2			○		○	○			○
		生態学	2	2			○		○	○			○
		博物館展示論	2	3					○			○	○
		博物館資料保存論	2	3			○		○	○	○		○
		博物館情報・メディア論	2	3					○	○	○		
		博物館実習Ⅱ	1	3		○	○		○	○	○		○
		博物館実習Ⅲ	1	4		○	○		○	○			○
	教職科目	IT 応用	2	1	○	○	○	○					
		政治学入門	2	1		○	○		○		○		
		社会人間学	2	2	○		○		○	○		○	
		社会学概論	2	2	○		○		○	○		○	
		文化人類学	2	2	○		○				○		
		多文化共生論	2	2	○		○				○		
		メディア研究	2	2		○			○	○			○
		コミュニケーション研究	2	2		○			○	○			○
		政治学原論	2	2		○	○		○		○		
		法律学概論	2	2		○	○		○		○		
		アジア史概説Ⅰ	2	2	○		○				○		
		アジア史概説Ⅱ	2	2	○		○				○		
		人文地理Ⅰ	2	2	○		○				○		
		人文地理Ⅱ	2	2	○		○				○		
		地誌Ⅰ	2	2	○		○				○		
		地誌Ⅱ	2	2	○		○				○		
		日本史概説Ⅰ	2	2	○		○				○		
		日本史概説Ⅱ	2	2	○		○				○		
		自然地理学	2	2	○		○				○		

卒業必要単位数 102 単位以上

【卒業必要単位数】

1. 文学部人間科学科の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	18 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
必修科目	24 単位
選択必修科目 ①より	12 単位以上
②より	12 単位以上
③より	32 単位以上
自由選択科目	
合 計	130 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。
- ①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目（ただしキャリア科目は 2 単位以内）
 - ②中級・上級外国語（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の中級外国語を除く）については、16 単位以内
 - ③海外語学講座・留学支援科目（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の留学支援科目を除く）については、8 単位以内
 - ④生涯スポーツについては、2 単位以内
 - ⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目（キャリアデザイン系科目は除く）については、あわせて 10 単位以内

I. 人間科学科の特徴

1. 人間科学科の理念

文学部人間科学科は、人間の内面に着目しつつ現代世界の諸問題にアプローチする学科である。心理学、哲学、芸術学の知を関連づけながら「人間とは何か」を探究することで、家族や学校、環境やメディアやアートといった社会のことがらに広く関心を持ち、そこに見られる問題を解決する力を育てる。カリキュラムは複数の学問分野を有機的に結ぶ「融合科目群」を中心に、学生それぞれの関心を基礎から応用へと展開するよう設計されている。国家資格の公認心理師に必要な科目の学習を援助するだけでなく、思想や文化を含む、より幅広い視野で人間を捉えるための学びを支援する。

II. 科目履修上の諸注意

1. 所属する年次をこえる配当年次の授業科目は履修できない。

2. 卒業研究

人間科学科4年次の学生は「卒業研究」を履修登録した上で、その研究論文を人間科学科主任に提出しなければならない。提出期日等については、『履修ガイドブック』を参照すること。

3. その他

他学科、他学部学生が人間科学科の必修科目の履修を申し込む場合は、各担当教員の下承を得た場合に限り履修できる。また、その他の科目についても、履修を制限することがあるので、シラバスで確認すること。

III. 人間科学科の卒業生が取得できる資格について

①「博物館学芸員」（「博物館学芸員養成課程」のページを参照。）

②「環境再生医」

環境再生医は、NPO 自然環境復元協会認定の資格である。自然環境の再生のため、現状を診察（調査、診断）し、処方（対策の計画）を立て、治療（施術、施工）を行い、さらにはケア（維持管理）を行う自然環境の“専門医”である。本学の所定の単位を修得すれば認定される。

③「認定心理士」

1990年から日本心理学会が基礎資格として位置付け、認定を開始した資格である。大学で心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を修得していることを認定する資格で、「心理学」という名称が使われていない学部学科を卒業した場合でも、心理学に関する標準的な単位を修得していることが証明できる。また、2016年3月に、心理調査に関連する専門科目を履修した認定心理士の資格として認定心理士（心理調査）も制定されており、これを取得することも可能である。ただし、これらの資格は、心理学の専門職につながるものではなく、国家資格で

ある「公認心理師」とは別の資格である。日本心理学会が定めた内容に対応する所定の科目の単位を修得した上で、原則として卒業後に申請し、資格を得ることができる。資格の詳細については日本心理学会のウェブページを確認すること。

日本心理学会ウェブページ：http://www.psych.or.jp/qualification/documents_new.html

Ⅳ. 人間科学科を卒業した後さらに条件を満たすことで取得できる資格について

「公認心理師」

公認心理師の資格を得るためには、(1) 大学で必要とされる科目を修めて卒業し、(2) 大学院において必要とされる科目を修めて修了するか、もしくは文部科学省令・厚生労働省令で定めた施設において定められたプログラムを終了したうえで、さらに(3) 国家試験に合格しなくてはならない。詳細については「公認心理師に関する専門教育科目」を参照すること。

博物館学芸員養成課程（文学部人間科学科 対象）

博物館学芸員は、博物館で資料の収集、保管、調査研究そして展示等に携わる専門職員である。

ここでの博物館とは、美術館、自然誌（史）博物館、歴史・考古・民族（民俗）の博物館、郷土館、記念館、動植物園、水族館などを幅広く含んでいる。これらの博物館は社会教育・生涯教育のための施設であるため、学芸員は研究者と教育者という二つの性格を持っている。

学芸員資格は、学士の称号を有し、法令によって定められた単位を大学で修得することによって得ることができる。本学では文学部人間科学科・歴史文化学科と理工学部物理学科・生物学科の専門科目のなかに学芸員に関わる科目を設けており、所定の単位を修得した者に対しては、大学が学芸員の資格を授与する。学芸員は魅力ある専門職であるが、博物館に学芸員として就職することは簡単ではない。しかし学芸員の課程で学び、資格を得ることによって調査・研究の能力を高め、社会活動の実践力を身につけることは、一般の企業で調査・企画に従事したり、ボランティアなどの社会活動を行う際に活用できるであろう。

(1) 学芸員課程の履修

1. 学芸員資格を取得するためには、1年次から4年次までの各年度で行われるガイダンスを受講し、1年次後半に学芸員課程登録をする必要がある。
2. 2年次以降、(a) 歴史文化領域コース、(b) 美術領域コース、(c) 環境領域コースの3コースから1つを選択して履修する。1年次後半にガイダンスを受講し、学芸員課程登録とともにコースを選択する必要がある。
3. 学芸員課程は、大学での講義・学内実習と博物館・美術館での館園実習とに分けられる。講義・学内実習は一般の授業と同じように履修すること。館園実習は大学が推薦する実習受け入れ施設で行う。
4. 学内実習・館園実習の履修には、所定の実習費を納める必要がある。
5. 館園実習については以下の点に注意すること。
 - ① 館園実習を履修するまでに、それ以外の必修科目をすべて修得しておく必要がある。
 - ② 実習を受け入れてくれる施設は極めて限られており、貴重な文化財や美術品を取り扱う場合もある。そのため実習希望者については、人間科学科の専門科目および学芸員養成課程の必修科目・選択必修科目の成績と面接によって審査し、実習施設を紹介する。
 - ③ 実習施設への申し込みの後に実習を辞退することや、実習途中で取り止めることは認めない。
 - ④ 実習の期間は実習施設によって異なる。多くは4年次夏休みだが、4年次の前期・後期の授業期間になる場合もある。そのため実習日程に応じて、事前指導等の日程は変更になることがある。

(2) 学芸員課程に必要な科目

[2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用]

授 業 科 目	単位	必要単位数
生涯学習概論	2	必修 11 科目 19 単位
博物館概論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館情報・メディア論	2	
博物館実習Ⅰ	1	
博物館実習Ⅱ	1	
博物館実習Ⅲ	1	
日本文化史	2	A
アジア文化史	2	
阪神文化論Ⅰ	2	
阪神文化論Ⅱ	2	
歴史と美術	2	B
西洋美術史	2	
日本美術史	2	
モダンアート研究	2	
現代芸術研究	2	C
考古学Ⅰ	2	
考古学Ⅱ	2	D
民俗学の諸問題	4	
環境学入門	2	E
環境学Ⅰ	2	
環境学Ⅱ	2	
環境教育の実践	2	
環境生物学Ⅰ	2	F
環境生物学Ⅱ	2	
地学通論	4	G
物理学通論	4	H
基礎物理学Ⅰ	2	
基礎物理学Ⅱ	2	

注 1. 学芸員養成課程には、歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースの 3 つがある。学科の専門性に応じ、人間科学科の学生は歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースのいずれかを選択すること。

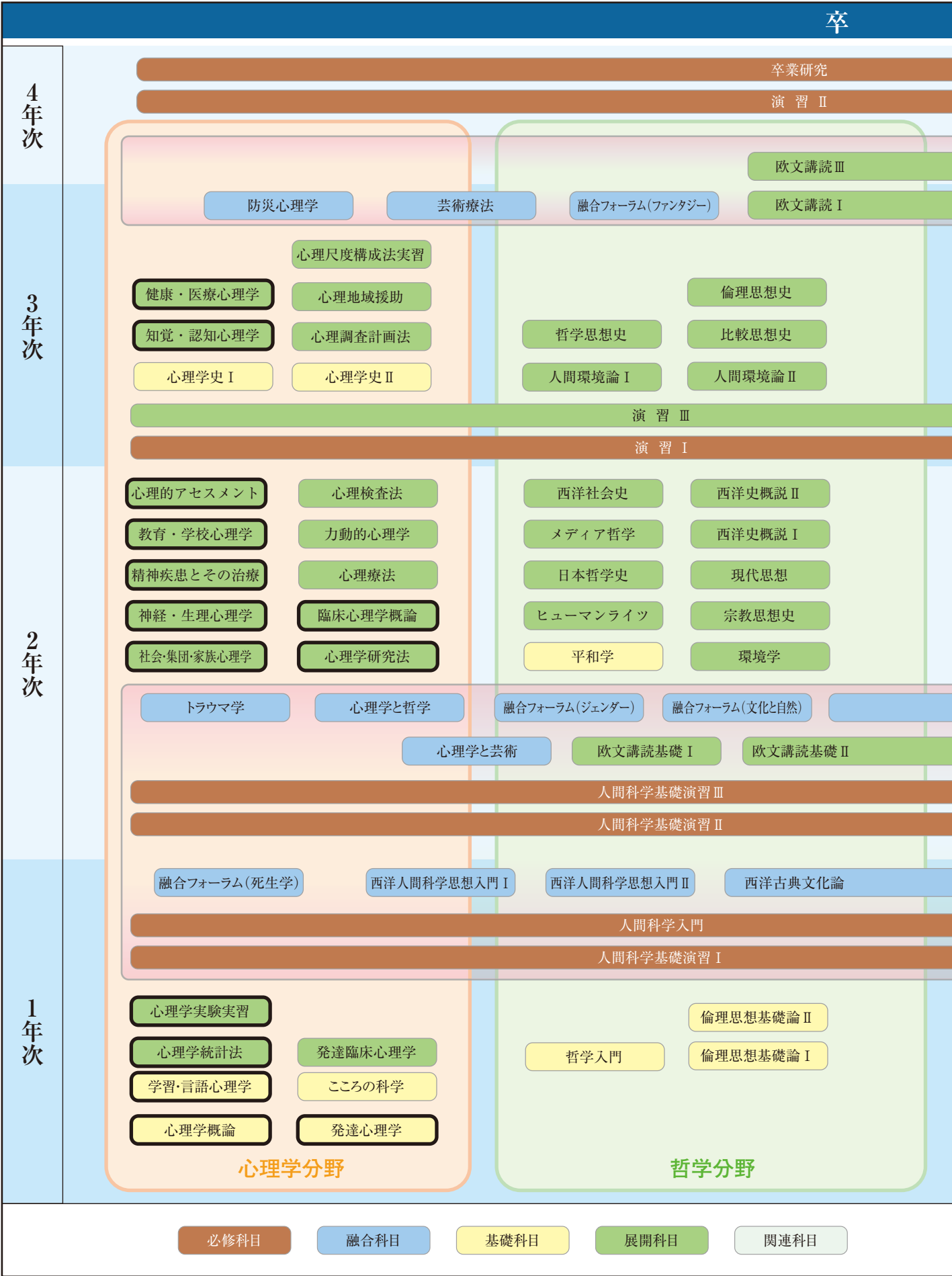
注 2. 必修科目のうち、博物館概論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館実習Ⅰ、博物館実習Ⅱ、博物館実習Ⅲは複数クラス開講されるので、指定のクラスを履修すること。

注 3. 選択必修科目について、歴史文化領域コース及び美術領域コースは科目群 A B C D、環境領域コースは科目群 A E F G H を履修することが望ましい。(G H については、高度の数学的知識が要求されるので人間科学科の学生は注意すること)

(3) 学芸員課程のスケジュール

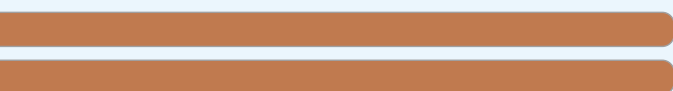
以下のスケジュールに従ってガイダンスや履修指導を行う。変更がある場合には、その都度、連絡するので掲示に注意すること。

1 年 次	4 月	新入生ガイダンス 仮登録 予備登録 (1)
	7 月	
	12 月～1 月	
2 年 次	4 月	履修希望者へのガイダンス
	4 月	履修希望者へのガイダンスと予備登録 (2)
3 年 次	12 月～1 月	館園実習希望者への面接
	1 月～3 月	館園実習予定者の発表、実習の事前指導 (1)
	4 月	実習登録・履修登録
4 年 次	6 月～7 月	実習の事前指導 (2)
	夏期休暇中	学外館園実習 (「博物館実習Ⅲ」およそ 7 日間)
	3 月	学芸員課程の修了書の授与 (卒業時)



〔2018年度(平成30年度)以降の入学生に適用〕

業



欧文講読Ⅳ

欧文講読Ⅱ

身体表現研究

デザイン・ワークショップ実践

現代芸術研究

デザイン・ワークショップ入門

言語表現論

現代芸術ワークショップ

サブカルチャー研究

映像表現研究

アート・ワークショップ実践

芸術表象論

モダンアート研究

芸術社会史

環境学入門

身体論

アート・ワークショップ入門

サウンドスケープ研究

視覚メディア論

マンガ・アニメ史

日本美術史

文学思想史

西洋美術史

芸術学分野

イギリス文学思潮Ⅰ・Ⅱ

アメリカ文学思潮Ⅰ・Ⅱ

西洋史研究Ⅰ・Ⅱ

ソーシャル・キャピタル論

比較文学特殊講義

現代史Ⅰ・Ⅱ

日本文学史Ⅱa・Ⅱb

地域社会論

社会心理学

社会意識論

NPO／NGO論

メディア文化論

関連科目

博物館実習Ⅲ

博物館展示論

博物館資料保存論

博物館情報・メディア論

博物館実習Ⅱ

民俗学の諸問題

社会人間学

社会学概論

文化人類学

多文化共生論

日本史概説Ⅰ・Ⅱ

アジア史概説Ⅰ・Ⅱ

メディア研究

コミュニケーション研究

地誌Ⅰ・Ⅱ

自然地理学

人文地理Ⅰ・Ⅱ

法律学概論

政治学原論

歴史と美術

環境生物学

生態学

博物館経営論

博物館資料論

博物館実習Ⅰ

博物館教育論

政治学入門

考古学Ⅰ・Ⅱ

博物館概論

生涯学習概論

IT応用

資格科目

資格科目

公認心理師科目

分野融合領域

人間科学科専門科目
他学科開講科目

歴史文化学科

教育基本方針
人類がこれまで蓄積してきた有形・無形の歴史や文化を、歴史学、地理学、民俗学の諸分野を横断的に探求することで、人類の過去・現在・未来をとらえ、みずから未来を拓いていける人物を育成します。
卒業認定・学位授与の方針
甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。歴史文化学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 130 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 18 単位 外国語科目 8 単位 保健体育科目 2 単位 専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（文学）の学位を授与します。 (1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。 (4) 自文化と異文化への理解に裏付けられた、世界に通用する国際教養力を有しています。 (5) 歴史学、地理学・民俗学の諸分野に関する基礎的で領域横断的な知識と常識を有しています。 (6) 自らの考えを適切な手段によって表現し、他者に伝える力を有しています。 (7) 的確な問いをたてて、時代性・地域性をふまえて問題解決を図る意志と能力を有しています。
教育課程編成・実施の方針
文学部歴史文化学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。特に、文学部及び本学科では、①学生一人ひとりの顔が見える少人数クラス、②基礎・応用・発展の積み上げ方式による段階的学修、③研究リテラシー、問題解決能力、専門分野の知識の3本柱による系統的学修の考え方で教育課程を編成し、実施します。 また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。 カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。 教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。
1) 教育内容 (1) 初年次における基礎演習を必修とし、基礎的な読解力及び表現力を育成します。 (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。 (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。 (4) 少人数のゼミで調査研究や討議の方法を学び、問題解決能力などの社会人基礎力を育成します。 (5) 専攻分野に関する知識及び論理的思考力を習得するため、初年次段階から年次進行に合わせて段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。 (6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。 (7) 地域を分析する学びを通じて、自己と他者を総合的に捉える力を養います。 (8) 卒業研究（卒業論文）により、在学中に学んだことを集大成します。
2) 教育方法 (1) 1) に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。 (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習・演習などを重視したクラス編成を行います。 (3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。 (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。
3) 学修成果の評価 学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ												
到達目標										対応する卒業認定・学位授与の方針（学科）の番号		
A	基礎的な知識・読解力・理解力・表現力を修得する。【基礎力】									(2) (5)		
B	自らの考えを適切に表現し、他者に伝える力を修得する。【表現】									(6)		
C	時代・地域性をふまえて問いを立て、それを考える力を修得する。【問題発見】									(7)		
D	史料調査やフィールドワークの方法を修得する。【調査や方法】									(5)		
E	専門性と学際性に基づき、学術的に考える力を修得する。【学術的思考】									(5)		
F	地域の分析を通じ、対象を総合的に捉える力を修得する。【地域理解】									(4)		
G	歴史の分析を通じ、時間を総合的に捉える力を修得する。【時間軸】									(4)		
H	学科の学びを統合し、社会に生かす力を修得する。【学びの統合】									(1) (2)		
専門教育科目表（歴史文化学科）												
〔2018 年度（平成 30 年度）以降の入学生に適用〕												
授業科目名		単位数	配当年次	到達目標								
				A	B	C	D	E	F	G	H	
必修科目	基礎演習Ⅰ	2	1	○	○							
	基礎演習Ⅱ	2	1	○	○		○					
	日本学	2	1	○		○						
	演習Ⅰ	2	2		○	○	○				○	
	演習Ⅱ	2	2		○	○	○				○	
	演習Ⅲ	2	3		○	○	○				○	
	演習Ⅳ	2	3		○	○	○				○	
	卒業研究	8	4		○	○	○				○	
以上 22 単位必修												
基本科目	阪神文化論Ⅰ	2	1				○		○			
	阪神文化論Ⅱ	2	1				○		○			
	日本史概説Ⅰ	2	1	○						○		
	日本史概説Ⅱ	2	1	○						○		
	西洋史概説Ⅰ	2	1	○						○		
	西洋史概説Ⅱ	2	1	○						○		
	アジア史概説Ⅰ	2	1	○						○		
	アジア史概説Ⅱ	2	1	○						○		
	地理学の諸問題Ⅰ	2	1	○					○			
	地理学の諸問題Ⅱ	2	1	○					○			
	民俗学の諸問題	4	1	○					○			
	現代史Ⅰ	2	1	○						○		
	現代史Ⅱ	2	1	○						○		
	現代史Ⅲ	2	1	○						○		
	日本史研究Ⅰ	2	2					○		○		
	日本史研究Ⅱ	2	2					○		○		
	西洋史研究Ⅰ	2	2					○		○		
	西洋史研究Ⅱ	2	2					○		○		
	アジア史研究Ⅰ	2	2					○		○		
	アジア史研究Ⅱ	2	2					○		○		
	地誌Ⅰ	2	2					○	○			
	地誌Ⅱ	2	2					○	○			
	人文地理Ⅰ	2	2			○			○			
	人文地理Ⅱ	2	2			○			○			
	民俗文化研究Ⅰ	2	2			○			○			
	民俗文化研究Ⅱ	2	2			○			○			
	日本史特論	2	3					○		○	○	
	西洋史特論	2	3					○		○	○	
	アジア史特論	2	3					○		○	○	
	文化地理学	2	3						○		○	
	④以上のうち 32 単位以上選択必修											

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				A	B	C	D	E	F	G	H
発展科目	日本文化史	2	1			○		○			
	西洋社会史	2	1			○		○			
	アジア文化史	2	1			○		○			
	歴史と美術	2	1			○		○		○	
	歴史と思想	2	1			○		○		○	
	歴史と自然	2	1			○		○	○		
	考古学Ⅰ	2	1	○		○					
	考古学Ⅱ	2	1	○		○					
	社会意識論	2	1					○	○	○	
	自然地理学	2	1	○					○		
	都市空間論	2	1	○					○		
	西洋美術史	2	2	○							
	日本美術史	2	2	○							
	文化交流史	2	2			○		○		○	
	技術と文化	2	2			○		○		○	
	地理と情報Ⅰ	2	2				○		○		○
	地理と情報Ⅱ	2	2				○		○		○
	日本史史料研究Ⅰ	2	2		○	○	○				
	日本史史料研究Ⅱ	2	2		○	○	○				
	日本史史料研究Ⅲ	2	2		○	○	○				
	日本史史料研究Ⅳ	2	2		○	○	○				
	西洋史史料研究Ⅰ	2	2		○	○	○				
	西洋史史料研究Ⅱ	2	2		○	○	○				
	西洋史史料研究Ⅲ	2	2		○	○	○				
	西洋史史料研究Ⅳ	2	2		○	○	○				
	アジア史史料研究Ⅰ	2	2		○	○	○				
	アジア史史料研究Ⅱ	2	2		○	○	○				
	アジア史史料研究Ⅲ	2	2		○	○	○				
	アジア史史料研究Ⅳ	2	2		○	○	○				
	地理学・民俗学資料研究Ⅰ	2	2		○	○	○				
	地理学・民俗学資料研究Ⅱ	2	2		○	○	○				
	地理学・民俗学資料研究Ⅲ	2	2				○		○	○	
	地理学・民俗学資料研究Ⅳ	2	2		○	○	○				
	ブリティッシュ・スタディーズⅠ	2	2					○	○		
	ブリティッシュ・スタディーズⅡ	2	2					○	○		
	アメリカン・スタディーズⅠ	2	2					○	○		
	アメリカン・スタディーズⅡ	2	2					○	○		
	映像文化論	2	2					○	○	○	
	現代文化論	2	2	○							
	地域社会論	2	2						○		
	芸術表象論	2	2	○							
	実践地域学	2	3				○		○		○
	古文書学Ⅰ	2	3				○			○	
	古文書学Ⅱ	2	3				○			○	
	観光文明学Ⅰ	2	3				○		○		○
	観光文明学Ⅱ	2	3				○		○		○
	歴史文化特殊講義Ⅰ	2	3					○		○	○
	歴史文化特殊講義Ⅱ	2	3					○		○	○
	歴史文化特殊講義Ⅲ	2	3					○		○	○
	歴史文化特殊講義Ⅳ	2	3					○		○	○
⑧以上のうち 28 単位以上選択必修											
関連科目	博物館概論	2	1	○							○
	博物館教育論	2	1		○						○
	博物館経営論	2	2		○						○

授業科目名	単位数	配当年次	到達目標							
			A	B	C	D	E	F	G	H
関 連 科 目	博物館資料論	2	2				○			○
	博物館展示論	2	3		○					○
	博物館資料保存論	2	3				○			○
	博物館情報・メディア論	2	3		○					○
	博物館実習Ⅰ	1	2		○					○
	博物館実習Ⅱ	1	3		○					○
	博物館実習Ⅲ	1	4		○					○
	生涯学習概論	2	1	○						○
	社会人間学	2	2	○						
	社会学概論	2	2	○						
	文化人類学	2	1					○	○	
	多文化共生論	2	1					○	○	
	社会調査法	2	2				○		○	
	フィールドワーク研究	2	2				○		○	
	哲学入門	2	1	○						
	倫理思想基礎論Ⅰ	2	1	○						
	倫理思想基礎論Ⅱ	2	1	○						
	宗教思想史	2	2	○						
	日本哲学史	2	2	○						
	法律学概論	2	2	○						
	政治学入門	2	1	○						
	政治学原論	2	2	○						
卒業必要単位数 102 単位以上										

【卒業必要単位数】

1. 文学部歴史文化学科の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	18 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
必修科目	22 単位
選択必修科目 ④より	32 単位以上
自由選択科目 ⑤より	28 単位以上
合 計	130 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。

- ①文学部他学科の専門教育科目および共通・関連科目（ただしキャリア科目は 2 単位以内）
- ②中級・上級外国語（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の中級外国語を除く）については、16 単位以内
- ③海外語学講座・留学支援科目（国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の留学支援科目を除く）については、8 単位以内
- ④生涯スポーツについては、2 単位以内
- ⑤関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目（キャリアデザイン系科目は除く）については、あわせて 16 単位以内

I. 歴史文化学科の特徴

1. 歴史文化学科の理念

歴史文化学科では、「人類の歴史遺産と自然」を中心的キーワードとして、これまで蓄積されてきた人類の有形・無形の文化遺産、及びこうした歴史の中で人類の生活の場であった環境との交流について総合的立場から研究し、そして教育を行っていくことを目指す。特に歴史学と地理学をその主要な構成分野とするので、地理学が蓄積してきたエリアスタディの方法は、国ごとの歴史という枠にとらわれない幅広い視点を与え、新しい歴史学の動向とも結びつくとともに、地域比較史というものも可能になる。

ただし比較の基準軸の確定と主体の自己認識がなければ、単なる過去の事実の羅列のカタログ作りに終ったり、都合のよい事例のみでストーリーをまとめ上げる非科学的な行為に至りかねない。そこで、歴史文化学科は縦の軸としての日本と、横の軸としての神戸の2つの文化を常に意識したうえで、異文化を理解するシステムを採用する。これはまず大部分の学生が現代の日本の若者であることを前提に、近年の社会と歴史文化研究の新展開たる西洋中心の世界史観の修正と「脱亜入欧」を基本とした近現代の日本を再検証することでもあり、神戸の場を意識することは、アジアとの結びつきを確認することに結びつく。しかしながら、これは将来の諸文化の共存の可能性のために西洋文化を相対化するのであり、西洋文明のもつ重要性を無視するものでは決してない。

次には獲得した自己の認識を表現する能力のレベルアップも目指す。これは、ともすれば西洋に追いつくための情報の受信が第一義であった近代日本の教育の反省に基づき、神戸・日本・アジアからの情報を発信するシステム作りと人材の育成となる。これらにはコンピュータによる情報教育とならんで、当然のことながら、外国語の訓練も含まれている。

2. 歴史文化学科の教育課程

a. 特色

既に述べたように、本学ではアクチュアルで学際的な基礎共通科目及び国際言語文化科目のAV機器とネイティブスピーカーによる双方向的な実用外国語授業、全学的な情報処理教育の導入等が既に実施されており、これらの全学的な努力の基礎の上に、歴史文化学科独自の理念を現実化するために、次のような原理に基づいてカリキュラムを構成している。

第1に、専攻制・コース制を避けて幅広い学習の可能性を提供する。

第2に、1年次に学科全体を展望し、学生各自が自己の関心に適合した問題系を発見できるように導く。

第3に、1年次の「基礎演習Ⅰ」は教員一人当たり数名の学生で編成され、文献検索・内容の理解・要旨の抽出とコメントなどの基礎訓練を施す。

第4に、演習形式、実習形式等の双方向型の科目を多数用意する。

第5に、1年次の「基礎演習Ⅱ」は、グループワーク形式の授業によって共同作業やプレゼンテーションに慣れるとともに、「基礎演習」と2年次の「演習」とを結ぶことを目指している。

第6に、1年次の「日本学」では、様々な専門を持つ教員が、例えば「アジア人の見る日本」「世界地図の中の日本」「日本近代の伝統と西欧主義の相克」等のテーマで、日本とその文化を論じ、学問の多様性と世界の中の日本を理解させる。

第7に、「阪神文化論」では、阪神地区に発生した新文化の研究者や、それらを担っている人々を学外から招聘し、様々な分野から神戸の特色や異文化との接触・融合を論じ、地域情報の整理や公表のあり方を認知させる。

第8に、「観光文明学」では、観光の人々を自発的な移動と情報の伝達による文明の体系にとらえ、人類学・地理学・民俗学・歴史学の諸側面から論じ、原理と動態と将来性について理解させる。

第9に、教員免許・司書資格・学芸員資格の取得が可能である。

第10に、5種類の中級・上級外国語科目の単位を卒業必要単位として重視し、その履修を推奨する。

Ⅱ. 科目履修上の諸注意

1. 所属する年次をこえる配当年次の授業科目は履修できない。
2. 履修条件について

下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
地理学・民俗学資料研究Ⅲ	「地理と情報Ⅰ」「地理と情報Ⅱ」を並行履修もしくは単位を修得していること。

3. 演習Ⅰ

「演習Ⅰ」を履修する学生は、事前に予備登録をしなければならない。予備登録は歴史文化学科で行うが、その時期・方法等については10月頃に掲示する。

4. 卒業研究

歴史文化学科4年次の学生は「卒業研究」を履修登録した上で、卒業論文を提出しなければならない。論文提出の時期等は、『履修ガイドブック』を参照すること。

博物館学芸員養成課程（文学部歴史文化学科 対象）

博物館学芸員は、博物館で資料の収集、保管、調査研究そして展示等に携わる専門職員である。ここでの博物館とは、歴史・考古・民族（民俗）の博物館、美術館、郷土館、記念館などを幅広く含んでいる。これらの博物館は社会教育・生涯教育のための施設であるため、学芸員は研究者と教育者という二つの性格を持っている。

学芸員資格は、学士の称号を有し、法令によって定められた単位を大学で修得することによって得ることができる。本学では文学部歴史文化学科・人間科学科および理工学部生物学科・物理学科の専門科目のなかに学芸員に関わる科目を設けており、所定の単位を修得した者に対しては、大学が学芸員の資格を授与する。学芸員は魅力ある専門職であるが、博物館に学芸員として就職することは簡単ではない。しかし学芸員の課程で学び、資格を得ることによって調査・研究の能力を高め、社会活動の実践力を身につけることは、一般の企業で調査・企画に従事したり、ボランティアなどの社会活動を行う際に活用できるであろう。

（1）学芸員課程の履修

1. 学芸員資格を取得するためには、1年次から4年次までの各年度で行われるガイダンスを受講、1年次後半に学芸員課程登録をする必要がある。
2. 2年次以降、(a) 歴史文化領域コース、(b) 美術領域コースの2コースから1つを選択して履修する。1年次後半にガイダンスを受講し、学芸員課程登録とともにコースを選択する必要がある。なお(b) 美術領域コースを選択する場合は、選択必修科目が卒業単位に認定されない場合もあるため、事前に担当者に相談すること。
3. 学芸員課程は、大学での講義・学内実習と博物館・美術館での館園実習とに分けられる。講義・学内実習は一般の授業と同じように履修すること。館園実習は大学が推薦する実習受け入れ施設で行う。
4. 学内実習・館園実習の履修には、所定の実習費を納める必要がある。
5. 館園実習については以下の点に注意すること。
 - ① 館園実習を履修するまでに、それ以外の必修科目をすべて修得しておく必要がある。
 - ② 実習を受け入れてくれる施設は極めて限られており、貴重な文化財や美術品を取り扱う場合もある。そのため実習希望者については、歴史文化学科の専門科目および学芸員養成課程の必修科目・選択必修科目の成績と面接によって審査し、実習施設を紹介する。
 - ③ 実習施設への申し込みの後に実習を辞退することや、実習途中で取り止めることは認めない。
 - ④ 実習の期間は実習施設によって異なる。多くは4年次夏休みだが、4年次の前期・後期の授業期間になる場合もある。そのため実習日程に応じて、事前指導等の日程は変更になることがある。

(2) 学芸員課程に必要な科目

[2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用]

授 業 科 目	単位	必要単位数
生涯学習概論	2	必修 11 科目 19 単位
博物館概論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館情報・メディア論	2	
博物館実習Ⅰ	1	
博物館実習Ⅱ	1	
博物館実習Ⅲ	1	
日本文化史	2	選択必修 A～H の 科目群について、1 群 4 単位以上、か つ 2 群 8 単位以上
アジア文化史	2	
阪神文化論Ⅰ	2	
阪神文化論Ⅱ	2	
歴史と美術	2	
西洋美術史	2	
日本美術史	2	
モダンアート研究	2	
現代芸術研究	2	
考古学Ⅰ	2	
考古学Ⅱ	2	
民俗学の諸問題	4	
環境学入門	2	
環境学Ⅰ	2	
環境学Ⅱ	2	
環境教育の実践	2	
環境生態学	2	
地学通論	4	
物理学通論Ⅰ	4	H
基礎物理学Ⅱ	2	

注 1. 学芸員養成課程には、歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースの 3 つがある。学科の専門性に応じ、歴史文化学科の学生は歴史文化領域コースもしくは美術領域コースを選択すること。

注 2. 必修科目のうち、博物館概論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館実習Ⅰ、博物館実習Ⅱ、博物館実習Ⅲは複数クラス開講されるので、指定のクラスを履修すること。

注 3. 選択必修科目について、歴史文化領域コース及び美術領域コースは科目群 A B C D を履修することが望ましい。

(3) 学芸員課程のスケジュール

以下のスケジュールに従ってガイダンスや履修指導を行う。変更がある場合には、その都度、連絡するので掲示に注意すること。

1 年 次	4 月 7 月 12 月～1 月	新入生ガイダンス 仮登録 予備登録(1)
2 年 次	4 月	履修希望者へのガイダンス
3 年 次	4 月	履修希望者へのガイダンスと予備登録(2)
	12 月～1 月	館園実習希望者への面接
	1 月～3 月	館園実習予定者の発表、実習の事前指導(1)
4 年 次	4 月 6 月～7 月	実習登録・履修登録 実習の事前指導(2)
	夏期休暇中	学外館園実習(「博物館実習Ⅲ」およそ 7 日間)
	3 月	学芸員課程の修了書の授与(卒業時)

「GIS 学術士」の資格認定制度について

GIS 学術士は、地理情報をコンピュータによって分析する GIS（地理情報システム）の学術を保有するものとして、（社）日本地理学会によって認定される資格である。この資格の認定に際しては、下記の条件が必要になる。

①資格申請に必要な科目：主に歴史文化学科で開講されている以下の【A】～【D】全ての科目について、「良」以上の成績で単位を取得していることが必要となる（【A】は基礎共通科目）。また、地理学分野において GIS を活用した内容の卒業論文を提出する必要があることから、地理学の分野におけるゼミに 2 年次から登録する必要がある。

【A】「IT 基礎」（2 単位）

GIS に関連する情報処理を中心とする科目

【B】「地理と情報Ⅰ」（2 単位）

GIS の基本的機能と空間データの講義を中心とする科目

【C】「地理と情報Ⅱ」（2 単位）

「地理学民俗学資料研究Ⅲ」（2 単位）

GIS による地図作成・空間分析の実習を中心とする科目

【D】「卒業研究」（中辻・鳴海のいずれか）（8 単位）

GIS を利用した卒業論文を執筆する科目

②GIS 学術士等の申請方法：（社）日本地理学会 GIS 学術士資格委員会のホームページ（<http://www.ajg.or.jp/gisg/gis-gi.html>）を参照し、各自で申請手続きをすること。この際、卒業証明書、成績証明書等が必要になる。

③GIS 学術士（見込み）の認定：大学在籍期間が 3 年以上で、次の要件を満たしていれば GIS 学術士（見込み）の認定手続きをおこなうことができる。申請の手続きは本人が行う。

(1) 【A】、【B】、【C】に対応した科目の単位を申請時まで、2 科目以上修得していること

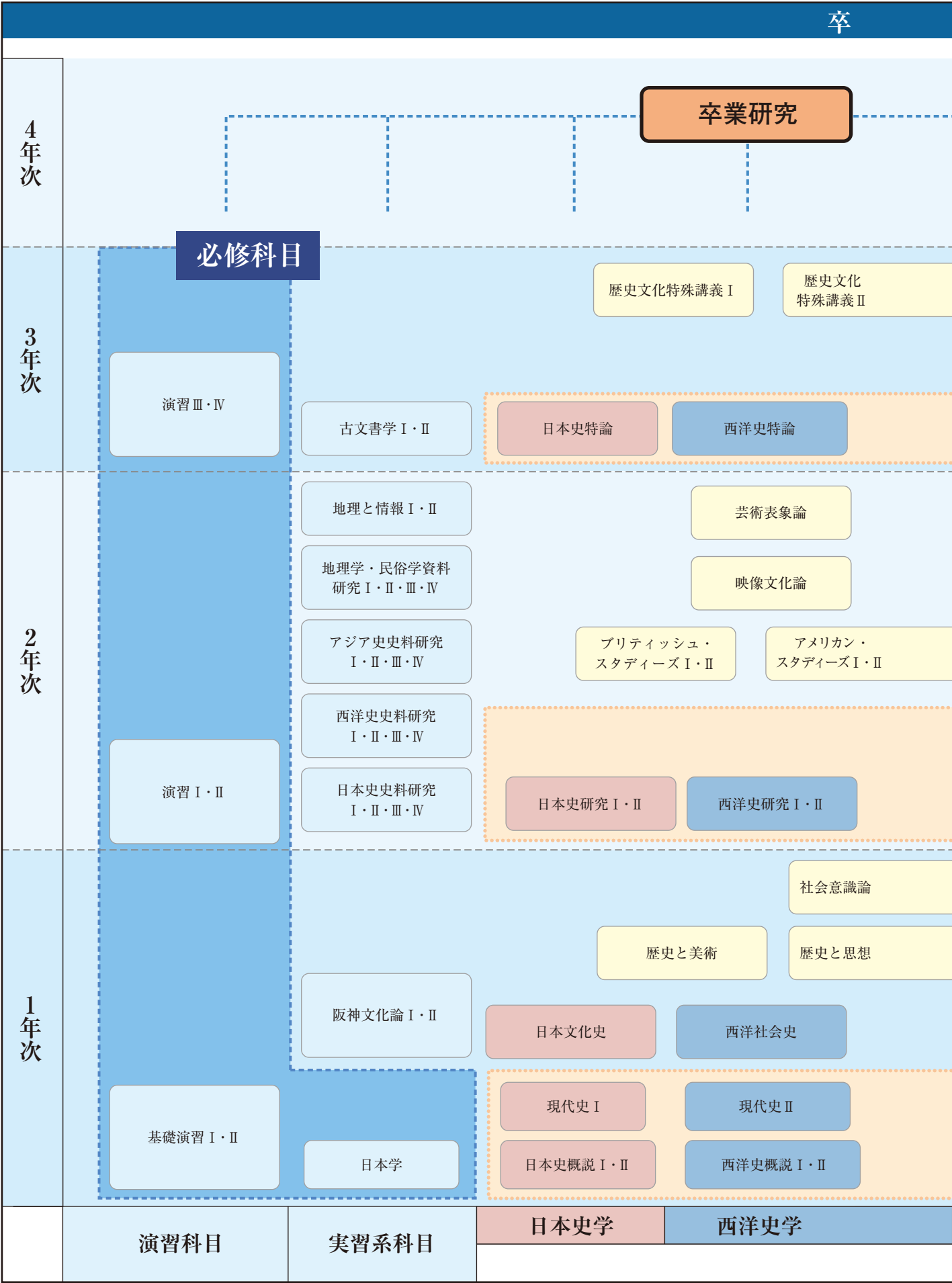
(2) (1) の単位取得済み科目と今年度履修中の科目の合計が 3 科目以上であること

④GIS 学術士の認定：指定された科目を取得のうえ、卒業したものは（社）日本地理学会に申請し、GIS 学術士となることができる。

※GIS 学術士（見込み）は全科目修得した後、変更申請を経て、GIS 学術士となる。

⑤審査料：日本地理学会の資格認定にかかる審査は有料である。

文学部 歴史文化学科 カリキュラムツリー



〔2018年度(平成30年度)以降の入学生に適用〕

業

			博物館実習Ⅲ 博物館展示論 博物館資料保存論 博物館情報・メディア論 博物館実習Ⅱ
	歴史文化特殊講義Ⅲ	歴史文化特殊講義Ⅳ	
	実践地域学	観光文明学Ⅰ・Ⅱ	
アジア史特論	文化地理学	基本科目	
西洋美術史	日本美術史		
現代文化論	地域社会論		博物館経営論 博物館資料論 博物館実習Ⅰ 社会人間学 社会学概論 社会調査法 フィールドワーク研究 宗教思想史 日本哲学史 法律学概論 政治学原論
	文化交流史	技術と文化	
	人文地理Ⅰ・Ⅱ	基本科目	
アジア史研究Ⅰ・Ⅱ	地誌Ⅰ・Ⅱ	民俗文化研究Ⅰ・Ⅱ	
	都市空間論		博物館概論 博物館教育論 生涯学習概論 文化人類学 多文化共生論 哲学入門 倫理想基礎論Ⅰ・Ⅱ 政治学入門
	歴史と自然	考古学Ⅰ・Ⅱ	
アジア文化史	自然地理学		
現代史Ⅲ		基本科目	
アジア史概説Ⅰ・Ⅱ	地理学の諸問題Ⅰ・Ⅱ	民俗学の諸問題	
東洋史学	地理学	民俗学	関連科目 (自由選択科目)
専門科目			

共通・関連科目

共通・関連科目表

[2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用]

授 業 科 目		単 位	配 当 年 次	備 考	授 業 科 目		単 位	配 当 年 次	備 考
横断科目	横断演習Ⅰ	2	1		キャリア科目	ベーシック・キャリアデザイン	2	1	2単位まで自由 選択科目とし て卒業必要単 位数に算入で きる
	横断演習Ⅱ	2	1			インターンシップ	2	1	
地域連携講座科目	関西のことばと文学	2	2			キャリアゼミ	2	2	
	地域社会論	2	2			プラクティカル・キャリアデザイン	2	3	
	N P O / N G O 論	2	2		言語基礎科目	アドバンスト・キャリアデザイン	2	4	
	メディア文化論	2	2			ギリシア語入門	2	2	
	阪神文化論Ⅰ	2	1			ラテン語入門	2	2	
	阪神文化論Ⅱ	2	1		社会科学基礎科目	初級マクロ経済学	2	1	
	観光文明学Ⅰ	2	3			初級ミクロ経済学	2	1	
	観光文明学Ⅱ	2	3			初級マクロ経済史	4	3	
国際交流科目	ジャパNSTAディーズ1	3	2			初級ミクロ経済史Ⅰ	2	2	
	ジャパNSTAディーズ2	3	2			初級ミクロ経済史Ⅱ	2	3	
	ジャパNSTAディーズ3	3	2			初級ミクロ経済史Ⅲ	2	3	
	ジャパNSTAディーズ4	3	2			初級ミクロ経済史Ⅳ	2	3	
	ジャパNSTAディーズ5	3	2			初級ミクロ経済史Ⅴ	2	1	
	ジャパNSTAディーズ6	3	2			初級ミクロ経済史Ⅵ	2	2	
	ジャパNSTAディーズ7	3	2			初級ミクロ経済史Ⅶ	2	2	
	ジャパNSTAディーズ8	3	2			初級ミクロ経済史Ⅷ	4	2	
	ジャパNSTAディーズ9	3	2			初級ミクロ経済史Ⅸ	4	3	
	ジャパNSTAディーズ10	3	2			初級ミクロ経済史Ⅹ	4	3	
	ジャパNSTAディーズ11	3	2		教職関連科目	初級ミクロ経済史Ⅺ	2	2	
	ジャパNSTAディーズ12	3	2			初級ミクロ経済史Ⅻ	2	2	
	ジャパNSTAディーズ13	2	1			初級ミクロ経済史Ⅼ	2	2	
	ジャパNSTAディーズ14	2	1			初級ミクロ経済史Ⅽ	2	2	

1. 所属する年次をこえる配当年次の授業科目は履修できない。
2. キャリア科目は、2単位まで自由選択科目として卒業必要単位数に算入できる。なお、原則として、他学部での該当科目の履修は認めない。

理 工 学 部

理 工 学 部

教育基本方針

甲南大学理工学部は、平生鈺三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、いずれの学科においても、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。理工学部は教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 16 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（理学）又は学士（理工学）の学位を授与します。

- (1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
- (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
- (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
- (4) 自然科学に関する基礎的な素養の基に、各学科に関わる専門分野の基本的な知識・技術を修得しています。
- (5) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
- (6) 事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

1. 理工学部生は、入学を認められた学科について、学則により指定された必修・選択必修科目の単位を修得しなければならない。また、履修科目の選択にあたっては、学科主任、指導主任及びそれぞれの授業科目の担当教員に相談の上、その選択を誤らないよう留意されたい。
2. 所属学科により、履修科目が異なるので科目を選択するにあたっては、充分注意すること。
3. 専門教育科目は、配当年次を考慮して履修すること。所属する年次を超える配当年次の授業科目は原則として履修できない。

4. 次の授業科目は、設備等に限界があるため、該当学科の学生以外の履修は原則として認めない。

ただし、特に希望する者については選考の上、許可することがあるので、履修登録とは別に、理由を付した履修許可願を教務部へ提出すること。提出期日は、『履修ガイドブック』を参照すること。

物 理 学 科：「基礎物理学実験」、「ラボラトリー・フィジックスⅠ・Ⅱ」、「物理学実験Ⅰ・Ⅱ」、「コンピュータ入門」、「コンピュータ実習Ⅰ・Ⅱ」、「計算物理ワークショップ」、「実験工房ワークショップ」、「天体観測ワークショップ」

生 物 学 科：「生物学専門実験及び演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「科学英語演習Ⅰ・Ⅱ」

機能分子化学科：「機能分子化学実験入門」、「機能分子化学実験A・B・C」、「化学コンピュータ演習」

5. 各学科共通の「共通・関連科目表」は理工学部最終ページに記載してある。
6. 理工学部では、次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重、かつ十分に検討した上で履修科目を選択すること

理工学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔平成 31 年 2 月 13 日 改正〕

理工学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりとする。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

(物理学科)

【平成 31 年度以降入学生】

- 1 物理学科の学生が履修登録できる上限の単位数は次のとおりとする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内

- 2 次に掲げる科目については、前項の単位制限を受けない。

- (1) 物理学科専門教育科目のうち、卒業必要単位数に充てることができない科目
- (2) 海外語学講座・留学支援科目
- (3) キャリア科目
- (4) 他学部・他学科専門教育科目

- (5) 国際交流科目
- (6) 教育職員免許状を得るために必要な「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」
- (7) 図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- (8) 学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
- (9) 公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- (10) キャリア創生共通科目
- (11) その他の卒業必要単位に算入されない授業科目

(生物学科)

【平成 31 年度以降入学生】

1 生物学科の学生が履修登録できる上限の単位数は次のとおりとする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内

2 次に掲げる科目については、前項の単位制限を受けない。

- (1) 生物学科専門教育科目のうち集中科目である「生物学特殊講義Ⅰ～Ⅵ」、「生物学臨海実習」
- (2) 海外語学講座・留学支援科目
- (3) 実施後に単位認定申請書などの提出を行い当該科目の履修登録を行う科目である「生物学特設科目Ⅰ・Ⅱ」、「Biological ScienceⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」
- (4) キャリア科目
- (5) 他学部・他学科専門教育科目
- (6) 国際交流科目
- (7) 教育職員免許状を得るために必要な「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」
- (8) 図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- (9) 学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
- (10) 博物館学芸員養成課程科目（生物学科専門教育科目のうち選択必修科目 A 及び C に含まれる科目を除く）
- (11) 公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- (12) キャリア創生共通科目
- (13) その他の卒業必要単位に算入されない授業科目

(機能分子化学科)

【平成 31 年度以降入学生】

1 機能分子化学科の学生が履修登録できる上限の単位数は次のとおりとする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内

2 1 年次に履修できる基礎共通科目・国際言語文化科目の単位数は上記 1 の単位数内で 12 単位を限度とする。

3 次に掲げる科目については、上記 1 の単位制限を受けない。

- (1) 海外語学講座・留学支援科目
- (2) キャリア科目
- (3) 他学部・他学科専門教育科目

- (4) 国際交流科目
- (5) 教育職員免許状を得るために必要な「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」
- (6) 図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- (7) 学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
- (8) 公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- (9) キャリア創生共通科目
- (10) その他の卒業必要単位に算入されない授業科目

(中略・平成 30 年度以前入学生適用表 略)

(改廃)

この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

物理学科

教育基本方針

甲南大学理工学部は、平生鈺三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざします。

さらに、物理学科は、あらゆる自然現象の基本となる物理法則を理解し、その論理性を応用することによって将来広く社会に貢献できる学生の養成をめざします。また社会で活躍するための総合力を実験、実習を通して養成します。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。物理学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 16 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（理学）又は学士（理工学）の学位を授与します。

- (1) 社会人として必要な責任感、倫理観、自己管理力、協調性を有しています。
- (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
- (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
- (4) 物理学に関する基本的な知識を修得しています。
- (5) 共同作業を円滑に進めるためのコミュニケーション能力や、自己の意見をわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を有しています。
- (6) 物理学の専門知識の修得を通して、問題発見能力や論理的思考力・手法を身につけ、社会の発展に貢献する意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

理工学部物理学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1) 教育内容

- (1) 大学における物理学の学びの基盤となる基礎の実験法やレポートの書き方、基本的計算法などを習得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において少人数で学ぶ基礎的な実験及び演習科目を設けます。
- (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
- (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。
- (4) 物理学の学びの基盤をつくるため、物理分野以外の自然科学の科目や情報技術に関する科目等を配置します。
- (5) 物理学に関する知識及び論理的思考力を修得できるように科目毎に必修、選択必修又は自由選択の別を設け、段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。また実験を通して物理学を理解するために、各年次で必修の実験科目を配置します。
- (6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。
- (7) 在学中の学修成果を集大成する仕組みとして、また社会人として必要な責任感と倫理観を養成するために卒業研究を必修科目として配置します。

2) 教育方法

- (1) 1) に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実験、実習のいずれか又はこれらの併用により授業を実施します。
- (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実験・演習を行います。また集大成として卒業研究を行います。
- (3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、グループ・ディスカッションなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
- (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の修得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3) 学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ													
到達目標												対応する卒業認定・学位授与の方針（学科）の番号	
A	周辺分野の理解と幅広い見方の修得											(3)	
B	数学的思考法の習得とコンピュータの活用											(3)	
C	日本語の文章表現力および英語の文献読解力の修得											(3) (5)	
D	科学と社会とのかかわりについての理解											(3)	
E	責任感、倫理観、自己管理能力、協調性の涵養											(1) (2)	
F	コミュニケーション力とプレゼンテーション力の修得											(5)	
G	専門分野の基礎的原理・法則の理解											(4)	
H	実験の遂行と、理論モデルとの比較による現象の理解											(4)	
I	論理的思考法・手法の修得											(6)	
J	専門知識の応用											(2) (6)	
専門教育科目表（物理学科）													
〔2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用〕													
授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
必修	基礎物理学実験	1	1			○		○	○		○		
	ラボラトリー・フィジックスⅠ	2	1			○		○	○		○		
	ラボラトリー・フィジックスⅡ	2	2			○		○	○		○		
	力学Ⅰ	2	1							○		○	
	力学Ⅱ	2	2							○		○	
	電磁気学Ⅰ	2	1							○		○	
	電磁気学Ⅱ	2	2							○		○	
	統計力学Ⅰ	2	3							○		○	
	量子力学Ⅰ	2	3							○		○	
	物理学実験Ⅰ	2	2			○		○	○		○		
	物理学実験Ⅱ	2	3			○		○	○		○		
以上 21 単位必修													
少人数・参加型科目	ワークショップⅠ a	1	1		○					○		○	
	ワークショップⅠ b	1	1		○					○		○	
	ワークショップⅡ a	1	2		○					○		○	
	ワークショップⅡ b	1	2		○					○		○	
	ワークショップⅢ a	1	3		○					○		○	
	ワークショップⅢ b	1	3		○					○		○	
	ワークショップⅣ a	1	4		○					○		○	
	ワークショップⅣ b	1	4		○					○		○	
	計算物理ワークショップ	3	3		○			○		○	○		○
	実験工房ワークショップ	2	2			○		○	○		○		○
	天体観測ワークショップ	2	2			○		○	○		○		○
選択必修科目 ①	基礎物理学Ⅰ	2	1							○		○	
	基礎物理学Ⅱ	2	1							○		○	
	微分積分学Ⅰ	2	1	○	○								
	微分積分学Ⅱ	2	1	○	○								
	線形代数学Ⅰ	2	1	○	○								
	線形代数学Ⅱ	2	1	○	○								
	コンピュータ入門	2	1		○								
	物理数学Ⅰ	2	2		○					○		○	
	物理数学Ⅱ	2	2		○					○		○	
	原子物理学	2	2							○		○	
	解析力学	2	2							○		○	
	電磁気学Ⅲ	2	2							○		○	
	熱力学	2	2							○		○	
	相対性理論	2	2							○		○	
選択必修科目 ②	コンピュータ実習Ⅰ	2	2		○								
	コンピュータ実習Ⅱ	2	2		○								
	電気・電子回路	2	2							○		○	
以上①のうち 20 単位以上選択必修													

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
選択必修科目 ⑧	統計力学Ⅱ	2	3							○		○	
	量子力学Ⅱ	2	3							○		○	
	量子力学Ⅲ	2	4							○		○	
	数理解物理学	2	3		○					○		○	
	物性物理学Ⅰ	2	3							○		○	
	物性物理学Ⅱ	2	3							○		○	
	流体力学Ⅰ	2	3							○		○	
	流体力学Ⅱ	2	4							○		○	
	情報通信科学	2	4							○		○	
	製図学	2	4							○		○	
以上⑧のうち8単位以上選択必修													
自由選択科目	確率統計学	4	2	○	○								
	基礎数学	2	1	○	○								
	代数学Ⅰ	2	3	○	○								
	代数学Ⅱ	2	3	○	○								
	解析学Ⅰ	2	3	○	○								
	解析学Ⅱ	2	3	○	○								
	コンピュータサイエンス	2	2	○	○								
	ソフトウェア工学	2	3	○	○								
	地学通論	4	1	○									
	化学通論	4	1	○									
	生物学通論Ⅰ	2	2	○									
	生物学通論Ⅱ	2	2	○									
	地学実験	3	2	○		○	○		○		○		
	基礎化学実験	3	2	○		○	○		○		○		
	基礎生物学実験	3	2	○		○	○		○		○		
※	物理学通論	4	1							○		○	
以上自由選択科目													
宇宙理学コース	素粒子物理学	[隔年]	2	3・4									○
	原子核物理学	[隔年]	2	3・4									○
	天文学概論	[隔年]	2	3・4									○
	宇宙物理学	[隔年]	2	3・4									○
	放射線計測学	[隔年]	2	3・4									○
	宇宙理学リサーチ		4	3	○		○	○	○	○		○	○
	以上⑪選択必修科目のうち8単位以上選択必修												
	物理学卒業研究		8	4	○		○	○	○	○		○	○
以上8単位必修													
理工学コース	電子物性物理学	[隔年]	2	3・4									○
	光・量子エレクトロニクス	[隔年]	2	3・4									○
	レーザー光学	[隔年]	2	3・4									○
	光物性物理学	[隔年]	2	3・4									○
	半導体デバイス	[隔年]	2	3・4									○
	理工学リサーチ		4	3	○		○	○	○	○		○	○
	以上⑫選択必修科目のうち8単位以上選択必修												
	物理学卒業研究		8	4	○		○	○	○	○		○	○
以上8単位必修													
学芸員科目 ※	生涯学習概論		2	1	○				○				
	博物館概論		2	1	○								
	博物館経営論		2	2	○								
	博物館資料論		2	2	○								
	博物館資料保存論		2	3	○								
	博物館展示論		2	3	○								
	博物館教育論		2	1	○				○				
	博物館情報・メディア論		2	3	○	○							
	博物館実習Ⅰ		1	2	○	○		○					
	博物館実習Ⅱ		1	3	○	○		○					
	博物館実習Ⅲ		1	4	○	○		○					
卒業必要単位数 102単位以上													

※の科目は卒業必要単位数に充てることはできない。

【卒業必要単位数】

1. 理工学部物理学の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	16 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
・ 学科共通科目	
必修科目	21 単位
選択必修科目 ①より	20 単位以上
②より	8 単位以上
少人数・参加型科目・自由選択科目	
・ コース別選択必修科目	
宇宙理学コース：①より	8 単位以上
物理工学コース：②より	8 単位以上
・ 物理学卒業研究	8 単位必修
合 計	128 単位以上

2. 中級英語、海外語学講座Ⅰ、エリアスタディーズⅠ～Ⅹ、大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ、大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ、IT システム開発については、専門教育科目として 8 単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。
3. 大学日本語科目（大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ、大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生のみ履修することができる。
4. 理工学部共通・関連科目のキャリア科目については、専門教育科目として 2 単位を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。
5. 3 年次後期始めに選択するコースによって、卒業時に授与される学位が異なる。宇宙理学コース卒業生には「学士（理学）」が授与される。ただし、「学士（理工学）」の学位取得を希望する場合には、物理工学コースの選択必修科目 C2 から 4 単位以上を修得すれば取得可能である。物理工学コース卒業生には「学士（理工学）」が授与される。ただし、「学士（理学）」の学位取得を希望する場合には、宇宙理学コースの選択必修科目 C1 から 4 単位以上を修得すれば取得可能である。原則として、卒業年度の 1 月にその希望調査を行うので、教務部の掲示板（3 号館 1 階）に十分注意すること。

I. コース選択に関する注意

1. 物理学科学生は3年次後期始めにコース選択（宇宙理学コース・物理工学コース）を行う。
2. 宇宙理学コースの学生は宇宙理学コース科目の選択必修科目 C1 より最低8単位以上選択しなくてはならない。宇宙理学コースの学生が履修した物理工学コース C2 科目は、自由選択科目となる。

また本コースの「宇宙理学リサーチ」および「物理学卒業研究」は原子核、宇宙粒子、宇宙理論のいずれかの研究室で行われる。

3. 物理工学コースの学生は物理工学コースの選択必修科目 C2 より最低8単位以上選択しなくてはならない。物理工学コースの学生が履修した宇宙理学コース C1 科目は、自由選択科目となる。

また本コースの「物理工学リサーチ」及び「物理学卒業研究」は光物性、半導体、光・量子エレクトロニクス、電子物性のいずれかの研究室で行われる。

II. 科目履修上の諸注意

1. 履修条件について

以下の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
物 理 学 卒 業 研 究	卒業に必要な基礎共通科目または国際言語文化科目、外国語科目の基礎外国語、保健体育科目の基礎体育学演習および卒業に必要な専門教育科目の修得単位数があわせて88単位以上あること。
宇 宙 理 学 リ サ ー チ 物 理 工 学 リ サ ー チ	卒業に必要な基礎共通科目または国際言語文化科目、外国語科目の基礎外国語、保健体育科目の基礎体育学演習および卒業に必要な専門教育科目の修得単位数があわせて62単位以上あること。

2. 数学および物理の基礎学力テストに合格しなかったものは1年次では必修科目「力学Ⅰ」、「電磁気学Ⅰ」の単位を修得できない。ただし、基礎学力テストに合格しなかった科目がある学生でも、当該科目の補習を受講し、かつ最終試験に合格した場合は、このかぎりではない。基礎学力テストおよび補習については新入生履修指導において説明する。
3. 少人数・参加型ワークショップ科目は、2008年度より始まった実践的な科目であるため、以下のような学生の履修を勧める。

「しっかりした基礎力をつけたい」、「科目の不得意領域をなくしたい」、「発展的な学修をしたい」、「大学院への進学準備をしたい」、「コンピュータを使って物理を深く理解したい」、「じゅうぶん時間をかけ試行錯誤して実験をしてみたい」などと考えている学生。

4. 「宇宙理学リサーチ」、「物理工学リサーチ」は、所属するコース以外のものを履修することはできない。
5. 「物理学卒業研究」を履修するには、「宇宙理学リサーチ」または「物理工学リサーチ」を修得しておくことが望ましい。

6. 「物理学卒業研究」は最終年度に履修するものとし、4年次始めに履修条件を満たしていること。
7. 物理学科の学生が理科の教育職員免許状を取得する場合は、「物理学通論」を別途履修する必要がある。ただし、この科目の単位は専門教育科目の卒業必要単位の中に算入されないので、注意すること。
8. 「実験工房ワークショップ」と「天体観測ワークショップ」には履修要件および定員を設けているので、必ずそれぞれのガイダンスに出席し、予備登録を行うこと。履修要件を満たす希望者数が定員を超えた場合は選考を行う。履修要件については別途シラバスで確認を行うこと。

博物館学芸員養成課程（理工学部物理学科 対象）

博物館学芸員は、博物館で資料の収集、保管、調査研究そして展示等に携わる専門職員である。ここでの博物館とは、自然誌博物館、科学館、美術館、歴史・考古・民族（民俗）の博物館、郷土館、記念館などを幅広く含んでいる。これらの博物館は社会教育・生涯教育のための施設であるため、学芸員は研究者と教育者という二つの性格を持っている。

学芸員資格は、学士の称号を有し、法令によって定められた単位を大学で修得することによって得ることができる。本学では、理工学部物理学科・生物学科、文学部人間科学科・歴史文化学科の専門科目のなかに学芸員に関わる科目を設けており、所定の単位を修得した者に対しては、大学が学芸員の資格を授与する。学芸員は魅力ある専門職であるが、博物館に学芸員として就職することは簡単ではない。しかし学芸員の課程で学び、資格を得ることによって調査・研究の能力を高め、社会活動の実践力を身につけることは、一般の企業で調査・企画に従事したり、ボランティアなどの社会活動を行う際に活用できるであろう。

(1) 学芸員課程の履修

1. 学芸員資格を取得するためには、1年次から4年次までの各年度で行われるガイダンスを受講し、1年次後半に学芸員課程登録をする必要がある。
2. 2年次以降、環境領域コースを選択して履修する。
3. 学芸員課程は、大学での講義・学内実習と博物館・美術館での館園実習とに分けられる。講義・学内実習は一般の授業と同じように履修すること。館園実習は大学が推薦する実習受け入れ施設で行う。
4. 学内実習・館園実習の履修には、所定の実習費を納める必要がある。
5. 館園実習については以下の点に注意すること。
 - ① 館園実習を履修するまでに、それ以外の所定の科目をすべて修得しておく必要がある。
 - ② 実習を受け入れてくれる施設は極めて限られており、貴重な文化財や美術品を取り扱う場合もある。そのため実習希望者については、物理学科の専門科目および学芸員養成課程の必修科目・選択必修科目の成績と面接によって審査し、実習施設を紹介する。
 - ③ 実習施設への申し込みの後に実習を辞退することや、実習途中で取り止めることは認めない。
 - ④ 実習の期間は実習施設によって異なる。多くは4年次夏休みだが、4年次の前期・後期の授業期間になる場合もある。そのため実習日程に応じて、事前指導等の日程は変更になることがある。

(2) 学芸員課程に必要な科目

[2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用]

授 業 科 目	単位	必要単位数
生涯学習概論	2	必修 11 科目 19 単位
博物館概論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館情報・メディア論	2	
博物館実習Ⅰ	1	
博物館実習Ⅱ	1	
博物館実習Ⅲ	1	
日本文化史	2	選択必修 A～H の 科目群について、 1 群 4 単位以上、 かつ 2 群 8 単位以上
アジア文化史	2	
阪神文化論Ⅰ	2	
阪神文化論Ⅱ	2	
歴史と美術	2	
西洋美術史	2	
日本美術史	2	
モダンアート研究	2	
現代芸術研究	2	
考古学Ⅰ	2	
考古学Ⅱ	2	
民俗学の諸問題	4	
環境学入門	2	
環境学Ⅰ	2	
環境学Ⅱ	2	
環境教育の実践	2	
環境生物学	2	
生態学	2	
地学通論	4	
物理学通論	4	
基礎物理学Ⅰ	2	H
基礎物理学Ⅱ	2	

注 1. 学芸員養成課程には、歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースの 3 つがある。学科の専門性に応じ、物理学科の学生は環境領域コースを選択すること。

注 2. 必修科目のうち、博物館概論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館実習Ⅰ、博物館実習Ⅱ、博物館実習Ⅲは複数クラス開講されるので、指定のクラスを履修すること。

注 3. 選択必修科目について、環境領域コースは A E F G H を履修することが望ましい。

(3) 学芸員課程のスケジュール

以下のスケジュールに従ってガイダンスや履修登録を行う。変更がある場合には、その都度、連絡するので掲示に注意すること。

1 年 次	4 月	新入生ガイダンス
2 年 次	4 月	履修希望者へのガイダンスと予備登録 (1)
	夏期休暇中	博物館実習Ⅰ (およそ 7 日間)
3 年 次	4 月	履修希望者へのガイダンスと予備登録 (2)
	夏期休暇中	博物館実習Ⅱ (およそ 7 日間)
	12 月～1 月	館園実習希望者への面接
	1 月～4 月	館園実習予定者の発表、実習の事前指導 (1)
4 年 次	6 月～7 月	実習の事前指導 (2)、実習登録・履修登録
	夏期休暇中	博物館実習Ⅲ (館園実習、およそ 7 日間)
	12 月	事後指導
	3 月	学芸員課程の修了書の授与 (卒業時)

理工学部	4年次	物理学卒業研究 量子力学Ⅲ 流体力学Ⅱ 宇宙理学コース 素粒子物理学 原子核物理学 天文学概論 宇宙物理学 放射線計測学 物理工学コース 電子物性物理学 光・量子エレクトロニクス レーザー光学 光物性物理学 半導体デバイス		
	3年次	宇宙理学リサーチ 物理工学リサーチ 物理学実験Ⅱ 流体力学Ⅰ 物性物理学Ⅱ 物性物理学Ⅰ 量子力学Ⅱ 統計力学Ⅱ 量子力学Ⅰ 統計力学Ⅰ		
	2年次	物理学実験Ⅰ ラボラトリー・フィジックスⅡ 解析力学 電磁気学Ⅲ 力学Ⅱ 電磁気学Ⅱ 相対性理論 原子物理学 電気・電子回路 熱力学		
	1年次	ラボラトリー・フィジックスⅠ 基礎物理学実験 力学Ⅰ 電磁気学Ⅰ 基礎物理学Ⅰ 基礎物理学Ⅱ		
		実験科目	物理基礎科目・応用科目	
		必修	選択必修	自由選択 卒業単位外

情報通信科学 製図学			ワークショップⅣb ワークショップⅣa	博物館実習Ⅲ
数理物理学			代数学Ⅱ 解析学Ⅱ 計算物理ワークショップ 代数学Ⅰ 解析学Ⅰ ソフトウェア工学	ワークショップⅢb ワークショップⅢa 博物館実習Ⅱ
物理数学Ⅱ	コンピュータサイエンス	コンピュータ実習Ⅱ	ワークショップⅡb	博物館経営論 博物館資料論
物理数学Ⅰ	確率統計学	実験工房ワークショップ 天体観測ワークショップ	ワークショップⅡa	博物館実習Ⅰ
基礎数学	教職関連科目 地学実験 基礎化学実験 基礎生物学実験 生物学通論Ⅰ・Ⅱ 地学通論 化学通論	コンピュータ実習Ⅰ	ワークショップⅠb	生涯学習概論 博物館概論 博物館教育論
微分積分学Ⅱ 線形代数学Ⅱ			ワークショップⅠa	ベーシック・ キャリアデザイン
微分積分学Ⅰ 線形代数学Ⅰ	物理学通論	コンピュータ入門		
数学・周辺分野		演習・実習科目		その他の科目

生物学科

教育基本方針

甲南大学理工学部は、平生鈺三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざします。

さらに、生物学科は、本学の学士課程における教育基本方針に則り、教養と専門とのバランスある人材を育成することに努めます。専門分野の教育において、自然科学の本質を身につけ、生物学の専門的な知識やバイオテクノロジーの基礎的な技術を修得し、人間社会の技術革新に貢献できる人材の養成をめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。生物学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 16 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（理学）の学位を授与します。

- (1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
- (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
- (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
- (4) 生物学に関する基本的な知識・技術を修得しています。
- (5) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。
- (6) 事象の中から問題を発見して論理的に考察し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

理工学部生物学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1) 教育内容

- (1) 大学における学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などを習得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において少人数で学ぶ基礎的な演習科目及び基礎専門科目、科学英語科目を設けます。また、補習授業や自主実験を設けます。
- (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
- (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。
- (4) 生物学分野の学びの基盤をつくるため、生物学分野以外の自然科学の科目、科学英語や情報技術に関する科目等を設けます。
- (5) 生物学分野に関する知識及び論理的思考力を習得できるように、生物学分野全体を俯瞰する専門科目と段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
- (6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を 1 年次から 4 年次まで継続的に実施します。
- (7) 総合的な問題解決力及び社会人として必要な責任感と倫理観を養成するために、実験科目、実習科目、卒業研究を配置します。

2) 教育方法

- (1) 1) に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実験、実習のいずれか又はこれらの併用により授業を実施します。
- (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実験・実習・演習を行います。
- (3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
- (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3) 学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ													
到達目標												対応する卒業認定・学位授与の方針（学科）の番号	
A	生物学の基礎的な知識を習得する。											(4)	
B	生物が普遍的にそなえる基盤・原理を理解する。											(4)	
C	生物の多様性・動植物の高次機能、またそれらと人間社会との関わりを理解する。											(4)	
D	基礎的な生命科学技術と、実験・観察結果を適切に解析・評価するための論理的思考力を身につける。											(2) (4) (6)	
E	生物学に関する専門知識と技術を応用する力を身につける。											(4) (6)	
F	人文科学・社会科学・自然科学についてのバランスの取れた教養を養う。											(2) (3)	
G	英語による、論文の読み書きや会話能力を身につける。											(2) (5)	
H	データ解析や調査に必要な情報処理技術を習得する。											(6)	
I	社会人に求められる協調性・責任感・倫理観を涵養する。											(1) (2)	
J	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を習得する。											(2) (5)	
専門教育科目表（生物学科）													
〔2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用〕													
授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
選択必修科目 ①	細胞生物学	2	2・3	○	○								
	生態学	2	2・3	○		○							
	植物生化学	2	2・3	○	○	○							
	植物細胞工学	2	2・3			○							
	遺伝学概論	2	1・2・3	○	○								
	分子遺伝学	2	1・2・3		○								
	発生学概論	2	1・2・3	○		○							
	発生生物学	2	1・2・3			○							
	生物物理化学	2	1・2・3	○	○								
	酵素化学	2	1・2・3		○								
	環境生物学	2	1・2・3	○		○							
	系統分類学	2	1・2・3		○	○							
	動物生理学	2	1・2・3			○							
	比較生理学	2	1・2・3	○		○							
	植物生理学要論	2	2・3	○		○							
	植物分子生物学	2	2・3			○							
	微生物生理学	2	2・3	○		○							
	微生物遺伝学	2	2・3			○							
	生物学入門	2	1	○							○		○ ○
	基礎生物学Ⅰ	2	1	○	○								
	基礎生物学Ⅱ	2	1	○	○								
	科学英語演習Ⅰ	2	1								○		○
	科学英語演習Ⅱ	2	1								○		○
	基礎生物学演習Ⅰ	2	2	○	○								
	基礎生物学演習Ⅱ	2	2	○	○								
①以上のうち 32 単位以上選択必修													
選択必修科目 ②	基礎生物学実験	3	2				○	○			○	○	
	生物学臨海実習	2	3			○	○	○			○	○	○
	生物学専門実験及び演習Ⅰ	5	3		○	○	○	○			○	○	○
	生物学専門実験及び演習Ⅱ	5	3		○	○	○	○			○	○	○
	生物学専門実験及び演習Ⅲ	5	3		○	○	○	○			○	○	○
	生物学専門実験及び演習Ⅳ	5	3		○	○	○	○			○	○	○
②以上のうち 20 単位以上選択必修													

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標									
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
選択必修科目	C1	生物学卒業実験	20	4		○	○	○	○		○	○	○	○
		生物学特殊講義Ⅰ	2	3		○	○							
		生物学特殊講義Ⅱ	2	3		○	○							
		生物学特殊講義Ⅲ	2	3		○	○							
		生物学特殊講義Ⅳ	2	3		○	○							
		生物学特殊講義Ⅴ	2	2		○	○							
		生物学特殊講義Ⅵ	2	2		○	○							
		生物学特設科目Ⅰ	1	3		○	○	○					○	
		生物学特設科目Ⅱ	2	3		○	○	○					○	
		Biological ScienceⅠ	1	2	○						○			
		Biological ScienceⅡ	1	2	○	○					○			
		Biological ScienceⅢ	2	2	○						○			
		Biological ScienceⅣ	2	2	○	○					○			
		化学通論	4	1						○				
		有機化学A	2	2						○				
		有機化学B	2	2						○				
		物理化学A	2	2						○				
		物理化学B	2	2						○				
		基礎化学実験	3	2						○			○	
		分析化学A	2	2						○				
		分析化学B	2	2						○				
		物理学通論	4	1						○				
		熱力学	2	2						○				
		ラボラトリー・フィジックス	3	2						○			○	
		製図学	2	4						○				
		地学通論	4	1						○				
		地学実験	3	2						○			○	
		コンピュータサイエンス	2	1						○		○		
		線形代数及び演習Ⅰ	3	1						○				
		線形代数及び演習Ⅱ	3	1						○				
		微分積分及び演習Ⅰ	3	1						○				
		微分積分及び演習Ⅱ	3	1						○				
		確率統計学	4	2				○		○				
		博物館資料論	2	2						○		○		
		博物館展示論	2	3						○		○		
		情報通信テクノロジーⅠ	2	1								○		
		IT 応用	2	1								○		○
		統計基礎Ⅰ	2	1								○		○
	C2	文化人類学	2	2						○				
		多文化共生論	2	2						○				
		自然地理学	2	1						○				
		人文地理Ⅰ	2	2						○				
		人文地理Ⅱ	2	2						○				
		環境学入門	2	2						○				
		環境学	2	2						○				
C3	中級英語 Speaking	4	2										○	
	中級英語 Presentation	4	2										○	
	中級英語 Listening	4	2							○				
	中級英語 Reading	4	2							○				
	中級英語 Writing	4	2							○				
	中級英語 Pronunciation	2	2							○				
	中級英語 T O E I C	4	2										○	
	中級英語 T O E F L	4	2										○	
	中級英語 Global TopicsⅠ	2	2							○				
	中級英語 Global TopicsⅡ	2	2							○				

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標									
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
選択必修科目	C3	中級英語 Life Topics I	2	2							○			
		中級英語 Life Topics II	2	2							○			
		中級英語 Career English I	2	2										○
		中級英語 Career English II	2	2										○
		上級英語 T O E I C	4	3										○
		上級英語 Global Topics I	2	3							○			
		上級英語 Global Topics II	2	3							○			
		上級英語 Life Topics I	2	3							○			
		上級英語 Life Topics II	2	3							○			
		上級英語 Career English I	2	3										○
		上級英語 Career English II	2	3										○
		海外語学講座 I	4	1										○
		海外語学講座 II	4	1										○
		海外語学講座 III	2	1										○
		大学日本語中級 I	4	2										○
		大学日本語中級 II	4	2										○
		大学日本語上級 I	4	3										○
		大学日本語上級 II	4	3										○
◎以上のうち 30 単位以上選択必修 ただし、C2 グループからは 8 単位を上限として、C3 グループからは 16 単位を上限として含めることができる。														
※		ベーシック・キャリアデザイン	2	1						○			○	
		生涯学習概論	2	1						○			○	
		博物館概論	2	1						○				
		博物館経営論	2	2						○				
		博物館資料保存論	2	3						○				
		博物館教育論	2	1						○			○	
		博物館情報・メディア論	2	3						○		○		
		博物館実習 I	1	2						○		○		
		博物館実習 II	1	3						○		○		
		博物館実習 III	1	4						○		○		
※以上の科目は卒業必要単位数に充てることはできない。														
卒業必要単位数 102 単位以上														

【卒業必要単位数】

- 理工学部生物学科の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	16 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
選択必修科目 ①より	32 単位以上
②より	20 単位以上
③より	30 単位以上
自由選択科目	
合 計	128 単位以上

- エリアスタディーズ I～X については 2 単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることできる。ただし、選択必修の単位数に充てることはできない。
- 大学日本語科目（大学日本語入門 I・II、大学日本語中級 I・II、大学日本語上級 I・II）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生のみ履修することができる。

I. 科目履修上の諸注意

1. 履修条件について

以下の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
生物学専門実験及び演習Ⅰ 生物学専門実験及び演習Ⅱ 生物学専門実験及び演習Ⅲ 生物学専門実験及び演習Ⅳ	「基礎生物学実験」を修得していること。これを修得していないときは、必ずこれを並行履修すること。
生 物 学 卒 業 実 験	(1) A群より32単位以上を修得していること。ただし、卒業実験の指導教員の担当する科目(4単位)を含まなければならない。 (2) B群より18単位以上を修得していること。ただし、卒業実験の指導教員の担当する実験及び演習(5単位)を含まなければならない。

2. 「生物学卒業実験」は、生物学科の最終仕上げの卒業研究としての性格をもつもので、履修することが望ましい。

これを履修しようとする者は、履修条件を共に満たしていること。

3. 「生物学卒業実験」の履修により受講時間は著しく制限されるので、履修希望者は、4年次までにできるだけ多くの生物学科専門教育科目表にある授業科目を修得することが望ましい。

4. 「生物学臨海実習」は、実習所の収容能力により定員を設けてあるので、必ずガイダンスに出席し、予備登録を行うこと。

5. 「生物学特設科目Ⅰ」、「生物学特設科目Ⅱ」は、全国各地の臨海・臨湖実験所で実施される公開臨海・臨湖実習で修得した単位を、単位数に応じて「生物学特設科目Ⅰ」(1単位)または「生物学特設科目Ⅱ」(2単位)の単位として認定するものである。この科目の履修にあたっては種々の手続きを要するので、必ずガイダンスに出席し、予備調査で登録を行い、科目担当教員(本学生物学科)とよく相談すること。場合により単位の認定が次年度になることがあるので、履修にあたっては注意すること。

6. 「Biological ScienceⅠ」、「Biological ScienceⅡ」、「Biological ScienceⅢ」、「Biological ScienceⅣ」は、国際交流センターが提供する留学プログラムで修得した生物学に関する科目の単位を、単位数に応じて「Biological ScienceⅠ」、「Biological ScienceⅡ」(1単位)または「Biological ScienceⅢ」、「Biological ScienceⅣ」(2単位)の単位として認定するものである。この科目の履修にあたっては種々の手続きを要するので、必ずガイダンスに出席し、予備調査で登録を行い、科目担当教員(本学生物学科)とよく相談すること。

7. 国際交流センターが提供する留学プログラムで修得した語学に関する科目の単位は、単位数と内容に応じて、C3にある中級英語および上級英語の単位として換算することができる。この手続きについては、留学に関するガイダンスに出席し、国際交流センターとよく相談すること。

博物館学芸員養成課程（理工学部生物学科 対象）

博物館学芸員は、博物館で資料の収集、保管、調査研究そして展示等に携わる専門職員である。ここでの博物館とは、自然誌博物館、科学館、美術館、歴史・考古・民族（民俗）の博物館、郷土館、記念館などを幅広く含んでいる。これらの博物館は社会教育・生涯教育のための施設であるため、学芸員は研究者と教育者という二つの性格を持っている。

学芸員資格は、学士の称号を有し、法令によって定められた単位を大学で修得することによって得ることができる。本学では、理工学部物理学科・生物学科、文学部人間科学科・歴史文化学科の専門科目のなかに学芸員に関わる科目を設けており、所定の単位を修得した者に対しては、大学が学芸員の資格を授与する。学芸員は魅力ある専門職であるが、博物館に学芸員として就職することは簡単ではない。しかし学芸員の課程で学び、資格を得ることによって調査・研究の能力を高め、社会活動の実践力を身につけることは、一般の企業で調査・企画に従事したり、ボランティアなどの社会活動を行う際に活用できるであろう。

（1）学芸員課程の履修

1. 学芸員資格を取得するためには、1年次から4年次までの各年度で行われるガイダンスを受講し、1年次後半に学芸員課程登録をする必要がある。
2. 2年次以降、環境領域コースを選択して履修する。
3. 学芸員課程は、大学での講義・学内実習と博物館・美術館での館園実習とに分けられる。講義・学内実習は一般の授業と同じように履修すること。館園実習は大学が推薦する実習受け入れ施設で行う。
4. 学内実習・館園実習の履修には、所定の実習費を納める必要がある。
5. 館園実習については以下の点に注意すること。
 - ① 館園実習を履修するまでに、それ以外の所定の科目をすべて修得しておく必要がある。
 - ② 実習を受け入れてくれる施設は極めて限られており、貴重な文化財や美術品を取り扱う場合もある。そのため実習希望者については、生物学科の専門科目および学芸員養成課程の必修科目・選択必修科目の成績と面接によって審査し、実習施設を紹介する。
 - ③ 実習施設への申し込みの後に実習を辞退することや、実習途中で取り止めることは認めない。
 - ④ 実習の期間は実習施設によって異なる。多くは4年次夏休みだが、4年次の前期・後期の授業期間になる場合もある。そのため実習日程に応じて、事前指導等の日程は変更になることがある。

(2) 学芸員課程に必要な科目

[2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用]

授 業 科 目	単位	必要単位数
生涯学習概論	2	必修 11 科目 19 単位
博物館概論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館情報・メディア論	2	
博物館実習Ⅰ	1	
博物館実習Ⅱ	1	
博物館実習Ⅲ	1	
日本文化史	2	A
アジア文化史	2	
阪神文化論Ⅰ	2	
阪神文化論Ⅱ	2	
歴史と美術	2	B
西洋美術史	2	
日本美術史	2	
モダンアート研究	2	
現代芸術研究	2	C
考古学Ⅰ	2	
考古学Ⅱ	2	D
民俗学の諸問題	4	
環境学入門	2	E
環境学Ⅰ	2	
人間環境論Ⅰ	2	
人間環境論Ⅱ	2	
環境教育の実践	2	F
環境生物学	2	
生態学	2	
地学通論	4	G
物理学通論	4	H
基礎物理学Ⅰ	2	
基礎物理学Ⅱ	2	

注 1. 学芸員養成課程には、歴史文化領域コース、美術領域コース、環境領域コースの 3 つがある。学科の専門性に応じ、生物学科の学生は環境領域コースを選択すること。

注 2. 必修科目のうち、博物館概論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館実習Ⅰ、博物館実習Ⅱ、博物館実習Ⅲは複数クラス開講されるので、指定のクラスを履修すること。

注 3. 選択必修科目について、環境領域コースは A E F G H を履修することが望ましい。

(3) 学芸員課程のスケジュール

以下のスケジュールに従ってガイダンスや履修登録を行う。変更がある場合には、その都度、連絡するので掲示に注意すること。

1 年 次	4 月	新入生ガイダンス
2 年 次	4 月	履修希望者へのガイダンスと予備登録 (1)
	夏期休暇中	博物館実習Ⅰ (およそ 7 日間)
3 年 次	4 月	履修希望者へのガイダンスと予備登録 (2)
	夏期休暇中	博物館実習Ⅱ (およそ 7 日間)
	12 月～1 月	館園実習希望者への面接
	1 月～4 月	館園実習予定者の発表、実習の事前指導 (1)
4 年 次	6 月～7 月	実習の事前指導 (2)、実習登録・履修登録
	夏期休暇中	博物館実習Ⅲ (館園実習、およそ 7 日間)
	12 月	事後指導
	3 月	学芸員課程の修了書の授与 (卒業時)

4年次	生物学卒業実験					
3年次				生物学臨海実習 生物学専門実験及び演習Ⅰ 生物学専門実験及び演習Ⅱ 生物学専門実験及び演習Ⅲ 生物学専門実験及び演習Ⅳ	生物学特殊講義Ⅰ 生物学特殊講義Ⅱ 生物学特殊講義Ⅲ 生物学特殊講義Ⅳ	生物学特設科目Ⅰ 生物学特設科目Ⅱ
2年次	基礎生物学演習Ⅰ 基礎生物学演習Ⅱ	遺伝学概論 分子遺伝学 発生学概論 発生生物学 生物物理化学 酵素化学 環境生物学 系統分類学 動物生理学 比較生理学	細胞生物学 生態学 植物生化学 植物細胞工学 植物生理学要論 植物分子生物学 微生物生理学 微生物遺伝学	基礎生物学実験	生物学特殊講義Ⅴ 生物学特殊講義Ⅵ	Biological ScienceⅠ Biological ScienceⅡ Biological ScienceⅢ Biological ScienceⅣ
1年次	科学英語演習Ⅰ 科学英語演習Ⅱ 生物学入門 基礎生物学Ⅰ 基礎生物学Ⅱ					化学通論 物理学通論 地学通論 コンピュータサイエンス
	A専門科目		B専門科目		C1専門科目	
	基礎	応用	発展			

業

製図学		博物館実習Ⅲ		
博物館展示論		上級英語 T O E I C 上級英語 Global Topics I 上級英語 Global Topics II 上級英語 Life Topics I 上級英語 Life Topics II 上級英語 Career English I 上級英語 Career English II 大学日本語上級 I 大学日本語上級 II		博物館資料保存論 博物館情報・メディア論 博物館実習Ⅱ
有機化学 A 有機化学 B 物理化学 A 物理化学 B 分析化学 A 分析化学 B 熱力学 確率統計学 博物館資料論	基礎化学実験 ラボラトリー・フィジックス 地学実験	文化人類学 多文化共生論 人文地理 I 人文地理 II 環境学入門 環境学	中級英語 Speaking 中級英語 Presentation 中級英語 Listening 中級英語 Reading 中級英語 Writing 中級英語 Pronunciation 中級英語 T O E I C 中級英語 T O E F L 中級英語 Global Topics I 中級英語 Global Topics II 中級英語 Life Topics I 中級英語 Life Topics II 中級英語 Career English I 中級英語 Career English II 大学日本語中級 I 大学日本語中級 II	博物館経営論 博物館実習Ⅰ
線形代数及び演習Ⅰ 線形代数及び演習Ⅱ 微分積分及び演習Ⅰ 微分積分及び演習Ⅱ	IT 応用 情報通信テクノロジーⅠ 統計基礎Ⅰ	自然地理学	海外語学講座Ⅰ 海外語学講座Ⅱ 海外語学講座Ⅲ	ベーシック・キャリアデザイン 生涯学習概論 博物館概論 博物館教育論
C1専門科目	C2専門科目	C3専門科目	その他の科目	

機能分子化学科

教育基本方針

甲南大学理工学部は、平生鈺三郎の教育理念のもと、人格の修養と健康の増進に向けた教養教育を施し、専門教育では、初代学長である荒勝文策の「自然科学の学問的土台を強固にし、純粋理学と応用科学を融合させて、時代の変化や科学・技術の新たな展開に対応して創造性を発揮できる人材を育成する」という理念に沿って、専門性を生かして広く社会に貢献できる有能な人材の育成をめざします。

さらに、機能分子化学科は、現代社会が抱える種々の課題の中でも、化学が中心的な役割を果たすことが求められている機能性材料の創製、エネルギー変換、あるいは、化学物質の環境循環などの課題に取り組む上で必要な知識を教授するとともに、問題解決能力を学生に修得させ、化学分野における重要な役割を実社会において担い得る人材を育成することをめざします。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。機能分子化学科の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 16 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（理工学）の学位を授与します。

- (1) 社会人に求められる責任感と倫理観を意識し、自己管理能力と協調性を有しています。
- (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
- (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
- (4) 無機化学、分析化学、物理化学、有機化学、高分子化学、材料化学など化学の基幹分野に関する基本的な知識を有しています。
- (5) 自分の考えを論理的にまとめ、相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有しています。
- (6) 自立的かつ論理的な思考に基づいて問題を発見し、情報の整理・分析を行い問題を解決する能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

理工学部機能分子化学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1) 教育内容

- (1) 大学における学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などを習得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において少人数で学ぶ基礎的な演習科目を設けます。また、機能分子化学科では、化学の基礎科目及び実験入門を設けます。
- (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
- (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。
- (4) 化学に関する基礎知識とその応用力を習得するため、初年次から段階的に高度化する専門科目を体系的に配置します。
- (5) 化学の知識を生かして国際的・社会的な感性を育むため、化学英語や化学研究における安全と倫理に関する科目を配置します。
- (6) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えると同時に、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。
- (7) 学修成果の集大成とその評価を行うため、卒業研究を配置して卒業論文の執筆及び卒業論文発表を行います。

2) 教育方法

- (1) 1) に掲げた教育内容を身につけるため、講義、演習、実験のいずれか、又はこれらの併用により授業を行います。
- (2) 論理的思考力、伝えたい内容を的確に表現し伝える能力、問題解決力を養成し、他者と協調・協働しながら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶため、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の演習及び実験を行います。
- (3) 考える力や洞察力を養うため、問題演習、文献調査、学生実験、コンピュータ活用、レポート作成、ディスカッションなどを活用したアクティブ・ラーニングを行います。
- (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3) 学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ											
到達目標										対応する卒業認定・学位授与の方針（学科）の番号	
A	責任感及び倫理観、自己管理、協調性の修得									(1) (2)	
B	幅広い教養と自然科学に関する基礎学力の修得									(3)	
C	化学に関する基礎的な知識の修得									(4)	
D	化学に関する高度な専門知識の修得									(2) (4) (6)	
E	論理的思考力の修得									(2) (6)	
F	コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の修得									(5)	
G	情報を整理・分析する能力の修得									(2) (4) (6)	
H	問題を見つけ解決する能力の修得									(2) (4) (6)	
専門教育科目表（機能分子化学科）											
〔2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用〕											
授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				A	B	C	D	E	F	G	H
必修科目	機能分子化学実験入門	1	1	○		○		○	○	○	○
	基礎化学実験	3	2	○	○	○		○	○	○	○
	機能分子化学実験 A	3	2	○		○		○	○	○	○
	機能分子化学実験 B	3	3	○		○		○	○	○	○
	機能分子化学実験 C	4	3	○		○		○	○	○	○
	機能分子化学卒業研究	12	4	○			○	○	○	○	○
	化学研究における安全と倫理	2	3	○		○				○	○
以上 28 単位必修											
選択必修科目 ①	化学基礎 A	2	1			○					
	化学基礎 B	2	1			○					
	分析化学基礎	2	1			○					
	物理化学基礎	2	1			○					
	有機化学基礎	2	1			○					
	無機化学基礎	2	2			○					
以上選択必修科目① 10 単位以上											
選択必修科目 ②	化学数学基礎 A	2	1		○			○			
	化学数学基礎 B	2	1		○			○			
	化学数学基礎 C	2	1		○			○			
	化学数学基礎 D	2	1		○			○			
	化学数学 A	2	2		○			○			
	化学数学 B	2	2		○			○			
	化学のための物理 A	2	2		○			○			
	化学のための物理 B	2	2		○			○			
	化学英語	2	3		○	○			○		
以上選択必修科目② 14 単位以上											
選択必修科目 ③	分析化学 A	2	2			○					
	分析化学 B	2	2			○					
	物理化学 A	2	2			○					
	物理化学 B	2	2			○					
	有機化学 A	2	2			○					
	有機化学 B	2	2			○					
	無機化学 A	2	3			○					
	無機化学 B	2	3			○					
	高分子化学 A	2	3			○					
	高分子化学 B	2	3			○					
	量子化学	2	3			○					
	以上選択必修科目③ 18 単位以上										

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				A	B	C	D	E	F	G	H
選択科目 ①	材料化学	2	2				○				
	無機材料化学	2	3				○				
	有機構造化学	2	3				○				
	錯体化学	2	3				○				
	物理化学要論 1	2	3				○	○			
	物理化学要論 2	2	3				○	○			
	応用分析化学	2	3				○				
	応用物理化学	2	3				○				
	有機合成化学	2	3				○				
	有機構造解析論	2	4				○	○			
	データ解析論	2	3				○	○		○	
	化学工学	2	3				○				
	キャリアデザイン	1	3	○					○		
	応用有機化学	2	4				○				
	化学コンピュータ演習	1	4				○	○		○	○
	機能分子化学研究ゼミ	1	3	○		○	○		○	○	○
	機能分子化学特別講義 1	1	4				○				
	機能分子化学特別講義 2	1	4				○				
以上選択科目①											
選択科目 ②	生物学通論Ⅰ	2	1		○						
	生物学通論Ⅱ	2	1		○						
	地学通論	4	1		○						
	物理学通論	4	1		○						
	基礎生物学実験	3	2	○	○			○	○	○	○
	ラボラトリー・フィジックス	3	2	○	○			○	○	○	○
	地学実験	3	2	○	○			○	○	○	○
以上選択科目②（10 単位を上限として卒業必要単位数に充てることができる）											
卒業必要単位数 102 単位以上											

【卒業必要単位数】

- 理工学部機能分子化学科の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	16 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
必修科目	28 単位
選択必修科目 ①より	10 単位以上
②より	14 単位以上
③より	18 単位以上
選択科目	
合 計	128 単位以上

- 「エリアスタディーズⅠ～Ⅹ」については 2 単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。
- 「地域ファシリテイト」の 2 単位については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。
- キャリア創生共通科目のうち情報系科目については、4 単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修および選択必修の単位数に充てることができない。

I. 科目履修上の諸注意

1. 卒業研究の分属や種々の奨学金への応募、大学院修士課程の学内推薦等に、成績を考慮することがある。
2. 以下の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授 業 科 目	履 修 条 件
基 礎 化 学 実 験	機能分子化学実験入門の単位を修得していること
機能分子化学実験 A	基礎化学実験の単位を修得していること
機能分子化学実験 B	機能分子化学実験 A の単位を修得していること
機能分子化学実験 C	機能分子化学実験 B の単位を修得していること
機能分子化学卒業研究	(1) 基礎共通科目または国際言語文化科目の単位を 12 単位以上修得していること (2) 外国語科目および保健体育科目の単位は卒業に必要な単位数を修得していること (3) 専門教育科目の単位は下記の内訳を含めて合計 80 単位以上修得していること (内訳) 必修科目：14 単位以上 選択必修科目①：10 単位以上 選択必修科目②：14 単位以上 選択必修科目③：14 単位以上 選択科目①：単位数を指定しない 選択科目②：10 単位まで充てることができる

3. 「機能分子化学卒業研究」の履修登録には、履修の前年度後期に開かれる説明会に必ず出席すること。
4. キャリア創生共通科目である「エリアスタディーズ I ～ X」は事前登録科目である。実施内容を含め、募集人員、申込み期間、実施期間、申込み方法については、履修要項 [キャリア創生共通科目] のページ、シラバスを確認すること。

[機能分子化学卒業研究に関して]

機能分子化学卒業研究は集中講義科目として開講される。機能分子化学卒業研究の成績評価は原則として (1) 卒業研究発表と (2) 卒業論文提出の両方を行った者に対して行われる。これら (1) および (2) の方法ならびに期限等については、機能分子化学卒業研究の履修期間のできるだけ早い時期に周知するので注意すること。

卒			
4年次	機能分子化学卒業研究	科目の分類 化学実験科目 化学演習科目 化学専門科目 - 化学共通 - 無機・分析系 - 物理化学系 - 有機・高分子系 自然科学基礎科目	
3年次	機能分子化学実験C	化学英語	
	化学研究における安全と倫理		
2年次	機能分子化学実験B		
	機能分子化学実験A	無機化学基礎	化学のための物理B 化学数学B
1年次	基礎化学実験		化学のための物理A 化学数学A
	機能分子化学実験入門	有機化学基礎 物理化学基礎 分析化学基礎 化学基礎B 化学基礎A	化学数学基礎D 化学数学基礎C 化学数学基礎B 化学数学基礎A
	必修	選択必修①	選択必修②

発展

有機構造解析論

無機材料化学

有機構造化学

ラボラトリー・フィジックス

基礎生物学実験

生物学通論 I

選擇ⓑ

理工学部共通・関連科目

理工学部共通・関連科目表

授 業 科 目		単 位	配 当 年 次	備 考
地 学 実 験		3	2	
キャリア 科目	ベーシック・キャリアデザイン	2	1	

1. 「ベーシック・キャリアデザイン」は、生物学科、機能分子化学科の学生が単位を修得しても、卒業必要単位に算入されない。

理工学部転学科選考基準

平成 27 年 11 月 16 日 理工学部教授会改正

各学科は、その教育内容に対する勉学意欲を重視し、修得した科目とその成績及び単位数を考慮し、収容人員に余裕があれば転学科を認める。

* 指定校推薦入学試験、協定校推薦入学、工業科推薦入学試験による学生への注意事項
入学後の転学部・転学科については、原則として認めないので、注意すること。

經 濟 学 部

経済学部

教育基本方針

甲南大学経済学部は、学生の一人ひとりを見守り、経済学の学修を通じてその成長の手がかりを提供することによって、経済・社会問題を的確に捉え、筋道を立てて問題を考え、自らの力で解決策を示すことのできる知性と創造力を備え、広く社会に貢献できる人材を養成することを教育の基本方針としています。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。経済学部では、教育基本方針のもと、卒業必要単位数 128 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 18 単位、外国語科目 8 単位、保健体育科目 2 単位、専門教育科目 100 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（経済学）の学位を授与します。

- (1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。
- (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
- (3) 幅広い知識と能力を身につけています。
- (4) 経済・社会問題を的確に捉えることができます。
- (5) 筋道を立てて問題を考えることができます。
- (6) 自らの力で解決策を示すことができます。

教育課程編成・実施の方針

経済学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習を適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

また、経済学部では特に、次の三つの方針を教育課程の編成・実施の軸としています。

1. 学生の興味・関心に対応した 6 つの専門教育科目群の設定と系統的学修
2. 基礎・中級・上級のステップアップ方式による段階的学修
3. 少人数クラスによる学生と教員、学生同士の密なるコミュニケーション

教育内容、教育方法、学修成果の評価については、以下のように定めます。

1) 教育内容

- (1) 大学での学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などの修得と、経済学の学修への円滑な導入を図るため、基礎ゼミと経済学入門科目（入門ミクロ経済学、入門マクロ経済学、経済入門）を必修科目として初年次において配置します。
- (2) 系統的な学修を促すために、経済学の下位分野を網羅し、かつ、学生の興味・関心に対応する 6 つの専門教育科目群を配置します。
- (3) 段階的で計画的な学修を促すために、専門科目を、1 年次配当の基礎科目、2 年次配当の中級科目、3・4 年次配当の上級科目という 3 つのステップに分けるとともに、学修成果を確実なものとするために、基礎科目、中級科目、上級科目のステップ毎に、卒業に必要な修得単位数を設定します。
- (4) 外国語によるコミュニケーション能力を修得しながら異文化理解について学ぶ授業科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ授業科目、情報を読み解く力について学ぶ授業科目を配置します。
- (5) 全学共通科目として、建学の理念についての理解を深める授業科目、専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。
- (6) 幅広い知識と教養の修得のため、英語による経済学の学修や情報教育、経営学や法学など経済学以外の専門分野の授業科目及び海外を含む他大学との単位互換協定にもとづく授業科目を、卒業必要単位として扱われる授業科目として配置します。
- (7) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を 1 年次から 4 年次まで継続的に実施します。
- (8) 学生の成長の手がかりを提供するため、インターンシップやプロジェクトゼミ、企業や地域と連携したワークショップ型授業など、多様な体験学習ができる授業科目を配置します。
- (9) 専門科目における学修と研究を深めていき、在学中の学修成果の集大成としての卒業研究や卒業論文の執筆を行う授業科目として、2 年次後期から 4 年次にかけて、同一教員の指導のもとで学ぶゼミを配置します。

2) 教育方法

- (1) 1) に掲げた教育内容の修得のために、講義と演習を適切に組み合わせる授業を行います。
- (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝える能力、問題解決力を修得し、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献する責任感・倫理観を養成するために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の演習などを重視した授業を行います。
- (3) 授業においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、対話型学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブラーニングを積極的に展開します。
- (4) 学生の成長の手がかりに厚みを加えるために、経済学部内のインナーゼミナール大会や学生懸賞論文など、学修成果を発表・評価する機会を設けます。
- (5) 学生の成長をより確かなものにするため、教員との面談などを定期的に実施し、学生の学修状況や生活態度を見守ります。
- (6) 学生の学修に対する励みとして、成績優秀な学生を顕彰します。
- (7) 成績評価を GPA で表示するとともに、到達目標と各授業科目の関連性を明確にし、知識・能力の修得状況について、学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3) 学修成果の評価

学修成果について、その評価方法を各授業科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ														
到達目標												対応する卒業認定・学位授与の方針の番号		
A	経済学における基礎的な思考法と分析手法を修得する。											(1) (2) (4)		
B	市場経済の仕組みと産業・企業の仕組みを学び、政府の役割を理解する。											(1) (2) (4)		
C	国際経済、国際社会の動向及び外国経済事情に関する知識・理解を深める。											(1) (2) (4)		
D	現代経済社会が形成されるに至った歴史的過程とその思想的背景を理解する。											(1) (2) (4)		
E	将来、社会の一員として生きる上で必要となる幅広い知識と教養を身につける。											(1) (2) (3)		
F	社会において必要となるコミュニケーション能力、IT 活用能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。											(1) (2) (3)		
G	論理的・分析的な思考法を身につけ、問題を科学的に把握する能力を身につける。											(1) (2) (5)		
H	さまざまな情報源（日本語以外で発信されているものも含む）から適切な情報を取捨選択し、有効に活用する能力を身につける。											(1) (2) (5)		
I	国際社会、日本社会、地域社会などが抱える諸問題を理解し、それらを解決するための政策立案能力を身につける。											(1) (2) (6)		
J	課題を発見し、自ら調査し、解決策を導き出す能力を身につける。											(1) (2) (6)		
専門教育科目表（経済学科）														
〔2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用〕														
授業科目名		単位数	配当年次	到達目標										
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
基礎科目	基礎ゼミⅠ	2	1	○					○		○		○	
	経済入門Ⅰ	4	1		○	○		○			○			
	経済入門Ⅱ	4	1		○		○	○		○				
	入門ミクロ経済学	4	1	○	○				○	○		○		
	入門マクロ経済学	4	1	○	○				○	○		○		
	以上 18 単位必修													
	基礎ゼミⅡ	2	1	○					○	○	○		○	
	英語で読む経済Ⅰ	2	1	○		○			○		○			
	ベーシック・キャリアデザイン	2	1					○	○		○			
	統計入門	2	1	○				○		○			○	
	数学入門	2	1	○						○				
	4 単位以上選択必修													
中級科目	共通科目	ゼミⅠ	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		英語で読む経済Ⅱ	2	2	○		○			○		○		
		経済政策	4	2	○	○					○		○	
		経済学の歴史	4	2				○						
		情報リテラシーA	2	2						○	○	○		
		情報リテラシーB	2	2						○	○	○		
		PC 統計学	2	2	○					○	○			○
		キャリアゼミ	2	2					○	○		○		○
		プロジェクトゼミ	2	2						○	○	○	○	○
		地域政策ワークショップⅠ	2	2						○	○		○	○
		現代経済学特論Ⅰ	2	2	○				○		○			
		現代経済学特論Ⅱ	2	2	○				○		○			
		経済数学	2	2	○						○			
		地域プロジェクトⅠ	2	2					○	○			○	○
	A 群 (理論・情報)	中級ミクロ経済学	4	2	○	○					○	○		
		中級マクロ経済学	4	2	○	○					○	○		
		中級統計学	4	2	○						○			○
	B 群 (財政・金融)	財政	4	2		○			○		○		○	○
		金融	4	2	○	○					○	○		
	C 群 (公共経済)	公共経済	4	2	○	○					○		○	
		労働経済Ⅰ	2	2	○	○			○				○	
	D 群(国際経済)	国際経済	4	2			○		○		○		○	
	E 群(産業・企業)	産業経済	4	2	○	○					○		○	

授業科目名			単位数	配当年次	到達目標									
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
中級科目	F 群 (歴史・思想)	経済史	4	2				○						
		社会経済思想Ⅰ	2	2			○	○	○			○		
		社会経済思想Ⅱ	2	2			○	○	○			○		
	合計 20 単位以上選択必修													
上級科目	共通科目	ゼミⅡ	4	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ゼミⅢ	2	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		震災と地域経済Ⅰ	2	3・4				○				○	○	○
		震災と地域経済Ⅱ	2	3・4				○				○	○	○
		所得課税法	2	3・4					○		○			
		法人課税法	2	3・4					○		○			
		ビジネスデータ分析	2	3・4						○	○	○		
		プラクティカル・キャリアデザイン	2	3					○			○		○
		アドバンスト・キャリアデザイン	2	4					○			○		○
		インターンシップ	2	3					○				○	
		地域政策ワークショップⅡ	2	3・4						○	○		○	○
		地域プロジェクトⅡ	2	3・4					○	○			○	○
	A 群 (理論・情報)	上級ミクロ経済学Ⅰ	2	3・4		○		○			○	○		
		上級ミクロ経済学Ⅱ	2	3・4		○		○			○	○		
		上級マクロ経済学Ⅰ	2	3・4		○		○			○	○		
		上級マクロ経済学Ⅱ	2	3・4		○		○			○	○		
		計量経済Ⅰ	2	3・4	○					○	○			○
		計量経済Ⅱ	2	3・4	○					○	○			○
		家計の経済	2	3・4	○						○	○	○	
		B 群 (財政・金融)	国際金融Ⅰ	2	3・4			○				○		○
	国際金融Ⅱ		2	3・4			○				○		○	○
	地方財政Ⅰ		2	3・4				○					○	○
	地方財政Ⅱ		2	3・4				○					○	○
	金融政策Ⅰ		2	3・4	○	○					○			
	金融政策Ⅱ		2	3・4	○	○					○			
	ファイナンスⅠ		2	3・4	○	○					○	○		
	ファイナンスⅡ		2	3・4	○	○					○	○		
	C 群 (公共経済)	公共政策	2	3・4		○			○			○	○	
		経済体制Ⅰ	2	3・4		○	○	○				○		
		経済体制Ⅱ	2	3・4		○	○	○				○		
		労働経済Ⅱ	2	3・4	○	○			○				○	
		健康経済	2	3・4	○						○	○	○	
	D 群 (国際経済)	現代アジア経済Ⅰ	2	3・4			○		○			○	○	
		現代アジア経済Ⅱ	2	3・4			○		○			○	○	
		現代中国経済	2	3・4			○		○		○		○	
		現代アメリカ経済	2	3・4			○	○		○				○
		現代ヨーロッパ経済	2	3・4			○	○				○		
		現代日本経済	2	3・4		○			○			○	○	○
		E 群 (産業・企業)	産業組織Ⅰ	2	3・4	○	○					○		
	産業組織Ⅱ		2	3・4	○	○					○			
	ネットワークエコノミクスⅠ		2	3・4		○					○		○	
	ネットワークエコノミクスⅡ		2	3・4		○			○			○		
	環境経済Ⅰ		2	3・4		○	○		○		○		○	
	環境経済Ⅱ		2	3・4		○	○		○		○		○	
	F 群 (歴史・思想)		現代経済学の諸潮流	2	3・4				○					
		日本の経済思想家	2	3・4			○	○	○			○		
		日本経済史Ⅰ	2	3・4				○						
		日本経済史Ⅱ	2	3・4				○						
		西洋経済史Ⅰ	2	3・4			○	○	○			○		
		西洋経済史Ⅱ	2	3・4			○	○	○			○		
	合計 38 単位以上選択必修													

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
簿記Ⅰ		4	2					○					
簿記Ⅱ		4	3・4					○					
英語で読む経済Ⅲ		2	2	○		○			○		○		
英語で読む経済Ⅳ		2	2	○		○			○		○		
英語で読む経済Ⅴ		2	2	○		○			○		○		
社会人間学		2	2					○					
社会学概論		2	2					○					
文化人類学		2	3・4					○					
多文化共生論		2	3・4					○					
憲法Ⅰ		2	2					○					
憲法Ⅱ		2	2					○					
民法総則Ⅰ		2	2					○					
民法総則Ⅱ		2	2					○					
労働法Ⅰ		2	3・4					○					
商法Ⅰ		2	3・4					○					
商法Ⅱ		2	3・4					○					
商法Ⅲ		2	3・4					○					
経済法Ⅰ		2	3・4					○					
経済法Ⅱ		2	3・4					○					
政治学入門		2	2					○					
税法Ⅰ		2	3・4					○					
税法Ⅱ		2	3・4					○					
経営学総論		4	2					○					
会計学総論		4	2					○					
マーケティング総論		4	2					○					
経営実務 a		2	3・4					○					
経営実務 b		2	3・4					○					
経営実務 c		2	3・4					○					
人文地理Ⅰ		2	2					○					
人文地理Ⅱ		2	2					○					
地誌Ⅰ		2	2					○					
地誌Ⅱ		2	2					○					
自然地理学		2	2					○					
法律学概論		2	2					○					
政治学原論		2	2					○					
アジア史概説Ⅰ		2	3					○					
アジア史概説Ⅱ		2	3					○					
西洋史概説Ⅰ		2	3					○					
西洋史概説Ⅱ		2	3					○					
日本史概説Ⅰ		2	3					○					
日本史概説Ⅱ		2	3					○					
地域ファシリテイト		2	2					○	○			○	○
卒業必要単位数 100 単位以上													

【卒業必要単位数】

1. 経済学部経済学科の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	18 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	100 単位以上
必修科目	基礎科目 18 単位
選択必修科目	基礎科目 4 単位以上
	中級科目 20 単位以上
	上級科目 38 単位以上
自由選択科目	
合 計	128 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。
- (1) 中級・上級外国語については、8 単位以内（ただし、国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の中級外国語を除く）
 - (2) 「グローバル・コミュニケーションⅠ」、「グローバル・コミュニケーションⅡ」については、8 単位以内
 - (3) 海外語学講座については、10 単位以内
 - (4) ジャパンスタディーズについては、4 単位以内
 - (5) エリアスタディーズについては、2 単位以内
 - (6) 生涯スポーツについては、2 単位以内
 - (7) 「IT 応用」については、2 単位
 - (8) 実践ボランティアについては、2 単位以内
 - (9) 単位互換科目については、4 単位以内
 - (10) 西宮市大学共通単位講座については、4 単位以内

I. 履修登録科目の単位制限について

経済学部では次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重に検討した上で履修科目を選択すること。

経済学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔平成 31 年 2 月 13 日 改正〕

経済学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

【2019 年度（平成 31 年度）以降入学生に適用】

- 1 経済学部の学生が履修登録できる授業科目の単位数は次のとおりとする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
48 単位以内	48 単位以内	48 単位以内	48 単位以内

ただし、1 年次に履修できる基礎共通科目及び国際言語文化科目の単位数は 8 単位を限度とする。

- 2 次に掲げる科目については、前項の単位制限を受けない。

- ①「インターンシップ」
- ②「海外語学講座Ⅰ～Ⅲ」
- ③「エリアスタディーズⅠ～Ⅹ」
- ④「ジャパNSTAディーズ1～14」
- ⑤単位互換科目
- ⑥西宮市大学共通単位講座
- ⑦教育職員免許状を得るために必要な教科及び教職に関する科目（経済学部専門教育科目を除く。）
- ⑧図書館司書となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- ⑨学校図書館司書教諭となる資格を得るために必要な図書館学に関する専門教育科目
- ⑩公認心理師に関する専門教育科目のうち A 群の科目
- ⑪卒業単位に算入されない授業科目

（中略・2018 年度（平成 30 年度）以前入学生適用表 略）

（改廃）

この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

Ⅱ. 科目履修上の諸注意

1. 履修登録は前期に、集中講義を含む通年科目、前期科目、後期科目のすべてについて行うことができる。1年間の履修計画を立てたうえで登録をすること。後期科目については、前期および後期に登録可能で、前期に登録したものも後期に追加・変更ができるので、前期にまず登録すること。
2. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できないので注意すること。
3. 履修条件について

以下の科目を履修する場合は、各科目の履修条件に従って履修しなければならない。

授 業 科 目	履 修 条 件
基 礎 ゼ ミ Ⅱ	1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに1年次前期のGPAが上位200名以内であること。
情 報 リ テ ラ シ ー A	「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること。
情 報 リ テ ラ シ ー B	
P C 統 計 学	
キ ャ リ ア ゼ ミ	「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していること、並びに、1年次の通算GPAが2.0以上あること。
プ ロ ジ ェ ク ト ゼ ミ	「ベーシック・キャリアデザイン」および「基礎ゼミⅡ」の単位を両方修得していること、並びに1年次の通算GPAが2.0以上あること。
ビ ジ ネ ス デ ー タ 分 析	「情報リテラシーA」または「情報リテラシーB」の単位を修得済みであること。
簿 記 Ⅱ	「簿記Ⅰ」の単位を修得済みであること。
中 級 ミ ク ロ 経 済 学	「入門ミクロ経済学」の単位を修得済みであること。
中 級 マ ク ロ 経 済 学	「入門マクロ経済学」の単位を修得済みであること。
地域政策ワークショップⅡ	「地域政策ワークショップⅠ」の単位を修得済みであること。
現 代 経 済 学 特 論 Ⅰ	「入門ミクロ経済学」の単位を修得済みであること。
現 代 経 済 学 特 論 Ⅱ	「現代経済学特論Ⅰ」の単位を修得済みであること。
震 災 と 地 域 経 済 Ⅰ	「震災と地域経済Ⅰ」・「震災と地域経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
震 災 と 地 域 経 済 Ⅱ	
上 級 ミ ク ロ 経 済 学 Ⅰ	「上級ミクロ経済学Ⅰ」・「上級ミクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
上 級 ミ ク ロ 経 済 学 Ⅱ	
上 級 マ ク ロ 経 済 学 Ⅰ	「上級マクロ経済学Ⅰ」・「上級マクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
上 級 マ ク ロ 経 済 学 Ⅱ	
計 量 経 済 Ⅰ	「計量経済Ⅰ」・「計量経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
計 量 経 済 Ⅱ	
国 際 金 融 Ⅰ	「国際金融Ⅰ」・「国際金融Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
国 際 金 融 Ⅱ	
地 方 財 政 Ⅰ	「地方財政Ⅰ」・「地方財政Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
地 方 財 政 Ⅱ	

授 業 科 目	履 修 条 件
金 融 政 策 I	「金融政策Ⅰ」・「金融政策Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
金 融 政 策 II	
フ ァ イ ナ ンス I	「ファイナンスⅠ」・「ファイナンスⅡ」は同一年度に履修することが望ましい。
フ ァ イ ナ ンス II	
経 済 体 制 I	「経済体制Ⅰ」・「経済体制Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
経 済 体 制 II	
現 代 ア ジ ア 経 済 I	「現代アジア経済Ⅰ」・「現代アジア経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
現 代 ア ジ ア 経 済 II	
産 業 組 織 I	「産業組織Ⅰ」・「産業組織Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
産 業 組 織 II	
ネットワークエコノミクスⅠ	「ネットワークエコノミクスⅠ」・「ネットワークエコノミクスⅡ」は同一年度に履修することが望ましい。
ネットワークエコノミクスⅡ	
環 境 経 済 I	「環境経済Ⅰ」・「環境経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
環 境 経 済 II	
社 会 経 済 思 想 I	「社会経済思想Ⅰ」・「社会経済思想Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
社 会 経 済 思 想 II	
日 本 経 済 史 I	「日本経済史Ⅰ」・「日本経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
日 本 経 済 史 II	
西 洋 経 済 史 I	「西洋経済史Ⅰ」・「西洋経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。
西 洋 経 済 史 II	

4. 以下の科目は、クラス指定に従って履修しなければならない。

- (1)「基礎ゼミⅠ」
- (2)「経済入門Ⅰ」・「経済入門Ⅱ」
- (3)「入門ミクロ経済学」・「入門マクロ経済学」

5. 「経済入門Ⅰ」「経済入門Ⅱ」「入門ミクロ経済学」「入門マクロ経済学」の履修について

それぞれ週に講義形式1回と演習形式1回の合計2回の授業があり、必ず両方を受講しなければならない。

6. 「基礎ゼミⅡ」の履修について

9月の成績発表時に掲示する要領に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。なお、「基礎ゼミⅡ」は1年次後期でしか履修できないので注意すること。

7. 「キャリアゼミ」の履修について

書類選考により履修生を決定する。詳細は、2年次履修指導において告知する。

8. 「プロジェクトゼミ」の履修について

書類選考により履修生を決定する。詳細は、2年次履修指導において告知する。

9. 簿記科目について

簿記関連科目として、以下の科目を設けている。

授 業 科 目	単位数	講 義 内 容
簿 記 I	4	簿記入門から始まって、日商簿記検定3級程度の内容
簿 記 II	4	商業簿記を中心に日商簿記検定2級程度の内容

10. 下記の科目は、外国留学規程にもとづく、外国留学帰国学生の単位換算用科目である。

授 業 科 目	単位数
英 語 で 読 む 経 済 III	2
英 語 で 読 む 経 済 IV	2
英 語 で 読 む 経 済 V	2

11. 成績優秀者表彰制度と選考基準

経済学部成績優秀者表彰制度

平成 29 年 5 月 10 日 経済学部教授会改正

(制度の主旨)

経済学部は本学部学生の学修を奨励する目的で、以下の要領で成績優秀者を表彰する。

(選考手順)

一、前年度1年間のGPAによって行う。

一、表彰資格の学年は1～3年次（表彰時は新2～新4年次）とし、過年度生は対象に含まれない。

一、各学年ごとに成績優秀者を5%程度リスト・アップし、そのうちで学年の在籍者数の3%程度を表彰する。

一、前年度1年間の修得単位数が20単位以上の者を対象とする。

成績優秀者は、前年度1年間の修得単位数が20単位以上の学生を対象に、前年度1年間のGPAに基いて生活態度も配慮して決定する。

Ⅲ. 科目群について

経済学部では、2年次以降の専門教育科目を、A（理論・情報）・B（財政・金融）・C（公共経済）・D（国際経済）・E（産業・企業）・F（歴史・思想）という、6つの科目群（グループ）に分類している。

経済学には、扱う対象・テーマ・トピックやアプローチを異にするさまざまな分野がある。2年次以降の専門教育科目を6つの群に分類しているのは、学生諸君が、各自の興味・関心や問題意識にしたがって、体系的な履修を行うことで、学習効果が高められることを意図しているからである。

1年次では、基礎的な専門科目を履修することで、経済および経済学の諸分野についての基礎的な知識を身につける。各科目群への入門的な科目が網羅的に配置されているので、それらを履修することによって、自らの興味・関心や問題意識がどのようなものであるのかについて見きわめ、2年次以降に自らの能力をさらに伸ばすことを目的として専門科目を履修するための準備を終えることが望

ましい。

2年次以降の専門科目は、「共通科目」に属する科目を除くすべての科目が、6つの科目群のいずれかに分類されている。どの科目群に属するどの科目を履修するかについては、基本的に各自の自由であるが、以下の〔各科目群の概要〕を注意深く読み、各自の興味・関心や問題意識、卒業後の進路なども考慮したうえで、自身の能力を確実に向上させることにつながるような、体系的な履修を行うことが望ましい。

科目の履修にあたっては、指導主任の教員等にも積極的に相談して、他の誰でもない、自分自身のためになるような学習を進めていってほしい。

〔各科目群の概要〕

A群（理論・情報）

経済現象を精確に把握するためには、たんなる推測ではなく、科学的な「仮説」にもとづいた分析を行うことが不可欠となる。

他のすべての科目群の基礎として位置づけられるA群の学習上の到達目標は、「汎用性の高い経済学的な思考方法を習得すること」である。このことは、受信する情報の信頼度を的確に測る能力を身につけることだけにとどまらず、自らが発信する情報の信頼度を的確に測る能力までを身につけることであるといってもよい。

1年次には、必修科目の「入門ミクロ経済学」・「入門マクロ経済学」によって基礎的な経済学的思考法を身につける。したがって、そのような思考法にもとづいて得られる「仮説」の信頼度をデータによって確認する手法について学ぶ「統計入門」を履修することを勧める。

中級・上級科目では、実際の経済現象を分析するための理論的なアプローチを概観し、「問題を論理的に把握し、理論的に分析し、分析結果の正しさをデータによって確認する」といった経済学的思考の一連のプロセスを体系的に学ぶ。なお、このような目的のため、A群の中級科目の履修に際しては、基礎科目の「入門ミクロ経済学」・「入門マクロ経済学」を修得していることを必要とし、A群の上級科目の履修に際しては、A群の中級科目を修得していることが望ましい。

A群の科目を学ぶことによって身につける思考法は、先人の「経済」に関する思考の集大成であり、私たちが継承すべき「知的遺産」である。したがって、それは、学生諸君にとって、生涯にわたって「便益」を生み出し続ける知的財産となるはずである。

B群（財政・金融）

世の中の経済活動には必ずお金のやりとりがつきまとう。したがって、お金の流れを分析すれば、経済の動きも理解することができる。

B群では、国や地方自治体などの政府が市場経済社会を統治する「財政」と、資金余剰主体と資金不足主体間の資金の過不足を調整する「金融」の側面に着目して、現実の経済を分析し、理解する方

法を学ぶ。さらに、政府や中央銀行がどのような政策を立案・実施すべきであるのか、金融機関がどのような戦略をとるべきであるのかなど、実際的な問題についても考察できるようになることを学習目標とする。

1 年次配当の基礎科目である「経済入門Ⅱ」では、財政・金融の基本的なしくみや現実の問題についての基礎的な知識を身につける。中級・上級科目では、租税理論と税制、歳出構造と経費論、財政赤字と公債理論、年金・医療・介護等の社会保障財政、地方自治体の財政運営、仲介者としての金融機関の役割、金融市場における金利の動向、中央銀行と金融政策、ファイナンス理論と金融派生商品、国際金融市場と国際金融取引など、財政・金融に関するさまざまな具体的なテーマについて、専門的に学んでいく。

以上述べたように、B 群の科目は、生きていくための知識や考え方を提供するものであり、卒業後いかなる進路を選択するに際しても必要となるはずのものである。特に、国や地方自治体で政策運営に直接携わる公務員を志望する人、銀行や証券会社などに就職して金融業界で活躍することをめざす人、税理士やファイナンシャルプランナーなどの資格取得に向けて勉強する人には不可欠である。

C 群（公共経済）

「公共経済」とは、人々が安心して生活するために、民間が担う仕事と政府が担う仕事をどのように区分して、どのような制度をつくらなければならないのかという問題について考える分野である。

たとえば、現実には、空港や橋の建設の費用は政府が担うが、自動車やカメラは民間の会社が製造・販売している。年金制度は政府が運営している一方で、交通事故に伴う賠償保険は民間の保険会社が運営している。また、教育機関には、公立学校もあれば私立学校もある。このような状態は本当に望ましいのだろうか。望ましいとしたら、それは、どのような理由によるのだろうか。

C 群の科目では、まず、1 年次配当の基礎科目である「経済入門Ⅰ」において、老齢年金や医療・介護保険、サラリーマンへの課税や働く母親への支援策など、身の回りのさまざまな制度の仕組みについて学ぶ。このことによって、学生諸君が社会に出たときの「暮らしと仕事の案内板」を提供する。

中級・上級の各科目においては、これらの制度が抱える問題点に目を向け、今後どのように制度をつくり変えていけばよいのかを考え、このような問題点をゼミナールに持ち帰って、自分なりの解決策を提言することもできる。さらに、社会保障制度と財政負担の問題、持続可能な医療制度を実現するための課題、働き方の多様化と格差の問題、望ましい経済システムのあり方まで、今日的な問題を幅広く取りあげ、それらの問題について、経済学の分析道具を使って明らかにしていく。

C 群の科目では、現実の社会を「鳥の目・アリの目」で観察して、分析的に考える。このことによって、将来どのような分野に進むにしても、社会人として要求される「常識」と「思考法」を身につけることができるはずである。

D 群（国際経済）

「グローバル化」が進展する現在において、国際経済の諸問題を正しく理解することは、ますます重要になっている。

D 群の課題は、国境を越えてヒト・モノ・カネ・情報が激しく移動する世界経済の現状を学びながら、多様な個性をもつアメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの各地域経済についての理解を深めることである。

D 群では、1 年次配当の基礎科目である「経済入門Ⅰ」において国際経済に関する基礎的な知識を身につけ、2 年次配当の中級科目である「国際経済」においては、国際経済の諸問題を考えるための基礎的な理論を学ぶ。そして、上級科目においては、世界の諸地域の経済の特徴や現状についての理解を深める。

D 群は、上で述べた基礎科目の「経済入門Ⅰ」、中級科目の「国際経済」、そして、上級科目の「現代アジア経済Ⅰ」・「現代アジア経済Ⅱ」・「現代中国経済」・「現代アメリカ経済」・「現代ヨーロッパ経済」から構成されている。中級・上級の各科目は、基礎科目である「経済入門Ⅰ」の授業内容を予備知識として求めるため、中・上級科目を履修する条件として、「経済入門Ⅰ」の単位を修得していることが望ましい。

卒業後、外資系企業や商社など国際経済の現場で活躍することを目標にしている学生はいうまでもなく、会社員・公務員・教員などの進路を選択する場合にも、ますます重要性が高まる国際経済関係に関して理解を深めることは必要不可欠であるはずである。

E 群（産業・企業）

インターネットという世界規模の情報通信ネットワークが普及したことによって、経済システムや産業構造は飛躍的に変化した。たとえば、企業にとっては、顧客情報の入手や在庫管理のための費用が劇的に低下し、効率性や利潤を追求しやすくなったと同時に、法令を遵守する社会的責任や、リサイクル活動を含めた環境面への配慮が強く求められるようになった。

E 群の科目は、企業・産業をめぐる現実の経済問題が経済学的にはどのように理解・説明されるのかについて明らかにする。たとえば、企業間の戦略的行動が社会全体の資源配分に与える影響や、IT 産業における“独り勝ち”の問題、地球温暖化防止策としての二酸化炭素の排出権取引問題などを学びながら、産業ごとにどのような規制が有効であるのか、あるいはそもそも規制が必要であるのかといったことについて理解を深める。

E 群は、中級科目の「産業経済」と上級科目の「産業組織Ⅰ・Ⅱ」・「ネットワークエコノミクスⅠ・Ⅱ」・「環境経済Ⅰ・Ⅱ」により構成される。いずれの科目も、1 年次必修科目の「入門ミクロ経済学」と「経済入門Ⅰ」における授業内容を予備知識として求めるため、中級・上級科目の履修にあたっては、「入門ミクロ経済学」と「経済入門Ⅰ」の単位を修得していることが望ましい。

将来どのような進路を選択するにしても、経済活動の中心である産業・企業について興味・関心を

持ち、それらについての理解を深めておくことは、必要不可欠であろう。

F 群（歴史・思想）

バブル崩壊・経済格差・資源問題・技術革新による失業・グローバル化・新興国の急速な経済発展などは、近年になって初めて生じた現象ではない。これらは、経済の長い歴史の中でたびたび見られた現象である。実際、こうした問題については、18 世紀以降、多くの経済学者が考え、さまざまな立場から発言をしてきている。したがって、経済の歴史を学び、経済学の古典に親しむことによって、現代の諸問題を考えるための重要な示唆を得ることができる。

F 群の科目は、経済史や経済思想史に興味・関心を抱く学生諸君だけではなく、現代の経済問題を、長期的な視野と幅広い観点から考えようとする学生諸君にとっても、きわめて有用である。

F 群には、経済学における歴史的アプローチの意義を学ぶ入門科目（「経済入門Ⅰ」の一部）、中級科目の「経済史」があり、さらに、上級科目として日本と西洋の経済発展の歴史、経済社会についての多様な考え方、近代日本における経済思想の大家、現代の経済思想の潮流についての諸科目が配置されている。学生諸君は、これらの科目を体系的に学ぶことを通じて、〈将来のために歴史から学ぶ、古典から学ぶ〉という姿勢を身につけることができる。

卒業後に、会社員・公務員・団体職員・教員・起業・ジャーナリスト・進学・留学・NPO・NGO など、どのような進路を選択するにしても、変転激しい 21 世紀の経済社会を生きていくうえで必要となる〈長期の視点・広範な視野・多様な視点〉を習得することが、F 群の学習上の課題である。

Ⅳ. ゼミについて

「ゼミⅠ」・「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」は、専門教育科目の研究を一段と深めるために、2 年次（2 単位）・3 年次（4 単位）・4 年次（2 単位）計 8 単位を継続履修することが望ましい。ただし履修にあたっては、以下の「ゼミ履修資格に関する申し合わせ」に沿って必要な単位を修得していなければならないので、十分注意されたい。

- (1) 「ゼミⅠ」は、別途掲示発表する担当者の「ゼミⅠ」を履修しなければならない。
- (2) 「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」は、単位を修得した「ゼミⅠ」と同一担当で履修しなければならない。
- (3) 4 年次に「ゼミⅡ」と「ゼミⅢ」の同時履修を希望する者は、担当教員の許可を得たうえで、履修登録期間中に経済・法・経営学部合同事務室（経済学部担当）へ申し出ること。

ゼミ履修資格に関する申し合わせ

平成 27 年 2 月 13 日経済学部教授会改正

1. 「ゼミⅠ」の履修申し込みには、1 年次に卒業必要単位数のうち 26 単位以上を修得しておくことが必要である。
2. 担当教員は各年度、募集時に採用予定者数（15 名以上）と選考基準を発表し、それに沿って応募者のなかから選考する。上記 1. の単位を修得した者でも、選考からもれた場合は「ゼミⅠ」を履修できない。
3. 上記 2. の選考からもれた者は、次年度の「ゼミⅠ」を履修するための申し込みができる。ただし、3 年次以降の「ゼミⅠ」の履修申し込み条件は、以下のとおりである。
 - ・3 年次 卒業必要単位数のうち 52 単位以上を修得していること
 - ・4 年次 卒業必要単位数のうち 80 単位以上を修得していること
 （この場合、担当教員が同時履修も可能だと特に認める時に限り、4 年次以降に「ゼミⅡ」と「ゼミⅢ」をあわせて履修できる。）なお、選考は上記 2. に従って行われる。

附 則

この申し合わせは、平成 14 年度入学生から適用する。

6 月初旬頃から「ゼミⅠ」の申し込みが始まる。「ゼミⅠ」の履修登録を希望する学生は、次の点に留意すること。

- 後期水曜 3 限を必ず空けておくこと。他の科目（通年科目および後期科目）を履修登録している場合、「ゼミⅠ」は申し込むことができない。（中級・上級外国語科目等の事前登録科目を、水曜 3 限に登録しないよう特に注意すること。）
- 履修単位制限にも十分注意すること。年間の履修計画をたて、「ゼミⅠ」履修登録分として後期 2 単位分を必ず確保すること。
- 半期（前期）留学生への対応
 1. e-mail での応募を受付ける担当者のゼミについては履修可能である。
 2. e-mail での応募を受付けるゼミは少数になる可能性もあるので留意すること。
 3. 選考は、「ゼミ履修資格に関する申し合わせ」第 2 項に従って行われる。

V. 編入学生・転学部生の単位認定、及び履修に関する取り扱いについて

編入学生・転学部生の単位認定、及び履修等については次のとおりとする。

経済学部編入学生・転学部生の単位認定、及び履修に関する取り扱い

1. 編入学生・転学部生（以下「編・転入生」という。）は、すべて3年次に編・転入される。
2. 編入生は、基礎共通科目 18 単位、外国語科目 8 単位（College English および基礎第2外国語）、保健体育科目 2 単位（基礎体育学演習）を修得済みであるとみなす。

前大学で修得した専門教育科目については、38 単位を限度に、経済学部専門教育科目を修得したものと認定することができ、その認定は経済学部教授会で行う。

教職に関する専門教育科目については、「教職ガイドブック」に示されている「編入学生の教育職員養成課程の履修について」にもとづいて認定する。

3. 転入生は、前学部で修得した基礎共通科目または国際言語文化科目（選択したコース）、外国語科目（College English および基礎第2外国語）、保健体育科目（基礎体育学演習）、経済学部専門教育科目、教職に関する専門教育科目については、そのまま認定される。

その他の専門教育科目については、38 単位を限度に、経済学部専門教育科目として認定することができ、その認定は経済学部教授会で行う。

4. 編・転入生は、専門教育科目の履修にあたっては、経済学部専門教育科目から履修するものとする。編・転入生は、必修科目を優先的に履修することが望ましい。

なお、専門教育科目表は3年次生の科目表を適用する。

5. 編・転入生は、授業科目の配当年次や履修条件にかかわらず、すべての専門科目を履修できる。ただし、「ゼミⅠ」は3年次、「ゼミⅡ」は4年次に履修するものとする。（この場合、担当教員が同時受講も可能だと特に認める時に限り、4年次以降に「ゼミⅡ」と「ゼミⅢ」をあわせて受講できる。）

なお、履修にあたっては、経済・法・経営学部合同事務室（経済学部担当）を窓口として適宜必要な指導を行う。

6. 編・転入生の3年次における単位制限を48単位とする。また、4年次の単位制限は48単位である。ただし、教職に関する専門科目等、卒業単位に認定されない科目は単位制限の対象外とする。

Ⅵ. 外国留学規程に基づく外国の大学への留学に伴うゼミ履修に関する取り扱いについて

外国留学規程に基づく外国の大学への留学（以下「留学」という。）に伴う ゼミ履修に関する申し合わせ

〔半期留学（前期）〕

1. 半期留学（前期）が決定した場合、「担当教員の指示する課題レポート」を提出することを条件に、留学年度（3、4年次）の「ゼミⅡ」の履修を認める。
2. 半期留学（前期）が決定した場合、留学年度（4年次）前期開講の「ゼミⅢ」の履修は認めない。

〔半期留学（後期）〕

1. 2・3・4年次に、半期留学（後期）が決定した場合、留学年度（2、3、4年次）後期開講の「ゼミⅠ」の履修は認めない。
2. 2年次に、半期留学（後期）を行い、3年次で「ゼミⅠ」の履修を希望する場合には、「ゼミ履修資格に関する申し合わせ3.」が適用され、4年次以降の「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」の同時履修に関しては、担当教員の承認を必要とする。
3. 3・4年次に、「ゼミⅡ」を履修し、半期留学（後期）が決定した場合、「担当教員の指示する課題レポート」を提出することを条件に、留学年度（3、4年次）開講の「ゼミⅡ」の履修を認める。
4. 4年次に、半期留学（後期）が決定した場合、留学年度（4年次）後期開講の「ゼミⅢ」の履修は認めない。

〔半期留学（前期）・（後期）共通事項〕

「担当教員の指示する課題レポート」は、留学前に学生に指示し、留学先の言語又は英語 2000 語、A4 用紙（1 ページ 400 語）5 枚程度を、担当教員の指示した期限（前期は 7 月末、後期は 1 月末）までに提出させるものとする。

〔1 年留学〕

1. 1 年留学が決定した場合、留学開始年度の「ゼミⅠ」・「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」いずれの履修も認めない。留学次年度の前期開講の「ゼミⅢ」の履修に関しては、4 月中に帰国し、履修を願った場合に限り認める。
2. 2 年次に、1 年留学を行い、3 年次で「ゼミⅠ」の履修を希望する場合には、「ゼミ履修資格に関する申し合わせ3.」が適用され、4 年次以降の「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」の同時履修に関しては、担当教員の承認を必要とする。
3. 3・4 年次に、1 年留学を行い、留学次年度に「ゼミⅡ」の履修を希望する場合は履修を認める。（ただし、すでに「ゼミⅠ」の単位を修得していること。）
4. 3. の場合、「ゼミ履修資格に関する申し合わせ3.」が適用され、4 年次以降の「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」の同時履修に関しては、担当教員の承認を必要とする。

附 則

この申し合わせは、平成 17 年度入学生から適用する。

武蔵大学との学生交流協定に基づく 経済学部派遣聴講生の募集について

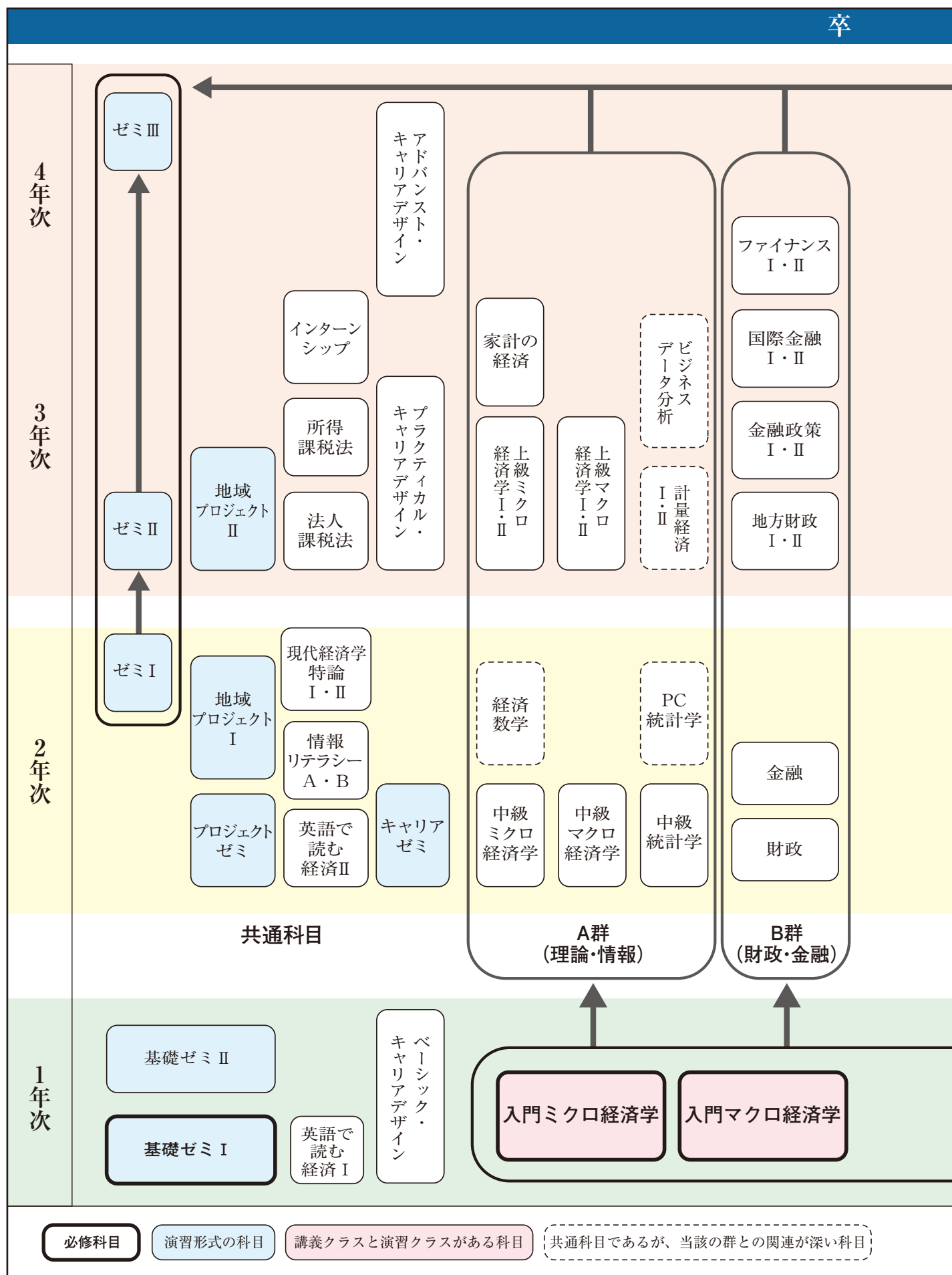
武蔵大学との学生交流協定の概要と目的

本大学経済学部・経営学部と武蔵大学経済学部との間で学生交流協定を締結している。

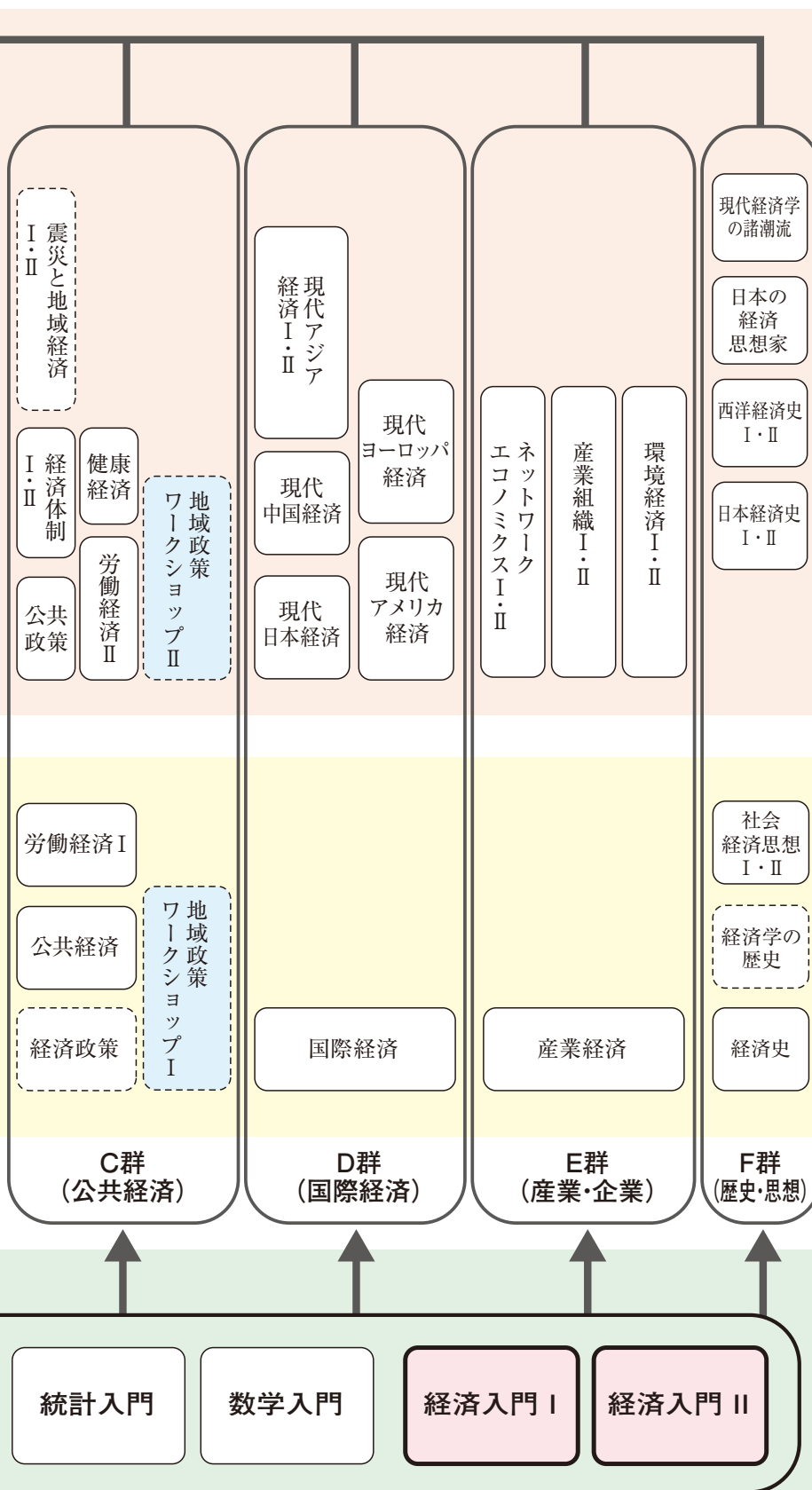
本大学の経済学部・経営学部と武蔵大学経済学部がそれぞれの環境のもとで、特色ある教育を相互に行い、多様な学修成果に対する評価を行うことによって、学生生活を一層充実させることを目的として学生交流を行おうとする制度である。

武蔵大学経済学部の学生を本大学経済学部特別聴講生として受入れるとともに、武蔵大学での学修を希望する本大学経済学部学生を武蔵大学経済学部派遣聴講生として、派遣する。

募集要項は、『履修ガイドブック』を参照すること。



業



自由選択科目

(3 年次以降)

簿記 II
文化人類学
多文化共生論
労働法 I
商法 I・II・III
経済法 I・II
税法 I・II
経営実務 a・b・c
アジア史概説 I・II
西洋史概説 I・II
日本史概説 I・II

(2 年次以降)

簿記 I
英語で読む経済 III・IV・V
社会人間学
社会学概論
憲法 I・II
民法総則 I・II
政治学入門
経営学総論
会计学総論
マーケティング総論
人文地理 I・II
地誌 I・II
自然地理学
法律学概論
政治学原論
地域ファシリテイト

法 学 部

法 学 部

教育基本方針	
甲南大学法学部は、学園と大学の創立精神をふまえ、法および政治に関する専門知識と思考力の涵養を通じて、個々の学生の論理的な思考力と柔軟な応用力を培い、これによって社会の様々な分野で指導的な役割を担うことのできる人材を育成することを教育の基本方針とします。	
卒業認定・学位授与の方針	
甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。法学部の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 126 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 18 単位 外国語科目 8 単位 保健体育科目 2 単位 専門教育科目 98 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（法学）の学位を授与します。	
(1) 自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、自らを律し、他者と協調・協働することができます。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。 (4) 法学と政治学についての基礎的な知識と理論を修得し、論理的かつ合理的に問題に対処する能力を有しています。 (5) 社会に生起する諸現象・諸課題を多角的にとらえ、多様な価値観を尊重しつつ、問題解決への道筋を的確に見定める能力を有しています。 (6) グローバル化・情報化する社会で活躍するのに必要な情報収集・活用・発信能力及びコミュニケーション能力を有しています。 (7) 市民として必要とされる人権意識を有しています。	
教育課程編成・実施の方針	
法学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。 カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。 教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。	
1) 教育内容 (1) 大学における学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などを習得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において少人数で学ぶ基礎的な演習科目を設けます。 (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。 (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。 (4) 法学及び政治学の専門知識を基礎から無理なく効果的に習得できるように、段階的・体系的なカリキュラムを配置します。 (5) 問題発見能力、問題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力（相互に尊重し合える関係を築き、話し合いにより妥当な解決策を模索することができる能力）、プレゼンテーション能力（自分の考えを説得的に表現する能力）を育成するために、少人数科目の充実を図ります。 (6) 将来、法及び政治に関係する専門職に従事することを見据えた、実践的なプログラムを設定します。 (7) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を1年次から4年次まで継続的に実施します。 (8) 専門教育科目として法学・政治学の専門科目のみならず、経済学や経営学等の隣接学問領域の科目を法学・政治学の専門科目との関連性に配慮し、効果的に配置します。 (9) 社会的弱者への配慮、市民として果たすべき役割について考える教育を行います。	
2) 教育方法 教育方法については、とくに、以下の点に配慮します。 (1) 1) に掲げた教育内容を身につけるため、特に学生の潜在的な興味関心及び問題意識を引き出し、課題処理能力の向上を図るため、多様な教授方法を駆使し、授業を実施します。 (2) 体験的な教育を重視し、社会で活躍する実務家が授業に関わる機会、裁判所や各種施設の見学など学生が学外で学修する機会を積極的に設けます。 (3) 法曹等の専門職をめざす学生のために、実践的かつ実務的な学修機会を設けます。 (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。また、成績優秀学生を表彰し、成績不良学生には特に面談を行います。	
3) 学修成果の評価 学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。	

カリキュラムマップ											
到達目標										対応する卒業認定・学位授与の方針の番号	
A	法学・政治学を学ぶ上で必要な知識や考え方を修得し、法学・政治学の全体像を把握する。									(4)(7)	
B	法学・政治学の基礎知識や理論を修得する。									(4)(7)	
C	法学・政治学の専門知識や理論を修得する。									(4)(7)	
D	公務員や資格試験を目指す上で必要な知識や理論を修得する。									(1)(3)(4)(5)(6)(7)	
E	実践的かつ実務的な学修を行い、法曹等の専門職をはじめ、社会の中で実践的に活用できる能力を培う。									(1)(3)(4)(5)(7)	
F	多様な視点から物事を捉える能力を涵養するために、国際的な知識を身につけ、法学・政治学に隣接する学問の知識や理論を修得する。									(1)(4)(6)	
G	問題を自ら発見し、情報を収集・分析して論理的思考に基づいて問題を解決に導く能力を身につける。									(1)(2)(5)(6)	
H	社会人に必要な情報処理、コミュニケーション、プレゼンテーションのためのスキルや能力を身につける。									(1)(6)	
専門教育科目表（法学科）											
〔2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用〕											
授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				A	B	C	D	E	F	G	H
A 専門基礎	公法入門	2	1	○			○				
	民事法入門	2	1	○			○				
	刑事法入門	2	1	○			○				
	政治学入門	2	1	○			○				
以上のうち 6 単位以上選択必修											
B 基礎法	法社会学Ⅰ	2	1		○					○	
	法社会学Ⅱ	2	1		○					○	
	西洋法史Ⅰ	2	1		○	○					
	西洋法史Ⅱ	2	1		○	○					
	日本法史Ⅰ	2	2		○	○					
	日本法史Ⅱ	2	2		○	○					
	英米法Ⅰ	2	3・4			○					
	英米法Ⅱ	2	3・4			○					
	アジア法	2	3・4			○					
	比較法文化論	2	3・4			○					
	法哲学Ⅰ	2	3・4			○			○	○	
	法哲学Ⅱ	2	3・4			○			○	○	
以上のうち 4 単位以上選択必修											
C 政治	西洋政治史Ⅰ	2	1		○				○		
	西洋政治史Ⅱ	2	1		○				○		
	日本政治史Ⅰ	2	1			○			○	○	
	日本政治史Ⅱ	2	1			○			○	○	
	行政学Ⅰ	2	2		○		○	○	○	○	
	行政学Ⅱ	2	2		○		○	○	○	○	
	国際政治学Ⅰ	2	2		○				○		
	国際政治学Ⅱ	2	2		○				○		
	外交史Ⅰ	2	2			○			○	○	
	外交史Ⅱ	2	2			○			○	○	
	中南米地域研究	2	2			○			○	○	
	アメリカ地域研究	2	2			○			○	○	
	アジア地域研究	2	2			○			○		
	政治学原論	2	2			○		○	○		
	現代政治学Ⅰ	2	3・4			○					
	現代政治学Ⅱ	2	3・4			○					
	政治過程論Ⅰ	2	3・4			○			○	○	
	政治過程論Ⅱ	2	3・4			○		○	○	○	

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				A	B	C	D	E	F	G	H
C 政治	日本政治思想史Ⅰ	2	3・4			○			○	○	
	日本政治思想史Ⅱ	2	3・4			○			○	○	
	西洋政治思想史Ⅰ	2	3・4		○				○		
	西洋政治思想史Ⅱ	2	3・4		○				○		
以上のうち6単位以上選択必修											
D 公 法	憲法Ⅰ	2	1		○		○		○		
	憲法Ⅱ	2	2		○		○		○		
	憲法Ⅲ	2	2		○	○					
	比較憲法	2	3・4		○				○		
	行政法総論Ⅰ	2	2		○		○		○	○	
	行政法総論Ⅱ	2	2		○		○		○		
	行政救済法Ⅰ	2	3・4			○	○		○		
	行政救済法Ⅱ	2	3・4			○	○		○		
	地方自治	2	3・4			○	○				
	税法Ⅰ	2	3・4			○	○				
	税法Ⅱ	2	3・4			○	○				
	国際法Ⅰ	2	2		○				○		
	国際法Ⅱ	2	2			○			○		
	国際法Ⅲ	2	3・4			○			○		
	刑法総論Ⅰ	2	1		○		○				
	刑法総論Ⅱ	2	2		○		○				
	刑法各論Ⅰ	2	2		○		○				
	刑法各論Ⅱ	2	3・4		○		○				
	刑事訴訟法Ⅰ	2	2		○	○					
	刑事訴訟法Ⅱ	2	3・4		○	○					
	刑事政策	2	1		○		○				
以上のうち8単位以上選択必修											
E 民 事 法	民法総則Ⅰ	2	1		○	○	○				
	民法総則Ⅱ	2	2		○	○	○				
	物権法Ⅰ	2	2		○	○	○				
	物権法Ⅱ	2	2		○	○	○				
	債権法Ⅰ	2	2		○	○	○				
	債権法Ⅱ	2	2		○	○	○				
	不法行為法	2	1		○	○	○				
	親族法	2	2		○	○	○				
	相続法	2	2		○	○	○				
	国際私法Ⅰ	2	3・4			○			○	○	
	国際私法Ⅱ	2	3・4			○			○	○	
	商法Ⅰ	2	2		○	○	○				
	商法Ⅱ	2	2		○	○	○				
	商法Ⅲ	2	2			○					
	商法Ⅳ	2	3・4			○	○				
	商法Ⅴ	2	3・4			○					
	民事訴訟法Ⅰ	2	3・4		○	○	○	○			
	民事訴訟法Ⅱ	2	3・4		○	○	○	○			
	民事訴訟法Ⅲ	2	3・4		○	○	○	○			
	労働法Ⅰ	2	2			○	○	○			
	労働法Ⅱ	2	3・4			○	○	○			
	社会保障法Ⅰ	2	3・4			○	○	○			
	社会保障法Ⅱ	2	3・4			○	○	○			
	知的財産法Ⅰ	2	3・4						○		
	知的財産法Ⅱ	2	3・4						○		
	経済法Ⅰ	2	3・4						○		
	経済法Ⅱ	2	3・4						○		
以上のうち8単位以上選択必修											

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				A	B	C	D	E	F	G	H
F 隣 接 領 域	初級ミクロ経済学	2	3・4						○		
	初級マクロ経済学	2	3・4						○		
	経営学総論	4	3・4						○		
	会計学総論	4	3・4						○		
	マーケティング総論	4	3・4						○		
	司法・犯罪心理学	2	3・4		○				○		
	日本史概説Ⅰ	2	2※						○		
	日本史概説Ⅱ	2	2※						○		
	アジア史概説Ⅰ	2	2※						○		
	アジア史概説Ⅱ	2	2※						○		
	西洋史概説Ⅰ	2	2※						○		
	西洋史概説Ⅱ	2	2※						○		
	労働経済Ⅰ	2	3・4						○		
	労働経済Ⅱ	2	3・4						○		
	財政	4	3・4						○		
	国際経済	4	3・4						○		
	公共経済	4	3・4						○		
	経営管理論	4	3・4						○		
	経営戦略論	4	3・4						○		
	財務諸表論	4	3・4						○		
	ベンチャービジネス	4	3・4						○		
	ソーシャル・キャピタル論	2	3・4						○		
	家族社会学	2	3・4						○		
	現代家族論	2	3・4						○		
	福祉法政策	2	3・4			○	○	○			
	司法福祉論	2	3・4		○				○		
	ジェンダー法学	2	3・4		○	○	○				
	環境学入門	2	3・4		○				○		
	環境学	2	3・4						○		
	NPO／NGO論	2	3・4						○		
	司法精神医学	2	3・4			○		○	○		
	社会人間学	2	2※						○		
	社会学概論	2	2※						○		
	社会心理学	2	3・4						○		
	社会意識論	2	3・4						○		
以上より 28 単位まで自由選択科目として卒業必要単位数に算入できる ※については、教職課程履修者のみ 2 年次から履修可能（教職課程履修者以外は 3・4 年次配当）											
G 情 報	ビジネスシステム論	4	3・4						○		
	法学部情報処理Ⅰ	2	2								○
	法学部情報処理Ⅱ	2	2								○
H 演 習	基礎演習	2	1	○	○			○	○	○	○
	以上 2 単位必修										
	選択演習Ⅰ	2	2	○	○		○	○		○	○
	選択演習Ⅱ	2	2			○	○	○		○	○
	選択演習Ⅲ	2	2				○	○			
	選択演習Ⅳ	2	2		○		○	○		○	○
	選択演習Ⅴ	2	2		○		○	○	○	○	○
	選択演習Ⅵ	2	2	○	○		○	○		○	○
	選択演習Ⅶ	2	2		○		○			○	○
	選択演習Ⅷ	2	2		○	○	○	○		○	○
	以上より 8 単位まで自由選択科目として卒業必要単位数に算入できる										
	専門演習	4	3		○	○	○	○	○	○	○

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標							
				A	B	C	D	E	F	G	H
Ⅰ 特殊講義	特殊講義Ⅰ	2	2			○					
	特殊講義Ⅱ	2	2			○			○	○	
	特殊講義Ⅲ	2	2		○	○		○			
	特殊講義Ⅳ	2	2			○		○	○		
	外国文献講読	2	3・4			○			○	○	○
	留学（法学・政治学）Ⅰ	2	1						○		
	留学（法学・政治学）Ⅱ	2	1						○		
Ⅱ その他	法律学概論	2	2	○	○						
	留学（その他）Ⅰ	2	1						○		
	留学（その他）Ⅱ	2	1						○		
	留学（その他）Ⅲ	2	1						○		
	留学（その他）Ⅳ	2	1						○		
「Ⅱ その他」の科目は卒業必要単位数に算入されない											
Ⅲ キャリア	ベーシック・キャリアデザイン	2	1					○			○
	キャリアゼミ	2	2					○			○
	インターンシップ	2	1					○			○
	プラクティカル・キャリアデザイン	2	3					○			○
	アドバンスト・キャリアデザイン	2	4					○			○
「Ⅲ キャリア」の科目は2単位まで自由選択科目として卒業必要単位数に算入できる											
卒業必要単位数 98 単位以上											

【卒業必要単位数】

1. 法学部法学科の学生は、次に定めるところに従って合計 126 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目		18 単位
外国語科目		8 単位
保健体育科目		2 単位
専門教育科目		98 単位以上
必修科目	H 演習（基礎演習）	2 単位
選択必修科目	A 専門基礎	6 単位以上
	B 基礎法	4 単位以上
	C 政治	6 単位以上
	D 公法	8 単位以上
	E 民事法	8 単位以上
自由選択科目		
合 計		126 単位以上

2. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。

ただし、必修または選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。なお、(1)(2)(3) についてはあわせて 16 単位以内とする。

- (1) 中級外国語・上級外国語・海外語学講座・留学支援科目については、16 単位以内
(ただし、国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の科目を除く)
- (2) エリアスタディーズについては、2 単位以内
- (3) ジャパンスタディーズについては、8 単位以内
- (4) IT 応用

I. 履修登録科目の単位制限について

法学部では、1年間に履修登録ができる単位数について制限を加えている。この趣旨は、むやみに履修する科目数を増やすことで内容の無い・勉学の実質を備えない履修を抑止すると共に、この制限内で履修される授業科目に各自の勉学努力を傾注・集中させ、もって学习上十分な内実を備えたと評価できる学力の涵養をカリキュラム上も保証するところにある。前期履修登録および後期履修登録における履修計画を慎重かつ十分に検討した上で、履修登録科目を選択すること。

法学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔平成30年2月13日 学長決定〕

1. 法学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。なお、下記表中の「専門教育科目表」とは、自己の入学年度に適用される専門教育科目表をいう。また、前期履修登録及び後期履修登録を合わせた単位数に対して登録単位制限を受けるものとする。

(1) 平成30年度入学生

	1年次	2年次	3年次	4年次
法学部専門教育科目表に記載の科目 基礎共通科目及び国際言語文化科目	36単位以内	48単位以内	48単位以内	48単位以内

(中略・平成29年度以前の入学生適用表 略)

ただし、1年次に履修できる基礎共通科目及び国際言語文化科目の単位数は8単位を限度とする。

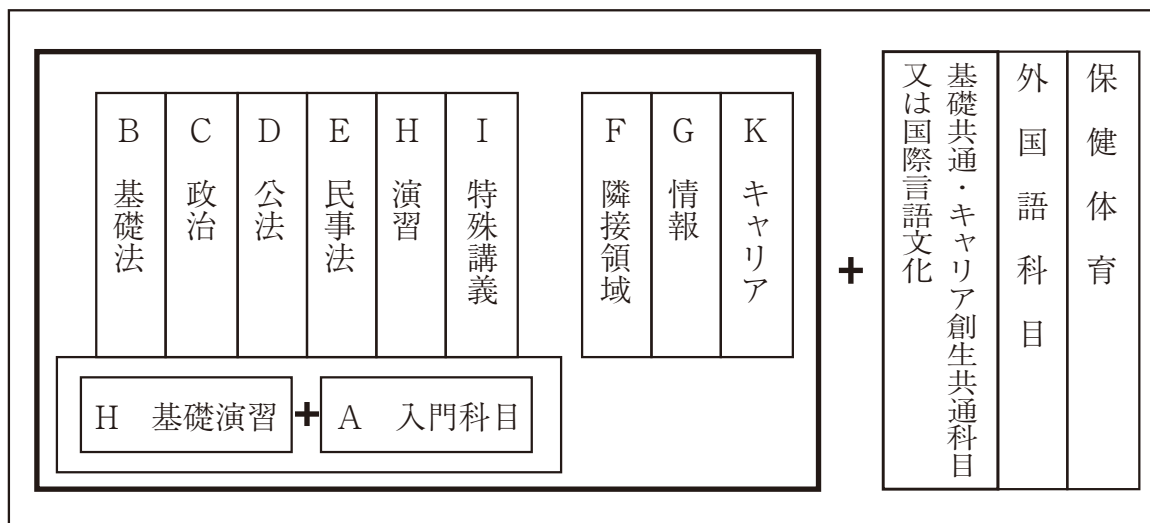
2. 次に掲げる科目の単位についてはこの制限を受けない。
法学部法学科専門教育科目表中の「J」欄の科目の単位
3. この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

Ⅱ. 法学部専門教育科目の履修にあたって

1 専門教育の位置づけ



法学部は、学生のみなさんの自己実現と社会の発展への寄与を目的として教育を行っている。みなさんには、教養科目と専門教育科目を全体としてバランスよく履修していただく必要がある。そのため、主専攻としての法学・政治学に加えて、各自の選択に応じて基礎共通又は国際言語文化の科目群を共に学び、外国語および保健体育も履修するよう構想されている。

基礎共通・国際言語文化・外国語・保健体育および各種の教職免許など資格取得に関する履修上の説明については、履修要項の該当部分を参照すること。

2 専門教育カリキュラムの成り立ちとねらい

法学部では、専門教育科目の中に多数の他学部科目を取り込むことによって、多様な科目群の履修を可能にしている。学生のみなさんは、希望する進路や興味関心に合わせて柔軟な学習ができるようになっている。

履修しようとする専門教育科目の選定にあたっては、以下に説明するカリキュラムの趣旨やねらいを十分に理解した上で、自分の進路や学習目的を熟考し、履修を行うことが望まれる。この点、科目名称において、Ⅰ・Ⅱといった表現がある場合、それらは深く関連していることも多い。シラバスの記載を確認して、履修登録科目を選択すること。

なお、

- 必修科目とは、それを履修・修得しなければ卒業することができない科目のことで、法学部では基礎演習が該当する。
- 選択必修科目とは、予め定められた区分から所定の単位数に見合う科目を履修・修得しなければ卒業することができない科目のことである。ある区分に属する選択必修科目の総数は、所定の単位数よりも多く設定されている。
- 自由選択科目とは、上記科目以外の科目のことである。これらの科目は、みなさんの興味関心に応じた柔軟な履修を可能にするために設けられている。大学での4年間の勉学を通じて、自分なりの

〈知の体系・技法〉を身につけるため、熟考の上、選択するようにすること。専門教育科目表のうち、「J その他」の科目は卒業単位に算入されず、「F 隣接領域」、「H 演習」、「K キャリア」に属する科目は、卒業単位に算入される単位数に上限があるので注意すること。

2-1 カリキュラムのねらい

法学部の専門教育は、以下の2点を重視して展開されている。一つ目は、学生のみなさんの興味関心や進路の多様性などに鑑み、経済学・経営学・社会学・心理学等々、法学・政治学以外の科目も履修できるよう、柔軟なカリキュラムを提供している。

二つ目には、法科大学院への進学、司法書士や公務員など、将来の職業・進路を選択する上で有益な教育を提供する体制を積極的に整備している。

2-2 カリキュラムの特徴

(1) 法学・政治学の基礎・基本を重視した教育

1年次の前期に、基礎演習（必修）で、法学・政治学の勉強を進めるにあたり基本となる事柄について学ぶ。また、入門科目、すなわち公法入門・民法入門・刑事法入門・政治学入門において、各分野の導入となる知識を修得すると共に、各分野の全体像を把握する。また、1年次と2年次を通じて、法学・政治学の基本的知識の修得を目指す。また、2年次以降には、選択演習を開講し、専門的テーマを積極的・自律的に学んでいく上で必要な知識やスキルを補強し、3年次の専門演習および3・4年次の高度な専門教育科目へと勉強をつなげていく。

(2) 多様なニーズに対応し、柔軟性に富むカリキュラム

法学部では、法学・政治学の基礎・基本の修得を基軸に据えつつも、経済学・経営学・社会学・心理学等々の隣接学問分野の科目も履修できるようにし、多様な視点から物事を捉える能力を涵養することができる。さらに、法学・政治学に関連する隣接学問分野の科目を配置することで、学生のみなさんの多様なニーズに対応できるように工夫されている。

例えば、将来法科大学院進学を目指して徹底して法律学を学びたいと考える人は、3年次の専門演習（演習）で専門的なテーマを選定し、各自の問題関心と将来法科大学院において履修すべき科目を睨んで履修することが可能である。弁護士・司法書士・企業人など実務家による授業が選択演習や講義などで複数開講されるので、法律学の理論が実務とどのように関連しているのかを意識し、また確認しながら勉強を進めることができる。

また、一般企業への就職などを目指して学びたいと考えている人は、法学・政治学だけでなく経済学・経営学・社会学・心理学などについても多くの学習時間を充てることができる。

さらには、特に外国語の力を伸ばしたいと考える人は、国際言語文化センターの「国際言語文化科目」や同センターの上級外国語科目を履修することで、外国語科目を卒業必要単位全体のうち40単位程度まで修得することができる。また、国際交流センターの「エリアスタディーズ」では、実際に外国の大学などで学修することもできる。

法学部生の進路は、弁護士、司法書士や公務員、会社・団体への就職など、多様である。法学部では1年次からキャリア関連科目が用意されており、これらの科目を履修することで、会社や公務員の業務内容を具体的に知り、そしてどのような人材が求められているかを考えるきっかけが得られるであろう。

なお、法学部では、司法書士や公務員試験など各種資格試験対策にも配慮してカリキュラムが構成されており、志望する試験に対応した履修が可能である。もっとも、試験によっては、現在提供されている科目では不十分な場合もあるので、各自で試験の詳細を確認し、独習ないし他学部開講科目の履修も検討してみる（ただし、当該科目の単位が常に卒業必要単位に算入されるわけではない）。

(3) 情報化社会に対応した教育

全学共通科目である「IT 基礎」「IT 応用」に加えて、現実のビジネスシーンで使用されるプログラムやマクロなどを織り込んだ「法学部情報処理」科目を履修することで、コンピュータ・リテラシーを涵養することができる。

3 専門教育科目について

法学部の専門教育科目は、別表の通りである。各科目の配当年次に応じて、科目表中の必修科目（基礎演習のみ）および各区分において定められた単位数に相当する選択必修科目を履修することが基本である。所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。

卒業必要単位としての126単位に到達するために、各科目の配当年次に応じて、残りの単位を充足する必要がある。この残りの単位は二つの場合に分けられる。①科目表のある区分において定められた単位数に相当する選択必修科目を既に修得しているけれども、履修希望科目が当該区分欄にある場合、所定の選択必修科目の単位数を越えて当該区分でさらに履修した科目は自由選択科目に充当される。②科目表における自由選択科目などの単位を履修することもできる。不明な点や疑問点などについては指導教員に履修相談をすること。また、適宜、経済・法・経営学部合同事務室（法学部担当）（9号館1階）にて照会すること。

必修科目および選択必修科目を除く、専門教育科目に関する卒業必要単位の多数をどのような科目で満たしてゆくかは、自分で決定しなければならない。このとき、各区分からバランスよく履修していく方法や、例えば公法関係とか民事法関係といったように、ある特定分野に力を入れて履修することも可能である。他にも、コンピュータや語学関連の領域を重視した履修を行うとか、各種資格試験受験科目に対応する科目を履修するといったことも可能である。各々の進路や目的に応じて、隣接関連科目を履修することもできる。このように、カリキュラムに備えられた多様性と柔軟性を活用することで、自らのニーズに応じて履修することを可能にしている。履修科目の選択にあたって、慎重な判断をすること。

Ⅲ. 科目履修上の諸注意

法学部を卒業するには126単位を修得しなければならない（この126単位には、基礎共通科目または国際言語文化科目（18単位）・外国語科目（8単位）・保健体育（2単位）を含んでいる。専門教育科目だけでは、卒業必要単位数は98単位となる）。しかし、これは卒業に必要な最低限の単位数であり、各自の興味関心や進路希望に応じてそれ以上の科目を履修・修得するよう強く推奨する。以下では、専門教育科目の履修登録の際の科目選定にあたって、どのような考え方で臨めばよいのかを説明する。

1. 法学部の専門教育科目は、別表のとおりである。配当年次を考慮して履修すること。所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。
2. 各科目の配当年次に応じて、科目表中の必修科目（基礎演習のみ）および各区分において定められた単位数に相当する選択必修科目を履修すること。基礎演習は1年次で絶対に履修すること。
3. 「基礎演習」は原則として1年次で履修しなければならないが、1年次で修得できなかった者は、2年次で必ず履修すること。授業開始から2回目までは合同で行う。クラス分けは、抽選による履修登録によって決定する。決められた期間に手続きしなかった者や別の科目を登録している者は、法学部長が履修クラスを決定する。クラス分けは履修登録画面を確認すること。
4. 1年次生にとって、入門科目（「公法入門」、「民事法入門」、「刑事法入門」、「政治学入門」）は、法学部の専門科目を履修するにあたって基礎となる科目であるので、履修することを強く薦める。
5. 専門教育科目の一部は、クラスを分割して授業を行っているので、それぞれの指定に従って履修しなければならない。
6. 履修にあたっては各科目の「シラバス」を熟読し、その指示に従うこと。例えば、「×××Ⅱを履修する学生は、あらかじめ×××Ⅰを履修していることが望ましい」という指示がなされている場合がある。
7. 科目によっては、参考資料等の有用な情報が、下記のURLから引き出せる。また、教員によっては、レジュメ、参考資料等の配布や、課題・小テスト等を〈My KONAN〉を利用して実施する場合がある。
8. 授業に必要な案内は教務部掲示板の他、9号館1階の掲示板、〈My KONAN〉および法学部ホームページに掲載される。また、法学会のホームページには、**学内からのみ閲覧可能な過去の定期試験問題**も掲載されている。（甲南大学ホームページ〈<http://www.konan-u.ac.jp>〉トップページ→学部案内→法学部→法学会）
9. 「選択演習Ⅰ～Ⅷ」は、8単位まで、卒業必要単位数に算入することができるが、必修又は選択必修科目の単位数に算入することはできない。

「選択演習Ⅰ～Ⅷ」は、「基礎演習」と3・4年次の「専門演習」を架橋すること、あるいは、専門職を志す者に有益な機会を提供することを目的とした、法学部専任教員、ロースクール教員、実務家によって提供される少人数クラスである。主として2年次生を念頭において開講するが、基礎に立ち返って学習したい3・4年次生も履修できる。また、「選択演習Ⅰ～Ⅷ」を履修希望する者は、

それぞれのクラスによって履修条件が異なるので、必ず、シラバス・掲示板等を確認すること。条件にあてはまらない者は、履修できない。

10. 「専門演習」は予備登録（10月～11月頃募集掲示）を行い、許可を得た者のみ履修できる。法学部の方針は、「**真剣に学ぶ意思のある者のみ専門演習を履修できる**」ことであるので、申込者数に関係なく担当者による面接等の選考を行う場合がある。なお、「専門演習」は、自由選択科目であり、履修しなくても差し支えない。
11. 法学部においては、**火曜日 5 限**を補講時限とする。休講等があった場合、この時限に補講が行われることがある（具体的な日時・場所等は、その都度、〈My KONAN〉に掲示される）。したがって、この時限には、特段の事情のない限り、原則として履修科目等を配置しないようにすること。
12. 次に掲げる進級に関する内規を適用するので注意すること。

法学部 3 年次生の履修登録科目の制限に関する内規

平成 27 年 4 月 1 日 学長決定

第 1 条 法学部の学生が 2 年次から 3 年次に進むにあたり、卒業に必要な修得単位数が 50 単位未満の場合、3 年次において履修できる専門教育の科目・単位は次条に定める限りとする。

第 2 条 前条の制限に該当する学生が 3 年次において履修できる専門教育の科目・単位は次の各号に定める範囲に限られる。

- (1) 専門演習
- (2) 3 年次に配当される演習以外の専門教育科目のうち 10 単位
- (3) 未修得の 1・2 年次配当科目

附 則

この内規は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の改廃は、平成 27 年 4 月 1 日から学長決定により行う。

上記内規に従い、本学部では 3 年次に進級するとき、一定以下の単位しか修得していない場合には、3・4 年次配当科目の履修に一定の制限が掛かる。この趣旨は、1・2 年次における学業成績が芳しくない学生諸君に対し、むやみに 3・4 年次配当の高度な内容の科目を履修して消化不良になるよりも、むしろ 1・2 年次配当科目の着実な履修（再履修）を促すと共に、経験的に見て、このまま 3・4 年次も不真面目な勉学態度が継続すれば卒業できない可能性が高いことを警告する点にある。

なお、専門教育科目表の F 隣接領域のうち、教職課程履修者のみ 2 年次から履修可能としている科目については、教職課程履修者以外は 3・4 年次配当科目であることに注意すること。

13. 法学部では、学業に励み優秀な学業成績を収めた学生に対し、その努力を称え表彰している。表彰の基準は当該年度に修得した法学部固有の専門科目（授業時間表の授業コードの先頭番号が 4 の科目）について、「秀を 5 点 優を 4 点 良を 2 点 可を 1 点」として、合計点数の多い順に上位 3 パーセントの人数とする。対象学年は、1～3 年次生とする。
14. 法学部専門科目表の F 隣接領域のうち、日本史概説Ⅰ・Ⅱ、アジア史概説Ⅰ・Ⅱ、西洋史概説Ⅰ・Ⅱ、社会人間学、社会学概論の 8 科目については教職課程履修者のみ 2 年次からの履修を可能とする。

法学部転入生の履修に関する取扱内規

平成 27 年 10 月 27 日 法学部教授会改正

第 1 条 この取扱内規は、転学部規程に基づき、本学部への転学部が許可された者の履修等について定めるものとする。

第 2 条 本学部に入転した者（以下「転入生」という。）は、すべて 3 年次に転入される。

第 3 条 転入生は、転入した年度に基礎演習を履修しなければならない。

第 4 条 転入生は、1・2 年次及び 3 年次配当科目を転入した年度に履修することができる。

第 5 条 転入生は、転入した年度にはできる限り、1・2 年次配当の必修科目を優先的に履修することが望ましい。

第 6 条 転入生が、3 年次及び 4 年次に履修できる法学部専門教育科目及び基礎共通科目の単位数は、それぞれ合計 48 単位を限度とする。

第 7 条 前学部で履修した専門教育科目の単位で、法学部専門教育科目にない科目については、申請に基づき 16 単位を限度として、本学部における自由選択科目の単位として認定することができる。

附則

- 1 この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

法学部編入生の履修に関する取扱内規

平成 27 年 10 月 27 日 法学部教授会制定

第 1 条 この取扱内規は、本学部への編入が許可された者の履修等について定めるものとする。

第 2 条 本学部に入編した者（以下「編入生」という。）は、すべて 3 年次に編入される。

第 3 条 編入生は、編入した年度に基礎演習を履修しなければならない。

第 4 条 編入生は、1・2 年次及び 3 年次配当科目を編入した年度に履修することができる。

第 5 条 編入生は、編入した年度にはできる限り、1・2 年次配当の必修科目を優先的に履修することが望ましい。

第 6 条 編入生が、3 年次及び 4 年次に履修できる法学部専門教育科目の単位数は、それぞれ合計 48 単位を限度とする。

第 7 条 前大学で履修した専門教育科目の単位で、法学部専門教育科目にない科目については、申請に基づき 16 単位を限度として、本学部における自由選択科目の単位として認定することができる。

附則

- 1 この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

4 年 次					
3 年 次	英米法Ⅰ・Ⅱ アジア法 比較法文化論 法哲学Ⅰ・Ⅱ	現代政治学Ⅰ・Ⅱ 政治過程論Ⅰ・Ⅱ 日本政治思想史Ⅰ・Ⅱ 西洋政治思想史Ⅰ・Ⅱ	比較憲法 行政救済法Ⅰ・Ⅱ 地方自治 税法Ⅰ・Ⅱ 国際法Ⅲ 刑法各論Ⅱ 刑事訴訟法Ⅱ	国際私法Ⅰ・Ⅱ 商法Ⅳ・Ⅴ 民事訴訟法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 労働法Ⅱ 社会保障法Ⅰ・Ⅱ 知的財産法Ⅰ・Ⅱ 経済法Ⅰ・Ⅱ	
2 年 次	日本法史Ⅰ・Ⅱ	行政学Ⅰ・Ⅱ 国際政治学Ⅰ・Ⅱ 外交史Ⅰ・Ⅱ 中南米地域研究 アメリカ地域研究 アジア地域研究 政治学原論	憲法Ⅱ・Ⅲ 行政法総論Ⅰ・Ⅱ 国際法Ⅰ・Ⅱ 刑法総論Ⅱ 刑法各論Ⅰ 刑事訴訟法Ⅰ	民法総則Ⅱ 物権法Ⅰ・Ⅱ 債権法Ⅰ・Ⅱ 親族法 相続法 商法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 労働法Ⅰ	
1 年 次	法社会学Ⅰ・Ⅱ 西洋法史Ⅰ・Ⅱ	西洋政治史Ⅰ・Ⅱ 日本政治史Ⅰ・Ⅱ	憲法Ⅰ 刑法総論Ⅰ 刑事政策	民法総則Ⅰ 不法行為法	公法入門 民法入門 刑事法入門 政治学入門
専門基礎／基礎法		政治	公法	民事法	
選択必修科目					



(※) 教職課程履修者以外は3・4年次配当

経 営 学 部

経営学部

教育基本方針	
甲南大学経営学部では、経営学に関する専門知識および分析能力の教授を通じて、「ヒト・モノ・カネ・情報等からなる組織（企業）の存続・発展のあり方について、自律的な洞察力を有し、社会に貢献するビジネスパーソンの養成」を教育の基本方針とします。	
卒業認定・学位授与の方針	
甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。経営学部の教育基本方針のもと、卒業必要単位数 130 単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目 18 単位 外国語科目 8 単位 保健体育科目 2 単位 専門教育科目 102 単位以上）を修得し、次の能力・資質を身につけた学生に学士（経営学）の学位を授与します。	
(1) ビジネスパーソンに必要な社会的協調力と自発的遂行及び倫理的責任力を有しています。 (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。 (3) 幅広い教養に裏付けられた経営学の知識・理解力を修得しています。 (4) 各種スキルと論理的思考力を有し、それに基づいて経営問題の発見・説明・解決力を体得しています。 (5) 豊かな個性に基づいた社会的貢献力を発揮できます。 (6) 自己の意見を分かりやすく主体的に説明する能力を有しています。	
教育課程編成・実施の方針	
経営学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。 カリキュラムは、各科目において学生が修得した GPA 及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。 教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。	
1) 教育内容 (1) 初年次では、経営学を学ぶための前提となる知識を得るとともに、経営学部の学びの基礎を形成するため、少人数クラスで、プレゼンテーション能力や表現力を鍛える基礎的な科目を選択必修科目として配置します。 (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。 (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。 (4) 1・2 年次には、簿記やビジネス英語のようなビジネスマンとして必要なスキルを学ぶ科目を配置します。 (5) 経営戦略、経営組織、財務会計、管理会計、マーケティング、ファイナンス、並びに、国際化の 7 つの領域に関して、それぞれの学生が専門領域を選んで体系的に学びを深められるようにするため、年次進行に合わせて段階的に高度化する本格的な専門科目を配置します。 (6) 問題発見・解決能力などの社会人としての基礎力を育成するため、2 年次から卒業時まで続く、少人数クラスによる専門演習科目を配置します。また専門演習での指導に基づき、卒業時には卒業研究（卒業論文）により、在学中に学んだことを集大成します。 (7) スペシャリストとしての能力とゼネラリストとしての視野を養うため、意欲を持った学生を対象としてビジネスリーダー養成プログラム（ビジネス・プロフェッション・コース / グローバル・ビジネス・コース / アカウンティング・プラクティス・コース）を設定します。 (8) 各自の天賦の特性と専攻分野に関する知識を社会でどのように生かしていくのかを考えるとともに、社会で活用できる力を身につけるため、キャリア教育並びにキャリア形成支援を 1 年次から 4 年次まで継続的に実施します。	
2) 教育方法 (1) 1) に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習により又は併用により授業を実施します。 (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実習、演習などを重視したクラス編成を行います。 (3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。 (4) 成績評価を GPA で表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。	
3) 学修成果の評価 学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。	

カリキュラムマップ															
到達目標													対応する卒業認定・学位授与の方針の番号		
A	幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。												(3)		
B	経営学を学ぶにあたって必要となる基礎的な考え方や分析手法を習得する。												(3)		
C	企業組織の仕組みやその背後の論理を学び、ビジネスパーソンにとって必要な知識や洞察力を得る。(経営学)												(3) (4)		
D	会計の原則とその背後の論理を学び、企業会計を理解し、実践する力を身につける。(会計学)												(3) (4)		
E	企業と市場との関係を理解し、それに基づいて企業経営を洞察できる能力を培う。(商学)												(3) (4)		
F	企業経営の国際化とそれにとまなう諸問題を理解し、その解決のための能力を養う。												(3)		
G	社会の一員として働くことの意識を高め、社会的貢献ができるべく、キャリア形成のための基礎を形成する。												(1) (2) (5)		
H	課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す、自律的洞察力を培う。												(2) (6)		
I	さまざまな情報源から適切な情報を収集し、それを有益に活用する能力を養う。												(4) (6)		
J	社会人に必要なコミュニケーション能力を身につける。												(1) (5)		
専門教育科目表（経営学科）															
〔2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用〕															
授業科目名			単位数	配当年次	到達目標										
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
①	基礎科目	基礎演習	4	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		経営学総論	4	1	○	○	○				○	○	○		
		会計学総論	4	1	○	○		○			○	○	○		
		マーケティング総論	4	1	○	○			○		○	○	○		
		経済学入門	2	1	○	○			○						
		入門簿記	4	1		○		○			○		○		
		簿記演習	2	1		○		○			○		○		
①以上のうち 16 単位以上選択必修															
②	基礎関連科目	統計学入門	4	2	○	○							○		
		情報処理概論	4	2		○					○		○		
		グローバル・コミュニケーションⅠ	4	2	○	○				○	○	○	○	○	
		グローバル・コミュニケーションⅡ	4	2	○	○				○	○	○	○	○	
	基礎専門科目	経営管理論	4	2		○	○			○					
		経営戦略論	4	2		○	○			○					
		財務諸表論	4	2		○		○					○		
		原価計算	4	2		○	○	○					○		
		商学基礎論	4	2		○	○		○						
	専門科目	経営学系統	経営史	4	2	○	○	○							
			経営学史	4	2	○	○	○							
			経営財務論	4	2		○	○		○					
			経営労務論	4	2		○	○				○			
			経営組織論	4	2		○	○				○			
			工業経営論	4	2		○	○			○				
			国際経営論	4	2		○	○			○				
			アジア経営論	4	2		○	○			○				
			国際ビジネス事情	4	2		○	○			○				
			ベンチャービジネス	4	2		○	○				○			
			経営科学	4	2		○	○						○	
			ビジネスシステム論	4	2		○	○						○	
			中小企業論	4	2	○	○	○							
			環境経営論	4	2	○	○	○							
			非営利組織論	4	2	○	○	○							

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標									
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
⑧	専門科目	会計学系統	管理会計	4	2		○	○	○					○	
			監査論	4	2		○	○	○						
			情報会計システム論	4	2		○		○					○	
			税務会計	4	2		○		○					○	
			国際会計論	4	2		○		○		○				
			財務諸表分析	4	2		○		○	○				○	
			会計史	4	2	○	○		○						
			企業会計理論	4	2		○		○					○	
			経営分析	4	2		○		○					○	
		商学系統	マーケティング管理論	4	2		○	○		○					
			国際マーケティング論	4	2		○			○	○				
			消費者行動論	4	2	○	○			○					
			流通システム論	4	2		○	○		○					
			金融論	4	2		○			○	○				
			証券論	4	2		○			○	○				
			リスクマネジメント	4	2		○	○		○					
		演習	専門演習Ⅰ	2	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○
			専門演習Ⅱ	8	3・4		○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑧以上のうち 66 単位以上選択必修															
一般	経営学特論 a	4	3・4	○	○	○									
	経営学特論 b	4	3・4	○	○	○									
	経営学特論 c	4	3・4	○	○	○									
	経営学特論 d	4	3・4	○	○	○									
	経営学特論 e	2	3・4	○	○	○									
	会計学特論 a	4	3・4	○	○		○								
	会計学特論 b	4	3・4	○	○		○								
	会計学特論 c	4	3・4	○	○		○								
	会計学特論 d	4	3・4	○	○		○								
	会計学特論 e	2	3・4	○	○		○								
	商学特論 a	4	3・4	○	○			○							
	商学特論 b	4	3・4	○	○			○							
	商学特論 c	4	3・4	○	○			○							
	商学特論 d	4	3・4	○	○			○							
	商学特論 e	2	3・4	○	○			○							
	経営実務 a	2	3・4	○	○					○				○	
	経営実務 b	2	3・4	○	○					○				○	
	経営実務 c	2	3・4	○	○					○				○	
	経営実務 d	2	3・4	○	○					○				○	
	中級簿記	4	2		○		○			○		○			
	工業簿記	4	2		○	○	○			○					
	経営コンサルティング論	4	3・4	○	○					○	○	○	○	○	
	情報処理Ⅰ	4	2	○	○								○		
	情報処理Ⅱ	4	2	○	○								○		
	グローバル・ビジネス特論Ⅰ	2	2						○	○	○	○	○	○	
	グローバル・ビジネス特論Ⅱ	2	2						○	○	○	○	○	○	
	外書講読Ⅰ	4	2		○	○	○	○	○						
	外書講読Ⅱ	4	2		○	○	○	○	○						
	ビジネス英語Ⅰ	2	2						○					○	
	ビジネス英語Ⅱ	2	2						○					○	
	ビジネス英会話・初級	4	2						○					○	
	ビジネス英会話・上級	4	2						○					○	
	実践的経営シミュレーション演習	4	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	初級マクロ経済学	2	2	○	○										

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
一般	初級ミクロ経済学	2	2	○	○								
	財政	4	3・4	○	○								
	金融	4	3・4	○	○								
	国際経済	4	3・4	○									
	産業経済	4	3・4	○	○								
	民法総則Ⅰ	2	2	○	○								
	民法総則Ⅱ	2	2	○	○								
	商法Ⅰ	2	3・4	○	○								
	商法Ⅱ	2	3・4	○	○								
	入門ビジネス法務	2	2	○	○					○			
	ビジネスを支える法の世界	2	3・4	○	○					○			
キャリアデザイン	ベーシック・キャリアデザイン	2	1	○						○			○
	プラクティカル・キャリアデザイン	2	3	○						○			○
	アドバンスト・キャリアデザイン	2	4	○						○			○
	インターンシップ	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	実践ボランティアⅠ	1	1	○				○		○	○	○	○
	実践ボランティアⅡ	1	1	○				○		○	○	○	○
	インターナショナルOCA	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教職	職業指導Ⅰ	2	3	○						○			○
	職業指導Ⅱ	2	3	○						○			○
	人文地理Ⅰ	2	2	○									
	人文地理Ⅱ	2	2	○									
	自然地理学	2	2	○									
	日本史概説Ⅰ	2	2	○									
	日本史概説Ⅱ	2	2	○									
	アジア史概説Ⅰ	2	2	○									
	アジア史概説Ⅱ	2	2	○									
	西洋史概説Ⅰ	2	2	○									
	西洋史概説Ⅱ	2	2	○									
	政治学入門	2	2	○									
	政治学原論	2	2	○									
	法律学概論	2	2	○									
卒業必要単位数 102 単位以上													

【卒業必要単位数】

1. 経営学部経営学科の学生は、次に定めるところに従って合計 130 単位以上を修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	18 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
選択必修科目 ①より	16 単位以上
②より	66 単位以上
自由選択科目	
合 計	130 単位以上

2. 2年次にビジネス・リーダー養成プログラムに所属した場合はビジネス・リーダー養成プログラムの専門教育科目の単位も上記1に含まれる。
3. 次の科目については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、選択必修の単位数に充てることができない。
 - (1) 中級外国語・上級外国語・海外語学講座・留学支援科目の単位を併せて8単位以内（ただし、国際言語文化科目を選択した者が履修するコース中の科目を除く）
 - (2) 文学部英語英米文学科「English Studies I～Ⅷ」から、8単位以内
 - (3) 生涯スポーツについては、2単位以内
 - (4) 「IT応用」の2単位
 - (5) 「エリアスタディーズI～X」については、4単位以内
 - (6) 「地域ファシリテイト」、「地域プロジェクトI」、「地域プロジェクトII」については、6単位以内

I. 履修登録科目の単位制限について

経営学部では、次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。該当者は履修計画を慎重、かつ十分に検討した上で履修登録科目を選択すること。

経営学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔平成 30 年 2 月 13 日 改正〕

1. 経営学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける科目及び単位数は次のとおりである。

(1) 平成 30 年度以降入学生

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
経営学部専門教育科目表に記載の科目	24 単位以内	36 単位以内	44 単位以内	44 単位以内
基礎共通科目及び国際言語文化科目	8 単位以内	10 単位以内		

(中略・平成 29 年度以前入学生適用表 略)

(注) 1. 登録単位制限は前期履修登録・後期履修登録の単位数を合わせたものである。

2. 専門教育科目表とは、自己の入学年度に適用される専門教育科目表である。

2. 次に掲げる科目の単位についてはこの制限を受けない。

(1) 「インターンシップ」、「実践ボランティアⅠ」・「実践ボランティアⅡ」、「インターナショナル OCA」

(2) ビジネス・リーダー養成プログラム所属学生については、ビジネス・リーダー養成プログラム専門教育科目表の全科目

(3) 「専門演習Ⅰ、Ⅱ」

3. この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

II. 科目履修上の諸注意

1. 履修条件について

下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
専 門 演 習 Ⅱ	「専門演習Ⅰ」の単位を修得していること
財 政	「経済学入門」の単位を修得していること
金 融	「経済学入門」の単位を修得していること
国 際 経 済	「経済学入門」の単位を修得していること
産 業 経 済	「経済学入門」の単位を修得していること

2. 所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。

3. 履修登録は前期に、集中講義を含む通年科目、前期科目、後期科目のすべてが登録できる。

1年間の履修計画を立てたうえで登録をすること。後期科目については、前期および後期に登録可能で、前期に登録した科目も後期に追加・変更ができるので、前期にまず登録をすること。

4. 1年次配当の選択必修科目は、基礎的な専門教育科目であるため、1年次において履修することが望ましい。特に「経営学総論」「会計学総論」「マーケティング総論」は、各学系の基礎理論を学習するため重要な科目である。

なお、1年次は再履修クラスでの履修はできない。

5. 「基礎演習」の履修については、指定されたクラスに従って事前に履修登録するので、履修を希望しない者は、担当教員に相談の上、履修登録期間中に〈My KONAN〉で登録を取り消すこと。
6. 複数のクラスを開講する科目については、『履修ガイドブック』を確認のうえ、指定されたクラスで履修すること。
7. 「簿記演習」は「入門簿記」履修者が、さらに簿記の勉強を継続することを念頭に設置されている科目である。簿記検定合格状況に基づいて、履修に制限がある2種類のクラスが開講されるので、申し合わせに沿って履修する必要がある。申し合わせおよび申し込み方法については、『履修ガイドブック』を参照すること。
8. 「ビジネス英会話・初級」および「ビジネス英会話・上級」は申し合わせが適用される。申し合わせおよび申し込み方法については、『履修ガイドブック』を参照すること。
9. 「インターンシップ」および「実践ボランティアⅠ・Ⅱ」の履修にあたっては、指定された期日までにキャリアセンター・地域連携センターへの希望登録が必要である。4月の履修登録は必要ない。実施後に単位認定申請書の提出をもって履修登録され、レポートの提出により、成績評価される。希望者はキャリアセンターの「インターンシップガイダンス」、地域連携センターの「ボランティアガイダンス」に出席し、指示に従って手続きをすること。

また、「インターナショナルOCA」についても、実施後に単位認定申請書の提出（経済・法・経営学部合同事務室（9号館1階）に提出）をもって履修登録され、報告会参加及びレポート提出等により、成績評価されるので、4月の履修登録は必要ない。履修希望者はシラバスを確認すること。

Ⅲ. 専門演習の履修について

経営学部の専門演習は、2年次に「専門演習Ⅰ」（2単位）、3年次、4年次で「専門演習Ⅱ」（8単位）を継続して履修することが原則である。

「専門演習Ⅰ」

- (1) 「専門演習Ⅰ」（2年次配当）は後期科目である。履修を希望する者は前期履修登録時、「専門演習Ⅰ」の開講曜日・時限（後期火曜2限）に、通年科目を登録しないように注意すること。履修登録完了後に、登録科目の取り消しはできない（中級・上級外国語科目等の事前登録科目

等を、火曜2限に登録しないよう特に注意すること。2年次後期に留学が決まっている場合も同様である)。

- (2) 「専門演習Ⅰ」の所属申し込みにあたっては、「専門演習Ⅰ所属申込書」を経済・法・経営学部合同事務室（9号館1階）に提出すること。「専門演習Ⅰ」の所属申込等に関する説明会を5月中に実施する予定なので、履修を希望する者は掲示に注意し、説明会に参加すること。
- (3) 「専門演習Ⅰ所属申込書」や「専門演習Ⅰガイドブック」の配付は6月上旬の予定である。詳細は決まり次第掲示（〈My KONAN〉、教務部掲示板）する。
- (4) 所属申込者が定員を超えた「専門演習Ⅰ」においては、担当教員による選考が行われる。選考にもれた者は「専門演習Ⅰ」の履修はできない。なお、「専門演習Ⅰ」の定員や各担当者の選考基準、選考方法等の詳細は「専門演習Ⅰガイドブック」に示す。
- (5) 履修年度に留学等を予定（希望）している者は、「専門演習Ⅰ」の募集が始まるまでに経済・法・経営学部合同事務室（9号館1階）に申し出ること。
- (6) 所属が決定した者は、自動的に登録されるので、改めて履修登録する必要はない。後期の履修登録時に正しく登録されているか確認すること。
- (7) 所属演習が決まらなかった場合、留年することなく「専門演習Ⅱ」を履修することはできないので、注意すること。

「専門演習Ⅱ」

- (1) 「専門演習Ⅱ」は、3年次、4年次の2年間継続して履修する科目である。「専門演習Ⅰ」の単位を修得した者のみが、同一担当者の演習を継続して履修することができる。万が一履修を希望しない者は、担当教員に相談の上、履修登録期間中に〈My KONAN〉で登録を取り消すこと。
- (2) 協定校への留学で、前年度に「専門演習Ⅰ」を履修していない者で履修を希望する者は後掲の申し合わせに従い、経済・法・経営学部合同事務室（9号館1階）に申し出ること。期日は『履修ガイドブック』を参照すること。
- (3) 「専門演習Ⅱ」の単位修得にあたっては、研究成果に関する論文（卒業論文）を提出して、これに合格しなければならない。作成要領等は10月下旬に発表する。提出期日については、『履修ガイドブック』を参照すること。

Ⅳ. 経営学部成績優秀者選考方法について

経営学部では、1・2・3年次の各年次の上位3%程度の者を成績優秀者として表彰する。

成績優秀者の決定方式として、GPA方式で表彰者を決定する。算定方式における最低修得単位数は40単位とする。なお、読み替え科目の取り扱いについては、順位算出の期日（4月末）現在で読み替えられている科目とする。

**外国留学規程に基づく外国の大学への留学（以下「留学」）やBPコース所属学生の
インターンシップにともなう専門演習Ⅰ・Ⅱの受講に関する申し合わせ**

平成25年11月5日経営学部教授会決定

〔専門演習Ⅰ（2年生後期）について〕

- ① 2年後期が留学期間（半期・1年）に当たっている場合、「専門演習Ⅰ」の履修は認められないが、例外的に3年生からの「専門演習Ⅱ」の履修は認められる。この場合、3年生からの「専門演習Ⅱ」を履修するためには、2年次において「専門演習Ⅰ」の所属申し込みを行い、演習の所属先が決まっている必要がある。また、「専門演習Ⅰ」の受講に代わって、
- ・ その間、メール等で適宜指導を受ける
 - ・ その期間の補習に該当する指導を適宜受ける
- 必要がある。また、帰国後ただちに、講義の受講を開始する必要がある。
- ② 「専門演習Ⅰ」の申込期間において留学中で国内にいない場合は、郵送等により所属申し込みをすることができる。該当する学生は、留学出発前に経営学部事務室にその旨を届け出る必要がある。

〔専門演習Ⅱ（3・4年生）について〕

- ① 3・4年生に留学やインターンシップで「専門演習Ⅱ」の履修が半期間欠けた場合、例外的にその期間も演習の履修期間に含めることができる。ただし、その期間の講義のかわりに、以下の指導を受ける必要がある。
- ・ 留学期間やインターンシップ期間において、メール等で適宜指導を受ける
 - ・ その期間の補習に該当する指導を適宜受ける
- また、帰国、ないしは、インターンシップ終了後ただちに、講義の受講を開始する必要がある。
- ② 3年生（前後期とも）出発の1年間の交換留学に関しては、留学先で履修した4単位相当の専門科目をもって、その期間の専門演習Ⅱの履修とみなす、すなわち、履修期間に含めることができる。ただし、該当する単位は甲南大学の他の単位への読み替えは認めないものとする。必要な単位が修得できなかった場合は、留学期間は履修期間に含められず、休学した場合と同様の扱いとなる。
- ③ 専門演習Ⅱの単位は、卒業論文を提出し、合格することにより与えられるが、4年生後期に半期留学し、提出期間に国内にいない場合は、郵送等での提出を認めるものとする。該当する学生は、留学出発前に経営学部事務室にその旨を届け出る必要がある。
- ④ 4年生前期出発の1年間の交換留学に関しては、取得してきた単位を「専門演習Ⅱ」の履修と読み替えることはせず、休学した場合と同様の取り扱いとなる。4年生後期出発の1年間の交換留学に関しては、4年生後期出発の半期の奨励留学と同様に扱う。

〔学生からの届け出〕

- ・ 2年生前期中に演習所属を決定して留学し、「専門演習Ⅱ」への継続履修を求める場合は、留学出発前に学部事務室にその旨を申し出る必要がある。

ビジネス・リーダー養成プログラム (BP コース・GB コース・AP コース)

専門教育科目表

[2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用]

授業科目名		単位数	配当年次	到達目標									
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
B P コ ー ス 科 目	B P コース特論Ⅰ	2	2		○					○	○	○	○
	B P コース特論Ⅱ	2	2		○					○	○	○	○
	B P コース特論Ⅲ	2	3		○					○	○	○	○
	B P 経営分析	4	2		○		○					○	
	B P 社会調査法	2	2	○	○					○	○	○	
	B P 演習Ⅰ	2	2		○					○	○	○	○
	B P 演習Ⅱ a	2	3		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	B P 演習Ⅱ b	2	3		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	B P 演習Ⅲ	4	4		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	B P 特別演習	4	4		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	B P インターンシップⅠ	6	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	B P インターンシップⅡ	6	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	B P インターンシップⅢ	6	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	B P 経営コンサルティング論	4	3	○	○					○	○	○	○
以上 B P コース⑧選択必修													
G B コ ー ス 科 目	GB ビジネス特論Ⅰ	2	2		○				○	○	○	○	○
	GB ビジネス特論Ⅱ	2	2		○				○	○	○	○	○
	GB コース TOEFL・IELTSⅠ	2	2		○				○				○
	GB コース TOEFL・IELTSⅡ	2	2		○				○				○
	GB コース TOEFL・IELTSⅢ	2	2		○				○				○
	GB コース TOEFL・IELTSⅣ	2	2		○				○				○
	GB ビジネス英語Ⅰ	2	2		○				○				○
	GB ビジネス英語Ⅱ	2	2		○				○				○
	GB ビジネス英会話・初級	4	2		○				○				○
	GB ビジネス英会話・上級	4	2		○				○				○
	GB 外書講読Ⅰ	4	2		○	○	○	○	○				
	GB 外書講読Ⅱ	4	2		○	○	○	○	○				
	GB コースドイツ語会話Ⅰ	2	2						○				○
	GB コースドイツ語会話Ⅱ	2	2						○				○
	GB コースフランス語会話Ⅰ	2	2						○				○
	GB コースフランス語会話Ⅱ	2	2						○				○
	GB コース中国語会話Ⅰ	2	2						○				○
	GB コース中国語会話Ⅱ	2	2						○				○
	GB コース韓国語会話Ⅰ	2	2						○				○
	GB コース韓国語会話Ⅱ	2	2						○				○
	GB 国際アクティビティⅠ	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	GB 国際アクティビティⅡ	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	GB 国際アクティビティⅢ	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
以上 G B コース⑧選択必修													
A P コ ー ス 科 目	AP アカウンティング・プラクティス基礎 a	4	2		○		○			○		○	
	AP アカウンティング・プラクティス基礎 b	4	2		○		○			○		○	
	AP アカウンティング・プラクティス基礎 c	4	2		○		○			○		○	
	AP アカウンティング・プラクティス基礎 d	4	2		○		○			○		○	
	AP アカウンティング・プラクティス演習	2	2		○		○			○		○	
	A P 経営コンサルティング論	4	3	○	○					○	○	○	○
	上級簿記Ⅰ	2	2		○		○			○		○	
	上級簿記Ⅱ	2	2		○		○			○		○	
	上級財務諸表論Ⅰ	2	2		○		○			○		○	
	上級財務諸表論Ⅱ	2	2		○		○			○		○	
	上級工業簿記	2	2		○	○	○			○		○	
	上級原価計算	2	2		○	○	○	○		○		○	
	入門パーソナルファイナンス	2	2	○	○			○		○			
	応用パーソナルファイナンス	2	2		○					○		○	
以上 A P コース⑧選択必修													

※ BP コースと AP コースの併願及び両属を認める。ただし、BP コースと AP コースの両属になった場合は、BP インターンシップに参加しなければならない。

ビジネス・リーダー養成プログラムについて

本プログラムは、経営学、会計学および商学の3分野の専門的知識を習得したうえで、より高度な学習を行いたいとの意欲を持った学生のために設置されている。ビジネス・プロフェッション・コース（BP コース）、グローバル・ビジネス・コース（GB コース）、アカウンティング・プラクティス・コース（AP コース）の3コースからなるが、その概要は以下のとおりである。

ビジネス・プロフェッション・コース（BP コース）

3年次後期に3ヶ月間のフルタイムの経営管理インターンシップに参加し、その成果を踏まえ、企業経営全般の専門知識を「現場」で使いこなす能力を身につけることを目標とする。そのために、2年次において、「BP 演習Ⅰ」および「BP コース特論Ⅰ」、「BP コース特論Ⅱ」、「BP 経営分析」、「BP 社会調査法」を履修し、経営学の諸分野に関する基礎固めを行う。これらの科目は、少人数で開講し、多くの課題が出され、双方向的な形で授業が進められる等、密度の高い演習・講義が行われる。3年次前期に「BP 演習Ⅱ a」および「BP コース特論Ⅲ」、「BP 経営コンサルティング論」を履修し、インターンシップ選考最終試験を経て、後期にインターンシップに参加する。4年次には、それまで習得した知見、経験、問題意識を基に卒業論文を作成する「BP 演習Ⅲ」を履修する。

グローバル・ビジネス・コース（GB コース）

コースにおいて開講されている各種の語学科目を履修し（20単位程度、③選択必修として卒業必要単位に算入される）、海外留学を目指す。このコースの学生として留学すると、留学先での各種の経験に対しても、単位認定が行われる。

アカウンティング・プラクティス・コース（AP コース）

より実務志向的な、または、資格を目指した簿記関連科目、キャリア創生共通科目を履修し、会計実務の即戦力となることを目指す。日商簿記検定2級に単に合格するだけでなく、その内容を完全に自分のものとするを最低限の目標とする。これを前提に各種資格試験合格のための基礎をかためる。

I. ガイダンス・選考日程（本プログラムへの登録申請手続）

本プログラムは、1年次後期に募集と選考が行われ、2年次からスタートする。各コースの出願のための日程等の予定は以下のとおりである。

4月上旬：新入生履修指導（BL 養成プログラムの概要説明）

10月上旬：第1回ガイダンス（3コースの特徴・意義の説明）

12月中旬：第2回ガイダンス（選考日程・内容の公表、登録申請手続の説明、既履修生の体験説明）

1月上旬：登録申請書の提出

1月下旬：面接試験の実施

3月中旬：選考結果の発表、履修指導ガイダンス

Ⅱ. 登録申請条件および選考方法

	BP コース 〈20 名程度〉	GB コース 〈40 名程度〉	AP コース 〈80 名程度〉
登録申請条件	・1 年次配当の「総論 3 科目のうち 2 科目以上 + 外国語 5 科目」のうち、前期開講科目の単位を修得済みで、かつ後期開講科目の単位を修得見込みの学生は登録申し込みを行うことができる。 ・上記の後期開講科目の単位をすべて修得できなかった場合には登録申し込みを申込日に遡って取り消すものとする。 ・BP コース生は「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」の履修はできない。	・1 年次配当の「総論 3 科目のうち 2 科目以上 + 外国語 5 科目」のうち、前期開講科目の単位を修得済みで、かつ後期開講科目の単位を修得見込みの学生は登録申し込みを行うことができる。 ・上記の後期開講科目の単位をすべて修得できなかった場合には登録申し込みを申込日に遡って取り消すものとする。 ・原則、「留学のための英語集中コース」を履修していること。もしくは TOEFL の ITP430 点以上を有していること。	・2 年次進級時に以下の 3 つの条件を満たす見込みがあるものは、登録申し込みを行うことができる。①総論 3 科目のうち 2 科目以上の単位を修得していること。②外国語科目 5 科目のうち、4 科目の単位を修得していること。③日商簿記 3 級に合格していること。 ・上記条件が 2 年次前期開講時に満たされていない場合は、登録申し込みを申込日に遡って取り消すものとする。
選抜方法	・選抜方法は、以下の 2 点の評価を総合して決定 ①書類選考 ・1 年次の成績と志望動機 ②面接試験 ・本プログラムへの参加意欲、コミュニケーション能力、一般教養などを確認	・選抜方法は、以下の 2 点の評価を総合して決定 ①書類選考 ・1 年次の成績と志望動機 ②面接試験 ・本プログラムへの参加意欲、コミュニケーション能力、一般教養などを確認	・選抜方法は、以下の 2 点の評価、確認により決定 ①書類選考 ・1 年次の成績と志望動機 ②資格確認 ・日商簿記検定 3 級取得

※ただし、2019 年 4 月 1 日時点で、日商簿記 2 級取得者については、1 年次から AP コースに所属することが可能である。所属希望者は 4 月上旬の新入生履修指導（BL 養成プログラムの概要説明・AP コース向けガイダンス）に出席すること。

Ⅲ. 科目履修上の諸注意

本プログラムに所属する学生（以下、当該学生という。）は、履修指導ガイダンスに出席し、履修指導を受けること。

1. 当該学生は、経営学部専門教育科目表の配当年次に関わらず、所属する年次を超える配当年次の授業科目を履修できる。
2. 当該学生は、経営学部専門教育科目表科目に加えて、「ビジネス・リーダー養成プログラム専門教育科目表」に記載の科目を卒業必要単位として算入できる。
3. 当該学生は、「ビジネス・リーダー養成プログラム専門教育科目表」の全科目を「履修登録科目の単位制限」を受けることなく履修登録できる。

4. 以下の科目については、いずれか一方の科目のみ履修可能である。

ビジネス・リーダー養成プログラム専門教育科目表	経営学部専門教育科目表
G B ビジネス英会話・初級	ビジネス英会話・初級
G B ビジネス英会話・上級	ビジネス英会話・上級
G B ビジネス英語 I	ビジネス英語 I
G B ビジネス英語 II	ビジネス英語 II
G B ビジネス特論 I	グローバル・ビジネス特論 I
G B ビジネス特論 II	グローバル・ビジネス特論 II
G B 外書講読 I	外書講読 I
G B 外書講読 II	外書講読 II
A P 経営コンサルティング論	経営コンサルティング論
B P 経営コンサルティング論	
B P 経営分析	経営分析

5. BP コース科目に関しては、原則として配当年次にのみ履修可能であり、再履修は認めない。
6. 以下のGB コース科目を履修するためには、原則右側に記載されている対応する科目の単位を修得していることを前提とする。ただし、学力の状況によって例外的な取り扱いが行われることもある。例外的な取り扱いを希望する場合は、経営学部事務室に申し出ること。

当該科目	前提となる科目
GBコースTOEFL・IELTSⅢ	GBコースTOEFL・IELTSⅠ
GBコースTOEFL・IELTSⅣ	GBコースTOEFL・IELTSⅡ
GBビジネス英会話・上級	GBビジネス英会話・初級
G B ビジネス英語 II	G B ビジネス英語 I
GBコースドイツ語会話Ⅱ	GBコースドイツ語会話Ⅰ
GBコースフランス語会話Ⅱ	GBコースフランス語会話Ⅰ
G B コース中国語会話Ⅱ	G B コース中国語会話Ⅰ
G B コース韓国語会話Ⅱ	G B コース韓国語会話Ⅰ

7. 以下のAP コース科目の履修は原則次の年次・学期とする。

ただし、学習の進捗状況によって例外的な取り扱いが行われることもある。例外的な取り扱いを希望する場合は、経営学部事務室に申し出ること。

当該科目	履修すべき学年・学期
APアカウンティング・プラクティス基礎 a	2年次・前期
APアカウンティング・プラクティス基礎 b	2年次・後期
APアカウンティング・プラクティス基礎 c	2年次・前期
APアカウンティング・プラクティス基礎 d	2年次・後期
上級簿記Ⅰ	3年次
上級簿記Ⅱ	3年次
上級財務諸表論Ⅰ	3年次
上級財務諸表論Ⅱ	3年次
上級工業簿記	3年次
上級原価計算	3年次

Ⅳ. 卒業要件とプログラム修了要件

1. 本プログラムに所属する学生の卒業のために必要な単位数や、卒業必要単位に算入できる専門教育科目以外の科目等は通常と同様である。

2. プログラムの修了要件

本プログラムに参加し、その趣旨に見合った成果を残した学生を、「プログラム修了生」とする。プログラムを修了するためには、以下の要件を満たしている必要がある。

(1) ビジネス・プロフェッション・コース (BP コース)

① 3 年次後期にインターンシップに参加し、「BP インターンシップⅠ」、「BP インターンシップⅡ」、「BP インターンシップⅢ」の 18 単位と「BP 演習Ⅰ」、「BP 演習Ⅱ a」、「BP 演習Ⅱ b」、「BP 演習Ⅲ」の 10 単位を修得していること。

② ただし、インターンシップに参加するためには、「BP コース特論」および「BP 経営分析」科目から、4 単位以上修得し、さらに、「BP 演習Ⅰ」の単位を修得しておく必要がある。

(2) グローバル・ビジネス・コース (GB コース)

① 卒業時に GB コース科目から、18 単位以上修得していること。ただし、国際交流センターによる 1 年以上の交換留学を終えた場合は、GB プログラム修了とする。

② GB コース学生として、交換留学、語学プラス交換留学、奨励留学、ケルン・ビジネススクール (CBS) への留学を行い、「GB 国際アクティビティーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得していること。

③ 「GB 国際アクティビティーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の単位が付与される留学制度は、国際交流センターによる交換留学、語学プラス交換留学、奨励留学である。交換留学、語学プラス交換留学、奨励留学は、国際交流センターにおいて、留学先大学に応じて、所定の時期に選考が行われる。

④ 「グローバル・コミュニケーションⅠ」、「グローバル・コミュニケーションⅡ」は必修。

(3) アカウンティング・プラクティス・コース (AP コース)

① 「AP アカウンティング・プラクティス基礎 a」、「AP アカウンティング・プラクティス基礎 b」、「AP アカウンティング・プラクティス基礎 c」、「AP アカウンティング・プラクティス基礎 d」は必修。

② その他の AP コース科目を 10 単位以上修得していること。

③ 日商簿記検定 2 級以上に合格していること。

※例外的に、1 年次に AP コースに所属した学生については、「上級簿記Ⅰ」、「上級簿記Ⅱ」、「上級財務諸表論Ⅰ」、「上級財務諸表論Ⅱ」、「上級工業簿記」、「上級原価計算」の 12 単位を修得していること。

経営学部の早期卒業制度について

経営学部では平成 20 年度より、3 年で卒業を認める「早期卒業制度」を導入している。

本学大学院社会科学研究科経営学専攻または他大学の会計大学院（以下「大学院」という。）への進学を希望し、かつ、学業が特に優秀な学生に対し、3 年で卒業を認める「早期卒業」が可能である。この制度を利用し、3 年次終了時に大学卒業資格（学士）を得て大学院に進学し、大学院修士課程または専門職学位課程の 2 年間を合わせた 5 年間で学士号と修士号の二つの学位を取得することができる。これにより、有能な人材が大学院に進むことが期待され、その結果、高い専門的な教育を受けた人材を多く社会に送り出すことによって、社会的ニーズに応えることを目的としている。

【早期卒業制度とは】

卒業単位を優秀な成績で修得したと認められ、かつ、大学院への進学が確定していることを条件に学生自らが希望し、3 年以上在籍で卒業することをいう。

【実施要領】

1. 申請期日・申請書類提出場所は『履修ガイドブック』を参照すること。

2. 申請条件

(1) 3 年次前期終了時に卒業に必要な修得単位数の合計が 102 単位以上であり、後期履修登録とあわせて、卒業に必要な単位数を修得見込みであること。

(2) 大学院への進学を強く希望し、学内推薦試験の受験資格を満たしている者。

3. 候補者の判定基準

(1) 本人が早期卒業を希望していること。

(2) 在学期間が当該年度末において 3 年であること。

(3) 在学期間にかかる卒業要件以外の卒業要件を全て満たしていること。

(4) 成績が優秀と判定されること。

(5) 選考試験等（9 月実施）に合格すること。

4. 候補者の指導

候補者の単位修得、大学院への進学（学内推薦入学試験の受験）が円滑に行えるように随時、指導主任から指導を受けるものとする。また、履修制限の緩和が必要と認める場合には、別途検討する。

なお、候補者が早期卒業の希望を取り消す場合には速やかに届け出なければならない。

5. 卒業要件

3 年次終了時に、次の全ての卒業要件を満たした学生について、3 月の卒業判定会議の議を経て、認定を行う。

(1) 本人が早期卒業を希望していること。

- (2) 卒業に必要な単位を全て修得していること。
 - (3) 大学院への進学が決定していること。
 - (4) 早期卒業に関する審査を経て、専門科目に関する高度な資質と能力を有すると判定された者。
6. 早期卒業候補者の辞退と卒業要件をクリアできなかった場合
- (1) 辞退した時点で、履修登録の緩和を取り消すとともに、緩和による登録科目を取り消す。
 - (2) 3年次終了時に要件を満たしていないことが判明した場合には、履修制限内の修得単位は卒業単位として認定し、履修制限の緩和により登録した科目の修得単位は履修登録を取り消すものとする。
 - (3) 早期卒業の認定を受けた者であっても、大学院への入学資格を喪失した場合は、早期卒業の認定を取り消し、4年に在学するものとする。

甲南大学経営学部早期卒業に関する規程

平成 27 年 3 月 19 日 大学会議改正

(趣旨)

第 1 条 この規程は、甲南大学学則（以下「学則」という。）に基づき、経営学部で 3 年以上在学した者に対する卒業（以下「早期卒業」という。）の認定に関し、必要な事項を定める。

(対象者)

第 2 条 早期卒業は、学則に定める経営学部の卒業必要単位を修得し、本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は別に定める大学院への進学の見込み及び理由が明確であると認められた者を対象とする。

(改廃)

第 3 条 この規程の改廃は、大学会議の審議を経て、学長が決定する。

附 則

- 1 この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 24 年入学生から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

経営学部早期卒業に関する申し合わせ

平成 27 年 2 月 13 日 経営学部教授会改正

(趣旨)

第 1 条 この申し合わせは、「甲南大学経営学部早期卒業に関する規程」に基づき、甲南大学経営学部にて 3 年以上在学し、本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は他大学の会計大学院に進学することが認められた者に対する卒業（以下「早期卒業」という。）を認定することに関し必要な事項を定める。

(早期卒業の要件)

第 2 条 早期卒業の認定を受けることができる者は、次に掲げる全ての要件を満たしていなければならない。

- (1) 本人が早期卒業を希望していること。
- (2) 卒業に必要な単位を全て修得していること。
- (3) 本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は他大学の会計大学院への進学が決定していること。
- (4) 早期卒業に関する審査を経て、専門科目に関する高度な資質と能力を有すると判定された者。

(早期卒業の希望及び候補者の決定)

第 3 条 早期卒業を希望する者は、3 年次前期終了時まで「経営学部早期卒業申請書」を提出するものとする。

2 次の要件を満たし、経営学部教授会の議により成績優秀と認められた者について、早期卒業予定者（以下「候補者」という。）と認定する。

- (1) 3 年次前期終了時において、卒業に必要な修得単位数の合計が 102 単位以上であり、後期履修登録とあわせて、卒業に必要な単位数を取得見込であること。
- (2) 本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は他大学の会計大学院への進学を強く希望している者。

(候補者の指導と受講制限の緩和)

第 4 条 候補者は、大学院への進学が円滑に行えるように指導主任から指導を受けるものとする。

2 受講制限の緩和が必要と認められる場合には、8 単位を上限に教授会で承認する。

(早期卒業の認定)

第 5 条 早期卒業の要件を満たした候補者に対して、早期卒業の意思確認を行った後、審査の上、教授会の議を経て、それに基づき認定を行う。

(早期卒業希望の撤回)

第 6 条 候補者で、早期卒業を希望しなくなった場合には速やかに届け出なければならない。

(早期卒業認定の取り消し)

第 7 条 早期卒業の認定を受けた者であっても、本学大学院社会科学研究科経営学専攻又は他大学の会計大学院への入学資格を喪失した場合は、教授会の議を経て早期卒業の認定を取り消す。

(早期卒業の時期)

第 8 条 早期卒業の時期は、3 年次の 3 月とする。

松山大学との学生交流協定に基づく 経営学部派遣聴講生の募集について

I. 松山大学との学生交流協定の概要と目的

本大学経営学部と松山大学経営学部との間で学生交流協定を締結している。

二つの大学の経営学部がそれぞれの環境のもとで、特色ある教育を相互に行い、多様な学修成果に対する評価を行うことによって、学生生活を一層充実させることを目的として学生交流を行おうとする制度である。

松山大学経営学部の学生を本大学経営学部特別聴講生として受入れるとともに、松山大学での学修を希望する本大学経営学部の学生を松山大学経営学部特別聴講生として派遣する。募集要項は、『履修ガイドブック』を参照すること。

岡山商科大学との学生交流協定に基づく 経営学部派遣聴講生の募集について

I. 岡山商科大学との学生交流協定の概要と目的

本大学経営学部と岡山商科大学経営学部との間で学生交流協定を締結している。

二つの大学の経営学部がそれぞれの環境のもとで、特色ある教育を相互に行い、多様な学修成果に対する評価を行うことによって、学生生活を一層充実させることを目的として学生交流を行おうとする制度である。

岡山商科大学経営学部の学生を本大学経営学部特別聴講生として受入れるとともに、岡山商科大学での学修を希望する本大学経営学部の学生を岡山商科大学経営学部特別聴講生として派遣する。募集要項は、『履修ガイドブック』を参照すること。

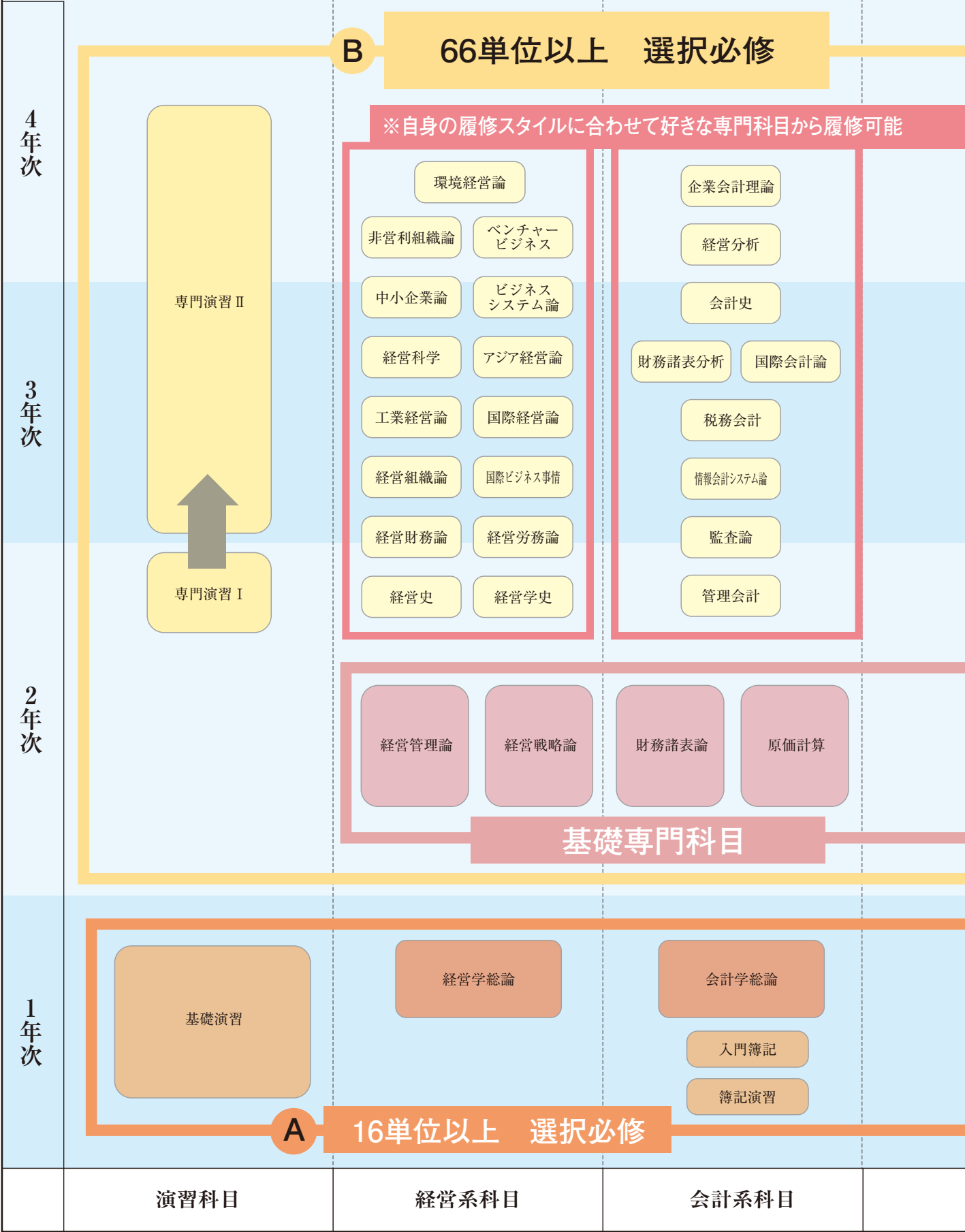
武蔵大学との学生交流協定に基づく 経営学部派遣聴講生の募集について

I. 武蔵大学との学生交流協定の概要と目的

本大学経済学部・経営学部と武蔵大学経済学部との間で学生交流協定を締結している。

本大学の経済学部・経営学部と武蔵大学経済学部がそれぞれの環境のもとで、特色ある教育を相互に行い、多様な学修成果に対する評価を行うことによって、学生生活を一層充実させることを目的として学生交流を行おうとする制度である。

武蔵大学経済学部の学生を本大学経営学部特別聴講生として受入れるとともに、武蔵大学での学修を希望する本大学経営学部の学生を武蔵大学経済学部特別聴講生として派遣する。募集要項は、『履修ガイドブック』を参照すること。



業					
リスクマネジメント 証券論 金融論 流通システム論 消費者行動論 国際マーケティング論 マーケティング管理論 商学基礎論	グローバル・コミュニケーション I・II 統計学入門 情報処理概論	経営学特論 abcde 商学特論 abcde 会計学特論 abcde 経営実務 abcd 経営コンサルティング論 シミュレーション 実践的経営	財政 金融 国際経済 産業経済 商法 I・II ビジネスを支える法の世界	アドバンス・キャリアデザイン プラクティカル・キャリアデザイン	職業指導 I・II 人文地理 I・II 自然地理学 日本史概説 I・II アジア史概説 I・II 西洋史概説 I・II 政治学入門 政治学原論 法律学概論
		グローバル・ビジネス特論 I・II 中級簿記 工業簿記 情報処理 I・II	初級マクロ経済学 外書講読 I・II 初級ミクロ経済学 ビジネス英語 I・II 入門ビジネス法務 ビジネス英会話・初級・上級 民法総則 I・II	インターナショナル OCA	
マーケティング総論 経済学入門				実践ボランティア I・II インターンシップ ベーシック・キャリアデザイン	
商学系科目	基礎関連科目	一般	キャリアデザイン系科目	教職科目	

知 能 情 報 学 部

知能情報学部

教育基本方針

甲南大学知能情報学部は、甲南大学創設者の平生鈺三郎の教育理念「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の才能を引き出す」を踏襲し、専門的能力の育成とともに、「個々人のバランスのとれた人間性」、「他者の文化を理解・尊重して他者とコミュニケーションをとることのできる力」を引き出すことを目的としています。この理念のもと、知能情報学部では、情報通信・人間知・機械知の3コースを設置し、徹底したインタラクティブ（双方向）教育によって、「ITをベースに人間力と感性・知性で未来を切り拓く人材」を育成します。

卒業認定・学位授与の方針

甲南大学では、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し、人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的としています。知能情報学部の教育基本方針のもと、卒業必要単位数128単位以上（基礎共通科目又は国際言語文化科目16単位、外国語科目8単位、保健体育科目2単位、専門教育科目102単位以上）を修得し、下記的能力・資質を身につけた学生に、学士（工学）、学士（理学）、又は学士（情報学）の学位を授与します。

- (1) 人間力・コミュニケーション能力を有しています。
- (2) 天賦の特性を自ら伸ばして活用する意志と能力を有しています。
- (3) 人文科学・自然科学・社会科学に関する基礎的教養、自己の能力・資質を社会生活で活用し得る基本的な技能及び自己の健康増進に関する技能を有しています。
- (4) 数学と知能情報学の基礎的な知識を修得しています。
- (5) チームを組んで問題を解決でき、知能情報学における研究課題を深く理解することができます。
- (6) 自ら問題を発掘し、解決することができ、研究成果の効果的な発表能力を有しています。

教育課程編成・実施の方針

知能情報学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質などを修得させるために、基礎共通科目、国際言語文化科目、外国語科目、保健体育科目、キャリア創生共通科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか又はこれらを適切に組み合わせた授業を開講します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

カリキュラムは、各科目において学生が修得したGPA及び、到達目標に定める学生の知識・能力の修得状況を集計し、その集計値を検証することにより見直し・改善を行います。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1) 教育内容

- (1) 大学における学びの基盤となる基礎的読解力や表現力などを習得するため及び専門教育への適応を図るため、初年次段階において少人数で学ぶ基礎的な演習科目を設けます。知能情報学部では専門教育科目において、基礎となる数学科目とプログラミング、及び4年間の学びを概観し教員と直接交流する「知能情報学概論及び基礎演習」を配置します。
- (2) 外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解について学ぶ科目、心身両面の健康に対する配慮を学ぶ科目、情報を読み解く力について学ぶ科目を配置します。
- (3) 全学共通科目である、建学の理念と専攻分野以外の領域を含む幅広い基礎的な知識を学ぶ基礎共通科目、異文化理解について学ぶ国際言語文化科目を配置します。
- (4) 2年次、3年次は、本学部が提供する専門教育科目群から、各人の興味や将来の希望に合わせて履修し、知能情報学における知識を体系的に理解するとともに、自ら学びの視点を増やし、国際的な広い視野と柔軟な発想力を育成する科目を配置します。
- (5) 4年次では、各自のテーマについての研究又は演習を行い、その成果を卒業論文にまとめ発表することにより、学部における学修の集大成をする「卒業研究及び演習」を配置します。
- (6) 全学年を通じて教員と学生が緊密な関係を結び、学生が主体的に学べるよう、徹底したインタラクティブ教育を展開します。1年次「知能情報学概論及び基礎演習」、2年次「プロジェクト演習」、3年次「知能情報学実験及び演習」と「知能情報学セミナー」、4年次「卒業研究及び演習」と、各学年にそれぞれ数名から十数名で構成する少人数制の演習形式の授業を設け、学修面のきめ細かな指導はもちろん、協調性や社会性の養成にも力を入れます。
- (7) 各学年のゼミにおけるグループ作業やプレゼンテーションを通して、問題発掘及び問題解決の一連のプロセスをまとめ、発表する能力を養います。また、IT技術を活用して、問題解決に必要な情報を収集・分析・整理する方法、及び高性能な計算環境を利用した問題指向的なソフトウェアを作成するための高度な知識と技法を学ぶ機会を提供します。
- (8) 情報化社会の現状、情報産業の社会的位置づけと意義を理解し、情報産業に携わる個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身につけるため、初年次から4年次まで一貫してキャリア支援を実施し、学生が最適な進路決定できるように取り組みます。

2) 教育方法

- (1) 1)に掲げた教育内容を身につけるために、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により授業を実施します。
- (2) 論理的思考力、伝えたい内容を適切に表現し伝達する能力、問題解決力を養成するとともに、他者と協調・協働し、自ら率先して社会に貢献し、社会人に求められる責任感と倫理観について学ぶために、学生一人ひとりの顔がわかる少人数で学生参加型の実験・実習・演習などを重視したクラス編成を行います。
- (3) 授業の実施においては、考える力や洞察力を涵養するために、発見学習、問題解決学習、体験学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどを中心としたアクティブ・ラーニングを積極的に活用します。
- (4) 成績評価をGPAで表示するとともに、学位プログラムごとの到達目標と各科目の関係を明確にし、知識・能力の習得状況を学修ポートフォリオを通じて学生にフィードバックします。

3) 学修成果の評価

学生の学修成果についての評価方法を各科目のシラバスで示し、その方法に従って評価します。

カリキュラムマップ																
到達目標														対応する卒業認定・学位授与の方針の番号		
A	社会人に必要な人間力・コミュニケーション能力を養う。													(1) (5)		
B	人間・社会・歴史・文化に関わる教養を身につける。													(3)		
C	数学と知能情報学の基礎的な知識を修得する。													(4)		
D	他者と共同で効果的に問題を解決できる協調性、リーダーシップを養成する。													(1) (5)		
E	知能情報学におけるさまざまな研究課題を深く理解する。													(5)		
F	自ら問題を発見し、創造的に解決する能力を養う。													(2)		
G	研究成果に関する効果的なプレゼンテーション能力、ディベート能力を養う。													(1) (6)		
H	世界で活躍できる国際的な広い視野と言語能力を養成する。													(3)		
I	IT 技術を活用し、問題解決に必要な情報を収集・分析・整理する能力を身につける。													(4)		
J	問題解決の手段としてのソフトウェア作成に関する知識と技法を修得する。													(4)		
K	情報化社会の現状、情報産業の社会的位置づけと意義を理解する。													(4)		
L	情報産業に携わる個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身につける。													(4)		
専門教育科目表（知能情報学科）〔2018 年度（平成 30 年度）以降の入学生に適用〕																
授業科目名			単位数	配当年次	到達目標											
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
必修科目	知能情報学概論及び基礎演習	2	1	○			○	○		○		○		○	○	
	プログラミング演習Ⅰ	2	1			○							○			
	プログラミング演習Ⅱ	2	1			○							○			
	微分積分及び演習Ⅰ	3	1			○			○							
	微分積分及び演習Ⅱ	3	1			○			○							
	線形代数及び演習Ⅰ	3	1			○			○							
	線形代数及び演習Ⅱ	3	1			○			○							
	確率統計学	4	2			○						○				
	アドバンストプログラミング演習	2	2			○							○			
	知能情報学セミナー	2	3	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		
卒業研究及び演習	8	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
以上 34 単位必修																
選択必修科目 A	IT とコミュニケーション	2	1	○			○					○		○		
	キャリアデザイン基礎	2	2	○			○			○				○	○	
	IT と組織・管理	2	2	○										○	○	
	オペレーションズリサーチ	2	2			○						○	○			
	情報英語	2	2	○							○					
	インターンシップ	2	3	○		○								○	○	
	経営情報システム	2	3									○	○			
	プラクティカル・キャリアデザイン	2	3	○			○			○				○	○	
④以上のうち 8 単位以上選択必修																
選択必修科目 B	コンピュータサイエンス	2	1			○								○		
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2	2			○						○	○			
	情報理論	2	2			○						○				
	知能情報学実験及び演習	2	3			○	○	○	○	○		○	○			
⑤以上のうち 4 単位以上選択必修																
選択科目 C	離散数学	2	2			○			○							
	集合と位相Ⅰ	2	2			○			○							
	集合と位相Ⅱ	2	2			○			○							
	代数学Ⅰ	2	3			○			○							
	代数学Ⅱ	2	3			○			○							
	解析学Ⅰ	2	3			○			○							
	解析学Ⅱ	2	3			○			○							

授業科目名				単位数	配当年次	到達目標											
						A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
選択科目C	幾何学Ⅰ			2	3			○			○						
	幾何学Ⅱ			2	3			○			○						
	確率過程論			2	3		○	○									
◎以上選択科目																	
選択科目D	コース番号																
	情報社会と情報倫理			2	1		○	○						○		○	○
	IT 基礎			2	1	○			○		○	○		○		○	
	応用統計学			2	2			○						○			
	オブジェクト指向プログラミング			2	2			○		○				○	○		
	情報解析			②	③	2	2			○							
	数式処理プログラミング			①		2	2	○		○	○	○		○	○	○	
	コンピュータアーキテクチャ			①		2	2			○		○				○	
	オペレーティングシステム			①		2	2			○		○			○	○	
	人工知能			①	②	③	2	2			○		○				○
	認知科学				②	2	2		○	○	○	○	○				
	ヒューマンインタフェース				②	2	2			○		○		○			
	応用システム解析					③	2	2			○		○				
	データ構造とアルゴリズムⅡ			①	②	③	2	2			○		○		○	○	
	コンパイラ・インタプリタ			①		2	2			○		○				○	
	ブレインサイエンス				②	2	2		○	○	○	○	○				
	数値プログラミング技法					2	2			○						○	
	最適化					③	2	2			○		○			○	
	システム制御工学					③	2	2			○		○				
	データベース			①	②	③	2	2			○		○		○	○	○
	情報セキュリティ			①		2	2			○							○
	センサー工学				②	③	2	2			○		○				○
	最適化プログラミング					2	2			○			○		○	○	
	グラフ理論					2	2			○			○				
	プロジェクト演習			①	②	③	2	2	○		○	○	○	○		○	○
	人間工学				②	2	3			○							
	ロジックデザイン			①		2	3			○		○				○	
	ロボティクス					③	2	3			○		○				○
	メディア情報処理				②	2	3			○		○				○	○
	情報通信ネットワークⅠ			①		2	3			○		○				○	○
	Webコンピューティング			①		2	3			○		○	○		○	○	○
	コンピュータグラフィックス				②	③	2	3			○		○			○	○
	ソフトウェア工学			①		2	3			○		○			○	○	○
	パターン認識					③	2	3			○		○		○	○	○
	符号理論			①		2	3			○					○		
	知能化技術					③	2	3			○		○		○	○	
	感覚生理学				②	2	3		○	○	○	○	○	○			
	自然言語処理					③	2	3			○		○				
	実験計画法				②	2	3			○							
	画像工学				②	③	2	3			○		○			○	○
	情報通信ネットワークⅡ			①		2	3			○		○				○	○
	確率システム工学			①		2	3		○	○							
	システム信頼性				②	2	3			○							
	データマイニング					③	2	3			○						
	ジョブリサーチ			①	②	③	2	3	○								○
①以上選択科目（① Web コミュニケーションコース、②ヒューマンインテリジェンスコース、③マシンインテリジェンスコースのうち、いずれか一つのコースから、①、②又は③で示す特有科目 20 単位以上修得すること）																	
卒業必要単位数 102 単位以上																	

【卒業必要単位数】

1. 知能情報学部知能情報学科の学生は、次に定めるところに従って合計 128 単位以上修得しなければならない。

基礎共通科目または国際言語文化科目	16 単位
外国語科目	8 単位
保健体育科目	2 単位
専門教育科目	102 単位以上
必修科目	34 単位
選択必修科目 ④より	8 単位以上
選択必修科目 ⑤より	4 単位以上
選択科目 ⑥より	いずれかのコースから 特有科目 20 単位以上
自由選択科目	
合 計	128 単位以上

2. 次表の左欄に掲げる授業科目については、それぞれ中欄に掲げる単位数を上限として、合計 8 単位までを専門教育科目として選択科目 D（それぞれのコース特有科目を除く）に充てることができる。コース特有科目とは、知能情報学科専門教育科目表においてコース番号の記載がある科目を意味する。

中級外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語） 上級外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語） 海外語学講座Ⅰ～Ⅲ	8 単位まで	合計 8 単位まで
エリアスタディーズⅠ～Ⅹ	2 単位まで	
地域ファイシリテイ、地域プロジェクトⅠ～Ⅱ	2 単位まで	

3. 上記 2 の表にかかわらず、大学日本語科目 4 単位を含めて上記 1 の外国語科目 8 単位を修得することとされた学生に係る選択科目 D（それぞれのコース特有科目を除く）に充てることができる授業科目および単位数は、次表のとおりとする。

中級外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）、大学日本語中級Ⅰ～Ⅱ 上級外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）、大学日本語上級Ⅰ～Ⅱ 海外語学講座Ⅰ～Ⅲ	8 単位まで	合計 8 単位まで
エリアスタディーズⅠ～Ⅹ	2 単位まで	
地域ファイシリテイ、地域プロジェクトⅠ～Ⅱ	2 単位まで	

4. 国際言語文化科目を選択した学生は、国際言語文化科目として認定された修得科目を、専門教育科目の選択科目 D に充てることができない。
5. 大学日本語科目（大学日本語入門Ⅰ～Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ～Ⅱ、大学日本語上級Ⅰ～Ⅱ）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生のみ履修することができる。
6. 専門教育科目のうち選択科目 D に含まれる授業科目については、① Web コミュニケーションコース、② ヒューマンインテリジェンスコース、③ マシンインテリジェンスコースのいずれか 1 つのコースのコース特有科目を 20 単位以上修得しなければならない。
7. 卒業要件を充足した者は、学士（工学）の学位を授与する。学士（理学）を希望する者は、選択科目 C から 12 単位以上を修得しなければならない。学士（情報学）を希望する者は、選択必修科目 B の 8 単位をすべて修得しなければならない。

I. 履修登録科目の単位制限について

知能情報学部では、次のような履修登録科目の単位制限が実施されている。履修計画を慎重、かつ十分に検討した上で履修登録科目を選択すること。

知能情報学部履修登録科目の単位制限に関する内規

〔平成 31 年 2 月 13 日 改正〕

【平成 31 年度以降入学生】

- 1 知能情報学部の学生が履修する授業科目において、登録単位制限を受ける単位数は次のとおりである。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
通 年	通 年	通 年	通 年
49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内	49 単位以内

- 2 次に掲げる科目の単位については、上記の単位制限を受けない。

- (1) 教育職員免許状を得るために必要な「教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」
 - (2) 卒業単位に算入されない授業科目
 - (3) 「インターンシップ」等、学生の単位認定申請または履修登録申請に基づき、履修登録期間外に別途履修登録を行う科目
- （中略・平成 30 年度以前の入学生適用表 略）

（改廃）

この内規の改廃は、合同教授会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

II. 科目履修上の諸注意

1. 知能情報学部生は、知能情報学科について、学則により指定された必修・選択必修科目の単位を修得しなければならない。また、履修科目の選択にあたっては、指導主任およびそれぞれの授業科目の担当教員に相談の上、その選択を誤らないよう留意されたい。
2. 専門教育科目は、配当年次を考慮して履修すること。所属する年次を超える配当年次の授業科目は原則として履修できない。
3. 次の授業科目は、設備等に限界があるため、知能情報学科の学生以外の履修は原則として認めない。
 - 「知能情報学概論及び基礎演習」
 - 「プログラミング演習Ⅰ」、「プログラミング演習Ⅱ」
 - 「アドバンストプログラミング演習」
 - 「プロジェクト演習」
 - 「知能情報学実験及び演習」

ただし、特に希望する者については選考の上、許可することがあるので、履修登録とは別に、理由を付した履修許可願を、教務部へ提出すること。提出期日は、『履修ガイドブック』を参照すること。

4. 知能情報学科では、① Web コミュニケーションコース、②ヒューマンインテリジェンスコース、③マシンインテリジェンスコースの3コースを用意している。知能情報学科におけるコースは、これら3分野を学習し卒業するために必要な科目群を示したものであり、コース分けを伴わない。卒業にあたっては、少なくとも1つのコースのコース特有科目を下記の単位数修得しなければならない。

条件 少なくとも1つのコースのコース特有科目を20単位以上修得していること。
--

知能情報学科におけるコース制について不明な点があれば、指導主任に相談の上、卒業要件に不足の生じないように注意すること。

5. 知能情報学科では、学習の質を高めるために履修科目数の登録上限を設定する。具体的な内容については、「知能情報学部履修登録科目の単位制限に関する内規」を参照すること。各年度において履修登録できる単位数を超えて授業科目を登録することはできない。また、上記の単位制限は**各年度の修得単位数ではなく履修登録する授業科目の合計単位数**に対して制限を課すものであるから、前期・後期の履修すべき登録科目数（必修科目、選択必修科目およびコース特有科目）に留意し、配当年次に従って着実に単位を修得すること。
6. 「知能情報学セミナー」（3年次配当科目）および「卒業研究及び演習」（4年次配当科目）は原則として同一教員のクラスを履修するものとする。「知能情報学セミナー」の履修登録にあたっては、種々の手続きを要するので、「知能情報学セミナー」を履修する年度の前期に開かれる説明会に必ず出席すること。また、「知能情報学セミナー」および「卒業研究及び演習」の履修にあたっては、以下の条件を満たしていること。

「知能情報学セミナー」を履修するにあたっては、後期の履修登録時に次の条件を満たしていることが必要である。

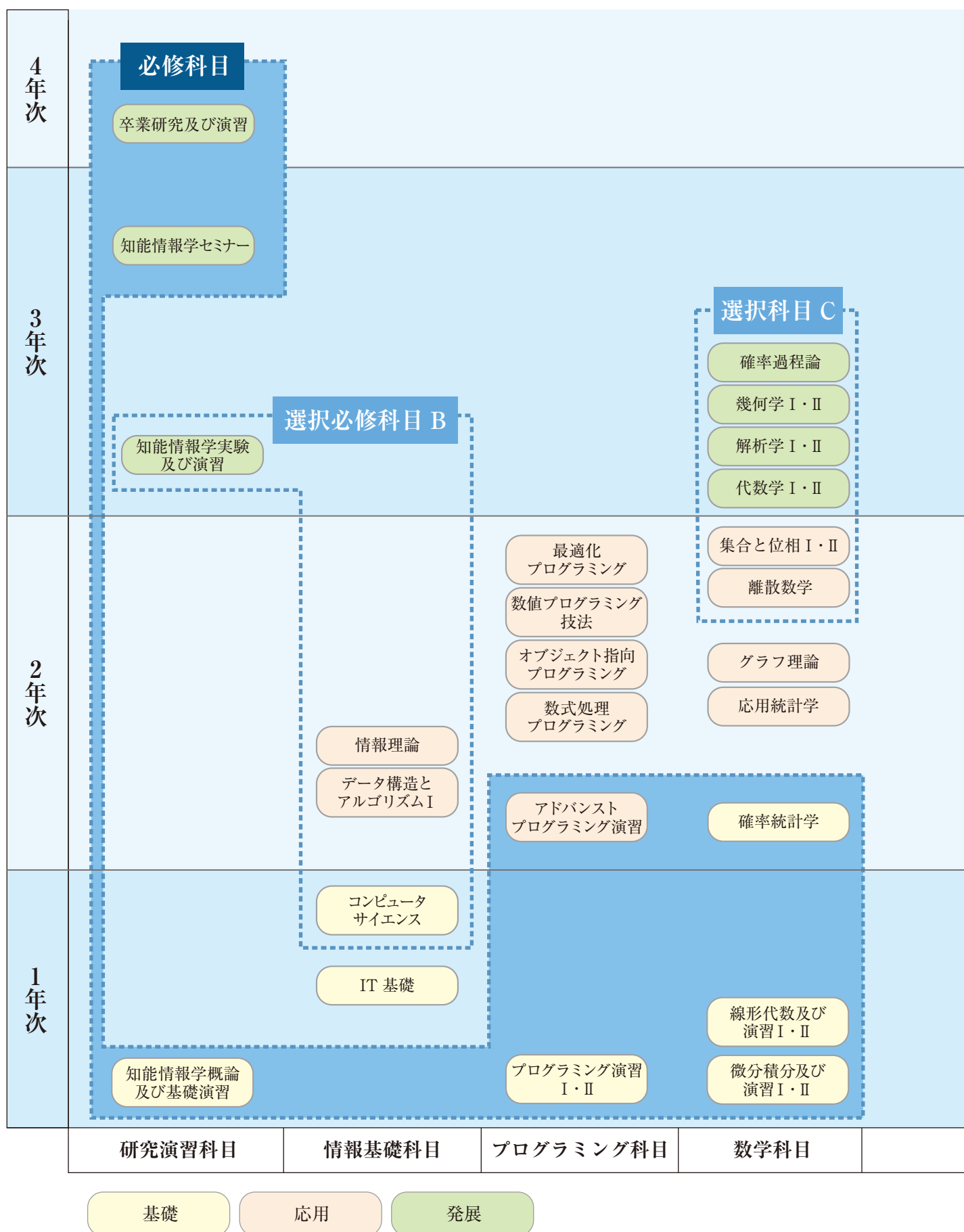
条件 卒業単位に算入される授業科目を70単位以上修得していること。

「卒業研究及び演習」を履修するにあたっては、原則として次の条件を満たしていることが必要である。

条件 「知能情報学セミナー」を修得していること。

7. 「知能情報学実験及び演習」（3年次配当科目）の履修登録にあたっては、種々の手続きを要するので、履修の前年度の後期に開かれる説明会に必ず出席すること。
8. 「インターンシップ」（3年次配当科目）の希望者は、指定された期日までにキャリアセンターへ登録書の提出が必要である。なお、4月の履修登録は必要としない。実施後に単位認定申請書の提出（キャリアセンターに提出）をもって履修登録され、インターンシップの実施、事前・事後研修

の受講およびレポートの提出により、成績評価される。「インターンシップ」の履修にあたっては、種々の手続きを要するので、履修希望者は履修年度の4月に、キャリアセンターで開かれるインターンシップ・ガイダンスに出席し、指示に従って手続きすること。



業

選択必修科目 A

プラクティカル・
キャリアデザイン

経営情報システム

インターンシップ

確率システム工学

符号理論

ソフトウェア工学

Web
コンピューティング

情報通信
ネットワークⅠ・Ⅱ

ロジックデザイン

システム信頼性

実験計画法

感覚生理学

メディア情報処理

人間工学

コンピュータ
グラフィックス

データマイニング

自然言語処理

知能化技術

パターン認識

ロボティクス

画像工学

ジョブリサーチ

オペレーションズ
リサーチ

情報英語

ITと組織・管理

キャリアデザイン
基礎

ITと
コミュニケーション

情報セキュリティ

コンパイラ・
インタプリタ

オペレーティング
システム

コンピュータ
アーキテクチャ

ブレインサイエンス

ヒューマン
インタフェース

認知科学

システム制御工学

最適化

応用システム解析

情報解析

センサー工学

人工知能

データ構造と
アルゴリズムⅡ

データベース

プロジェクト演習

情報社会と
情報倫理

情報社会・
キャリア科目

Webコミュニケーション
コース科目

ヒューマンインテリジェント
コース科目

マシンインテリジェント
コース科目

資格取得のための科目

教 育 職 員 養 成 課 程
図書館学に関する専門教育科目
公認心理師に関する専門教育科目
日 本 語 教 員 養 成 課 程

教育職員養成課程

教育職員養成課程は、教育職員免許状の取得を希望する学生のために設けられている。

卒業に必要な単位とは別に多くの単位を修得しなければならない、1年次から計画的な履修が求められる。また、1年次終わりに教職課程履修者登録をすることが必要である。登録には、①1年次前期に開講される「教職入門」を修得済みであること、②1年次末のGPAが2.00以上あることなど満たさなければならない条件がある。また在学中に単位を修得しきれない場合は、免許取得が困難となる場合があるので、『教職ガイドブック』（教職教育センター実施の説明会で配付）をしっかりと読み込むことが必要である。

I. 本学で取得できる免許状の種類

本学で教職課程の認定を受けている免許状の種類は、次表のとおりである。

[2009年度(平成21年度)以降の入学生に適用]

学 部	学 科	免許教科	免 許 状 の 種 類
文 学 部	日本語日本文学科	国 語	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状 高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	英語英米文学科	英 語	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状 高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	社 会 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		公 民	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	人 間 科 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		地 理 歴 史 公 民	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	歴 史 文 化 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		地 理 歴 史	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
理 工 学 部	物 理 学 科	理 科	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	生 物 学 科 機 能 分 子 化 学 科		高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
経 済 学 部	経 済 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		地 理 歴 史	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		公 民	
法 学 部	法 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		地 理 歴 史	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		公 民	
経 営 学 部	経 営 学 科	社 会	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		公 民	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		商 業	
知能情報学部	知 能 情 報 学 科	数 学	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		情 報	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状

※所属する学部・学科で認定を受けていない免許状の取得については、教職教育センター窓口相談すること。

Ⅱ. 教職課程の履修・単位修得方法

教員免許状の取得に必要な基礎資格と免許状の種類毎の最低修得単位数は、次頁のとおりである。基礎資格とは、各自が所属する学部・学科において、卒業に必要な単位を修得し、学士の学位を取得することである。基礎資格を取得するのに必要な単位は、甲南大学学則により定められた全学部共通科目と専門教育科目の履修方法にしたがって、履修しなければならない。

ただし、教員免許状を取得するには、上記の基礎資格のほかに、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」、教育職員養成課程で定める「教科及び教職に関する科目」を各自の入学年度に応じた科目表にしたがって履修すること。

なお、履修にあたっては、次の事項に留意すること。

- (1) 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6」に定める科目として、「日本国憲法」（基礎共通科目）、「基礎体育学演習」、「中級英語 Speaking」又は「中級英語 Presentation」、ならびにそれぞれの学部学科で指定した情報機器の操作に関する科目を修得すること。
- (2) 基礎共通科目の「人権（同和）の問題」（2 単位）を修得することが望ましい。
- (3) 中学校の教員免許状の取得を希望する者は、基礎共通科目の「哲学」（2 単位）または「倫理学」（2 単位）のいずれか 1 科目を含めて修得することが望ましい。

麻疹（はしか）の抗体検査について

教職実習や介護等体験への参加について、文部科学省から、児童生徒への感染を防止するために「麻疹の免疫を持っていると認められる者＝抗体検査により麻疹に対する免疫があると医師に認められた者」であることを、大学が学生に確認するように指導を受けている。

基礎資格及び最低修得単位数

[2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用]

学部・学科

免許状の種類		基礎資格	大学における最低修得単位数					
			教科及び 教職に 関する科目	免許法施行規則第 66 の 6 に定める科目				合 計
				日本国 憲法	体育	外国語コミュ ニケーション	情報機器 の操作	
中学校教諭一種免許状	国語（文学部日本語日本文学科）	学士の学位を有すること	68	2	2	4	2	78
	英語（文学部英語英米文学科）		66	2	2	4	2	76
	社会（文学部社会科学科） （文学部人間科学科） （文学部歴史文化学科） （経済学部経済学科） （法学部法学科） （経営学部経営学科）		64	2	2	4	2	74
	68		78					
	64		74					
	理科（理工学部物理学科） （理工学部生物学科） （理工学部機能分子化学科）		71	2	2	4	2	81
	70		80					
	数学（知能情報学部知能情報学科）		62	2	2	4	2	72
	高等学校教諭一種免許状		国語（文学部日本語日本文学科）	70	2	2	4	2
英語（文学部英語英米文学科）		70	2	2	4	2	80	
地理歴史（文学部人間科学科） （文学部歴史文化学科） （経済学部経済学科） （法学部法学科）		62	2	2	4	2	72	
公民（文学部社会科学科） （文学部人間科学科） （経済学部経済学科） （法学部法学科） （経営学部経営学科）		62	2	2	4	2	72	
商業（経営学部経営学科）		62	2	2	4	2	72	
理科（理工学部物理学科） （理工学部生物学科） （理工学部機能分子化学科）		66	2	2	4	2	76	
67		77						
66		76						
数学（知能情報学部知能情報学科）		66	2	2	4	2	76	
情報（知能情報学部知能情報学科）		62	2	2	4	2	72	

教職に関する専門教育科目

- ① 教育職員免許状を取得するには、「教科及び教職に関する科目」並びに「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」より必要な科目を修得しなければならない。

教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員養成課程に関する規程（後掲）および『教職ガイドブック』（教職教育センター実施の説明会で配付）を参照すること。

- ② 中学校の免許状取得希望者は、下記科目の履修とは別に、7 日間の「介護等体験」が必要である。

教育実習や介護等体験は、麻疹（はしか）の抗体がなければ参加できない。

※麻疹ワクチンにより、強い副作用の可能性のある人は、「予防接種外来」などを有する専門医療機関で接種を行うこと。

I. 教科及び教職に関する科目

- ①教科及び教職に関する科目表（教科に関する専門的事項の科目を除く。）

[2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用]

授 業 科 目	単位	配当年次	備考	授 業 科 目	単位	配当年次	備考
教 育 原 論	2	1		英 語 科 教 育 法 I	2	3	
教 職 入 門	2	1	※ 1	英 語 科 教 育 法 II	2	3	
教 育 社 会 行 政 論	2	2		社会科・地歴科教育法 I	2	3	
教 育 心 理	2	2		社会科・地歴科教育法 II	2	3	
特 別 支 援 教 育 論	2	2		社会科・公民科教育法 I	2	2	
教 育 課 程 論	2	2		社会科・公民科教育法 II	2	3	
道 徳 指 導 法	2	2	※ 2	商 業 科 教 育 法 I	2	3	
総合的な学習の時間指導法	1	2		商 業 科 教 育 法 II	2	3	
特 別 活 動 指 導 法	2	3		理 科 教 育 法 I	2	3	
教 育 の 方 法 ・ 技 術	2	3		理 科 教 育 法 II	2	3	
生徒指導法（進路指導含む）	2	2		理 科 教 育 法 III	2	3	
教 育 相 談	2	2		理 科 教 育 法 IV	2	3	
教 育 実 習 I	5	4		数 学 科 教 育 法 I	2	3	
教 育 実 習 II	3	4		数 学 科 教 育 法 II	2	3	
教職実践演習（中・高）	2	4		数 学 科 教 育 法 III	2	3	
国 語 科 教 育 法 基 礎 I	2	2		数 学 科 教 育 法 IV	2	3	
国 語 科 教 育 法 基 礎 II	2	2		情 報 科 教 育 法 I	2	3	
国 語 科 教 育 法 I	2	3		情 報 科 教 育 法 II	2	3	
国 語 科 教 育 法 II	2	3		教 育 史	2	2	自由選択科目
英 語 科 教 育 法 基 礎 I	2	2		人 権 教 育 論	2	2	自由選択科目
英 語 科 教 育 法 基 礎 II	2	2					

- ※ 1 1 年次前期開講の「教職入門」を必ず履修すること。1 年次末に行う教職課程履修者登録には「教職入門」を修得していることが必要である。

- ※ 2 高等学校教諭一種免許状の取得を希望する場合、「道徳指導法」は「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる。

【科目履修上の諸注意】

1. 教科及び教職に関する科目（大学が独自に設定する科目を除く。）は、いずれの教科の免許状を取得する場合でも、修得しなければならない科目であり、各教科の教育法基礎Ⅰ・Ⅱ、教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを除いて、共通の科目である。
2. 修得した自由選択科目の単位については、「大学が独自に設定する科目」に充てることができる。
3. 教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）には、所属する学部・学科の卒業必要単位数に算入されるものと、算入されないものがある。各学部・各学科により取り扱いが異なるので、それぞれの学部・学科の項を参照のこと。
また、教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）を履修の際には、各学部・各学科で定められている履修登録科目の単位制限にも十分注意をはらい、計画的に履修すること。
4. 各教科の「教育法Ⅰ」および「教育法Ⅱ」は、配当年次で履修すること。
5. 各教科の「教育法基礎」「教育法」の単位は、取得を希望する免許教科ごとに修得しなければならない。ただし、社会科の免許状取得希望者の「教育法」は「社会科・地歴科教育法Ⅰ」・「社会科・地歴科教育法Ⅱ」と「社会科・公民科教育法Ⅰ」・「社会科・公民科教育法Ⅱ」の4科目（8単位）を修得しなければならない。
6. 教育実習は、4年次で履修すること。教育実習を履修するための条件は、次のとおりである。
 - (1) 3年次終了までに、「教育原論」、「教職入門」、「教育心理」、「教育課程論」、「教育の方法・技術」、「生徒指導法（進路指導含む）」および「教育相談」を修得済みであること。
 - (2) 国語科・英語科・社会科・地理歴史科・公民科・商業科・理科・情報科の免許状取得希望者は、「各教科の指導法」における必修科目を修得済みであること。
 - (3) 数学科の免許状取得希望者は、「各教科の指導法」における必修科目を履修し、「数学科教育法Ⅰ」および「数学科教育法Ⅱ」を修得済みであること。
 - (4) 教職課程履修者登録、教育実習予備登録および本登録などの諸手続きを完了していること。
 - (5) 教育実習は、事前・事後指導と実習校での実習で成立しているため、事前・事後指導に欠席することは許されない（教育実習は事前・事後指導を含めて単位認定する）。
 - (6) (1)～(5)以外にも実習教科ごとに「教科に関する専門的事項の科目」の履修条件があるので、『教職ガイドブック』で確認するとともに、説明会に必ず出席すること。
7. 教育実習は、中学校免許状の取得を希望する者は「教育実習Ⅰ」を、高等学校免許状の取得を希望する者は「教育実習Ⅱ」を履修すること。
両方の免許状の取得を希望する者は、「教育実習Ⅰ」を履修すること。
8. 「教育心理」および「教育相談」は、同一年度に履修するのが望ましい。
9. 複数クラス開講する科目は、いずれもクラスをまたがって履修することはできない。

10. 下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
各教科の「教育法Ⅰ」および「教育法Ⅱ」	「教職入門」の単位を修得していること。
教育実習Ⅰ・Ⅱ	本項6に記載のとおり履修すること。
教職実践演習(中・高)	「教育実習Ⅰ」または「教育実習Ⅱ」を履修中か修得済みであること。ならびに「履修カルテ」を年度ごとに作成していること。

11. 教職課程履修者としての登録は、1年次の年度末(3月)に行う。教職課程履修者としての登録に「教職課程履修者登録に関する内規」が適用される。
12. 教職課程履修者登録を完了していない者は、介護等体験申し込みおよび教育実習予備登録の手続きができない。
13. 教職課程履修登録者と教育実習予備登録者から教職課程費を徴収する。詳細はガイダンスや掲示等において通知する。
14. 甲南大学を卒業後、引き続き教職課程を履修しようとする場合は、『教職希望の科目等履修生等に関する申合せ(教職ガイドブックに掲載)』に基づき受入を決定するので、注意すること。

②大学が独自に設定する科目

[2019年度(平成31年度)の入学生に適用]

大学が独自に設定する科目表

授 業 科 目	単位	配当 年次	備考	授 業 科 目	単位	配当 年次	備考
学校経営と学校図書館	2	2		読書と豊かな人間性	2	2	
学習指導と学校図書館	2	2		情報メディアの活用	2	2	
学校図書館メディアの構成	2	2					

「大学が独自に設定する科目」は、中学校一種4単位以上、高等学校一種12単位以上修得する必要があり、大学が独自に設定する科目表の科目以外に「教科及び教職に関する科目(教科に関する専門的事項の科目を除く。)」及び「教科に関する専門的事項の科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得した科目は、「大学が独自に設定する科目」に充てることができる。

③教科に関する専門的事項の科目

1. 「教科に関する専門的事項の科目」は、取得しようとする免許状ごとに所定の単位を修得しなければならない。
2. これらの単位数および履修上の注意については、教科ごとに『教職ガイドブック』に記載してあるので、開設されている学部・学科を確認の上修得すること。

なお、「教科に関する専門的事項の科目」のうち、最低修得単位数を超えて修得した科目は、「大学が独自に設定する科目」に充てることができる。

Ⅱ．教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

〔2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用〕

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目表

教育職員免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目		授業科目	単位数	配当 年次	履修要件
日本国憲法		日本国憲法	2	1	必修
体育		基礎体育学演習	2	1	必修
外国語コミュニケーション		中級英語 Speaking	4	2	いずれか 選択必修
		中級英語 Presentation	4	2	
情報機器 の操作	〔文・経済・法・経営〕	IT 基礎	2	1	いずれか 選択必修
		IT 応用	2	1	
	〔理工学部物理学科〕	コンピュータ実習 I	2	2	必修
	〔理工学部生物学科、 機能分子化学科〕	IT 基礎	2	1	いずれか 選択必修
		IT 応用	2	1	
	〔知能情報学部〕	プログラミング演習 I	2	1	必修

教職ガイドブックは、教職教育センターが実施する説明会で配付します。

教育職員養成課程に関する規程（抄）

平成 31 年 2 月 21 日 改正

第 1 条 この規程は、中学校及び高等学校の教員免許状の授与を受けようとする者のために必要な事項を定めるものとする。

第 2 条 免許状の種類及び免許教科は、次のとおりとする。

学 部	学 科	免 許 教 科	免 許 状 の 種 類
文 学 部	日本語日本文学科	国 語	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状 高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	英語英米文学科	英 語	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状 高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	社 会 学 科	社 会 学	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状 高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	人 間 科 学 科	社 会 学	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		地 理 歴 史 学	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
理 工 学 部	物 理 学 科	理 科	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
	生 物 学 科		高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
経 済 学 部	経 済 学 科	社 会 学	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		地 理 歴 史 学	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
法 学 部	法 学 科	社 会 学	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		地 理 歴 史 学	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
経 営 学 部	経 営 学 科	社 会 学	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		公 民 学	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
知能情報学部	知 能 情 報 学 科	数 学	中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状 高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
		情 報 学	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
研 究 科	専 攻	免 許 教 科	免 許 状 の 種 類
人文科学研究科	日本語日本文学専攻	国 語	中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
	英語英米文学専攻	英 語	中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
	応用社会学専攻	社 会 学	中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
		地 理 歴 史 学	高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
自然科学研究科	人 間 科 学 専 攻	社 会 学	中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状 高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
	物 理 学 専 攻	理 科	中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
	化 学 専 攻		高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
社会科学研究科	生 物 学 専 攻	数 学	中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
	知 能 情 報 学 専 攻		高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
フロンティアサイエンス研究科	経 済 学 専 攻	社 会 学	中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
	経 営 学 専 攻	公 民 学	高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
フロンティアサイエンス研究科	生 命 化 学 専 攻	理 科	中 学 校 教 諭 専 修 免 許 状
			高 等 学 校 教 諭 専 修 免 許 状

第3条 前条の免許状は、次の表に掲げる基礎資格を有し、かつ、所定の単位を修得した者に授与せられる。

免許状の種類		基礎資格	大学における最低修得単位数				
			教科及び教職に関する科目	免許法施行規則第 66 の 6 に定める科目			
				日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	情報機器の操作
中学校教諭一種免許状	国語（文学部日本語日本文学科）	学士の学位を有すること	68	2	2	4	2
	英語（文学部英語英米文学科）		66	2	2	4	2
	社会（文学部社会科学科） （文学部人間科学科） （文学部歴史文化学科） （経済学部経済学科） （法学部法学科） （経営学部経営学科）		64	2	2	4	2
	68						
	64						
	理科（理工学部物理学科） （理工学部生物学科） （理工学部機能分子化学科）		71	2	2	4	2
	70						
	数学（知能情報学部知能情報学科）		62	2	2	4	2
	高等学校教諭一種免許状		国語（文学部日本語日本文学科）	70	2	2	4
英語（文学部英語英米文学科）			70	2	2	4	2
地理歴史（文学部人間科学科） （文学部歴史文化学科） （経済学部経済学科） （法学部法学科）			62	2	2	4	2
公民（文学部社会科学科） （文学部人間科学科） （経済学部経済学科） （法学部法学科） （経営学部経営学科）			62	2	2	4	2
商業（経営学部経営学科）			62	2	2	4	2
理科（理工学部物理学科） （理工学部生物学科） （理工学部機能分子化学科）			66	2	2	4	2
67							
66							
数学（知能情報学部知能情報学科）			66	2	2	4	2
情報（知能情報学部知能情報学科）			62	2	2	4	2

免 許 状 の 種 類		基礎資格	最低修得単位数
中学校教諭 専修免許状	国語 (人文科学研究科日本語日本文学専攻) 英語 (人文科学研究科英語英米文学専攻) 社会 (人文科学研究科応用社会学専攻) (人文科学研究科人間科学専攻) (社会科学研究科経済学専攻) (社会科学研究科経営学専攻)	修士の学位を有すること。又は大学院に1年以上在学し30単位数以上を修得すること。	上記に加え、24 単位数以上を大学院修士課程の授業科目中それぞれの教科及び教職に関する科目のうち、大学が独自に設定する科目について修得すること。
	地理歴史 (人文科学研究科応用社会学専攻) 公民 (人文科学研究科応用社会学専攻) (人文科学研究科人間科学専攻) (社会科学研究科経済学専攻) (社会科学研究科経営学専攻)		
高等学校教諭 専修免許状	理科 (自然科学研究科物理学専攻) (自然科学研究科化学専攻) (自然科学研究科生物学専攻) (フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻) 数学 (自然科学研究科知能情報学専攻)		

第4条 「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める科目として、基礎共通科目の日本国憲法、基礎体育学演習、中級英語 Speaking 又は中級英語 Presentation、並びにそれぞれの学部学科で指定した情報機器の操作に関する科目を履修しなければならない。

第5条 中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するために必要な教科及び教職に関する科目のうち、教科に関する専門的事項の科目の単位の修得方法は、次の表の第1欄に掲げる免許教科の種類に応じ第2欄に掲げる科目についてそれぞれ第3欄に掲げる単位を修得するものとする。

教科に関する専門的事項の科目表

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
国 語 (中 学)	(文学部日本語日本文学科)	
	日本語学概論Ⅰ	2
	日本語学概論Ⅱ	2
	日本語表現法Ⅰ	2
	日本語表現法Ⅱ	2
	日本文学史Ⅰ a	2
	日本文学史Ⅰ b	2
	日本文学史Ⅱ a	2
	日本文学史Ⅱ b	2
	漢文学Ⅰ a	2
	漢文学Ⅰ b	2
	漢文学Ⅱ a	2
	漢文学Ⅱ b	2
	書道	2
	日本語史Ⅰ	2
	日本語史Ⅱ	2
	日本語文法論Ⅰ	2
	日本語文法論Ⅱ	2
	日本文学概論Ⅰ	2
	日本文学概論Ⅱ	2
		計 26 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
国 語 (高 校)	(文学部日本語日本文学科)	
	日本語学概論Ⅰ	2
	日本語学概論Ⅱ	2
	日本語表現法Ⅰ	2
	日本語表現法Ⅱ	2
	日本文学史Ⅰ a	2
	日本文学史Ⅰ b	2
	日本文学史Ⅱ a	2
	日本文学史Ⅱ b	2
	漢文学Ⅰ a	2
	漢文学Ⅰ b	2
	漢文学Ⅱ a	2
	漢文学Ⅱ b	2
	日本語史Ⅰ	2
	日本語史Ⅱ	2
	日本語文法論Ⅰ	2
	日本語文法論Ⅱ	2
	日本文学概論Ⅰ	2
	日本文学概論Ⅱ	2
		計 24 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
英 語 (中 学・高 校)	(文学部英語英米文学科)	
	英語学入門	4
	英米文化・文学入門	4
	英作文Ⅰ a	1
	英作文Ⅰ b	1
	イングリッシュ・フォーラムⅠ a	1
	イングリッシュ・フォーラムⅠ b	1
	英米文化探訪Ⅰ	2
	英米文化探訪Ⅱ	2
	英米文化研究Ⅰ	2
	英米文化研究Ⅱ	2
	英語の文法	2
	英語の意味	2
	英語の音声	2
	英語の獲得と理解	2
	英語の歴史	2
	英語のレキシコン	2
	イギリス文学思潮史Ⅰ	2
	イギリス文学思潮史Ⅱ	2
	アメリカ文学思潮史Ⅰ	2
	アメリカ文学思潮史Ⅱ	2
	英作文Ⅱ a	1
	英作文Ⅱ b	1
	イングリッシュ・フォーラムⅡ a	1
	イングリッシュ・フォーラムⅡ b	1
	ブリティッシュ・スタディーズⅠ	2
	ブリティッシュ・スタディーズⅡ	2
	アメリカン・スタディーズⅠ	2
	アメリカン・スタディーズⅡ	2
		計 24 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
社 会 (中 学)	(文学部社会学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	地誌Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	法律学概論	2
	社会人間学	2
	社会学概論	2
	哲学	2
	倫理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	日本史研究Ⅰ	2
	日本史研究Ⅱ	2
	アジア史研究Ⅰ	2
	アジア史研究Ⅱ	2
	西洋史研究Ⅰ	2
	西洋史研究Ⅱ	2
	地誌Ⅱ	2
	人文地理Ⅱ	2
	地域社会論	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	社会調査法	2
	フィールドワーク研究	2
	文化人類学	2
	多文化共生論	2
	文化社会学	2
	家族社会学	2
	現代家族論	2
	都市空間論	2
	NPO／NGO論	2
	ソーシャル・キャピタル論	2
	計	22 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
社 会 (中 学)	(文学部人間科学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	地誌Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	法律学概論	2
	社会人間学	2
	社会学概論	2
	哲学	2
	倫理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	哲学思想史	2
	倫理思想史	2
	西洋美術史	2
	日本美術史	2
	心理学Ⅰ	2
	心理学Ⅱ	2
	文学思想史	2
	芸術社会史	2
	地誌Ⅱ	2
	人文地理Ⅱ	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	文化人類学	2
	多文化共生論	2
	ヒューマンライツ	2
	平和学	2
	計	22 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
社 会 (中 学)	(文学部歴史文化学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	地誌Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	法律学概論	2
	社会人間学	2
	社会学概論	2
	哲学	2
	倫理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	日本史研究Ⅰ	2
	日本史研究Ⅱ	2
	アジア史研究Ⅰ	2
	アジア史研究Ⅱ	2
	西洋史研究Ⅰ	2
	西洋史研究Ⅱ	2
	日本文化史	2
	アジア文化史	2
	地誌Ⅱ	2
	人文地理Ⅱ	2
	地理と情報Ⅰ	2
	地理と情報Ⅱ	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
		計 22 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
社 会 (中 学)	(経済学部経済学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	地誌Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	法律学概論	2
	中級マクロ経済学	4
	中級ミクロ経済学	4
	哲学	2
	倫理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	経済学の歴史	4
	日本経済史Ⅰ	2
	日本経済史Ⅱ	2
	西洋経済史Ⅰ	2
	西洋経済史Ⅱ	2
	地誌Ⅱ	2
	人文地理Ⅱ	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	統計入門	2
	経済政策	4
	財政	4
	金融	4
	公共経済	4
	国際経済	4
	産業経済	4
		計 26 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
社 会 (中 学)	(法学部法学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	地誌Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	法律学概論	2
	社会人間学	2
	社会学概論	2
	哲学	2
	倫理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	日本法史Ⅰ	2
	日本法史Ⅱ	2
	日本政治史Ⅰ	2
	日本政治史Ⅱ	2
	西洋法史Ⅰ	2
	西洋法史Ⅱ	2
	西洋政治史Ⅰ	2
	西洋政治史Ⅱ	2
	地誌Ⅱ	2
	人文地理Ⅱ	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2
	行政法総論Ⅰ	2
	行政法総論Ⅱ	2
	刑法総論Ⅰ	2
	刑法総論Ⅱ	2
	民法総則Ⅰ	2
	民法総則Ⅱ	2
	計	22 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
社 会 (中 学)	(経営学部経営学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	地誌Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	法律学概論	2
	初級マクロ経済学	2
	初級ミクロ経済学	2
	哲学	2
	倫理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	経営史	4
	地誌Ⅱ	2
	人文地理Ⅱ	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	経営管理論	4
	国際経営論	4
	アジア経営論	4
	経営労務論	4
	金融論	4
	計	22 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
地理 歴史 (高 校)	(文学部人間科学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	地誌Ⅰ	2
	日本美術史	2
	心理学史Ⅱ	2
	芸術社会史	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	哲学思想史	2
	倫理思想史	2
	西洋美術史	2
	心理学史Ⅰ	2
	文学思想史	2
	人文地理Ⅱ	2
	地誌Ⅱ	2
		計 20 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
地理 歴史 (高 校)	(文学部歴史文化学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	地誌Ⅰ	2
	日本史研究Ⅰ	2
	日本史研究Ⅱ	2
	日本文化史	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	アジア史研究Ⅰ	2
	アジア史研究Ⅱ	2
	西洋史研究Ⅰ	2
	西洋史研究Ⅱ	2
	アジア文化史	2
	人文地理Ⅱ	2
	文化地理学	2
	実践地域学	2
		計 20 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
地理 歴史 (高 校)	(経済学部経済学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	地誌Ⅰ	2
	日本経済史Ⅰ	2
	日本経済史Ⅱ	2
	日本の経済思想家	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	経済学の歴史	4
	経済史	4
	西洋経済史Ⅰ	2
	西洋経済史Ⅱ	2
	社会経済思想Ⅰ	2
	社会経済思想Ⅱ	2
	人文地理Ⅱ	2
	地誌Ⅱ	2
	計	20 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
地理 歴史 (高 校)	(法学部法学科)	
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅰ	2
	西洋史概説Ⅰ	2
	人文地理Ⅰ	2
	自然地理学	2
	地誌Ⅰ	2
	日本法史Ⅰ	2
	日本法史Ⅱ	2
	日本政治史Ⅰ	2
	日本政治史Ⅱ	2
	日本政治思想史Ⅰ	2
	日本政治思想史Ⅱ	2
	アジア史概説Ⅱ	2
	西洋史概説Ⅱ	2
	西洋法史Ⅰ	2
	西洋法史Ⅱ	2
	西洋政治史Ⅰ	2
	西洋政治史Ⅱ	2
	西洋政治思想史Ⅰ	2
	西洋政治思想史Ⅱ	2
	人文地理Ⅱ	2
	地誌Ⅱ	2
	計	20 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
公 民 （ 高 校 ）	（文学部社会科学科）	
	法律学概論	2
	社会人間学	2
	社会学概論	2
	哲学	2
	倫理学	2
	心理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	心理学概論	2
	こころの科学	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	社会調査法	2
	フィールドワーク研究	2
	文化人類学	2
	多文化共生論	2
	コミュニケーション研究	2
	メディア研究	2
	文化社会学	2
	家族社会学	2
	現代家族論	2
	都市空間論	2
	NPO/NGO 論	2
	ソーシャル・キャピタル論	2
	社会心理学	2
	社会意識論	2
		計 20 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
公 民 （ 高 校 ）	（文学部人間科学科）	
	法律学概論	2
	社会人間学	2
	社会学概論	2
	哲学	2
	倫理学	2
	心理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	心理学概論	2
	こころの科学	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	文化人類学	2
	多文化共生論	2
	コミュニケーション研究	2
	メディア研究	2
	ヒューマンライツ	2
	平和学	2
	臨床心理学概論	2
	力動的心理学	2
	トラウマ学	2
	現代思想	2
		計 20 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
公 民 （高 校）	（経済学部経済学科）	
	法律学概論	2
	中級マクロ経済学	4
	中級ミクロ経済学	4
	国際経済	4
	哲学	2
	倫理学	2
	心理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	心理学概論	2
	こころの科学	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	統計入門	2
	経済政策	4
	財政	4
	金融	4
	公共経済	4
	産業経済	4
	計	20 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
公 民 （高 校）	（法学部法学科）	
	法律学概論	2
	社会人間学	2
	社会学概論	2
	哲学	2
	倫理学	2
	心理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	心理学概論	2
	こころの科学	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	国際法Ⅰ	2
	国際法Ⅱ	2
	憲法Ⅰ	2
	憲法Ⅱ	2
	行政法総論Ⅰ	2
	行政法総論Ⅱ	2
	刑法総論Ⅰ	2
	刑法総論Ⅱ	2
	民法総則Ⅰ	2
	民法総則Ⅱ	2
	法社会学Ⅰ	2
	法社会学Ⅱ	2
	計	20 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
公 民 （高 校）	（経営学部経営学科）	
	法律学概論	2
	初級マクロ経済学	2
	初級ミクロ経済学	2
	国際経済	4
	哲学	2
	倫理学	2
	心理学	2
	哲学入門	2
	倫理思想基礎論Ⅰ	2
	倫理思想基礎論Ⅱ	2
	心理学概論	2
	こころの科学	2
	政治学入門	2
	政治学原論	2
	経営管理論	4
	国際経営論	4
	アジア経営論	4
	経営労務論	4
	金融論	4
		計 20 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
商 業 （高 校）	（経営学部経営学科）	
	財務諸表論	4
	経営財務論	4
	経営組織論	4
	マーケティング管理論	4
	職業指導Ⅰ	2
	職業指導Ⅱ	2
	入門簿記	4
	経営戦略論	4
	中級簿記	4
	工業簿記	4
	原価計算	4
	管理会計	4
	監査論	4
	証券論	4
		計 20 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
理 科 (中 学)	(理工学部物理学科)	
	物理学通論	4
	ラボラトリー・フィジックス I	2
	ラボラトリー・フィジックス II	2
	化学通論	4
	基礎化学実験	3
	生物学通論 I	2
	生物学通論 II	2
	基礎生物学実験	3
	地学通論	4
	地学実験	3
	力学 I	2
	力学 II	2
	熱力学	2
	基礎物理学 I	2
	基礎物理学 II	2
	電磁気学 I	2
	電磁気学 II	2
	原子物理学	2
	物理学実験 I	2
	物理学実験 II	2
		計 29 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
理 科 (中 学)	(理工学部生物学科)	
	物理学通論	4
	ラボラトリー・フィジックス	3
	化学通論	4
	基礎化学実験	3
	基礎生物学 I	2
	基礎生物学 II	2
	基礎生物学実験	3
	地学通論	4
	地学実験	3
	生態学	2
	植物生化学	2
	遺伝学概論	2
	発生学概論	2
	生物物理化学	2
	環境生物学	2
	比較生理学	2
	植物生理学要論	2
	微生物生理学	2
	生物学専門実験及び演習 I	5
	生物学専門実験及び演習 II	5
	生物学専門実験及び演習 III	5
	生物学専門実験及び演習 IV	5
		計 28 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
理 科 (中 学)	(理工学部機能分子化学科)	
	物理学通論	4
	ラボラトリー・フィジックス	3
	化学基礎A	2
	化学基礎B	2
	基礎化学実験	3
	生物学通論Ⅰ	2
	生物学通論Ⅱ	2
	基礎生物学実験	3
	地学通論	4
	地学実験	3
	物理化学A	2
	物理化学B	2
	無機化学A	2
	無機化学B	2
	分析化学A	2
	分析化学B	2
	有機化学A	2
	有機化学B	2
	機能分子化学実験A	3
	機能分子化学実験B	3
	機能分子化学実験C	4
	化学コンピュータ演習	1
		計 28 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
理 科 (高 校)	(理工学部物理学科)	
	物理学通論	4
	化学通論	4
	生物学通論Ⅰ	2
	生物学通論Ⅱ	2
	地学通論	4
	ラボラトリー・フィジックスⅠ	2
	ラボラトリー・フィジックスⅡ	2
	基礎化学実験	3
	基礎生物学実験	3
	地学実験	3
	力学Ⅰ	2
	力学Ⅱ	2
	熱力学	2
	基礎物理学Ⅰ	2
	基礎物理学Ⅱ	2
	電磁気学Ⅰ	2
	電磁気学Ⅱ	2
	原子物理学	2
	物理学実験Ⅰ	2
	物理学実験Ⅱ	2
		計 20 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
理 科 (高 校)	(理工学部生物学科)	
	物理学通論	4
	化学通論	4
	基礎生物学Ⅰ	2
	基礎生物学Ⅱ	2
	地学通論	4
	基礎生物学実験	3
	ラボラトリー・フィジックス	3
	基礎化学実験	3
	地学実験	3
	生態学	2
	植物生化学	2
	遺伝学概論	2
	発生学概論	2
	生物物理化学	2
	環境生物学	2
	比較生理学	2
	植物生理学要論	2
	微生物生理学	2
	生物学専門実験及び演習Ⅰ	5
	生物学専門実験及び演習Ⅱ	5
	生物学専門実験及び演習Ⅲ	5
	生物学専門実験及び演習Ⅳ	5
		計 21 単位

第1欄	第2欄	第3欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
理 科 (高 校)	(理工学部機能分子化学科)	
	物理学通論	4
	化学基礎A	2
	化学基礎B	2
	生物学通論Ⅰ	2
	生物学通論Ⅱ	2
	地学通論	4
	基礎化学実験	3
	ラボラトリー・フィジックス	3
	基礎生物学実験	3
	地学実験	3
	物理化学A	2
	物理化学B	2
	無機化学A	2
	無機化学B	2
	分析化学A	2
	分析化学B	2
	有機化学A	2
	有機化学B	2
	機能分子化学実験A	3
	機能分子化学実験B	3
	機能分子化学実験C	4
	化学コンピュータ演習	1
		計 20 単位

第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄	第 1 欄	第 2 欄	第 3 欄
免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数	免許 教科	教科に関する専門的 事項の科目	最低修得 単位数
数 学 (中 学・高 校)	(知能情報学部知能情報学科)		情 報 (高 校)	(知能情報学部知能情報学科)	
	代数学Ⅰ	2		情報社会と情報倫理	2
	代数学Ⅱ	2		コンピュータアーキテクチャ	2
	幾何学Ⅰ	2		オペレーティングシステム	2
	幾何学Ⅱ	2		データ構造とアルゴリズムⅠ	2
	解析学Ⅰ	2		データベース	2
	解析学Ⅱ	2		情報通信ネットワークⅠ	2
	確率統計学	4		情報通信ネットワークⅡ	2
	確率過程論	2		メディア情報処理	2
	プログラミング演習Ⅰ	2		画像工学	2
	プログラミング演習Ⅱ	2		ITと組織・管理	2
	コンピュータサイエンス	2		人間工学	2
	数値プログラミング技法	2		データ構造とアルゴリズムⅡ	2
	最適化プログラミング	2		コンパイラ・インタプリタ	2
	離散数学	2		ソフトウェア工学	2
	グラフ理論	2		アドバンスプログラミング演習	2
	集合と位相Ⅰ	2		経営情報システム	2
	集合と位相Ⅱ	2		自然言語処理	2
	数式処理プログラミング	2		実験計画法	2
	情報解析	2		ITとコミュニケーション	2
		計 20 単位		ヒューマンインタフェース	2
					計 20 単位

(第 5 条第 2 項については、『大学院履修要項』を参照すること)

第6条 教科及び教職に関する科目（教科に関する専門的事項の科目を除く。）の単位の修得方法は、次の表によるものとする。

教科及び教職に関する科目表（教科に関する専門的事項の科目を除く。）

免許状の種類 科 目		中学校教諭 一種・専修	高等学校教諭 一種・専修	備 考
教 育 原 論		2	2	必修 ただし中学校教諭一種免許状取得には教育実習Ⅰ、高等学校教諭一種免許状取得には教育実習Ⅱ、中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状取得には教育実習Ⅰを選択すること。
教 職 入 門		2	2	
教 育 社 会 行 政 論		2	2	
教 育 心 理		2	2	
特 別 支 援 教 育 論		2	2	
教 育 課 程 論		2	2	
道 徳 指 導 法		2		
総合的な学習の時間指導法		1	1	
特 別 活 動 指 導 法		2	2	
教 育 の 方 法・技 術		2	2	
生徒指導法（進路指導含む）		2	2	
教 育 相 談		2	2	
教 育 実 習 Ⅰ		5		
教 育 実 習 Ⅱ			3	
教 職 実 践 演 習（中・高）		2	2	取得希望免許教科に対応して、次のとおり修得しなければならない。 1. 国語科は、国語科教育法基礎Ⅰ・Ⅱ、国語科教育法Ⅰ・Ⅱ計8単位必修。 2. 英語科は、英語科教育法基礎Ⅰ・Ⅱ、英語科教育法Ⅰ・Ⅱ計8単位必修。 3. 社会科は、社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ計8単位必修。 4. 地理歴史科は、社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ計4単位必修。 5. 公民科は、社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ計4単位必修。 6. 商業科は、商業科教育法Ⅰ・Ⅱ計4単位必修。 7. 理科は、理科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ計8単位必修。 8. 数学科は、数学科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ計8単位必修。 9. 情報科は、情報科教育法Ⅰ・Ⅱ計4単位必修。
各教科の指導法	国語科教育法基礎Ⅰ	2	2	
	国語科教育法基礎Ⅱ	2	2	
	国語科教育法Ⅰ	2	2	
	国語科教育法Ⅱ	2	2	
	英語科教育法基礎Ⅰ	2	2	
	英語科教育法基礎Ⅱ	2	2	
	英語科教育法Ⅰ	2	2	
	英語科教育法Ⅱ	2	2	
	社会科・地歴科教育法Ⅰ	2	2	
	社会科・地歴科教育法Ⅱ	2	2	
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	2	
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2	2	
	商業科教育法Ⅰ		2	
	商業科教育法Ⅱ		2	
	理科教育法Ⅰ	2	2	
	理科教育法Ⅱ	2	2	
	理科教育法Ⅲ	2	2	
	理科教育法Ⅳ	2	2	
	数学科教育法Ⅰ	2	2	
	数学科教育法Ⅱ	2	2	
	数学科教育法Ⅲ	2	2	
	数学科教育法Ⅳ	2	2	
	情報科教育法Ⅰ		2	
	情報科教育法Ⅱ		2	
教 育 史		2	2	自由選択科目
人 権 教 育 論		2	2	

大学が独自に設定する科目表

科 目 \ 免許状の種類	中 学 校 教 諭 一 種 ・ 専 修	高 等 学 校 教 諭 一 種 ・ 専 修
学校経営と学校図書館	2	2
学習指導と学校図書館	2	2
学校図書館メディアの構成	2	2
読書と豊かな人間性	2	2
情報メディアの活用	2	2
道徳指導法		2

「大学が独自に設定する科目表」に定める科目、又は最低修得単位数を超えて履修した第5条に定める免許教科の種類に応じた「教科に関する専門的事項の科目表」の第2欄に掲げる科目若しくは前掲「教科及び教職に関する科目表（教科に関する専門的事項の科目を除く。）」の科目について、併せて中学校は4単位、高等学校は12単位以上修得しなければならない。

第7条 教育実習に関する内規は、別にこれを定める。

第8条 この規程の改廃は、大学会議の審議を経て、学長が決定する。

附 則

1. この規程は、平成31年4月1日から施行する。
2. 平成30年度以前の入学生については、なお従前の例による。

教職課程履修者登録に関する内規

平成 30 年 3 月 5 日 教育職員養成課程カリキュラム委員会承認

- 1 教職課程の履修は、「教職入門」の履修から始まるものとし、その履修には 4 年間を要する。
- 2 教職課程履修者登録は、以下の条件に従って行うものとする。
 - (1) 1 年次の GPA が 2.00 以上であること。

なお、1 年次の GPA が 2.00 未満のため 1 年次末に課程登録ができなかった場合、2 年次 1 年間の GPA が 2.00 以上あれば、2 年次末に課程登録が可能。ただし、教職課程の履修には、登録してから 3 年を要する。
 - (2) 「教職入門」を修得していること。
- 3 教職課程履修者登録をする者は、誓約書を提出するものとする。
- 4 前項の誓約書の内容を遵守できない場合は、教職課程履修者登録を取消すものとする。
- 5 教職課程履修者登録をした者は、教職課程履修者登録時及び教育実習予備登録時に教職課程費（教員採用試験対策費等に充当）を納めるものとする。
- 6 教職課程履修者登録をした者は、教員採用試験を受けるものとする。
- 7 教職課程履修者登録をした者は、各年度末の GPA が原則として 2.00 を下回らないものとする。
- 8 教職課程履修者登録をした者について、「履修カルテ」を作成するものとする。
- 9 教職課程履修者登録をした者に対して、教職科目担当教員、教職教育センター教員、教職教育センター指導員等は、「履修カルテ」を参考にしながら、適宜指導を行う。

附 則

- 1 この内規は、平成 30 年 3 月 5 日から施行する。
- 2 この内規の施行に伴い、教職課程履修者登録に関する内規（平成 23 年 10 月 17 日 教職教育センター運営委員会承認）は、平成 30 年 3 月 4 日をもって廃止する。

教育実習に関する内規

平成 31 年 1 月 24 日 学長決定

- 1 実習学校は、原則として出身中学校又は出身高等学校とする。
- 2 教育実習の指導者は、次のとおりとする。
教育実習主任 —— 教職教育センター所長
教育実習指導主任 —— 教科教育法、教育実習担当の教員
教育実習指導員 —— 実習学校の教員
- 3 各実習生は、1 名の教育実習指導主任に配属され、実習学校において教育実習指導員の指導のもとに教育実習を行う。
- 4 中学校教諭一種・専修免許状の取得を希望する者は教育実習Ⅰを、高等学校教諭一種・専修免許状の取得を希望する者は教育実習Ⅱを履修するものとし、その両方を取得希望する者は、教育実習Ⅰをもって充てる。
- 5 教育実習Ⅰは、5 単位とし、観察・参加・実地授業（4 単位）及び事前・事後指導（1 単位）をもって充てる。
- 6 教育実習Ⅱは、3 単位とし、観察・参加・実地授業（2 単位）及び事前・事後指導（1 単位）をもって充てる。
- 7 事前・事後指導を遅刻・欠席により一部又は全部を受けなかった者は教育実習の単位を修得することができない。ただし、遅刻・欠席者への補講を「学修に関する取扱い」7（1）～（10）を準用して行う。なお、7（3）の適用は教員採用試験のみとする。
- 8 観察、参加及び実地授業は中学校 3 週間（120 時間）、高等学校 2 週間（80 時間）とし、その実施については実習学校の教育実習実施計画に基づいて行う。
- 9 観察は、実習学校における授業等の見学とする。
- 10 参加は、実験準備及び補助、考査の問題作成及び採点その他校務の見習、補助等を含む。
- 11 実地授業は、教育実習指導主任又は教育実習指導員の指導の下に行う。
- 12 随時合同参観、研究会及び実習学校以外の見学を行う。
- 13 事前指導は、教育実習の意義・目的、教育実習の内容、模擬授業（演習を含む）、授業の評価等について行う。
- 14 事後指導は、教育実習日誌・学習指導案についての講評、反省会・座談会等を行う。
- 15 教育実習の成績評価は、教育実習指導員の意見を参酌して教育実習指導主任が行う。

附 則

この内規の改廃は、平成 27 年 4 月 1 日から学長決定により行う。

附 則

この内規は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

図書館学に関する専門教育科目

本大学の図書館学課程は、図書館および学校図書館に関する知識・技能を修得し、図書館法（第4条）に定める「司書」の資格又は学校図書館法（第5条）に定める「司書教諭」の資格を得ることを目的として開講されている。

- (1) 図書館司書は、公共図書館、大学図書館、研究機関などの図書館で、資料・情報を提供したり、本を選び整理したり、図書館を経営したりする専門職である。司書の資格を取得するためには、文部科学省令に定める司書資格取得に要する所定の授業科目の単位を修得し、大学を卒業することが条件になる。（「図書館法」第5条第1項第1号）
- (2) 司書教諭は、小学校・中学校・高等学校で、学校図書館に関する公務をつかさどる専門的な職能として求められている。司書教諭は、教諭をもって充て、当該教諭については、文部科学大臣の委嘱を受けて行う大学等の司書教諭の講習を修了した者と定められている。（学校図書館法第5条）本大学は、この講習に対応する科目を開設しているので、司書教諭の資格を取得するには、これら科目の単位を修得し、教育職員免許状を取得することが条件になる。

I. 図書館司書

1. 授業科目

[2011年度（平成23年度）以降の入学生に適用]

① 必修科目

群	授業科目	単 位	配当年次	備 考
A 群	生涯学習概説	2	2	
	図書館概論	2	2	
	情報図書館学	2	2	
	図書館行政学	2	2	
	図書館サービス概論	2	2	
	情報サービス論	2	2	
	児童サービス論	2	2	
	情報サービス演習	2	3	
	図書館情報メディア論	2	3	
	資料情報組織法	2	2	
	資料情報組織演習	2	3	
	図書館情報学研究	2	3	
以上12科目24単位必修				

② 選択必修科目

群	授業科目	単位	開講学部・学科	備 考
B 群	コミュニケーション論	2	基礎共通科目	
	社 会 調 査 法	2	文学部社会学科	
	情 報 社 会 論	2	文学部社会学科	
	知 的 財 産 法 II	2	法学部	
	以上のうち 4 単位以上選択必修			

必 修 科 目	12 科目	24 単位
選択必修科目		4 単位以上
合 計		28 単位以上

2. 授業科目の履修について

(1) 単位の認定について

- ① A群の授業科目は、卒業必要単位に算入することはできない。
- ② B群の授業科目（「コミュニケーション論」を除く）は、各学部各学科により単位の扱いが異なるので、それぞれ各学部各学科の項を参照のこと
- ③ B群の「コミュニケーション論」は、基礎共通科目として取り扱う。

(2) 授業科目の配当年次および履修条件について

- ① B群の授業科目は、それぞれの学部学科の配当年次に従って履修すること。所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。
- ② 下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
情報サービス演習	「情報サービス論」の単位を修得していること。
資料情報組織演習	「資料情報組織法」の単位を修得していること。

3. 「司書資格取得証明書」の交付および「司書資格単位修得証明書」の交付申込みについて

司書資格取得に要する条件を備えた者には、卒業時に「司書資格取得証明書」を交付するが、これは、本大学において司書となる資格を得たことの証明として発行するものである。実際に司書となるためには採用試験に合格しなければならないが、受験の際に求められる「司書資格単位修得証明書」は、教務部に申し込めば交付する。

Ⅱ．学校図書館司書教諭（注意：別に教育職員免許状取得に必要な科目の履修が必要）

1．授業科目

[2004 年度（平成 16 年度）以降の入学生に適用]

必修科目

授業科目	単 位	配当年次	備 考
学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	2	
学校図書館メディアの構成	2	2	
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	2	2	
読 書 と 豊 かな 人 間 性	2	2	
情 報 メ デ ィ ア の 活 用	2	2	
以上 5 科目 10 単位必修			

2．司書教諭の資格取得

詳しいことは『教職ガイドブック』を参照のこと。

公認心理師に関する専門教育科目

本学の公認心理師に関する専門教育科目は、公認心理師に求められる役割、知識および技術を整理してデザインされたもので、公認心理師法第二条における公認心理師が業として行う行為について適切に実践できる能力を養成するために開講されている。

公認心理師資格について

- (1) 「公認心理師」とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいう。
 - ①心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。
 - ②心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
 - ③心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
 - ④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。
- (2) 公認心理師の受験資格を得るためには、一般的に2種類の方法がある。
 - ①大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めて卒業し、かつ、大学院において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めてその課程を修了する。
 - ②大学において心理学その他の公認心理師となるために必要な科目として文部科学省令・厚生労働省令で定めるものを修めて卒業し、かつ、文部科学省令・厚生労働省令で定める施設において文部科学省令・厚生労働省令で定める期間以上(1)における①～③の業務に従事する。

1. 授業科目

[2019 年度（平成 31 年度）の入学生に適用]

科目群	分野	授業科目		科目区分	単位	配当年次	備考
心理学基礎科目	心理学基礎科目	公認心理師の職責	必修	A	2	1	資格科目
		心理学概論		B	2	1	文学部人間科学科
		臨床心理学概論		B	2	2	文学部人間科学科
		心理学研究法		B	2	2	文学部人間科学科
		心理学統計法		B	2	1	文学部人間科学科
		心理学実験	選択必修	A	2	1	資格科目
		心理学実験実習		B	2	1	文学部人間科学科
心理学発展科目	基礎心理学	知覚・認知心理学	必修	B	2	3・4	文学部人間科学科
		学習・言語心理学		B	2	1	文学部人間科学科
		感情・人格心理学		C	2	1	基礎共通科目
		神経・生理心理学		B	2	2	文学部人間科学科
		社会・集団・家族心理学		B	2	2	文学部人間科学科
		発達心理学		B	2	1	文学部人間科学科
		障害者・障害児心理学		B	2	3・4	キャリア創生共通科目
		心理的アセスメント		B	2	2	文学部人間科学科
		心理学的支援法		A	2	2	資格科目
	実践心理学	健康・医療心理学	必修	B	2	3・4	文学部人間科学科
		福祉心理学		B	2	2	キャリア創生共通科目
		教育・学校心理学		B	2	2	文学部人間科学科
		司法・犯罪心理学		B	2	3・4	法学部
		産業・組織心理学		A	2	3・4	資格科目
	関連科目	人体の構造と機能及び疾病	必修	C	2	1	基礎共通科目
		精神疾患とその治療		B	2	2	文学部人間科学科
		関係行政論		A	2	3・4	資格科目
実習科目	実習科目	心理演習	必修	A	2	2	資格科目
		心理実習		A	2	3・4	資格科目
科目演習	科目演習	公認心理セミナーⅠ	選択	A	2	3・4	資格科目
		公認心理セミナーⅡ		A	2	3・4	資格科目

心理学基礎科目の必修科目 10 単位、選択必修科目 2 単位以上、心理学発展科目の必修科目 34 単位、実習演習科目の必修科目 4 単位、計 25 科目 50 単位以上を修得すること。

2. 授業科目の履修について

(1) 単位の認定について

①科目区分 A 群の授業科目は、卒業必要単位に算入することはできない。

②科目区分 B 群の授業科目は、所属する学部学科により単位の扱いが異なるため、所属する学部学科のページを参照のこと。

③科目区分 C 群の授業科目は、基礎共通科目として取り扱う。

(2) 履修登録について

「心理実習」を履修するには、2 年次末に行う公認心理師履修者登録を行う必要がある。(3) に記載された履修条件を満たしていない学生は、「心理実習」の履修登録をすることができない。

(3) 授業科目の履修条件および配当年次について

下表の科目については、各科目の履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
心 理 演 習	「公認心理師の職責」・「心理学概論」・「心理学統計法」の 3 科目ならびに「心理学実験」・「心理学実験実習」のいずれか 1 科目の単位を修得していること。
心 理 実 習	1・2 年次配当の必修科目すべて（17 科目 34 単位）ならびに「心理学実験」・「心理学実験実習」のいずれか 1 科目の単位を修得していること。

①公認心理師に関する専門教育科目は、1. 授業科目の配当年次に従って履修すること。所属する年次を超える配当年次の授業科目は履修できない。

②「公認心理セミナーⅠ」「公認心理セミナーⅡ」は文学部人間科学科以外の学生が対象の科目である。

※「心理学実験」「心理学実験実習」「公認心理セミナーⅠ」「公認心理セミナーⅡ」については、所属する学部学科の履修指導に従うこと。

3. 公認心理師に関する専門教育科目についての各種証明書について

公認心理師に関する専門教育科目についての各種証明書は、教務部に申請すること。

日本語教員養成課程

日本語教員養成課程は、日本語を母語としない人に日本語を教授する教員を養成するための課程である。

国内外における日本語学習者の数は、日本の経済発展や漫画・アニメや音楽・映像といった方面の日本文化に対する海外における評価の高まりにともなって着実な増加をみせている。海外諸国での日本語学習の目的は、留学や日本の学問・芸術研究のほか、実務知識や科学技術の習得、そして日本企業への就職のためと、ますます広がりをみせている。国内においても、外国人留学生に対する日本語教育機関での教育ばかりでなく、地域社会における児童・生徒を含めた外国人への日本語学習支援など必要性を増している。

このような日本語教育に対する国内外の高い関心と要請をふまえ、また今後の需要に対応するために、本大学でも 1990 年度から日本語教員養成課程を国文学科（現・日本語日本文学科）に併設し、全学部の学生に開かれた課程として開設されている。日本語教員養成課程に関する課程修了必要単位は別表に示す 36 単位である。修了者には卒業時に本学の「修了証書」を交付する。

I. 科目履修上の諸注意

1. 下記の科目については、履修条件に従って履修すること。

授業科目	履 修 条 件
日本語教授法実習Ⅰ 日本語教授法実習Ⅱ	「日本語文法論Ⅰ」・「日本語文法論Ⅱ」・「日本語教育概論Ⅰ」・「日本語教育概論Ⅱ」の 8 単位ならびに、「日本語学概論Ⅰ」・「日本語学概論Ⅱ」もしくは「日本語教授法研究Ⅰ」・「日本語教授法研究Ⅱ」の 4 単位と併せて 12 単位を修得していること。

2. 「日本語教授法実習Ⅰ・Ⅱ」のクラスについて

「日本語教授法実習Ⅰ・Ⅱ」は①国内実習、②国外実習のうち、いずれかのクラスを選択して履修する。②クラスは、後期分の授業を夏期休暇中に海外で集中的に行う。海外での実習に参加できない者は①クラスを選択すること。なお、各クラスの説明は 4 月の第 1 回目の授業で行う。

3. 国外実習参加者の渡航費、宿泊費は自己負担とする。

日本語教員養成課程に関する申合せ

平成 30 年 2 月 21 日 学長決定

この申合せは、日本語教員（日本語を母国としない者に日本語を教授する教員）を養成するための、日本語教員養成課程（以下「課程」という。）について定める。

- 1 この課程を修了するためには、本大学を卒業し、かつ、別表に定めるところに従い、必要な単位数を修得しなければならない。
- 2 この課程を修了した者には、願い出により、本大学所定の修了証書を授与する。
- 3 この課程に関する事務は、教務部が行う。
- 4 この申合せの改廃は、部局長会議の審議を経て、学長が決定する。

附 則

- 1 この申合せは、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この申合せは、平成 30 年度入学生から適用する。

別 表

日本語教員養成課程に関する科目

[2018 年度(平成 30 年度)以降の入学生に適用]

区分	授業科目	単位	必要単位数	開講学科
社会・文化・地域	日本事情	2	6 単位以上 (日本事情を含む)	日本語日本文学科
	日本語史Ⅰ	2		〃
	日本語史Ⅱ	2		〃
	日本文学史Ⅰ a	2		〃
	日本文学史Ⅰ b	2		〃
	日本文学史Ⅱ a	2		〃
	日本文学史Ⅱ b	2		〃
	日本文化史	2		歴史文化学科
	民俗学の諸問題	4		〃
	文化人類学	2		社会学科
	多文化共生論	2		〃
	英米文化探訪Ⅰ	2		英語英米文学科
	英米文化探訪Ⅱ	2		〃
	英米文化研究Ⅰ	2		〃
	英米文化研究Ⅱ	2		〃
言語と社会	社会言語学Ⅰ	2	4 単位以上	日本語日本文学科
	社会言語学Ⅱ	2		〃
	情報社会論	2		社会学科
	コミュニケーション研究	2		〃
	メディア研究	2		〃
	現代文化論	2		〃
言語と心理	日本語教育研究Ⅰ	2	4 単位以上	日本語日本文学科
	日本語教育研究Ⅱ	2		〃
	発達心理学	2		人間科学科
	発達臨床心理学	2		〃
	社会心理学	2		社会学科
	社会意識論	2		〃
	英語のレキシコン	2		英語英米文学科
	英語の獲得と理解	2		〃
言語と教育	日本語教育概論Ⅰ	2	10 単位以上 (日本語教育概論Ⅰ、日本語教育概論Ⅱ、日本語教授法研究Ⅰ、日本語教授法研究Ⅱを含む)	日本語日本文学科
	日本語教育概論Ⅱ	2		〃
	日本語教授法研究Ⅰ	2		〃
	日本語教授法研究Ⅱ	2		〃
	日本語教授法実習Ⅰ	2		〃
	日本語教授法実習Ⅱ	2		〃
言語	言語学概論Ⅰ	2	12 単位以上 (日本語文法論Ⅰ、日本語文法論Ⅱを含む)	日本語日本文学科
	言語学概論Ⅱ	2		〃
	日本語学概論Ⅰ	2		〃
	日本語学概論Ⅱ	2		〃
	日本語文法論Ⅰ	2		〃
	日本語文法論Ⅱ	2		〃
	日本語音声学Ⅰ	2		〃
	日本語音声学Ⅱ	2		〃
	日本語語彙論Ⅰ	2		〃
	日本語語彙論Ⅱ	2		〃
	現代日本語研究Ⅰ	2		〃
	現代日本語研究Ⅱ	2		〃
	対照言語学Ⅰ	2		〃
	対照言語学Ⅱ	2		〃
	英語の文法	2		英語英米文学科
	英語の音声	2		〃
	英語の意味	2		〃
			計 36 単位以上	

外国人留学生対象科目

日 本 語 特 設 科 目
国 際 交 流 科 目

日 本 語 特 設 科 目

本大学では、外国人留学生を対象として日本語特設科目を次のとおり開設している。

I. Year-in-Japan プログラム参加留学生対象

1. 授業科目表

授業科目				単位数	開 講 形 態
日	本	語	I	10	秋学期・春学期の各学期に授業を行う。 開講する科目は、学期毎に定める。
日	本	語	II	10	
日	本	語	III	10	
日	本	語	IV	10	
日	本	語	V	10	

2. 各授業科目のレベル・修了時の能力等

授業科目	レベル	内容	修了時の能力
日本語 I	初 級	会話 文法 聴解 読解 作文	簡単な日常会話が可能、漢字約 100 字習得。 日本語能力試験 N5 程度。
日本語 II	初 中 級		日常生活の中で必要な「話す」「聞く」とこと、平易な内容について「読む」「書く」ことが可能。漢字約 200 字習得。 日本語能力試験 N4 程度。
日本語 III	中 級		大学生生活の中での円滑なコミュニケーション能力、日本での生活に必要な情報を得るための読解力と聴解力の習得、漢字約 400 字習得。日本語能力試験 N3 程度。
日本語 IV	中 上 級		社会生活の中での円滑なコミュニケーション能力とエッセイや小説などの読解力の習得。手紙文やエッセイを書くことが可能。漢字約 500～600 字習得。日本語能力検定試験 N2 程度。
日本語 V	上 級		高度なコミュニケーション能力と豊かな表現力、専門的な内容についての文章の読解力を身に付け、レポート・論文の作成が可能。漢字約 700～1000 字習得。 日本語能力検定試験 N2～N1 程度。

Ⅱ. 一般交換留学生対象

1. 授業科目表

授業科目	単位数	開 講 形 態
中 級 日 本 語 I	2	半期科目として前期又は後期に開講する。一般交換留学生（YIJ 参加学生以外）は1科目を履修するものとする。
中 級 日 本 語 II	2	
上 級 日 本 語	2	
日 本 の 文 化 I	2	半期科目として前期又は後期に開講する。一般交換留学生（YIJ 参加学生以外）は1科目を履修するものとする。
日 本 の 文 化 II	2	

2. 各授業科目のレベル・修了時の能力等

授業科目	レベル・内容
中 級 日 本 語 I	論説文やエッセイなどを正確に読み取ることができ、要旨をまとめ、内容について感想を述べることができる。JLPT・N2 レベル程度の留学生対象。
中 級 日 本 語 II	論説文、エッセイ、小説などを正確かつ一定の速度で読み込むことができ、要旨をまとめ、内容について自分の考えを述べることができる。JLPT・N2 レベル程度の留学生対象。
上 級 日 本 語	より高度な文章を、より速くより正確に読んだり書いたりでき、また高度な内容を聞き取って、自分の考えをまとめ、口頭発表等を行うことができる。JLPT・N1 程度の留学生対象。
日 本 の 文 化 I	日本の文化や慣習について詳しく調べ、インターネットやパワーポイントなどを使用して分かりやすく説明できる。また、それに対する自分の意見を簡潔かつ分かりやすく述べることができる。JLPT・N1 レベル以上の留学生対象。
日 本 の 文 化 II	現代日本事情について詳しく調べ、インターネットやパワーポイントなどを駆使して分かりやすく解説できる。また、調べた事柄に関する資料を収集し、レポートが作成できる。JLPT・N1 レベル以上の留学生対象。

国際交流科目

国際交流科目である「ジャパNSTAディーズ」は外国人留学生を対象にした科目であり、秋学期（9月～12月）と春学期（翌年1月～5月）に開講している。各科目の甲南大学生の履修可否については、『履修ガイドブック』を参照すること。各科目のテーマ、詳細内容、開講日時については、シラバスを参照すること。

[2017 年度以降の入学生に適用]

授業科目	単 位	配当年次	備 考
ジャパNSTAディーズ 1	3	2	言語・文学・教育①
ジャパNSTAディーズ 2	3	2	言語・文学・教育②
ジャパNSTAディーズ 3	3	2	言語・文学・教育③
ジャパNSTAディーズ 4	3	2	言語・文学・教育④
ジャパNSTAディーズ 5	3	2	歴史・宗教・地理①
ジャパNSTAディーズ 6	3	2	歴史・宗教・地理②
ジャパNSTAディーズ 7	3	2	経済・経営①
ジャパNSTAディーズ 8	3	2	経済・経営②
ジャパNSTAディーズ 9	3	2	芸術・文化・社会①
ジャパNSTAディーズ 10	3	2	芸術・文化・社会②
ジャパNSTAディーズ 11	3	2	国際関係・法学・政治①
ジャパNSTAディーズ 12	3	2	国際関係・法学・政治②
ジャパNSTAディーズ 13	2	1	Joint Seminar
ジャパNSTAディーズ 14	2	1	Joint Seminar

1. 「ジャパNSTAディーズ 1～12」について、秋学期に開講する科目に限り、甲南大学生は履修することができる。ただし事前登録科目となるため、履修条件・申込み方法については『履修ガイドブック』を参照すること。
2. 「ジャパNSTAディーズ 13・14」は外国人留学生と甲南大学生を対象とした科目である。ただし事前登録科目となるため、履修条件・申込み方法については『履修ガイドブック』を参照すること。
3. 『履修ガイドブック』およびシラバスを参照したうえで質問がある場合は、国際交流センターに問い合わせること。

2019 年度

履 修 要 項

2019. 4. 1 発行

編集・発行 甲 南 大 学 教 務 部

〒 658-8501 神戸市東灘区岡本 8 丁目 9 番 1 号

電 話 (078) 431-4341 (大代表)

<http://www.konan-u.ac.jp>

Curriculum Guidelines